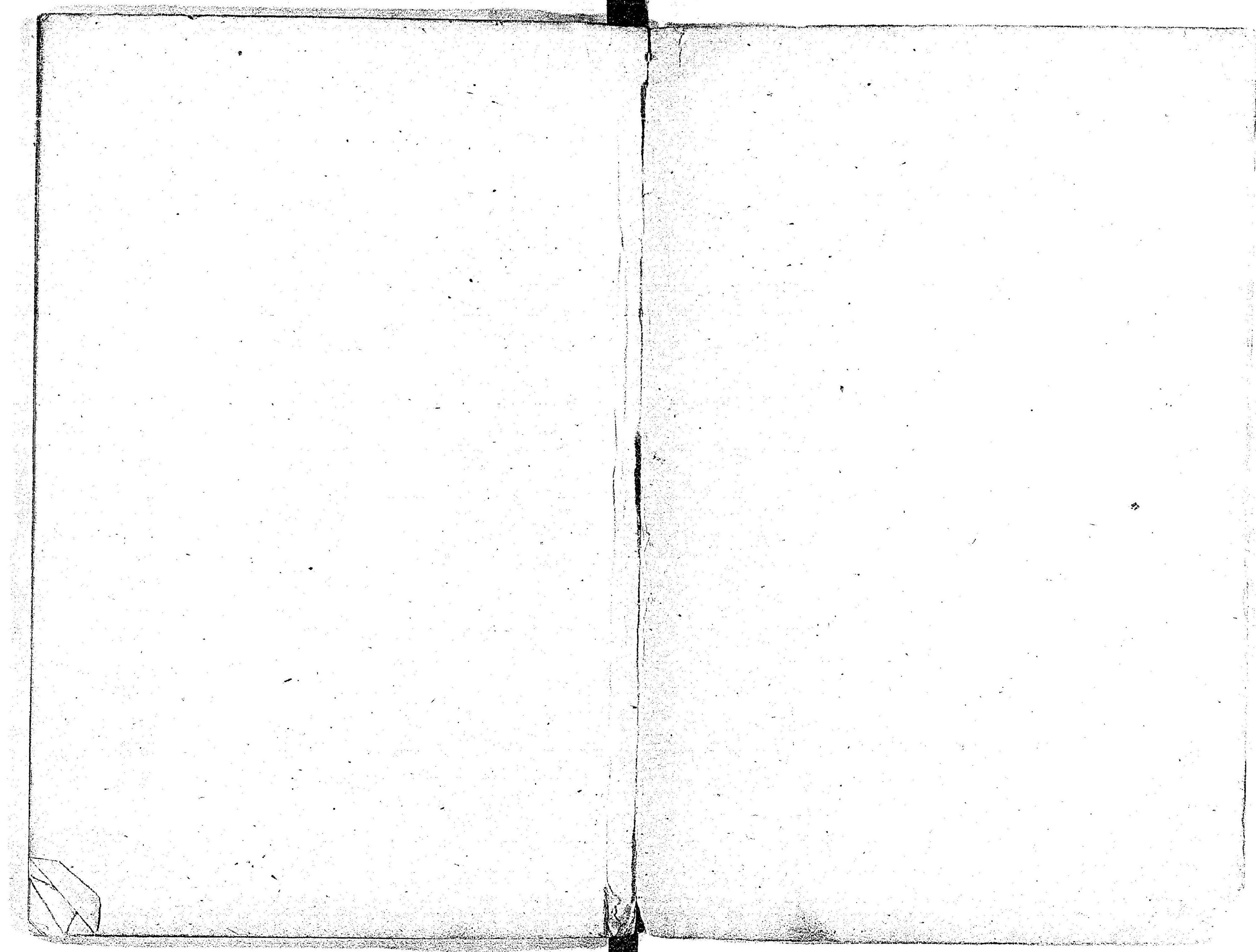


兵庫縣稅法輯要

全







特17  
35



# 兵庫縣稅法輯要

全

兵庫縣知事服部三閣下題辭  
長濃貞夫編纂

神戸明輝社發行

明治  
42 4 23  
丙午



以



法



# 為本

## 三書



### 編纂例

- 一 本書ハ明治四十二年三月一日現行ノ兵庫縣ニ於ケル市町村ニ屬スル國稅及縣稅、賦金、郡費町村分賦額、市町村稅、水利組合公課ニ關スル法令例規ヲ種目ニ從ヒ五輯ニ分チ且附錄トシテ訴願及行政訴訟、通商航海條約及領事職務條約ヲ輯録スルモノナリ但シ第二輯ハ三月三日ノ現行トス
- 一 關係ノ法令例規ハ現ニ兵庫縣ニ行ハルル租稅公課ト實際其ノ賦課ノ範圍ニ入ルヘキモノヲ標準トシテ輯録シ且賦課徵收ノ事務ニ關係ナキ條項ハ之ヲ省略スルモ間々全文ヲ掲出スルモノアリ
- 一 法令ノ上諭及公布文ハ直接租稅公課ノ事務ニ係ルモノ及法令ニ名稱ヲ附セサルモノハ之ヲ掲ケ其ノ他ハ全ク省略セリ但シ同一ノ法令ニシテ二箇所以上ニ掲出スルモノハ始メニ掲ケ後ニ之ヲ省略ス
- 一 例規ノ前文ハ之ヲ掲クルヲ要セスト認ムルモノハ省略ス
- 一 法令例規中加除改正ニ係ル條項字句ハ直ニ修正ヲ加ヘ其ノ改正法令例規ノ年次番號ヲ本番號ノ次ニ掲出ス
- 一 法令例規中他ノ法令例規ノ改正廢止ニ依リ自然ニ消滅シ又ハ變改シタル文字ニハ注意符「」ヲ施シ敢テ改竄ヲ加ヘス



一 兵庫縣訓令例規中同一種ノモノニシテ郡長ト市長ニ對シ文例ヲ異ニスルモノハ市長ニ對シ異ナル部分ニ區分符( )ヲ施セリ  
 一 或ル法令ニ關係ヲ有スル法令例規ニシテ一旦輯録セラレタルモノハ或ル法令ノ部ニ再掲セス其ノ目次ニ題名ト輯録ノ場所ヲ掲出ス但シ輯録上間々題名ノミヲ掲出スルモノアリ

明治四十二年三月

編者識

# 兵庫縣稅法輯要目次

## 第一輯 國稅

### 第一章 地租

- 地租條例(二七、布告七).....一
- 非常特別稅法(三七、法律三).....四
- 地租條例施行規則(三三、勅令一一).....四
- 地租條例施行細則及從來地租條例ノ施行ニ關シ府縣ニ於テ發シタル命令廢止(三、大藏省令二).....六
- 地租條例第四條ニ依ル公共團體及期間指定(三八、勅令一五九).....六
- 鐵下年期新開免租年期地價據置年期延長制(三四、法律三〇).....六
- 開墾地開拓地新開地年期繼續制(三四、同三一).....六
- 有租地ヲ公立學校地ト爲シタルトキ稅務管理局ニ通知方(三二、文部省訓令五).....七
- 有租地ヲ郡市町村立學校敷地ト爲シタルトキ稅務署ニ通知方(三二、兵庫縣訓令五三).....七
- 有租地ヲ郡市町村立學校敷地ト爲シタルトキ稅務署ニ通知取扱方(三三、三九、同二九)ノニ內務部長通牒(七).....七
- 有租地ヲ郡市町村立學校敷地ト爲シタルトキ稅務署ニ通知取扱方(三三、三九、同上).....七
- 地方廳ニ於テ地租條例第十一條ニ依リ免租地.....七

- 有租地ト爲スノ許可ヲ與ヘタルトキ稅務署ニ通知方(三三、大藏省訓令三二).....八
- 土地分合筆内外書地取扱方(三一、主稅局報告二六).....八
- 地價査定等ニ關スル取扱方(三一、同二七).....九
- 土地分合筆取扱方(同上).....九
- 地目變換地價據置年期中荒地免租年期ヲ付與セシモノノ取扱方(三二、同二八).....九
- 地租ニ關スル取扱方(三二、同三〇).....〇
- 開拓地取扱方(三三、同四〇).....〇
- 開拓年期中ノ土地ニ關スル取扱方(同上).....一
- 地目變換ニ係ル市街宅地地租徵收方(三六、同六八).....一
- 地方公共團體ノ所有地ニシテ公用ニ供スルモノノ除租分界(三八、一治六、內務部長通牒).....二
- 森林無願開墾地取扱方(三八、外農三四八ノ二、同上).....二
- 漁船保存ノ建物敷地取扱方(三九、主稅局報告二〇三).....三
- 陶器製造窯敷地地目(三九、同二〇八).....三
- 郵便電信電話用地免租方(三九、同二一〇).....三
- 地類變換廢止又ハ取消方(四〇、同二一一).....四
- 森林内ノ溪流利用地地目取扱方(四〇、同二一五).....四
- 開拓地地目變換取扱方(四〇、同二一六).....四
- 特定三等郵便局舍敷地地租ノ課否(四一、同二二四).....五
- 軌道用地ノ區域(四一、同二二八).....五
- 杞柳栽培地地目取扱方(四一、同二三〇).....六

目次



- 無届開墾地租追徴方(同上).....七七
- 宅地租組換法(三二、法律六二).....七七
- 宅地租組換ノ市町村(三三、勅令三三四).....七七
- 土地區劃改良ニ係ル地價制(三〇、法律三九).....七八
- 土地區劃改良申請手續(四一、大藏省令二八).....七八
- 明治三十年法律第三十九號施行上取扱方(四一、同省訓令二八).....九
- 土地區劃改良ニ關シ稅務管理局ヨリ協議アリタルトキ取扱方(三〇、訓令一〇五四、内務大臣訓令).....二一
- 土地改良區劃形狀變更地租追徴方(三六、主稅局報告六六).....二一
- 耕地整理地區内ノ土地全部無地價ナルトキ取扱方(四〇、同二一五).....二一
- 耕地整理法(三二、法律八二).....二一
- 耕地整理工事着手前稅務署ニ申告スヘキ事項(三三、農商務省令一四).....二二
- 耕地整理ニ伴フ地目變更(三三、農商務省令一四).....二二
- 耕地整理法第十三條末文地目變換ノ解釋(三六、主稅局報告七一).....二二
- 地租徵收ニ關スル制(三七、法律一一).....二三
- 地租ノ課否ニ關スル處分ヲ爲シタルトキ稅務署ニ通知方(三七、兵庫縣訓令七).....二三
- 市町村ニ於ケル地租徵收事務整理方(本輯第六章、二收ム).....二三
- 地租徵收期限(二四、法律二).....二四

- 水害地方田畑地租免除制(三四、同二七).....二四
- 水害地方田畑地租免除出願方(三四、大藏省令三二).....二四
- 被害地地租ノ免除又ハ延納出願ニ關スル特別ノ處理方(四一、兵部省令七六、内務部長移牒).....二四
- 災害地地租延納ニ關スル制(三六、法律三).....二五
- 災害地地租延納出願方(三六、大藏省令一五).....二五
- 地租ノ年賦延納金整理方(三六、同省訓令二七).....二六
- 地租ノ年賦延納金整理方(三六、同二).....二六
- 災害地地租延納ニ關スル取扱方(三六、同三二).....二七
- 被害地地租ノ免除又ハ延納出願ニ關スル特別ノ處理方(本章水害地方田畑地租免除制ノ部ニ收ム).....二七
- 森林法(四〇、法律四三).....二七
- 森林法施行規則(四〇、農商務省令一一).....二七
- 森林法施行手續(四〇、同省訓令三〇).....二八
- 森林法施行規程(四一、兵庫縣令二二).....二八
- 森林法實施ニ關スル取扱手續(四一、同縣訓令甲一).....二八
- 土木起工ノ爲潰地トナル山林開墾取扱方(三一、二七、内務部長通達).....二九
- 土木起工ノ爲潰地トナル山林開墾取扱方(三一、四丙九五、内務部長通達).....二九
- 土砂并止關係地區並砂防指定地區内山林開墾取扱方(三六、内務五五五、内務部長照會).....三〇
- 砂防法第二條ニ依ル指定地内山林開墾取扱方.....三一

- 森林法(三七、四八八五、内務部長通牒).....三二
- 森林法河川法砂防法ノ規定ニ依ル土地所有者ノ申請ヲ許可シタル場合ニ於テ地租條例ノ開墾又ハ地目地類變換ニ該當スルモノヲ稅務署ニ通知方(四一、大藏省訓令二〇).....三二
- 造林地地租免除申請方(四一、同省令一).....三二
- 造林地地租免除ノ申請アリタルトキ地方廳ニ協議方(四二、同省訓令一).....三二
- 造林地免租ニ關スル取扱方(四一、農商務省訓令四).....三二
- 河川法(二九、法律七).....三二
- 河川法第四十七條ニ依レル命令(三三、勅令三〇〇).....三二
- 森林法河川法砂防法ノ規定ニ依ル土地所有者ノ申請ヲ許可シタル場合ニ於テ地租條例ノ開墾又ハ地目地類變換ニ該當スルモノヲ稅務署ニ通知方(本章森林法ノ部ニ收ム).....三二
- 砂防法(三〇、法律二九).....三二
- 砂防法施行規程(三〇、勅令三八二).....三二
- 砂防法ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止スル制限スヘキ土地等ノ指定(三二、兵庫縣令七三).....三二
- 砂防法指定地取締規則(三六、同四〇).....三二
- 森林法河川法砂防法ノ規定ニ依ル土地所有者ノ申請ヲ許可シタル場合ニ於テ地租條例ノ開墾又ハ地目地類變換ニ該當スルモノヲ稅務署ニ通知方(本章森林法ノ部ニ收ム).....三二

- 砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免制(三二、勅令三七四).....三二
- 明治三十二年勅令第三百七十四號ニ依リ地租ノ免除、輕減ヲ申請シタルトキ地方廳ニ協議方(三二、大藏省訓令六二).....三二
- 明治三十二年勅令第三百七十四號ニ依レル地租ノ免除、輕減ニ關シ稅務管理局ヨリ協議アリタルトキ取扱方(三二、訓令八四五、内務大臣訓令三二).....三二
- 外國人ノ永代借地權ヲ帝國臣民取得ノ場合ニ關スル制(三四、勅令一七九).....三二
- 外國人ノ永代借地權ヲ帝國臣民取得シタルトキ稅務署ニ通知方(三四、内務省訓令二四).....三三
- 明治三十四年内務省訓令第二十四號ニ依ル通知ヲ受ケタルトキ土地臺帳登錄方(三四、大藏省訓令三四).....三三
- 土地臺帳規則(三二、勅令三九).....三三
- 土地臺帳規則施行細則(三二、大藏省令上).....三三
- 土地臺帳(三二、兵庫縣訓令四七).....三四
- 地所名稱區別(七、布告二二〇).....三四
- 地所名稱區別細目(九、内務省議決定).....三七
- 市街地ノ指稱(三二、庶甲一七八、内務大臣官房庶務課長通牒).....四〇
- 法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタルトキ處罰制(三三、法律五二).....四〇
- 刑法施行法(第二輯第一章ニ收ム).....三五

第一章 營業稅



- 營業税法(二九、法律三三).....四一
- 非常特別税法(三七、同三).....四六
- 營業税法施行規則(二九、勅令二六九).....四六
- 營業税法ノ疑義(二九、主税局報告九).....四九
- 營業税法中疑義ニ關スル解釋(三一、同二〇).....五三
- 直輸出業課税區分(三一、同二二).....五四
- 營業税法第四條適用方(三一、同三七).....五四
- 株式會社專務取締役ハ從業者トシテ取扱方(三五、同五五).....五五
- 營業税課税標準計算方(三五、同五九).....五五
- 營業税課税區分(三六、同六八).....五六
- 鐵道營業ニ對スル營業税課税方法(三六、同七).....五六
- 船渠業ノ實體(三七、同八〇).....五七
- 合併銀行ニ關シ營業税法適用方(三八、同八八).....五七
- 製造業ニ關スル疑義(三九、同一〇四).....五八
- 營業税法第十五條第二項適用方(四〇、同一一四).....五九
- 買入鐵物ノ製鍊行為ニ對スル營業税ノ課否(四〇、同一一八).....六〇
- 營業税法第十五條第二項但書適用方(四一、同二四).....六一
- 營業税課税標準減額方(四一、同二五).....六一
- 合名合資會社ノ營業税資本金額(四一、同二八).....六一
- 鑛業法(三八、法律四五).....六二

- 法人ニ於テ租税ニ關シ事犯アリタルトキ處罰制(本輯第一章ニ收ム).....(四〇)
- 刑法施行法(第二輯第一章ニ收ム).....(三五)
- 第二章 所得税
- 所得税法(三一、法律一七).....六三
- 非常特別税法(三七、同三).....六八
- 所得税法施行規則(三一、勅令七八).....六九
- 特ニ所得税調査委員會ヲ置クヘキ市及北海道ノ區指定(三八、大藏省令二八).....七二
- 所得税調査委員ノ定數(三一、同三).....七二
- 所得税法施行規則第三十六條ニ依ル書式(三一、同七).....七二
- 第二種所得税過誤納下戻請求方(三三、同三六).....七四
- 皇室及皇族御所有並營利ヲ目的トセサル法人等ノ有スル公債證書ノ利子ニ對スル所得税ノ課否(三三、主税局報告二九).....七四
- 三等郵便局及郵便受取所ニ於テ收入印紙ヲ買受ルトキ其ノ割引高ニ對シ所得税課税方(三三、同三).....七四
- 法人ノ純益中ヨリ賞與及所得税金控除方(三三、同三四).....七四
- 積立準備金ニ所得税課税方(同上).....七五
- 所得税取扱方疑義(三三、同三五).....七五
- 所得税納税者死亡ノ場合ニ於ケル納税義務者.....七五

- 法人カ事業年度半途ニ解散シタルトキ所得税課税方(三三、同三七).....七五
- 所得税取扱方疑義(三三、同四五).....七六
- 法人所得算定方(三五、同五五).....七六
- 所得減損取扱方(同上).....七六
- 法人所得計算方(三五、同五八).....七七
- 法人所得計算方(三五、同五九).....七七
- 第三種所得決定ノ誤謬訂正方(三六、同六六).....七七
- 第三種所得税重複決定ノ場合取扱方(三六、同七五).....七八
- 所得税法中傷痍疾病者恩給ノ疑義(三八、同九).....七八
- 所得金額決定方(三八、同九八).....七八
- 大藏省證券ノ割引額ニ對シ第二種所得税ノ課否(三九、同一〇四).....七八
- 大藏省證券ノ割引額ニ對シ第一種第三種所得税ノ課否(三九、同一〇五).....七九
- 個人銀行ノ所得計算方(三九、同一〇六).....八〇
- 煙草製造ノ現業者ニ給與セララルル勤勉手当ニ對シ所得税ノ課否(同上).....八〇
- 外國公債ノ利子ニ對スル所得税ノ課否(三九、同一〇八).....八〇
- 第三種所得金額誤謬訂正方(四〇、同一一四).....八一
- 國債證券及利札ノ代用價格算定並右利子金額.....八一

- ヨリ控除スヘキ所得税計算(本輯第六章ニ收ム)
- 所得税ニ關スル取扱方(四〇、主税局報告一一九).....八二
- 所得税取扱方疑義(四一、同二六).....八三
- 第一種所得計算上資産減價償却金ニ關スル取扱方(同上).....八五
- 法人所得決定方(同上).....八五
- 前三箇年間所得皆無ノ場合田畑所得税ノ課否(同上).....八七
- 所得審査請求ニ關スル取扱方(四一、同二七).....八七
- 法人所得決定方(四一、同二八).....八八
- 組合員カ産業組合ヨリ受クル配當金ニ對スル所得税ノ課否(四一、兵部商九〇、内務部長通牒).....八九
- 國債證券及貯蓄債券利子所得税免除制(三八、法律一九).....八九
- 法人ニ於テ租税ニ關シ事犯アリタルトキ處罰制(本輯第一章ニ收ム).....(四〇)
- 第四章 自家用醬油税
- 自家用醬油税法(三三、法律四三).....八九
- 自家用醬油税法施行規則(三三、勅令六七).....九一
- 醬油自家用料ノ解釋(三三、主税局報告三五).....九一
- 自家用醬油税取扱方(三九、同一〇五).....九一
- 法人ニ於テ租税ニ關シ事犯アリタルトキ處罰制(本輯第一章ニ收ム).....(四〇)



刑法施行法(第二輯第一章ニ收ム).....(三五二)

第五章 賣藥營業稅

賣藥規則(一〇、布告七).....九二

非常特別稅法(三七、法律三).....九四

賣藥免許鑑札同請賣鑑札及同行商鑑札雛形(四〇、內務省訓令一九).....九四

賣藥願届手續(四二、兵庫縣令四).....九六

賣藥營業者届出方(四四、同縣甲達四四).....九六

賣藥營業鑑札讓渡願及鑑札ニシテ當事者郡市ヲ異ニスルトキ取扱方(二七、同縣乙達二五).....九六

郡市長委任條件(第二輯第一章ニ收ム).....(三四八)

郡市長委任條件(同上).....(三四八)

法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタルトキ處罰制(本輯第二章ニ收ム).....(四〇〇)

刑法施行法(第二輯第一章ニ收ム).....(三五二)

第六章 國稅徵收

國稅徵收法(三〇、法律二一).....九七

國稅徵收法施行規則(三五、勅令一三五).....一〇二

國稅徵收法施行細則(三〇、大藏省令一〇).....一〇五

國稅徵收事務取扱方(三〇、同省訓令四〇).....一三三

租稅調定及月割賦課免除額算定方(三二、同三).....一三三

郵便法(三三、法律五四).....一三三

電信法(三三、同五九).....一三三

税金分納及市町村へ納付スヘキ國稅ニシテ督促狀發付以前ノモノノ納付方(四〇、大藏省訓令一三).....一四

市町村徵收ノ國稅ニシテ市町村ノ滯納報告後又ハ督促狀發付後納付方(四〇、同二四).....一四

市町村ニ於テ徵收スル租稅ノ納期取扱方(三五、內一丙六四、內務部長通牒).....一四

納額告知書等書式ノ寸法(四二、兵部省令四七、同上).....一四

歳入納付ニ關スル書式寸法ノ文字更正(四二、同六三、同上).....一四

納稅管理入ノ解釋(三七、主稅局報告七八).....一五

市ノ徵收スル國稅ノ納付ニ小切手使用方(三五、同五九).....一五

市稅及市ノ徵收スル國稅ノ納付ニ小切手使用方(三六、同七〇).....一六

國稅其ノ他ノ公課ニ關スル納稅告知書公示送達ノ場所(三九、郡縣五五、第一部長通牒).....一七

國稅滯納處分上差押タル約束手形取扱方(二八、主稅局長報告四).....一七

國稅滯納者米國ニ渡航シ遺留財産ナキトキ取扱方(三〇、同八).....一八

國稅滯納處分方(三一、同二七).....一八

國稅徵收法第二十三條ノ二ノ規定ニ關スル疑義(三七、同七七).....一八

國稅滯納處分ニ依ル差押登記ノ抹消ニ關スル取扱方(三七、同八一).....一九

國稅徵收法ニ依ル入札保證金取扱方(三七、同八一).....一九

國稅滯納處分引續方(三九、同二〇四).....一九

國稅徵收法ニ依ル差押物件亡失ノ場合ニ於ケル取扱方(四〇、同一一三).....二〇

國稅徵收法ニ依ル差押調書作製方(四〇、同一一三).....二〇

國稅徵收法ニ依ル差押登記囑託ニ關スル取扱方(四〇、同一一三).....二二

國稅滯納處分囑託方(四一、同一一三).....二二

被害歳入金ノ時効(三二、同三五).....二三

租稅徵收取扱方注意(三六、兵庫縣訓令一三).....二三

市町村ニ於ケル國稅徵收事務改善ニ關シ稅務署ト協議方(三六、內治四二五四、內務部長通牒).....二三

租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル制(四〇、法律三四).....二四

租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託方(四〇、主稅局報告一二二).....二四

租稅其他ノ歳入金代用證券取扱方ニ關スル制(三八、勅令三四).....二五

國債證券及其ノ利札ヲ以テ租稅其ノ他ノ歳入金ニ代用納付方(三八、大藏省令七).....二五

代用國債證券及利札ニ押捺スヘキ代用納付印

及押捺方(三八、同省訓令一五).....二六

法令ノ規定ニ依リ國庫ニ於テ收入スヘキ代用證券取扱方(三八、同二三).....二六

國債證券及其ノ利札ヲ以テ代用納付シ得ヘキ租稅其ノ他ノ歳入金種目(三八、同省訓令四四).....二七

證券ヲ租稅其ノ他ノ歳入金ニ代用納付方(三八、主稅局報告九一).....二七

國債證券及其ノ利札ヲ以テ租稅其ノ他ノ歳入金ニ代用納付方ニ關スル注意(四〇、兵庫縣知事訓示).....二八

國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル制(四〇、法律三一).....二八

課稅標準額及稅額計算制(三五、同二二).....二九

國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル法律ノ規定ヲ適用セサル種目(四〇、勅令九八).....二九

明治四十年法律第三十一號第七條ニ依ル公共團體ノ指定(四〇、同二四五).....二九

國庫出納上一錢未滿ノ端數計算取扱方(四〇、主稅局報告一一五).....二九

國庫出納上一錢未滿ノ端數計算取扱方(四〇、同二六).....二九

過納税金ニ關シ法律第三十一號適用方(同上).....三〇

國債證券及利札ノ代用價格算定並右利子金額ヨリ控除スヘキ所得稅額計算方(四〇、郡縣六二、第一部長通牒).....三二



- 國庫出納上一錢未滿ノ端數計算取扱方(四一、兵部省令二八、內務部長通牒)……………一三三
- 地租拂戻額算定方(四一、主稅局報告二二八)……………一三三
- 國稅中市町村ニ於テ徵收スヘキ稅目(三〇、勅令一九五)……………一三三
- 市町村徵收ノ國稅金ニ對スル交付金交付手續(三一、大藏省訓令二八)……………一三三
- 市町村ニ備フヘキ國稅金ノ收納ニ關スル帳簿(三七、兵部省令五〇)……………一三三
- 市町村ニ於ケル地租徵收事務整理方(四一、兵部省令七四、內務部長通牒)……………一四〇
- 金庫規則(二二、勅令二二六)……………一四〇
- 金庫開閉時限(三一、大藏省告示一〇)……………一四〇
- 金庫位置及出納區域(三五、同二五)……………一四〇
- 會計法(二二、法律四)……………一四二
- 法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタルトキ處罰制(本輯第一章ニ收ム)……………(四〇)
- 刑法(第二輯第一章ニ收ム)……………(三四九)
- 刑法施行法(同上)……………(三五五)
- 警察犯處罰令(同上)……………(三五二)
- 刑事訴訟法(同上)……………(三五二)
- 違警罪即決例(同上)……………(三五三)

### 第二輯 縣稅及賦金

- 兵庫縣郡部縣稅賦課規則(三五、兵庫縣令一六)……………一六八
- 郡部營業稅及雜種稅各業目中業體ノ種類(三五、一四三六、內務部長通牒)……………一七三
- 郡部縣稅賦課規則ニ關スル廳議決定(三五、縣報八九五)……………一七七
- 明治三十五年四月二十九日廳議決定ニ關スル取扱方(三五、內一四五一、內務部長通牒)……………一七九
- 明治三十四年法律第二十七號ニ依ル免租地ニ對シ府縣稅賦課方(三五、地甲一四、地方局長通牒)……………一七九
- 醬油稅則等ニ依リ造石稅ヲ納ムル營業者ニ地方稅賦課方(三〇、第一一九七、內務部長通牒)……………一七九
- 度量衡販賣製作ニ府縣稅賦課方(三一、縣甲九六、縣治主稅兩局長通牒)……………一七九
- 煙草製造所職工ニ對シ縣稅賦課方(三九、熊地九ノ内、地市局長通牒)……………一八〇
- 相撲俳優等出稼者地方稅賦課取扱方(二二、縣發七、縣治局長通牒)……………一八〇
- 相撲俳優等ニ對スル課稅方(三五、地甲一一、地方局長通牒)……………一八〇
- 藝妓兼業スルコトヲ得サル件(二二、兵庫縣甲連六)……………一八〇
- 市場稅賦課方(三二、高地二三ノ内、地方局長通牒)……………一八〇
- 縣稅ノ賦課ヲ受タル物件ヲ徵發令ニ依リ陸海軍官憲ニ買上ケラレタルトキ取扱方(三七、一治)

### 第一章 縣稅

- 府縣制(三三、法律六四)……………一四三
- 府縣行政及郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項(三三、勅令三一五)……………一六〇
- 市部會郡部會等ノ特例(三三、同二八五)……………一六〇
- 市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設クル府縣(三三、內務省令二五)……………一六一
- 縣會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別法(三四、兵庫縣告示九)……………一六一
- 縣歲入ニ於ケル市部郡部收入ノ割合(三二、同三九)……………一六四
- 縣歲出ニ於ケル市部郡部分賦ノ割合(三二、同三九)……………一六四
- 府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル制(三二、勅令三二六)……………一六四
- 市町村ニ分賦シ得ヘキ費用ノ限度(三二、內務省令二九)……………一六四
- 市部ニ屬スル費用市ニ分賦(三三、兵庫縣令一三)……………一六五
- 市分賦額納期(三八、同縣訓令一九)……………一六五
- 地方稅規則(二三、布告一六)……………一六五
- 地方稅中營業稅雜種稅ノ種類(一三、同二七)……………一六七
- 府縣稅家屋稅賦課制(三二、勅令二七六)……………一六八
- 姫路市ニ家屋稅施行(三五、兵庫縣令一四)……………一六八
- 府縣制郡制中直接稅ノ種類(三、內務省告示六)……………一六八

- 屠畜稅ヲ課スヘキ獸畜照合方(三七、一治一六八、同上)……………一八一
- 船舶法ニ依ル船舶異動ニ關スル取扱方(三三、乙二八九九、同上)……………一八一
- 狩獵稅賦課方(三五、地甲三二、地方局長通牒)……………一八二
- 營業稅附加稅賦課方(二九、縣甲二一九、縣治主稅兩局長通牒)……………一八二
- 明治二十九年十二月五日縣甲第一一九號縣治主稅兩局長通牒取扱方(三〇、縣甲一七)……………一八二
- 家屋稅課稅標準定メ方(三五、內一甲二六六〇ノ二、內務部長通牒)……………一八三
- 家屋稅賦課區分(三五、姫路市長照會)……………一八三
- 滞在入課稅方(第四輯ニ收ム)……………(四七九)
- 町村行政事務監督上注意方(同上)……………(四七七)
- 府縣稅戶數割賦課方法改善方(三二、地甲六六、地方局長照會)……………一八三
- 府縣稅戶數割及營業稅賦課方法監督方(三五、訓七二七、內務大臣訓令)……………一八四
- 府縣稅地租割戶數割賦課上注意方(三六、地甲一〇四、內務總務長官通牒)……………一八四
- 戶數割戶別割賦課方法改善方(四一、兵庫縣知事訓示)……………一八四
- 地租條例(第一輯第一章ニ收ム)……………(一八四)
- 地租條例第四條ニ依ル公共團體及期間指定(同上)……………(一八四)



- 地租徴收ニ關スル制(同上).....(二三)
- 營業税法(第一輯第二章ニ收ム).....(四一)
- 營業税法ノ疑義(同上).....(四九)
- 營業税法中疑義ニ關スル解釋(同上).....(五三)
- 直輸出業課税區分(同上).....(五四)
- 營業税法第四條適用方(同上).....(五四)
- 株式會社專務取締役ハ從業者トシテ取扱方(同上).....(五五)
- 營業税課税標準計算方(同上).....(五五)
- 營業税課税區分(同上).....(五六)
- 鐵道營業ニ對スル營業税課税方法(同上).....(五六)
- 般渠業ノ實體(同上).....(五七)
- 合併銀行ニ關シ營業税法適用方(同上).....(五七)
- 製造業ニ關スル疑義(同上).....(五八)
- 營業税法第十五條第二項適用方(同上).....(五九)
- 買入礦物ノ製鍊行為ニ對スル營業税ノ課否(同上).....(六〇)
- 營業税法第十五條第二項但書適用方(同上).....(六一)
- 營業税課税標準減額方(同上).....(六一)
- 合名合資會社ノ營業税資本金額(同上).....(六二)
- 所得税法(第一輯第三章ニ收ム).....(六三)
- 皇室及皇族御所有並營利ヲ目的トセサル法人等ノ有スル公債證書ノ利子ニ對スル所得税ノ課否(同上).....(七四)
- 大藏省證券ノ割引額ニ對シ第二種所得税ノ課

- 否(同上).....(七八)
- 外國公債ノ利子ニ對スル所得税ノ課否(同上).....(八〇)
- 國債證券及利札ノ代用價格算定並右利子金額ヨリ控除スヘキ所得税額計算方(第一輯第六章ニ收ム).....(一二三)
- 國債證券及貯蓄債券利子所得税免除制(第一輯第三章ニ收ム).....(八九)
- 兵庫縣郡部營業税規則(四一、兵庫縣令一〇).....(一八五)
- 漁業税中季税ニ屬スルモノノ漁期初日(四一、同四八).....(一八八)
- 漁業法(三四、法律三四).....(一八八)
- 漁業法施行規則(三五、農商務省令七).....(一九二)
- 漁業法施行規則第二條第三條第四條ニ該當スル漁業名稱(三五、同省令一八).....(二〇一)
- 漁業免許狀雛形(三五、同四).....(二〇六)
- 兵庫縣漁業取締規則(三五、兵庫縣令五八).....(二〇八)
- 漁業法施行規則第五十六條ニ該當スル漁業名稱(三五、同省令二二〇).....(二一〇)
- 漁業法施行規則第五十六條及兵庫縣漁業取締規則第一條ニ依リ下附スル鑑札樣式(三五、同三三七).....(二一〇)
- 鵜繩網使用及鮎捕獲禁止河川(二八、同縣令一八).....(二一一)
- 鮎捕獲禁止河川(二八、同二七).....(二一一)

- 眞珠貝採取取締規則(二九、同七一).....(二二)
- 縛網使用禁止海面(三七、同三五).....(二二)
- 神戸港内漁撈禁止區域(三九、同三一).....(二二)
- 漁場取締方(三八、三九、三〇、第三部長通牒).....(二三)
- 漁業法疑義解釋方(三五、內務部長通牒).....(二三)
- 漁業法施行ニ關スル心得方(三五、兵庫縣內訓四).....(二四)
- 鰯揚線網漁業解釋方(三六、內務部長通牒).....(二四)
- 鰯揚線網漁業許可條件(三七、四一、同上).....(二四)
- 漁業鑑札記載事項解釋方(三六、內務部長通牒).....(二五)
- 明治四十二年度兵庫縣郡部營業税雜種課税目課額(四二、兵庫縣令五).....(二五)
- 郡部營業税雜種課税目課額ニ關スル廳議決定(三五、縣報一九五).....(二七)
- 兵庫縣郡部營業税施行細則(四一、兵庫縣令四七).....(二七)
- 明治四十二年度ニ於テ縣稅ヲ課スヘキ荷積車ニ關スル特例(四二、同七一).....(二七)
- 兵庫縣郡部營業税取扱手續(四一、同縣訓令甲二二).....(二六)
- 縣稅中營業税附加稅所得稅附加稅ノ賦課取扱方(四一、同縣訓令乙九七).....(二八)
- 縣稅施行細則同取扱手續同徵收細則改正ニ關スル取扱方(四一、兵部省令一〇、內務部長通牒).....(二八)
- 郡部營業税取扱手續取扱方(四一、保訓一、警務長訓令).....(二八)
- 荷車檢印取扱方(四一、保發三二五、內).....(二五〇)
- 縣稅ノ賦課ヲ受クル荷車ニ關スル取扱方.....(二五〇)

- 稅務ニ關シ郡長ヨリ直接稅務管理局ニ照覆方(三〇、第一九九、同上).....(二五一)
- 兵庫縣郡部營業税監査規程(四一、兵庫縣訓令甲六).....(二五二)
- 飲料水販賣營業取締規則(二五、同縣令八七).....(二五四)
- 獸肉販賣營業取締規則(三四、同四一).....(二五四)
- 牛乳營業取締規則(三三、內務省令一五).....(二五五)
- 牛乳營業取締規則施行細行(三三、兵庫縣令五〇).....(二五六)
- 清涼飲料水營業取締規則(三三、內務省令三〇).....(二五六)
- 清涼飲料水營業取締規則施行細則(三三、兵庫縣令四八).....(二五六)
- 氷雪營業取締規則(三三、內務省令三七).....(二五七)
- 氷雪營業取締規則施行細則(三三、兵庫縣令六六).....(二五七)
- 飲食物其他衛生上危險ノ物品取締制(三三、法律一五).....(二五八)
- 飲食物其他衛生上危險ノ物品取締施行方(三三、內務省令一〇).....(二五九)
- 職權(三三、兵庫縣令七二).....(二五九)
- 藥品營業並藥品取扱規則(三二、法律一〇).....(二五九)
- 藥種商並製藥者取締規則(四一、兵庫縣令二五).....(二六〇)
- 藥種商製藥者免許證雛形.....(二六一)
- 賣藥税法(三八、法律七).....(二六一)
- 賣藥税法施行規則(三八、勅令一五五).....(二六二)
- 非常特別稅法施行規則(三七、同八五).....(二六三)



- 賣藥類似品取締規則(三八、兵庫縣令三三).....二六三
- 酒精及酒精含有飲食稅法施行規則(三四、勅令一六五).....二六三
- 麥酒稅法(三四、法律一一).....二六三
- 麥酒稅法施行規則(三四、勅令一六八).....二六三
- 砂糖消費稅法(三四、法律一三).....二六三
- 砂糖消費稅法施行規則(三四、勅令一六九).....二六四
- 鹽專賣法施行細則(三八、大藏省令二二).....二六四
- 石油消費稅法(四一、法律二一).....二六四
- 石油消費稅法施行規則(四一、勅令四一).....二六四
- 古物商取締法(二八、法律一三).....二六四
- 古物商取締法施行規則(二八、內務省令八).....二六五
- 古物商取締法及同細則施行規則(二八、兵庫縣令四七).....二六六
- 神戸市沿海ニ於ケル廢棄物拾得取締方(三三、同五七).....二六六
- 社寺境内ニ於ケル營業取締規則(三五、同二九).....二六八
- 艦船行商取締規則(四一、同三).....二六九
- 骨牌稅法(三五、法律四四).....二七一
- 骨牌稅法施行規則(三五、勅令一五四).....二七一
- 質屋取締法(二八、法律一四).....二七二
- 質屋取締法施行規則(二八、內務省令九).....二七二
- 質屋取締法及同細則施行規則(二八、兵庫縣令四八).....二七三
- 貨運團營業取締規則(三六、同四七).....二七四

- 海水浴取締規則(三四、同五五).....二七四
- 海水浴取締規則第二條ニ依ル海面指定(三四、同縣告示二一七).....二七四
- 陸運營業取締規則(一九、同縣令四二).....二七四
- 通船營業取締規則(四〇、同四七).....二七五
- 通船營業取締規則ニ依ル輸入手數未濟ノ外國貨物搭載ノ第二類船定繫場(四〇、同縣告示四三六).....二七五
- 胞衣及產褥汚物取締規則(三四、同縣令四二).....二七八
- 塵船營業取締規則(三二、同五五).....二七八
- 塵船營業取締規則執行心得(三二、指二四九、警部長指示).....二七九
- 汚物掃除法施行細則(三七、兵庫縣令九).....二七九
- 汚物掃除ニ關スル法令施行方(四二、同七).....二八〇
- 宿屋營業取締規則(三三、同三三).....二八一
- 木賃宿營業地指定(三三、同縣告示二二).....二八一
- 宿屋營業取締規則執行心得(三三、同縣告示一〇九).....二八三
- 畜場取締規則(三五、同縣令三七).....二八三
- 雇人請宿營業取締規則(二二、同二二).....二八四
- 娼妓紹介人取締規則(二七、同五九).....二八五
- 職工營業主及紹介人取締規則(二九、同八九).....二八六
- 外國人案内業者取締規則(三五、同二二).....二八六
- 代書業取締規則(三七、同二四).....二八七
- 牛馬商取締規則(三九、同三三).....二八八

- 醬油稅則(二二、勅令四七).....二八九
- 醬油稅則施行規則(三三、同四六).....二八九
- 酒母醱及麴取締法(三八、法律七).....二九〇
- 酒母醱及麴取締法施行規則(三八、勅令七).....二九〇
- 非常特別稅法<sup>織物製造及販賣</sup>(三七、法律三).....二九一
- 非常特別稅法施行規則<sup>織物製造及販賣</sup>(三七、勅令八五).....二九一
- 煙草專賣法(三七、法律一四).....二九二
- 煙草專賣規則(三八、大藏省令四).....二九二
- 度量衡法(二四、法律三).....二九四
- 度量衡法施行令(三六、勅令一四四).....二九四
- 度量衡法施行細則(三六、農商務省令一〇).....二九五
- 度量衡取締規則(三七、兵庫縣令三).....二九五
- 澆入紙製造取締規則(二〇、勅令三六).....二九六
- 澆入紙製造取締規則ニ依ル書類提出方(二〇、兵庫縣令二〇六).....二九六
- 肥料取締法(四一、法律五一).....二九六
- 肥料取締法施行規則(四一、農商務省令一七).....二九七
- 肥料取締法施行細則(四一、兵庫縣令七九).....二九九
- 化學所取締規則(三五、同四〇).....二九九
- 烟花取締規則(二二、同八四).....三〇〇
- 黃磷摺附木製造取締規則(二三、同六一).....三〇一
- 銃砲火藥類取締法(三一、法律一〇六).....三〇二
- 銃砲火藥類取締法施行規則(三一、勅令三六六).....三〇二
- 銃砲火藥類取締法施行細則(三一、內務省令四三).....三〇三

- 銃砲火藥商定員(三二、同省告示九一).....三〇三
- 銃砲火藥類取締法令施行方(三二、兵庫縣令四四).....三〇三
- 諸製造所及貯藏場等建設取締方(三二、同九五).....三〇三
- 料理屋飲食店席貸待合茶屋及芝居茶屋營業取締規則(三三、同三三).....三〇四
- 料理屋飲食店席貸待合茶屋及芝居茶屋營業取締規則執行心得(三三、同縣告示一一〇).....三〇五
- 藥湯營業出願方(二〇、同縣告示八五).....三〇五
- 藥湯營業取締規則(三一、同縣令一三四).....三〇五
- 湯屋營業取締規則(三三、同九).....三〇六
- 理髮營業取締規則(三四、同四〇).....三〇七
- 藝妓稼業檢査及置屋取締規則(四〇、同五四).....三〇八
- 藝妓稼業檢査及置屋取締規則執行心得(四〇、保訓二、警務長訓達).....三〇九
- 魚鳥獸青物市場取締規則(三二、兵庫縣令一).....三〇九
- 米外五種市場取締規則(二七、同五四).....三一〇
- 家畜市場取締規則(三四、同三八).....三一〇
- 驢駒糶賣規則(四〇、同四八).....三一〇
- 劇場取締規則(一九、同縣告示二二).....三一三
- 寄席取締規則(一九、同二四).....三一三
- 興行場遊覽所取締規則(一九、同二五).....三一四
- 遊技場營業取締規則(一七、同五〇).....三一五
- 乘合馬車營業取締規則(二〇、同縣令一九七).....三一六
- 乘合馬車營業取締規則取扱心得(二一、同縣訓令一五).....三一七



- 人力車營業取締規則(二九、同縣令五六).....三二八
- 荷車取締規則(四一、同四〇).....三二九
- 荷車ノ種類算定方(四二、兵部庶二六、內務部長通牒).....三三〇
- 荷車取締規則執行方(四二、同二七、同上).....三三一
- 屠場法(三九、法律三二).....三三二
- 屠場法施行規則(三九、內務省令一六).....三三二
- 屠場法施行細則(三九、兵部縣令二八).....三三二
- 汽罐汽機取締規則(三一、同六).....三三三
- 船舶法(三二、法律四六).....三三三
- 船舶法施行細則(三一、遞信省令二四).....三三三
- 船鑑札規則(四〇、同二四).....三三三
- 船鑑札取扱規則(四一、兵部縣令三三).....三三三
- 船鑑札取扱手續(四一、同縣訓令甲一一).....三三三
- 日本形五百石以上ノ船舶製造禁止(一八、布告一六).....三三九
- 狩獵法(三四、法律三三).....三四三
- 狩獵法施行規則(三四、農商務省令七).....三四三
- 狩獵ニ關スル願届提出及證明書作成方(三四、兵部縣令八五).....三四四
- 狩獵法第十一條ニ規定セル所得稅ヲ納ムル者又ハ其家族ノ適用方(三四、農發一五八、農務局長通牒).....三四六
- 狩獵法第十一條所得稅額ニハ非常特別稅法ノ增徴額加算方(三七、農九七四九、同上).....三四七
- 商法(三二、法律四八).....三四七

- 商法中小商人ノ範圍(三二、勅令二七二).....三四七
- 郡市長委任條件(三三、兵部縣告示一七八).....三四八
- 郡市長委任條件(三三、同縣訓令三五).....三四八
- 警察官署ニ於ケル口頭受理事件(三九、同縣告示三八五).....三四八
- 府縣會議員及郡會議員ノ選舉權等ニ關スル納稅届出ノ件(三二、內務省令三一).....三四八
- 刑法(四〇、法律四五).....三四九
- 刑法施行法(四一、同二九).....三四九
- 警察犯處罰令(四一、內務省令一六).....三五〇
- 兵庫縣縣令ノ罰則ニ關スル件(四一、兵庫縣令七六).....三五〇
- 刑事訴訟法(二三、法律九六).....三五二
- 違警罪即決例(二八、布告三一).....三五二
- 府縣制第八條ニ該當スル營業者ニシテ神戸市ニ營業所ヲ有スルモノノ届出方(四一、兵部縣令五〇).....三五三
- 明治四十一年兵庫縣令第五十號取扱方(四一、同縣訓令甲二二).....三五三
- 地方稅制限ニ關スル制(四一、法律三七).....三五三
- 罹災救助基金法(三二、同七九).....三五五
- 鑛業法(三八、同四五).....三五五
- 非常特別稅法(三七、同三).....三五五
- 鑛業稅及砂金採取地稅賦課徵收方(四〇、大藏省訓令四四).....三五六

- 鑛夫及直接鑛業用物件ニ縣稅ヲ課スルコトヲ得サル件(三九、郡縣七三、第一部長通牒).....三五六
- 縣稅ヲ課スルコトヲ得サル鑛業用工作物ノ區分(三九、地發一四五、地方局長通牒).....三五六
- 砂防法(第一輯第一章ニ收ム).....三五六
- 砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免制(同上).....三五六
- 森林法(同上).....三二七
- 皇族所有ノ車馬ニ地方稅ヲ課セサル件(一六、內務省乙達三〇).....三五七
- 地租條例(第一輯第一章ニ收ム).....三五七
- 地租條例第四條ニ依ル公共團體及期間指定(同上).....三五七
- 酒造稅法(二九、法律二八).....三五七
- 郵便法(第一輯第一章ニ收ム).....三一三
- 電信法(同上).....三一三
- 相續稅法(三八、法律一〇).....三五七
- 市制及町村制(第九十六條、第九十(第四輯ニ收ム)、(四三五)七條、第九十八條).....(四三五)
- 學藝美術ノ用ニ供スル物件及造營物免稅區分(同上).....(四八三)
- 政府及市町村有土地建物課稅免除區分(同上).....(四八三)
- 市制第九十七條第二ニ該當スル土地等免稅區分(同上).....(四八三)
- 社寺用ニ供スル土地免稅方(同上).....(四八四)

- 町村制第九十七條第一項第一號土地物件等免稅區分(同上).....(四八四)
- 一人ノ所有地ニ公立學校病院ヲ建築シタル場免稅區分(同上).....(四八五)
- 風防及水源涵養ノ山林免稅方(同上).....(四八六)
- 三等郵便局舍免稅區分(同上).....(四八六)
- 慈善ノ趣意ヲ以テ設立セル私立學校ノ土地建物等免稅區分(同上).....(四八六)
- 豫審判事及上席檢事ノ官舎ニ對シ市町村稅免除方(同上).....(四八六)
- 府縣知事警部長ノ住居スル官舎課稅免除(同上).....(四八七)
- 神佛二教以外ノ宗教用ニ供スル物件ニ對シ市町村稅免除方(同上).....(四八七)
- 神佛二教以外ノ宗教用ニ供スル家屋ニ對シ市町村稅免除方(同上).....(四八七)
- 商業會議所ノ公用ニ供スル土地建物ニ對シ府縣稅市町村稅免除方(同上).....(四八八)
- 清國人ニ對シ租稅賦課取扱方及諸取締法令適用ノ時期(同上).....(四八八)
- 獨逸國領事官ニ對シ免除スヘキ稅目(同上).....(四八八)
- 外國領事官並領事廳附屬ノ外國官吏課稅免除(同上).....(四九〇)
- 伊國蘭國瑞典諸國領事ニ對シ特權免除及特典許與(同上).....(四九〇)



- 葡萄牙國領事ニ對シ特權免除及特典許與(同上).....(四九〇)
- 日獨領事職務條約第三條領事官ノ種別(同上).....(四九〇)
- 外國領事官並領事廳附屬官吏ニ對シ狩獵免許稅免除及免狀ノ種類(同上).....(四九一)

第二章 賦金

- 貨座敷娼妓賦金徵收規則(三二、兵庫縣令六四).....(三五七)
- 貨座敷賦金賦課區分(三〇、第一二五〇三、內務部長通牒).....(三五九)
- 引手茶屋課稅區分(三〇、縣甲七八、縣治主稅兩局長通牒).....(三五九)
- 貨座敷引手茶屋娼妓營業停止方(三二、地甲五八、地方局長通牒).....(三五九)
- 貨座敷坪數算定方(三二、第一四九八〇ノ一、內務部長通牒).....(三六〇)
- 貨座敷賦金課額算定方(三三、甲一五四八、同上).....(三六〇)
- 貨座敷引手茶屋娼妓賦金賦課並處分方(二一、附令二二).....(三六〇)
- 明治二十一年閣令第十二號施行期日(二同三).....(三六〇)
- 貨座敷營業取締規則(三九、兵庫縣令二六).....(三六〇)
- 貨座敷營業取締規則執行心得(三九、保訓七、警務長訓達).....(三六一)
- 警察官署ニ於テ興行及營業ヲ許可シタル際郡市役所ニ通知取扱方(二五、指一五〇、警部長達).....(三六一)

第三章 縣稅及賦金徵收

- 貨座敷營業免許地.....(三六二)
- 貨座敷免許地ハ從來ノ儘捨置(三三、內務省訓令三二).....(三六二)
- 姫路市梅ヶ坪貸座敷免許地廢止(三〇、兵庫縣令四四).....(三六二)
- 姫路市梅ヶ坪貸座敷免許地廢止方延期(三一、同縣告示一九).....(三六二)
- 姫路市梅ヶ坪貸座敷免許地廢止方延期(三五、同縣令三二).....(三六二)
- 多紀郡八上村貸座敷營業免許地(四一、同縣告示二七).....(三六二)
- 娼妓取締規則(三三、內務省令四四).....(三六三)
- 娼妓取締規則施行細則(三三、兵庫縣令七四).....(三六四)
- 娼妓取締規則及同則施行細則執行心得(三三、指二四二、警察部長指示).....(三六四)
- 娼妓賦金滯納者ヲ警察官署ニ通報方(三一、第一一五三二、內務部長通達).....(三六五)
- 藝娼妓兼業スルコトヲ得サル件(本輯第一章ニ收ム).....(三六五)
- 兵庫縣縣令ノ罰則ニ關スル件(同上).....(三五二)

- 府縣稅徵收ニ關スル制(三三、勅令八).....(三六五)
- 兵庫縣郡部縣稅徵收細則(三三、兵庫縣令二九).....(三六七)
- 租稅調定及月割賦課額算定方(第二輯第三章ニ收ム).....(三六七)
- 縣稅徵收ニ關スル市町村交付金支出手續(四〇、兵庫縣訓令甲四四).....(三七七)
- 市町村ニ對シ領收スル地方稅金請求書式(二六、同縣訓令四九).....(三七七)
- 督促手數料徵收細則(三五、同縣令三一).....(三七七)
- 租稅徵收取扱方注意(第一輯第六章ニ收ム).....(三七八)
- 納稅管理人ノ解釋(同上).....(三七八)
- 國稅其ノ他ノ公課ニ關スル納稅告知書公示送達ノ場所(同上).....(三七八)
- 被害歲入金ノ時效(同上).....(三七八)
- 租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル制(第一輯第六章ニ收ム).....(三七八)
- 收入ノ徵收處分囑託事務取扱ニ要スル費用負擔及督促手數料收入區分(四〇、郡庶五八、第一部長移牒).....(三七八)
- 統監府管内ニ於ケル收入ノ徵收處分囑託事務取扱處(四〇、郡庶六九、內務部長通牒).....(三七八)
- 收入ノ徵收處分ニ關シ囑託應ニ於テ督促狀ヲ發シタルトキ取扱方(四〇、同七三、同上).....(三七八)
- 租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託方(第一輯第六章ニ收ム).....(三七八)

- 收入ノ徵收處分囑託事務取扱者(四〇、兵郡庶八六、兵庫縣照會).....(三七九)
- 收入ノ徵收處分囑託方(四〇、同八六、內務部長通牒).....(三七九)
- 收入ノ徵收處分囑託方(同上).....(三八〇)
- 臺灣總督府管内ニ於テ收入ノ徵收處分囑託方(四〇、一〇六、同上).....(三八〇)
- 在外帝國領事官ニ對シ收入ノ徵收處分囑託スヘカラサル件(四〇、同二二一、內務部長移牒).....(三八〇)
- 韓國居留民團ノ收入徵收處分囑託方(四〇、兵郡發一二五、同上).....(三八一)
- 臺灣總督府管内ニ於ケル收入ノ徵收處分囑託注意方(四一、兵郡庶三、同上).....(三八一)
- 國稅徵收事務取扱方(第一輯第六章ニ收ム).....(三二二)
- 國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル制(第一輯第六章ニ收ム).....(三二二)
- 明治四十年法律第三十一號第七條ニ依ル公共團體指定(同上).....(三二二)
- 國庫出納上一錢未滿ノ端數計算取扱方(同上).....(三二二)
- 國庫出納上一錢未滿ノ端數計算取扱方(同上).....(三二二)
- 縣稅及市町村稅ニ對シ明治四十年法律第三十一號準用方(四〇、郡庶四八、第一部長通牒).....(三二二)
- 過納稅金ニ關シ法律第三十一號準用方(第一輯第六章ニ收ム).....(三二二)







- 害蟲驅除豫防法(二九、同一七).....四七二
- 市町村行政中主務大臣許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任事項(三三、勅令一一三).....四七三
- 人口二十萬以上ノ市ノ區ニ關スル制(三三、勅令九八).....四七三
- 市町村廢置分合ノ際取扱規定(三〇、內務省令三).....四七三
- 市制町村制中直接税間接税類別(二一、大藏省告示九五).....四七四
- 神戸市特別税ヲ直接市税ニ指定(三三、兵庫縣告示五三).....四七五
- 歩一税及演劇興行税ハ直接市町村税ニ不指定(三六、內治一六四、內務部長通牒).....四七五
- 町村制第九十條第一項國稅府縣稅ノ解釋(二二、調評三、書記官通牒).....四七五
- 市町村制第九十條第二項均一稅率ノ解釋及合併町村各部課稅標準區分方(二二、富山縣何).....四七六
- 町村内ノ區費モ町村稅トシテ賦課方(二二、石川縣何).....四七六
- 町村稅徵收期日定メ方(二二、靜岡縣何).....四七六
- 戶別割賦課及市町村稅賦課ノ時期(二三、庶乙二、一一八、書記官通牒).....四七六
- 縣稅營業稅雜種稅ノ附加稅賦課方(二六、山梨縣何).....四七六

- 町村行政事務監督上注意方(二六、一甲三八八、內務(部長通牒).....四七七
- 府縣稅ノ附加稅タル市町村稅ハ年稅月稅日稅ヲ通シテ賦課方(二六、縣甲四五、內務大藏兩書記官通牒).....四七七
- 國稅營業稅附加稅賦課取扱方(三〇、內務省議決).....四七七
- 稅附加稅賦課方(三三、甲四〇、內務部長通牒).....四七七
- 鐵道營業稅附加稅賦課方(三六、內治第二八四〇、同上).....四七八
- 鐵道業ヲ除クノ外營業稅附加稅賦課方(三七、治九五、同上).....四七八
- 細則ヲ規定スヘキ從前ノ區町村費課目(二二、訓五九四、內務大臣訓令).....四七九
- 町村ノ收入ヲ滯納シタル者ニ對シテハ罰則ヲ設クルコトヲ得サル件(二二、茨城縣何).....四七九
- 府縣稅ヲ課スルモ市町村附加稅ヲ課スルコトヲ得サル種目(三〇、一第五七八三、內務部長通牒).....四八〇
- 所得稅附加稅賦課區分(二八、兵甲三〇、縣治局長通牒).....四八〇
- 所得稅附加稅賦課資料調查方(三七、一治六〇、內務部長通牒).....四八〇
- 數町村ニ住居ヲ構フル者ノ解釋(二二、海軍省何).....四八〇
- 數市町村ニ住居滞在スル者ノ所得稅附加稅賦課(同上).....四八〇

- 課方(二二、嚴手縣何).....四八〇
- 數市町村ニ住居滞在者ノ解釋(二三、海軍省何).....四八一
- 數市町村ニ住居滞在者ノ解釋(二三、福島縣何).....四八一
- 夫役現品ハ町村内ノ一部又ハ數個人ニモ賦課スルコトヲ得ル件(二二、宮城縣何).....四八一
- 急迫ノ場合ニ賦課セシ夫役現品徵收ノ時期(二二、和歌山縣何).....四八一
- 基本財産造成ノ爲現品賦課方(四〇、郡庶六三、第一部長通牒).....四八一
- 市町村稅延納及免除取扱方(二二、和歌山縣何).....四八二
- 市町村稅等過誤納金下戻ノ免責時効(二四、縣甲八五、內務書記官通牒).....四八二
- 市町村稅納稅義務ニ關スル解釋(三六、內治一九〇、內務部長通牒).....四八二
- 學藝美術ノ用ニ供スル物件及營造物免稅區分(二二、富山縣何).....四八二
- 政府及市町村有土地建物課稅免除區分(二二、神奈川縣何).....四八三
- 新開地及開墾地ノ區分(二二、內乙七六、第一部長通知).....四八三
- 町村制第九十七條末項新開地ハ地租條例ニ依リ取扱方(二二、書記官通牒).....四八三

- 新開地及開墾地免稅區分(二三、栃木縣何).....四八四
- 市制第九十七條第二ニ該當スル土地等免稅區分(二三、和歌山縣何).....四八四
- 社寺用ニ供スル土地免稅方(二二、第一部長通知).....四八四
- 町村制第九十七條第一項第一號土地物件等免稅區分(二二、福岡縣何).....四八四
- 市町村附加稅免除區分(二二、宮城縣何).....四八四
- 一己人ノ所有地ニ公立學校病院ヲ建築シタル等ノ場合免稅區分(二三、石川縣何).....四八五
- 市町村納稅義務免除區分(二二、庶一三九九、書記官通牒).....四八五
- 風防及水源涵養ノ山林免稅方(二三、書記官通牒).....四八五
- 三等郵便電信局舍免除區分(二二、逓信省何).....四八六
- 慈善ノ趣意ヲ以テ設立セル私立學校ノ土地建物等免稅區分(二三、山形縣何).....四八六
- 豫審判事及上席檢事ノ官舎ニ對シ市町村稅免除方(二四、一甲二五一六、書記官通牒).....四八六
- 府縣知事警部長ノ住居スル官舎課稅免除(二四、長野縣何).....四八七
- 神佛二教以外ノ宗教用ニ供スル物件ニ對シ市町村稅免除方(三一、一第四一三六、內務部長通牒).....四八七



- 神佛二教以外ノ宗教用ニ供スル家屋ニ對シ市町村稅免除方(三五、內一丙六五、同上)……………四八七
- 商業會議所ノ公用ニ供スル土地建物ニ對シ府縣市町村稅免除方(三三、四乙二八〇、內務部長通牒)
- 清國人ニ對シ租稅賦課取扱方及諸取締法令適用ノ時期(三二、訓四六三、兵庫縣知事訓令)……………四八八
- 獨逸國領事官ニ對シ免除スヘキ稅目(三二、第一三七〇八、內務部長通牒)……………四八八
- 外國領事官並領事廳附屬ノ官吏課稅免除(三二、訓五三八、兵庫縣知事訓令)……………四九〇
- 伊國蘭國瑞典諸國領事ニ對シ特權免除及特典許與(三三、訓三六五、內務大臣訓令)……………四九〇
- 葡萄牙國領事ニ對シ特權免除及特典許與(三四、外甲六一、內務總務長官通牒)……………四九〇
- 日獨領事職務條約第三條領事官ノ種別(三六、內治二七一、內務部長移牒)……………四九〇
- 外國領事官並領事廳附屬官吏ニ對シ狩獵免許稅ノ免除及免狀ノ種類……………四九一
- 永代借地上ノ建物ニ對スル課稅免除(三八、訓一六四六、兵庫縣知事訓令)……………四九一
- 町村稅督促手數料ハ町村條例ヲ以テ規定方(二三、庶甲三三八、書記官通牒)……………四九一
- 町村稅滯納者ニ對シ條例規定ノ督促期間ヲ經過シタル場合ニ於テモ督促權ヲ失ハサル件(二

- 七、一甲九一、內務部長通牒)……………四九一
- 督促手數料條例規定方(二七、一第二四四九、同上)……………四九一
- 市町村稅督促勵行方及同手數料條例規定標準(三五、內一丙八〇、同上)……………四九二
- 市町村行政ニ關シ主務大臣許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任事項追加ニ付處理方(四〇、一庶秘八、第一部長通牒)……………四九三
- 市町村條例規定注意方(二三、三二、兵庫縣知事訓令)……………四九三
- 市町村條例トシテ規定シ法律上抵觸ノモノ又ハ議決ヲ以テ施行シ得ヘキ事件(同上添付)……………四九四
- 市町村條例ニ依ラス市町村會ノ議決又ハ市參事會ノ意見ノミヲ以テ施行シ得ヘキ事件(二七、一第二五五〇、內務部長通牒)……………四九四
- 市町村條例ノ番號ハ許可上之ヲ認メサル件(二三、庶四七、同上)……………四九四
- 市町村條例ノ改廢ハ市町村條例トシテ取扱方(二三、縣乙一六、內務書記官通牒)……………四九四
- 町村條例等許可稟請ニ對スル裁合書ト同時ニ訂正發布若ハ報告等ノ通牒ヲ付シタル場合取扱方(三七、一治九、內務部長通牒)……………四九五
- 地租條例(第一輯第一章ニ收ム)……………(一)
- 地租條例第四條ニ依ル公共團體及期間指定(同

上

- 地租徵收ニ關スル制(同上)……………(六)
- 營業稅法(第一輯第二章ニ收ム)……………(四一)
- 所得稅法(第一輯第三章ニ收ム)……………(六三)
- 移民保護法(二九、法律七〇)……………四九五
- 移民保護法施行細則(四〇、外務省令三)……………四九五
- 移民保護法令執行規則(四〇、兵庫縣令三二)……………四九六
- 北海道移住民渡航船舶取締規則(三一、內務省令八)……………四九七
- 移民ニアラサル外國渡航者ノ乘船ニ關スル周旋業取締規則(四〇、兵庫縣令三九)……………四九七
- 外國船乘組稼人口入營業取締規則(一八、同縣府令二一八)……………四九八
- 仲仕業取締規則(三二、同縣令二五)……………四九八
- 神戸市沿海ニ碇泊スル船舶ニ就キ錯落等ノ稼業者及同受負者取締方(三二、同五六)……………四九九
- 屑物營業取締規則(三三、同二二)……………四九九
- 畜犬取締規則(三八、同二二)……………五〇一
- 保稅倉庫法施行細則(三〇、大藏省令九)……………五〇一
- 長屋裏屋建築規則(一九、兵庫縣令一五)……………五〇二
- 石油貯藏制限(三二、同四六)……………五〇三
- 倉庫取締規則(三九、同七)……………五〇三
- 地方稅制限ニ關スル制(第二輯第一章ニ收ム)……………(三五)
- 附加稅制限外課稅及特別稅新設變更ニ關スル許可稟請取扱例(二二、訓令八五、兵庫縣知事訓令)

- 町村内一部一區ノ費用ハ町村稅ト同一ノ取扱方(二三、愛媛縣例)……………五〇四
- 町村内ノ區費ハ一般町村稅ニ併算課稅制限方(二三、長野縣照會)……………五〇五
- 地租制限外課稅及特別稅新設等許可稟請ノ時期(二三、兵庫縣訓令第七一)……………五〇五
- 地租制限外課稅及特別稅新設ニ關スル許可稟請書提出方(二四、同五)……………五〇五
- 地租制限外課稅又ハ特別稅賦課ノ許可稟請書ニ議決セシ會議名記載方(二五、縣發二二六縣治局長通牒)……………五〇五
- 地租制限外課稅及特別稅新設等ノ許可稟請方(二六、一甲五五二、內務部長通牒)……………五〇六
- 市町村附加稅制限外課稅及特別稅新設變更許可稟請書ニ添付スヘキ參照書類改正(二六、訓令五五五、兵庫縣知事訓令)……………五〇六
- 明治二十六年兵庫縣訓令第五五五號ニ關スル取扱方(二六、一甲三四五、內務部長通牒)……………五二二
- 明治二十六年兵庫縣訓令第五五五號ニ關スル取扱方(二六、一甲四〇二、同上)……………五二二
- 明治二十六年兵庫縣訓令第五五五號ニ關スル取扱方(二六、一甲四〇八、同上)……………五二二
- 五ヶ年度以内ノ年限ヲ以テ地租制限外課稅許可稟請方(二六、一甲七二二、同上)……………五二三



- 基本財産蓄積ノ爲地租制限外課税又ハ特別税新設ノ許可稟請取扱方(二七、四五、五五、兵庫縣知事訓令).....五二三
- 特別税條例又ハ議決ノ許可ヲ受ケタル後同税目ニ於テ別途課税ノ場合取扱方(二七、一、第二七、五七、内務部長通牒).....五二四
- 學校基本財産蓄積ノ爲地租制限外課税又ハ特別税新設ヲ要スルトキ許可稟請方(二九、一、第五三、八六、同上).....五二五
- 郡制市町村制ノ規定ニ依リ内務大臣ニ稟請スヘキモノニシテ教育ニ關スルモノハ内務文部兩大臣ニ提出方(二九、兵庫縣内訓一八).....五二五
- 郡市町村制ニ基キ教育事務ニ關スル稟請書内務文部兩大臣宛ノモノノ区分(二九、一、第六三、三八、内務部長通牒).....五二五
- 地租制限外課税許可稟請ニシテ地方學事通則第十二條ニ關係ヲ有スル場合(三三、一、甲八九、七、同上).....五二五
- 市町村附加税制限外課税又ハ特別税新設變更ノ許可稟請ノ場合土地ニ課税スルモノハ地益調添付方(三三、一、第二四、一七、同上).....五二六
- 地租制限外課税又ハ反別割賦課等ニ關スル許可稟請ニ副申ヲ要セサル場合及取扱方(三三、一、第四一、三七、同上).....五二六
- 地租制限外課税許可稟請方(三三、一、乙三六、三三、同上).....五二六

- 町村制ニ依リ上級廳ニ課税ノ許可稟請ヲ爲ス場合ニ於テ下級廳ノ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可濟ノ旨ヲ稟請書ニ明示方(三四、内一、甲一〇〇、〇ノ一、同上).....五二七
- 地租制限外課税許可稟請ノ時期ニ關スル取扱方(三四、内一、丙七九、同上).....五二七
- 地租制限外課税ノ場合ニ於ケル課率ノ範圍定メ方(三六、内治一七七一、同上).....五二八
- 課税ノ許可稟請取扱方(三六、内治三八八九、内務部長通牒).....五二八
- 非常特別税法ニ依ル地方課税制限ニ關スル取扱方(三七、號外内務部長通牒).....五二八
- 明治三十七年號外内務部長通牒取扱方(三七、治一三〇、同上).....五二八
- 反別割賦課稟請書ニ賦課ヲ要スル理由記載方(三七、一治一三三、同上).....五二八
- 市町村附加税制限外課税ニ關スル許可稟請書提出ノ時期(三八、一治四〇、同上).....五二九
- 市町村附加税制限外課税及特別税賦課等ニ關スル許可稟請書附屬議決書ニ議決ノ年月日記入方(三八、一治四二、同上).....五二九
- 地租制限外及其ノ他ノ賦課等許可稟請取扱方(三九、一、庶規一三、第一部長通牒).....五二九
- 特別税又ハ附加税制限外課税等許可稟請取扱方(同上).....(六)

- 方(三九、外庶三六三ノ一、同上).....五二二
- 特別税ノ新設増率ノ許可稟請ノトキ收支ニ關スル調書添付方(四〇、郡庶三六、同上).....五二二
- 地租制限外課税等許可稟請取扱方(四〇、郡庶四一、同上).....五二三
- 地方税制限ニ關スル法律取扱方(四一、兵郡庶四三、内務部長通牒).....五二四
- 地租所得税營業税附加税制限外課税許可稟請取扱方(四一、兵外庶四三五ノ一、同上).....五二四
- 歩一税課税標準(四一、兵郡庶一一三、一、四、同上).....五二四
- 鑛業法(第二輯第一章ニ收ム).....(三五五)
- 非常特別税法(同上).....(三五六)
- 鑛業税及砂金採取地稅賦課徵收方(同上).....(三五六)
- 鑛夫及直接鑛業用物件ニ縣稅ヲ課スルコトヲ得サル件(同上).....(三五六)
- 縣稅ヲ課スルコトヲ得サル鑛業用工作物ノ區分(同上).....(三五六)
- 砂防法(第一輯第二章ニ收ム).....(三二二)
- 砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免制(同上).....(三二二)
- 森林法(第十條).....(三二二ノ二)
- 皇族所有ノ車馬ニ地方稅ヲ課セサル件(第二輯第一章ニ收ム).....(二七)
- 地租條例(第一輯第一章ニ收ム).....(三五七)
- 地租條例第四條ニ依ル公共團體及期間指定(同上).....(一)

- 酒造税法(同上).....(三五七)
- 郵便法(第一輯第六章ニ收ム).....(一一三)
- 電信法(同上).....(一一三)
- 相續税法(第二輯第二章ニ收ム).....(三五七)
- 租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル制(第一輯第六章ニ收ム).....(一二四)
- 收入ノ徵收處分囑託事務取扱ニ要スル費用負擔及督促手数料收入區分(第二輯第三章ニ收ム).....(三七八)
- 統監府管内ニ於ケル收入ノ徵收處分囑託事務取扱廳(同上).....(三七八)
- 收入ノ徵收處分ニ關シ囑託廳ニ於テ督促狀ヲ發シタルトキ取扱方(同上).....(三七八)
- 租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託方(第一輯第六章ニ收ム).....(一二四)
- 收入ノ徵收處分囑託方(第二輯第三章ニ收ム).....(三七九)
- 收入ノ徵收處分囑託方(同上).....(三八〇)
- 臺灣總督府管内ニ於テ收入ノ徵收處分囑託方(同上).....(三八〇)
- 在外帝國領事官ニ對シ收入ノ徵收處分ヲ囑託スヘカラサル件(同上).....(三八〇)
- 韓國居留民團ノ收入徵收處分囑託方(同上).....(三八一)
- 臺灣總督府管内ニ於ケル收入ノ徵收處分囑託注意方(同上).....(三八一)
- 國稅徵收事務取扱方(第一輯第六章ニ收ム).....(一一三)



- 國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル制第一輯第六章ニ收ム……………(一一一八)
- 明治四十年法律第三十一號第七條ニ依ル公共團體ノ指定(同上)……………(一一一九)
- 公共團體及團體ノ公課ニ準用スヘキ郡區町村編制法ニ依ル町村及北海道ニ於ケル町村其ノ他市町村内ノ區費及町村組合費等ノ區分(四〇、郡庶七〇、第一部長移條)……………(一一一九)
- 國庫出納上一錢未滿ノ端數計算取扱方(第一輯第六章ニ收ム)……………(一一一九)
- 縣稅及市町村稅ニ對シ明治四十年法律第三十一號準用方(第二輯第三章ニ收ム)……………(一一三〇)
- 過納稅金ニ關シ法律第三十一號適用方(第二輯第六章ニ收ム)……………(一一三一)
- 國庫出納上一錢未滿ノ端數計算取扱方(同上)……………(一一三一)
- 國稅徵收法(第三輯同上)……………(一一三二)
- 國稅徵收法施行規則(同上)……………(一一三七)
- 國稅徵收法施行細則(同上)……………(一一三九)
- 國稅徵收事務取扱方(同上)……………(一一四〇)
- 郵便法(同上)……………(一一四一)
- 電信法(同上)……………(一一四二)
- 國稅其ノ他ノ公課ニ關スル納稅告知書公示送達ノ場所(同上)……………(一一四三)
- 夫役現品滯納處分方(二二、內乙五七、第一部長通知)……………(一一四七)
- 市町村稅等公賣代金引去順序(二二、德島縣何)……………(一一四五)
- 地方稅及町村稅滯納處分執行者(第二輯第三章ニ收ム)……………(一一四六)
- 地方稅及市町村稅滯納處分ノ囑託ヲ受ケタル場合ニ於テ處分著手前納付取扱方(同上)……………(一一四三)
- 國稅滯納處分上差押タル約束手形取扱方(第一輯第六章ニ收ム)……………(一一四七)
- 國稅滯納者米國ニ渡航シ遺留財産ナキトキ取扱方(同上)……………(一一四八)
- 市町村稅及府縣稅滯納處分ハ國稅徵收法第三章適用方(三〇、一第四九一三、內務部長通條)……………(一一四六)
- 地方公共團體ノ徵收金ニシテ滯納處分ノ未剩餘金アルモ滯納者ニ還付スルコトヲ得サルトキ取扱方(第二輯第三章ニ收ム)……………(一一四三)
- 國稅滯納處分方(第一輯第六章ニ收ム)……………(一一三八)
- 國稅徵收法第二十三條ノ二ノ規定ニ關スル疑義(同上)……………(一一三八)
- 國稅滯納處分ニ依ル差押登記ノ抹消ニ關スル取扱方(同上)……………(一一三九)
- 國稅徵收法ニ依ル入札保證金取扱方(同上)……………(一一三九)
- 府縣稅滯納處分上不動産ノ差押ヲ爲シタル場

- 合ニ於ケル登錄稅取扱方(第一輯第三章ニ收ム)(一一三二)
- 府縣稅及市町村稅等滯納處分差押抹消登記ノ場合ニ登錄稅免除方(同上)……………(一一三五)
- 國稅滯納處分引續方(第一輯第六章ニ收ム)……………(一一三九)
- 國稅徵收法ニ依ル差押物件亡失ノ場合ニ於ケル取扱方(同上)……………(一一四〇)
- 國稅徵收法ニ依ル差押調書作成方(同上)……………(一一四〇)
- 國稅徵收法ニ依ル差押登記囑託ニ關スル取扱方(同上)……………(一一四一)
- 市町村稅滯納矯弊方(三二、兵庫縣訓令三五)……………(一一四一)
- 市町村稅徵收事務整理方(三三、同一)……………(一一四一)
- 町村ノ行政事務報告ニ關スル取扱方(二六、一甲四二五、內務部長通條)……………(一一四一)
- 市ノ行政事務報告例(二六、兵庫縣訓令二六)……………(一一四一)
- 市町村歲入出豫算表式(二二、內務省令二)……………(一一四一)
- 市町村歲入歲出豫算表記載例備考(二二、第一部長通條)……………(一一四一)
- 市町村會計規程(三二、兵庫縣訓令一八)……………(一一四一)
- 租稅調定及月割賦課免除額算定方(第一輯第六章ニ收ム)……………(一一四一)
- 市ノ徵收スル國稅ノ納付ニ小切手使用方(同上)……………(一一四一)
- 市稅及市ノ徵收スル國稅ノ納付ニ小切手使用方(同上)……………(一一四一)
- 市稅及市ノ徵收スル國稅ノ納付ニ小切手使用方(同上)……………(一一四一)

- 方(三五、神戶市長監申)……………(一一四五)
- 市町村ニ備フヘキ國稅金ノ收納ニ關スル帳簿(第一輯第六章ニ收ム)……………(一一三三)
- 納稅管理人ノ解釋(同上)……………(一一三五)
- 被害歲入金ノ時効(同上)……………(一一三三)
- 租稅徵收取扱方注意(同上)……………(一一三三)
- 會計法(同上)……………(一一三三)
- 刑法(第二輯第一章ニ收ム)……………(一一三三)
- 刑法施行法(同上)……………(一一三三)
- 刑事訴訟法(同上)……………(一一三三)
- 違警罪即決例(同上)……………(一一三三)
- 第五輯 水利組合費
- 水利組合法(四一、法律五〇)……………(一一三八)
- 水利組合法施行期日(四一、勅令一九〇)……………(一一三五)
- 水利組合ノ豫算調製ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關スル規定(四一、內務省令一三)……………(一一五〇)
- 水利組合歲入歲出豫算ニ付スヘキ豫算說明ノ式(四一、兵庫縣訓令甲三二)……………(一一五二)
- 租稅調定及月割賦課免除額算定方(第一輯第六章ニ收ム)……………(一一三三)
- 急迫ノ場合ニ賦課セシ夫役現品徵收ノ時期(第四輯ニ收ム)……………(一一八一)
- 市ノ徵收スル國稅ノ納付ニ付小切手使用方(第一輯第六章ニ收ム)……………(一一一五)



- 市税及市ノ徴收スル國税ノ納付ニ小切手使用方(同上)……………(一一六)
- 市税及市ノ徴收スル國税ノ納付ニ小切手使用方(第四輯ニ收ム)……………(五三五)
- 町村税滞納者ニ對シ條例規定ノ督促期間ヲ經過シタル場合ニ於テモ督促權ヲ失ハサル件(同上)……………(四九一)
- 督促手數料條例規定方(同上)……………(四九二)
- 市町村税督促勵行及同手數料條例規定標準(同上)……………(四九二)
- 市町村行政ニ關シ主務大臣許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任事項追加ニ付處理方(同上)……………(四九三)
- 町村條例等許可稟請ニ對スル裁令書ト同時ニ訂正發布若ハ報告等ノ通牒ヲ付シタル場合取扱方(同上)……………(四九五)
- 納稅管理人ノ解釋(第一輯第六章ニ收ム)……………(一一五)
- 被害歳入金ノ時効(同上)……………(一一三)
- 租稅徵收取扱方注意(同上)……………(一一三)
- 會計法(同上)……………(一四二)
- 地租條例(第一輯第一章ニ收ム)……………(一一)
- 地方稅制限ニ關スル制(第二輯第一章ニ收ム)……………(三三三)
- 地租制限外課稅及特別稅新設等許可稟請ノ時期(第四輯ニ收ム)……………(五〇五)
- 地租制限外課稅及特別稅新設ニ關スル許可稟請書提出方(同上)……………(五〇五)

- 地租制限外課稅及特別稅新設等ノ許可稟請方(同上)……………(五〇六)
- 市町村附加稅制限外課稅及特別稅新設變更許可稟請書ニ添付スヘキ參照書類改正(同上)……………(五〇六)
- 明治二十六年兵庫縣訓令第五五五號ニ關スル取扱方(同上)……………(五一二)
- 明治二十六年兵庫縣訓令第五五五號ニ關スル取扱方(同上)……………(五一二)
- 明治二十六年兵庫縣訓令第五五五號ニ關スル取扱方(同上)……………(五一三)
- 特別稅條例又ハ議決ノ許可ヲ受ケタル後同稅目ニ於テ別途課稅ノ場合取扱方(同上)……………(五一四)
- 市町村附加稅制限外課稅又ハ特別稅新設變更ノ許可稟請ノ場合土地ニ課スルモノハ地益調添付方(同上)……………(五一六)
- 地租制限外課稅又ハ反別割賦課等ニ關スル許可稟請ニ副申ヲ要セサル場合及取扱方(同上)……………(五一六)
- 町村制ニ依リ上級廳ニ課稅ノ許可稟請ヲ爲ス場合ニ於テ下級廳ノ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可濟ノ旨ヲ稟請書ニ明示方(同上)……………(五一七)
- 地租制限外課稅許可稟請ノ時期ニ關スル取扱方(同上)……………(五一七)
- 地租制限外課稅ノ場合ニ於ケル課稅ノ範圍定メ方(同上)……………(五一八)

- 課稅ノ許可稟請取扱方(同上)……………(五一八)
- 非常特別稅法ニ依ル地方課稅制限ニ關スル取扱方(同上)……………(五一八)
- 明治三十七年號外内務部長通牒取扱方(同上)……………(五一〇)
- 反別割賦課稅稟請書ニ賦課ヲ要スル理由記載方(同上)……………(五一二)
- 市町村附加稅制限外課稅ニ關スル許可稟請書提出ノ時期(同上)……………(五一二)
- 市町村附加稅制限外課稅及特別稅賦課等ニ關スル許可稟請書附屬議決書ニ議決ノ年月日記入方(同上)……………(五一二)
- 地租制限外及其ノ他ノ賦課等許可稟請取扱方(同上)……………(五一二)
- 特別稅又ハ附加稅制限外課稅等許可稟請取扱方(同上)……………(五一三)
- 地租制限外課稅等許可稟請取扱方(同上)……………(五一三)
- 地方稅制限ニ關スル法律取扱方(同上)……………(五一四)
- 地租所得稅營業稅附加稅制限外課稅許可稟請取扱方(同上)……………(五一四)
- 砂防法(第一輯第一章ニ收ム)……………(三二)
- 砂防法第十一條ノ地租其ノ他公課減免制(同上)……………(三二)
- 森林法(第十(同上)……………(二七)
- 市制及町村制(第九十七條、(第四輯ニ收ム)……………(四三五)

- 學藝美術ノ用ニ供スル物件及營造物免稅區分(同上)……………(四八三)
- 政府及市町村有土地建物課稅免除區分(同上)……………(四八三)
- 市制第九十七條第二ニ該當スル土地等免稅區分(同上)……………(四八四)
- 社寺用ニ供スル土地免稅方(同上)……………(四八四)
- 町村制第九十七條第一項第一號土地物件等免稅區分(同上)……………(四八四)
- 己人ノ所有地ニ公立學校病院ヲ建築シタル等ノ場合免稅區分(同上)……………(四八五)
- 風防及水源涵養ノ山林免稅方(同上)……………(四八六)
- 三等郵便電信局舍免稅區分(同上)……………(四八六)
- 慈善ノ趣意ヲ以テ設立セル私立學校ノ土地建物等免稅區分(同上)……………(四八六)
- 豫審判事及上席檢事ノ官舎ニ對シ市町村稅免除方(同上)……………(四八六)
- 神佛二教以外ノ宗教用ニ供スル物件ニ對シ市町村稅免除方(同上)……………(四八七)
- 神佛二教以外ノ宗教用ニ供スル家屋ニ對シ市町村稅免除方(同上)……………(四八七)
- 商業會議所ノ公用ニ供スル土地建物ニ對シ府縣市町村稅免除方(同上)……………(四八八)
- 租稅其ノ他ノ收入徴收處分囑託ニ關スル制(第一輯第六章ニ收ム)……………(一二四)



- 收入ノ徵收處分囑託事務取扱ニ要スル費用負擔及督促手數料收入區分(第二輯第三章ニ收ム) (二二七八)
- 統監府管内ニ於ケル收入ノ徵收處分囑託事務取扱廳(同上) (二二七八)
- 收入ノ徵收處分ニ關シ囑託廳ニ於テ督促狀ヲ發シタルトキ取扱方(同上) (二二七八)
- 租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託方(第一輯第六章ニ收ム) (一一二四)
- 收入ノ徵收處分囑託方(第二輯第三章ニ收ム) (二二七九)
- 收入ノ徵收處分囑託方(同上) (二二八〇)
- 臺灣總督府管内ニ於テ收入ノ徵收處分囑託方(同上) (二二八〇)
- 在外帝國領事官ニ對シ收入ノ徵收處分ヲ囑託スヘカラサル件(同上) (二二八〇)
- 臺灣總督府管内ニ於ケル收入ノ徵收處分囑託注意方(同上) (二二八一)
- 國稅徵收事務取扱方(第一輯第六章ニ收ム) (一一三三)
- 國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル制(同上) (一一三三)
- 明治四十年法律第三十一號第七條ニ依ル公共團體ノ指定(同上) (一一二九)
- 國庫出納上一錢未滿ノ端數計算取扱方(同上) (一一二九)
- 國庫出納上一錢未滿ノ端數計算取扱方(同上) (一一三〇)

- 縣稅及市町村稅ニ對シ明治四十年法律第三十一號適用方(第二輯第三章ニ收ム) (二二八一)
- 過納稅金ニ關シ法律第三十一號適用方(第一輯第六章ニ收ム) (一一三一)
- 國庫出納上一錢未滿ノ端數計算取扱方(同上) (一一三一)
- 國稅徵收法(第三) (同上) (九七)
- 國稅徵收法施行規則(同上) (一〇二)
- 國稅徵收法施行細則(同上) (一〇五)
- 國稅徵收事務取扱方(同上) (一一三)
- 郵便法(同上) (一一三)
- 電信法(同上) (一一三)
- 國稅其ノ他ノ公課ニ關スル納稅告知書公示送達ノ場所(同上) (一一七)
- 夫役現品滯納處分方(第四輯ニ收ム) (五二五)
- 地方稅及町村稅滯納處分執行者(第二輯第三章ニ收ム) (二二八三)
- 地方稅及市町村稅滯納處分ノ囑託ヲ受ケタル場合ニ於テ處分著手前納付取扱方(同上) (二二八三)
- 國稅滯納處分上差押タル約束手形取扱方(第一輯第六章ニ收ム) (一一二七)
- 國稅滯納者米國ニ渡航シ遺留財産ナキトキ取扱方(同上) (一一二八)
- 市町村稅及府縣稅滯納處分ノ國稅徵收法第三章適用方(第四輯ニ收ム) (五二六)

附錄

訴願及行政訴訟

- 訴願法(二三、法律一〇五) (五五三)
- 行政裁判法(二三、同四八) (五五五)
- 行政裁判所ノ部組織及事務分配制(官勅令三) (五五九)
- 行政裁判所處務規程(二三、同九九) (五五九)
- 行政訴訟豫納金手續(三三、同二) (五六〇)
- 行政訴訟豫納金手續(三三、同二) (五六〇)
- 非常特別稅法(三七、法律三) (五六二)
- 行政裁判傍聽人心得(二三、行政裁判所揭示) (五六二)
- 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル事件(二三、法律一〇六) (五六二)

通商航海條約及領事職務條約

- 大不列顛國通商航海條約(二七、勅令) (五六三)
- 改正條約施行期日(三三、同二五) (五七一)
- 條約若ハ慣行上居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業ニ關スル制(三三、同三五) (五七一)
- 條約若ハ慣行上居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業ニ關スル制施行細則(三三、內務省令四二) (五七二)
- 獨逸國領事職務條約(二九、勅令) (五七二)

兵庫縣稅法輯要目次 終

- 地方公共團體ノ徵收金ニシテ滯納處分ノ未剩餘金アルモ滯納者ニ還付スルコトヲ得サルトキ取扱方(第二輯第三章ニ收ム) (二二八三)
- 國稅滯納處分方(第一輯第六章ニ收ム) (一一一八)
- 國稅徵收法第二十三條ノ二ノ規定ニ關スル疑義(同上) (一一一八)
- 國稅滯納處分ニ依ル差押登記ノ抹消ニ關スル取扱方(同上) (一一一九)
- 國稅徵收法ニ依ル入札保證金取扱方(同上) (一一一九)
- 府縣稅滯納處分上不動産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於ケル登錄稅取扱方(第二輯第三章ニ收ム) (二二八四)
- 府縣稅及市町村稅等滯納處分差押抹消登記ノ場合ニ登錄稅免除方(同上) (二二八五)
- 國稅滯納處分引繼方(第一輯第六章ニ收ム) (一一一九)
- 國稅徵收法ニ依ル差押物件亡失ノ場合ニ於ケル取扱方(同上) (一一二〇)
- 國稅徵收法ニ依ル差押調書作成方(同上) (一一二〇)
- 國稅徵收法ニ依ル差押登記囑託ニ關スル取扱方(同上) (一一二一)
- 刑法(第二輯第一章ニ收ム) (二二四九)
- 警察犯處罰令(同上) (二二五二)
- 刑事訴訟法(同上) (二二五二)
- 違警罪即決例(同上) (二二五三)



# 兵庫縣稅法輯要

## 第一輯 國稅

### 第一章 地租

●地租條例(明治十七年三月十五日) 改正(二十二年法  
太政官布告第七號) 第三〇號、三六號

號、三一年第三三號、三四年第三〇號、三六號  
第二二號、三八年第三三號、四一年第三六號

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年<sup>七</sup>月第貳百七拾貳號  
布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例  
ニ抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島(函館縣沖繩縣札幌  
縣根室縣)ハ當分從前ノ通タルヘシ

右奉 勅旨布告候事  
(別冊)

#### 地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率ト  
ス

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價  
額ヲ謂フ

明治三十二年分ヨリ同三十六年分迄地租ニ於テ地價  
千分ノ八市街宅地租ニ於テ地價百分ノ二箇半ヲ增徴  
ス、

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目  
變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類ト爲スモノヲ開塞ト謂  
フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川缺、押掘、石砂入、  
川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シ  
タルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 左ニ掲クル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス

一 國府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團  
體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地但有料借  
地ハ此限ニ在ラス

二 府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體  
カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル其  
所有地但命令ノ定ムル期間内ニ公用又ハ公共ノ用  
ニ供セサルトキハ此限ニ在ラス

三 鄉村社地

四 墳墓地

五 用惡水路、溜池、堤塘、井溝

六 鐵道用地、軌道用地

七 保安林

八 公衆ノ用ニ供スル道路

府縣郡市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其







第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

●非常特別稅法(抜抄)(明治三十七年四月一日)

改正(三十八年第一號、三十九年第七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル非常特別稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

非常特別稅法

第二條 左ニ掲クル租稅ニ付テハ關係法規ノ定メタル稅額ノ外左ノ割合ノ稅額ヲ徵收ス

- 市街宅地 地價百分ノ十七箇五
郡村宅地 地價百分ノ五箇五
其ノ他ノ土地 地價百分ノ三箇

●地租條例施行規則(明治三十二年三月廿一日)

改正(三十五年第二三三號)

朕地租條例施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租條例施行規則

第一條 土地ニハ番號ヲ付シ每筆其ノ地價ヲ定ム

第二條 一筆ノ土地中一部分左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ分割ス

- 一 別地目トナルトキ
二 有租地ニシテ免租地トナルトキ
三 免租地ニシテ有租地トナルトキ
四 所有者ヲ異ニスルトキ
五 質權ノ目的トナルトキ
六 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的トナルトキ

第三條 地租條例第四條ニ依リ地租ヲ免スヘキ公立學校地、鄉村社地ハ借地ニ非サルモノニ限ル

第四條 第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地租變換ト謂フ

第五條 地目變換又ハ地類變換ノ後五年以内ニ於テ更ニ地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ再度ノ變換ヨリ六年目ニ至リ其ノ地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條 地目變換ノ後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲ストキハ開墾着手ノ年ヨリ十年目又ハ鐵下年期明ニ至リ其ノ成功部分ノ地價ヲ修正シテ地租ヲ徵收ス

第七條 開墾着手後十年以内又ハ鐵下年期中ニ於テ地

目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ廢止シタルモノトシ變換ヨリ六年目ニ至リ其ノ地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第八條 地目變換若ハ地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ變換ヲ取消シタルモノトス其ノ荒地免租年期明ニ至リ當初ノ地目ト異リタル土地ト爲シタルトキハ其ノ地目ニ依リ地價ヲ修正シ地租ヲ徵收ス

第九條 地租條例第十條第一項ニ違犯スル者其ノ變換ヨリ六年目以後ニ於テ發覺シタルトキハ其ノ發覺ノ年ニ於テ現地目ニ依リ地價ヲ修正シ其ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十條 地目變換又ハ開墾ニシテ許可ヲ受ケタルコトヲ要スルモノハ許可出願ヲ以テ届出ト看做ス

第十一條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニ付鐵下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第十二條 荒地免租年期中又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換地類變換又ハ開墾ト看做サス

第十三條 荒地免租年期中又ハ低價年期中再ヒ荒地トナリ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル

荒地免租年期又ハ低價年期ハ消滅ス

第十四條 地租條例第十六條第十八條第二十條第二十一條第二十三條第二十四條及森林法(第五十六條)ニ

依リ鐵下年期、地價据置年期、免租年期、繼年期又ハ低價年期ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ願出ツヘシ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ所有者ハ稅務署長ニ届出ツヘシ
一 有租地ヲ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地、公衆ノ用ニ供スル道路、水道用地及傳染病院、隔離病舎、隔離所、消毒所ノ敷地ト爲ストキ
二 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキ
三 開墾ヲ爲サムトスルトキ、開墾成功シタルトキ又ハ開墾ヲ廢止シタルトキ
四 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニ付鐵下年期又ハ新開免租年期ヲ請ハサルトキ

五 鐵下年期明、地價据置年期明、新開免租年期明、荒地免租年期明、低價年期明ニ至リタルトキ
六 數筆ノ土地ヲ合併シ又ハ一筆ノ土地ヲ分割セムトスルトキ

前項ノ場合ニ於テ地價ノ設定又ハ修正ヲ要スルトキハ實地ノ情況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地力ヲ比較シ相當ノ地位等級ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘシ

第十六條 地租ヲ納ムヘキ者其ノ所有土地所在地ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ管理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住居ス



ル者ヲ納稅管理人ト爲シ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ  
申告スヘシ

●地租條例施行細則及從來地租條例ノ施  
行ニ關シ府縣ニ於テ發シタル命令廢止  
(明治二十二年四月四日)  
(大藏省令第十一號)

明治二十二年大藏省令第十九號地租條例施行細則及從  
來地租條例ノ施行ニ關シ府縣ニ於テ發シタル命令ハ本  
年勅令第十一號地租條例施行規則施行ノ日ヨリ之ヲ  
廢止ス

●地租條例第四條ニ依ル公共團  
體及期間指定(明治三十八年五月十日) 改正(三  
年第一)  
(五三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル開墾地、開拓地、新開地年  
期及期間指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
第一條 地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依リ  
左ノ公共團體ヲ指定ス

- 水利組合
- 町村組合、町村學校組合及其ノ區
- 市町村內ノ區
- 沖繩縣ノ區、間切、島、間切島組合、區內ノ部及  
間切島內ノ村
- 北海道地方費

北海道ノ區及區町村內ノ部  
北海道土功組合

第二條 地租條例第四條第一項第二號ニ依ル期間ハ公  
用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキヨリ  
一箇年トス

●減下年期新開免租年期地價据  
置年期延長制(明治三十四年四月十三日)  
(法律第三十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル減下年期、新開免租年期、  
地價据置年期ノ延長ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公  
布セシム  
地租條例ニ依リ減下年期、新開免租年期又ハ地價据置  
年期ノ許可ヲ得タル土地ニシテ年期明ニ至リ事業成功  
又ハ地味成熟ニ至ラサルモノニ對シテハ更ニ年期ノ延  
長ヲ許可スルコトヲ得但シ開墾減下年期及地價据置年  
期ノ土地ニ付テハ通シテ五十年開拓減下年期ノ土地ニ  
付テハ通シテ三十年新開免租年期ノ土地ニ付テハ通シ  
テ七十年ヲ超ユルコトヲ得ス

●開墾地開拓地新開地年期繼續  
制(明治三十四年四月十三日)  
(法律第三十一號)

本法ハ本法施行前既ニ年期明トナリタル土地ニシテ未  
タ地價ノ設定又ハ修正ナキモノニモ之ヲ適用ス  
地租條例第十八條ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

添へ所轄稅務署へ通知スヘシ  
前項校地ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

●有租地ヲ郡市町村立學校敷地ト爲シタ  
ルトキ稅務署ニ通知取扱方  
(明治三十二年六月十五日三甲第二一九  
號ノ二內務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

有租地ヲ郡市町村立學校敷地トナシタルトキ所轄稅務署  
へ通知ノ件ニ付本縣訓令第五十三號ヲ以テ發布相成候  
處右通知ヲ爲シタルトキハ何等ノ手續ヲモ要セス直ニ  
免租ノ處分(處分)ノ上ヘ其結果ヲニ可相成義ニ付精密調査  
ノ上無遲滯御通知有之度尤モ一筆ノ土地ニシテ分割ニ  
該當スヘキ場合及所有權移轉ノ登記ヲ要スルモノハ該  
手續完了ノ上通知候様御取扱有之度依命此段及通牒候  
也

追テ認可年月日ハ中學校、高等女學校及實業學校等  
ニアリテハ各該設置廢止規則ニヨリ又小學校ニアリ  
テハ設備規則ニヨリ校地選定又ハ校地變更ニ付許可  
アリタル年月日ヲ以テ御取扱相成度將又本年四月十  
三日以後ニ於テ認可アリタル分ニシテ未タ免租ノ手  
續無之分ハ此際御取調ノ上本文ノ手續有之度此段申  
添候也

●有租地ヲ郡市町村立學校敷地ト爲シタルト  
キ稅務署ニ通知取扱方  
(明治三十三年二月二十日三丙第  
七號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル開墾地、開拓地、新開地年  
期繼續ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
開墾着手後九年ヲ經過セサル土地又ハ減下年期、新開  
免租年期若ハ地價据置年期ヲ有スル土地ニ對シ荒地免  
租年期又ハ低價年期ヲ許可シタルトキハ其ノ期間ハ地  
租條例第十六條第二項ノ十年中ニ又ハ減下年期、新開  
免租年期若ハ地價据置年期中ニ算入セス

附 則

本法ハ開墾着手後九年以內ニ又ハ減下年期、新開免租  
年期若ハ地價据置年期中ニ荒地免租年期又ハ低價年期  
ノ許可ヲ受ケ其ノ年期明ニ至リ未タ地價ノ設定又ハ修  
正ヲ爲ササルモノニモ之ヲ適用ス

●有租地ヲ公立學校敷地ト爲シタルトキ稅  
務管理局ニ通知方(明治三十二年四月十三日)  
(文部省訓令第五號)

有租地ヲ公立學校敷地ト爲シタルトキハ其ノ都度該市郡  
村字地番地目段別及認可年月日等ヲ記シ圖面ヲ添へ所  
轄(稅務管理局)へ通知スヘシ

●有租地ヲ郡市町村立學校敷地ト爲シタ  
ルトキ稅務署ニ通知方(明治三十二年六月十五日)  
(兵庫縣訓令第五十三號)

有租地ヲ郡市町村立學校敷地トナシタルトキハ其都度  
郡市町村字地番地目段別及認可年月日等ヲ記シ圖面ヲ



有租地ヲ郡市町村立學校地トナシタルトキ及同學校地ニ變更ヲ生シタルトキ所轄稅務署ヘ通知ノ件客年六月十五日第五十三號ヲ以テ訓令相成候處右通知ノ節ハ學校地トナシタルモノト有租地トナリタルモノト各別紙ニ記載シ且買上寄附賣却等ノ區別ヲ明記相成度依命此段及通牒候也

●地方廳ニ於テ地租條例第十一條ニ依リ免租地ヲ有租地ト爲スノ許可ヲ與ヘタルトキ稅務署ニ通知方(明治三十二年四月二十日) 大藏省訓令第三十二號 改正(三十二年) 第二號

北海道廳 府縣(沖繩縣)

地方廳ニ於テ地租條例第十一條ニ依リ免租地ヲ有租地ト爲スノ許可ヲ與ヘタルトキハ其郡、市、町、村、大字、地番、段別、免租地タリシトキノ名稱、目的地ノ地目、許可年月日等ヲ記載シ所轄稅務署ニ通知スヘシ

●土地分合筆内外書地取扱方(明治三十一年十月) 廣島稅務管理局照會 三十一年九月十五日

地租ヲ課スヘキ土地異動ノ際地價ノ増減ニ關スル從前ノ慣行ニシテ法律ノ適用上之カ變更ヲ要スヘキモノノ左記各項ノ通意見有之夫々其取扱手續更正ノ見込ナレトモ貴見如何

一 筆ノ土地ヲ分裂シ又ハ二筆以上ノ土地ヲ合併ス

ラサルモノトス仍ホ内書地ヲ本地ヨリ分離即チ裂筆シテ獨立地ト爲ス場合ニ於テハ其從來内書地相當ノ地價ヲ分配スヘキモノトス但此場合ニ於テ從來無地價地タリシモノハ無地價ノ儘分離シ若シ之ヲ有租地ニ使用セントスルトキハ更ニ地租條例第十一條及同(第十三條第二項)ニ依ラシムヘキモノトス

主稅局回答 同年十月五日 第一項乃至第三項見込ノ通 但一筆内幾部分ノ土地ヲ分裂スル場合ハ土地分合筆取扱手續ニ依リ地價ヲ適當ニ分配シ可然尤免租地成ノ土地ト雖モ其一筆内ニ在ル内ハ相當ノ地價ヲ有スルハ勿論ナリト雖モ事實免租スヘキ土地ナルヲ以テ分裂ト同時ニ條例第四條ニ依リ免租地トナルヘキモノト認ム

又無地價地ナルモノハ條例之ヲ認メサルニ付前項前段ノ通適當ニ地價ヲ分配シ可然

●地價査定等ニ關スル取扱方(明治三十一年十一月) 同第二十七號

九龜稅務管理局問合 三十一年九月十二日 一 土地分合筆取扱方ハ(明治二十年四月訓令第二十五號)ノ規定ニ依リ其地價ハ現地價ヲ標準トシテ之ヲ定メ結果現地價額ニ増減差ヲ生セシメサルヲ本則ト爲スモノノ如シ故ニ假令段別ニ丈量増減歩アル場合ト雖モ其地價ハ現地價ヲ分配(分割)ノ場合若クハ合算シ

ル際新タニ地盤ヲ丈量シ段別ニ増減ヲ生シタルトキハ其新段別ニ段地價ヲ乘シ新地價ヲ算出シ即チ段別ノ増減ニ隨伴シテ地價モ亦増減修正シ來リタル處抑モ地價ヲ修正スルハ地租條例第七條ニ明定セル場合ニ限ルモノナレハ右等分合筆ノ爲メ段別増減ノ場合ニ於テ地價ヲ修正スルハ妥當ナラサルニ付(本年七月九日主稅局通牒第二項丈量發見ノ場) 單ニ段別ノミノ増減ニ止メ地價ヲ修正スヘカラサルモノトス

二 耕地ノ畦畔ヲ新設スルトキハ其地價ハ當年分ヨリ減除シ又廢除スルトキハ其翌年分ヨリ本地地價ヲ増加修正シ來リタル處(明治二十三年一月訓令第六號) 元來畦畔廢設ノ爲メ地價ヲ増減スルコトハ地租條例中ニ依據スヘキ明條ナキヲ以テ其新設シタルモノハ本地ノ外書ト爲シ又廢除シタルモノハ之ヲ本地段別ニ増加スルニ止メ地價ヲ増減修正スヘカラサルモノトス

三 有租地ノ一筆地内ニ孕在セル内書地ハ其從來有地價タルト無地價タルトヲ問ハス之カ異動ノ場合ニ於テハ恰モ一筆地具體ノ如ク地租條例ニ依リ即チ免租地ノ有租地成又ハ地目變換開墾等取扱來リタル處元來内書地ハ本地地價ヲ査定セシ當時ノ形狀ヲ示シタルモノニシテ該内書地ノミ地相ヲ變スルモ之カ爲メニ本地地目ヲ左右スルモノニアラス從テ本地地目ニ就テ之ヲ觀ルトキハ條例上地價ヲ設定若クハ修正スヘキ異動ニアラス故ニ内書地ノ異動ハ單ニ内書地地目ノ更正又ハ取消ニ止メ本地地價ヲ増減修正スヘカ

●合併ノテ之ヲ定メ苟モ修正ノ實アルカ如キハ之ヲ許ササルモノト思考ス然ルニ現今實際ノ取扱方ハ新ニ段當金ヲ乘シ之ヲ算定スルカ故ニ丈量増減歩ニ伴フテ地價ノ増減ハ免レサル處ナレハ恰モ修正ト同一ノ結果ヲ生シ尙ホ段別ニ増減歩ナキ場合ト雖モ(厘位切捨ノ算法上) 現地價額ニ對シ減差ヲ生ス如此ハ右訓令ノ本旨ニ反スルモノト認ムルヲ以テ今後ハ現地價ヲ分配若クハ合算シテ之カ地價トシ増減ヲ生セシメサルコトニ取扱可然ヤ



主稅局回報 同年十月三日

第一項見込ノ通

第二項後段見込ノ通

第三項森林法并地租條例ニ違反シタルモノナルヲ以テ各別ニ告發スヘキモノト存ス

第四項地租ハ條例第二十七條ニ依リ追徴シ可然ト存ス

●土地分合筆取扱方(同上)

松山稅務管理局照會 三十一年十月十五日

本年七月二十六日主秘第七九八號通牒第二項丈量誤謬訂正取扱方ノ趣旨ニ由リ考フレハ土地分合筆ニ際シ生スル段別ノ増減ハ土地ヲ分合スルニ當リ算則上一歩ノ外段別ニ増減ヲ生スルノ理ナケレハ當初ノ丈量誤謬トシテ取扱フヘキ義ト思考ス就テハ(二十年四月大藏省訓令第二十五號土地分合筆取扱手續第一條)ノ次第アルモ増減歩ニ相當スル地價ノ増減ヲ爲ササルニヨリ全部丈量ノ必要無之ヲ以テ分筆ハ其一方ノミヲ丈量シ該段別ヲ土地臺帳記載ノ段別ヨリ控除シ其殘餘ヲ一方ノ段別トシ合筆ハ野取圖ノ添附ヲ略シ土地臺帳記載ノ段別ヲ合算シ取扱差支無之ヤ

主稅局回報 同年十月三十一日 見込ノ通

●地目變換地價据置年期中荒地免租年期

ヲ付與セシモノノ取扱方(明治三十二年二月) 同第二十八號

宇都宮稅務管理局照會 三十一年十二月二十三日

茲ニ宅地ヲ田ニ變換シ年期中荒地トナリ免租年期明ニ至リ畑ニ起返シタルモノノ如キハ再度變換ノ手續ヲナシ即チ田畑變換年期ヲ併進シ漸次地價修正シツツ進行セシムルノ取扱例ナルカ如シト雖モ如斯場合ニ至ルモノト否トニ拘ラス其年期中荒地トナリタルトキハ荒地免租年期ヲ付與スルト同時ニ該年期ハ消滅スルモノト信ス如何トナレハ地租條例第二十二條後段ノ規定ニ除外例ナキ限リハ開墾地若クハ變換地ナルト問ハス免租年期明ニ至レハ實地ノ狀況ニ依リ相當ノ地位等級ヲ査定シ新ニ地價ヲ確定セサルヲ得サレハナリ蓋シ其之ヲ爲シ得ルハ當初既ニ變換若クハ開墾ノ年期ヲ消滅セシメタルモノト謂ハサルヲ得ス右ノ理由ニ依リ殘年期ハ繼續セシメサルコトニ取扱可然ヤ

主稅局回報 三十二年一月二十五日

地目變換地價据置中荒地トナリタルトキハ地目變換ハ消滅シタルモノトシ年期明ニ至リ當初ノ地目ニ復シタルトキハ其儘原地價ニ復舊シ他ノ地目ニ起返シタルトキハ其地目ニ依リ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リ徵收スルモノトス

●地租ニ關スル取扱方(明治三十二年四月) 同第三十號

京都稅務管理局照會 三十二年四月十二日

本年勅令第十一號ヲ以テ地租條例施行規則發布セラレ大藏省令第十一號ニ依リ二十二年大藏省令第十九號

●開拓地取扱方(明治三十三年三月) 同第四十號

主稅局發議 三十三年三月九日決判

官有地ヲ開拓シ拂下ヲ受ケタル土地ニシテ事實開拓成功シアラサル土地ニ對シ地租條例第十六條第四項ニ依リ減下年期ヲ許可シ年期明ニ至リ山林ニ地價ヲ修正シタルモノアリ右ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸スルニハ普通開墾ト均シク一類地ニ開拓シタルモノタラサル可カラス而シテ官有地取扱規則第七條ニ依リ拂下ヲ受ケタル土地ト雖モ事實開拓未成功ノ土地ニ對シテハ條例第十六條第四項ニ依ルヲ得ス普通拂下トシテ其地ノ現況ニヨリ地價ヲ設定スヘキコトニ取扱方一定云々

●開拓年期中ノ土地ニ關スル取扱方(同上)

主稅局發議 三十三年三月十七日決判

地租條例第十六條第四項ノ開拓年期地ハ開墾地ト均シク二類地ニ勞力ヲ加ヘ一類地トナスヘキモノタラサル可カラサルコトハ屢ニ省議決定セラレタリ就テハ總テ開拓年期滿了ノ土地ハ其形狀必ス一類地タラサル可カラスト雖モ該年期中他地目ニ變換シ年期明ニ至リ一類地ノ狀況ヲ失却シタルモノ事實之レナシト認メ難ク而シテ此場合ニ於ケル取扱ニ關シテハ從來何等ノ規定ナキニ付右ハ現ニ地狀ヲ變シタル際直ニ地目變換ノ手續ヲナシ同時ニ開拓年期ハ消滅シタルモノトシ取扱フヘキコトニ決定セラレ可然哉

地租條例施行細則廢止ニ付左ノ通り取扱ヒ差支ナキ哉

一 稅務署ニ備置ノ地圖ハ土地臺帳ト符合セシムルノ必要アリト認ム然ルニ本年三月勅令第百一十一號地租條例施行規則ニ依レハ一筆ノ土地ヲ分割セントスルモノ、屆書ニハ圖面ヲ添付セシムルノ明文ナキヲ以テ其屆書ニ依リ圖面ヲ訂正スル能ハス故ニ隨時當該官吏ヲ實地ニ派遣シ取調フルモノトス

二 地積ハ度量衡法ニ依ルヘキモノナルヲ以テ將來土地ノ丈量ヲ爲シタル場合ハ勾位迄ヲ算出シ土地臺帳ニ記載スルモノトス

三 田畑ノ畦畔ハ法定ノ免租地ニアラス且本地ヨリ除却スルノ明文ナキヲ以テ將來地盤ノ丈量ヲ爲スニハ之ヲ量入スルモノトス

四 條例第二十五條乃至第二十七條但書ニ依ル期間ノ計算ハ民法ノ規程ニ依ルト雖モ元來地租ハ不可分ナルヲ以テ區分セズ即チ其期間ノ一ケ年内ニアルトキハ全年分徵收スルモノトス

主稅局回報 同年四月二十一日

第一項土地ノ分割ヲ申告セントスルモノハ分割ノ狀況ヲ證明スルニアラサレハ申告ノ目的ヲ達スルコト能ハサルカ故ニ測量圖等必要ナル書類ハ當然添付シテ届出ツヘキ儀ト存セラル、モ之ヲ添付セサルモノハ見込ノ通りニテ可然

第二項從來ノ方法ニ依リ取扱可然

第三項第四項見込ノ通りニテ可然



●地目變換ニ係ル市街宅地地租徵收方

(明治三十六年五月 同第六十八號)

九龍稅務監督局照會 三十六年二月十八日
地目變換地租變換ニシテ其年ニ係ル地租ノ一部又ハ全
部ヲ納付シタル後變換ヲ爲シタルモノハ翌年ノ地租ヨ
リ變換地目ニ依リ徵收ノ取扱ニ候處市街宅地ヨリ他ノ
地目ニ他ノ地目ヨリ市街宅地ニ變換シタルモノハ土地
臺帳面更正地目ニ相當セサル租額ヲ徵收スルコト、相
成例ヘハ市街宅地ニシテ前期分納稅後第一期納期前畑
ニ變換シタルモノハ地目畑ナルニ拘ハラズ翌年一月ニ
於テ市街宅地ノ增徵租率千分ノ二十五ニ對スル後期分
ヲ徵收シ畑ニシテ第一期納期後第二期納期前市街宅地
ニ變換シタルモノハ地目市街宅地ナルニ拘ハラズ第二
期ニ於テ畑ノ增徵租率千分ノ八ニ對スルモノヲ徵收ス
ルコトトナリ地租條例第一條第二項ノ地目ヲ區分シテ
定メレタル租率ノ其地目ニ相當セサルモノヲ徵收ス
ルコトト相成候ニ付市街宅地ニ係ルモノハ變換以後ノ
納期ヨリ變換地目ニ相當スル增徵租額ヲ徵收スヘキヤ
主稅局回報 同年四月十五日
其年分ノ地租ノ一部又ハ全部ヲ納付シタル後地目ノ變
換ヲナシタルモノハ其翌年ニ於テ前年分ノ地租納期經
過後其年分ノ地租納期前土地臺帳ノ地目ヲ更正シ其年
ヨリ其地目ニ依リ徵租御取扱相成可然

●地方公共團體ノ所有地ニシテ公用ニ供

スルモノノ除租分界

(明治三十八年一月十四日兵庫縣廳一 治第六號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

(明治三十三年法律第十九號府縣郡市町村其他ノ公共
團體ノ所有地ニシテ其公用ニ供スルモノニ對シ地租及
公課ヲ免スル件)ニ關シ大藏省主稅務局長ヨリ別紙ノ
通群馬縣知事ニ回答相成候趣其筋ヨリ通知有之候ニ付
爲參考及通牒候也

(別紙)

本月九日地第一四五號御照會ノ件公用ニ供スル土地
ハ本年(編者曰本年トハ明治三十七年ヲ指スモノ)如
二號ノ第一條ニ依リ免租セラレヘキ義ニ有之カ除
租ハ所有者ノ申告又ハ官廳ノ通知ヲ受ケタル時ヲ以
テ分界トスルノ取扱ニ有之候此段及回答候也

●森林無願開墾地取扱方

(明治三十八年八月七日兵庫縣廳外農第三 四八號ノ二內務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

森林ノ開墾ハ森林法(第六條)ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ
要シ候處往々無願開墾ヲ爲スモノアリテ稅務署ニ於テ
之ヲ發見スルトキハ直ニ告發ト同時ニ地租條例第二十
七條ニ依リ地價ヲ定メ地租ヲ追徵セラレ候然ルニ其森
林中國土保安上等ノ關係ニ依リ開墾ヲ禁止セサルヘカ
ラサル個所アルモ既ニ開墾地價ヲ設定シタル以上ハ之
レカ禁止ノ命令ヲ發スルヲ得サルニ至リ取締上不都合
尠カラサルヲ以テ其救濟方法ニ付農商務省山林局長ヨ

リ大藏省主稅局ヘ交渉ノ結果別紙ノ通稅務監督局長ト
協定候條右御了知ノ上左記ノ通御取扱相成度此段依命
及通牒候也

(別紙)

記

- 一 稅務署ニ於テ森林ノ無願開墾ヲ發見シタルトキ
ハ告發前ニ於テ其通知ヲ受ケルコト
一 右通知ヲ受ケタルトキハ直ニ開墾禁止ノ必要ア
ルモノト否トヲ調査シ所轄稅務署ニ通知ヲナスコ
ト
但段別一町歩以上ノモノハ調査シタル實況并意
見ヲ具シ知事經伺ノ上稅務署ヘ通知ヲナスコト
一 開墾禁止ノ必要アル個所ハ直ニ相當ノ手續ヲナ
スコト
一 開墾禁止ノ必要ナキモノトシテ處理シタルモノ
ハ(明治三十三年九月訓令第六十號森林開墾許可
報告)ニ合算シ備考欄ニ其地目別段別ヲ詳記スヘ
シ

●漁船保存ノ建物敷地取扱方(明治三十九年四月 主稅局報告第百三號告)

松江稅務監督局照會 三十九年三月八日
所轄内沿岸村ノ一部ニ漁船ノ陸揚保存ニ充ツル爲海岸
民有地ニ舟小屋ヲ設ケタルモノアリ右舟小屋ハ僅ニ數
本ノ丸太柱ヲ以テ雨露ヲ防クニ過キサル極メテ粗雜ナ
ル建物ニシテ之レカ敷地ハ雜種地トシテ取扱フコト相
當ト認メ候(共管内ノ一部ニ在テハ地租改正以來已ニ

宅地トシテ取扱來候モノアリ之レカ一定ヲ期セムニハ
漸次地租變換ヲ爲サシムルノ必要有之關係スル所不尠
候ニ付右ニ關スル局議至急御回報ヲ得度
主稅局回報 同年四月四日
御意見ノ通御取扱相成可然尤更正ノ手續ハ誤謬訂正ト
スルヲ相當ト被認候條御了知相成度

●陶器製造窯敷地地目(明治三十九年四月 同第百八號)

名古屋稅務監督局問合 三十九年七月四日
當局管内愛知縣下知多郡常滑町東春日井郡瀬戸町及岐
阜縣下土岐郡多治見町ハ重ナル陶器ノ製産地ニシテ地
租改正ノ際常滑、瀬戸ハ右陶器窯敷地ヲ郡村宅地ニ多
治見ハ之ヲ山林ニ取調有之候處元來右陶器窯ヲ蔽フカ
爲メニ設ケタル建物ハ總テ堀立柱ニ板等ヲ以テ屋根ヲ
葺キタル粗末ナル構造ニシテ普通ノ家屋ト同一視シ難
キモノナルヲ以テ其敷地ヲ宅地トシテ賦租スルハ穩當
ナラスト思考セラレ候ニ付テハ追々更正方申出ノ向モ
有之候ニ付此際一般相當地目ニ更正スルコトニ取計候
方可然ト存候得共陶器ノ製産地ハ他局管内ニモ多々有
之取扱區々ニ涉リテハ不都合ト被存候條御意見承知致
度云々
主稅局回報 同年九月十一日
一 陶器窯ノ敷地カ一區域ヲ爲シ他ノ地目間ニ介在セ
ルトキ
一 其窯ノ上ニ永久的設備ト認メラルヘキ雨露蔽等ア
ルトキハ宅地トス



- 二前號ノ如キ設備ナキトキハ雜種地トス
- 一 陶器窯カ或地目中ノ一部ニ設備セラレ、場合ルトキハ宅地トス
- 二 前號ノ如キ設備ナキトキハ其地目ニ包容セララルヘキモノトス

●郵便電信電話用地免租方(明治三十九年十一月號)

主稅局決議 三十九年十月十日  
 郵便電信電話用地ヲ往々郵便法又ハ電信法ニ依リ免租スル向アル如キモ左ノ理由ニ依リ地租條例ニ依リ免租スヘキモノトス  
 郵便電信電話ノ事務ハ政府ノ管掌スヘキモノナルコトハ郵便法并電信法ノ規定スル處ナレハ通信官署ノ敷地及其他ノ郵便電信電話用地ハ國ノ公用地タルコト論ヲ俟タス果シテ然ラハ地租條例第四條改正後ニ於テハ郵便法第七條電信法第十一條ニ地租ノ免除ヲ包含セサルモノト解サ、ルヘカラス郵便法第七條電信法第十一條ニ單ニ郵便電信電話專用物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシト在ルヲ以テ一見有料貸地モ亦免租ノ恩典ニ浴スル如クニシテ其範圍ヲ異ニスルヲ以テ地租條例改正後ト雖モ仍ホ郵便法又ハ電信法ニ依リ免租スヘキ如キ觀アルモ右土地所有者ハ收益ヲ目的トシテ貸付セルモノナレハ同法ニ於テモ之ヲ包含セサルモノト解スルヲ相當トス

右ノ通決定

●地租變換廢止又ハ取消方(明治四十年二月號)

主稅局發議 四十年一月十八日決議  
 地租條例施行規則第五條第六條第二項第八條ニ依レハ地租變換ヲ爲シタル後更ニ地目變換ヲ爲シ又ハ再ヒ第一類地ト爲シ若クハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキニ於テ其地租變換ヲ廢止又ハ取消シタルモノトスルニハ變換後五年以内ナラサル可カラズ蓋シ變換後五年ヲ經過スルトキハ地價修正ヲ爲シ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收シ得ヘキヲ以テ五年以内ヲ以テ變換ノ廢止又ハ取消ノ要件トセシモノナルヘシ故ニ地租變換後五年ヲ經過シ如上ノ異動ヲ生スルモ地價ノ修正ヲナササル間ハ是レ又前記各條ニ依リ處理スヘキモノトス

●森林内ノ溪流利用地目取扱方(明治四十年四月號)

山林局照會 四十年三月七日  
 森林内ノ溪流又ハ溪流ニ沿ヒタル底部ノ石礫地ヲ利用シ縱又ハ横ニ石垣ヲ設ケ流下スル石礫ヲ扞止シ階段狀ヲ爲サシメ其上面ハ稍平坦又ハ緩傾斜ニ爲シ水流ヲ導キテ之ニ注カシメ山葵ヲ栽培スル者有之此ノ如キハ森林内ノ副産物ヲ採取スルニ過キスシテ開墾トシテ取扱フヘキモノニ無之ト存シ候得共稅務署ニヨリテハ開墾ト看做シ地目ヲ附シタルモノモ有之候趣ニ付右ノ場合ノ如キハ開墾トシテ御取扱可相成候哉一應御意見承知

●特定三等郵便局舍敷地地租ノ課否

(明治四十一年三月號)

通信局照會 四十一年二月十二日  
 客年十一月往第一六四四三號ヲ以テ三等郵便局舍專用敷地免稅ノ義ニ付回答相成候處三等郵便局中特定局ト稱シ渡切經費ヲ以テ其局務ニ要スル適當ノ家屋及地所ヲ供給スルモノモ亦局舍專用ノモノハ第三者ヨリ借地セルモノノ外總テ免稅相成ヘキ義トハ被認候ヘ共地方局ヨリ問合ノ次第モ有之省議一應了知致度候也

主稅局回答 同年三月二日  
 本月十二日通業乙第七八七號ヲ以テ特定三等郵便局ノ敷地免租方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ客年四月一日貴省公達第二百五十八號第十六條ニ依レハ事務費ノ一部トシテ國ヨリ局舍料ヲ渡切ルヲ以テ該局舍敷地ハ通信官署ノ有料借地ト認ムルヲ相當ト存候ニ付地租條例第四條第一號但書ノ規定ニ依リ免租セサルヲ相當ト存候此段及回答候也

●軌道用地ノ區域(明治四十一年六月號)

東京稅務監督局照會 四十一年五月二十六日  
 本年法律第三十六號ヲ以テ地租條例ノ免租地ニ軌道用地ヲ加ヘラレ其區域ニ關シテハ私設鐵道法第四十一條ノ規定ヲ準用スルコトト相成候處左記ノ疑義相生シ候ニ付至急御意見承知致度

致度  
 主稅局回答 同年四月二日  
 本年三月七日山受四八一號ヲ以テ森林内ノ山葵栽培地ニ付御照會ノ趣了承右ハ事實ノ如何ニ依ル義ニ候得共其大體ニ於テ貴見ノ通開墾トシテ取扱フヘキモノニ無之ト存候

●開拓地地目變換取扱方(明治四十年五月號)

宇都宮稅務監督局照會 四十一年四月十二日  
 開墾地ハ從前之ニ素地目ヲ附シ年期明ノ際現況ニ依リ地目ヲ組替地價ヲ修正スルノ取扱ナリシニ客年來現地目ヲ附スルコトト相成候爲メ年期中ニ地目ノ變換セシ場合ハ地目變換ノ手續ヲ爲ササルヘカラサル義ト存候得共開拓ニ關スル年期及地價修正ト地目變換ニ關スル地價修正及修正地價ニ依ル徵租期トノ關係上一般地目變換ノ手續ニモ難儀様被存候ニ付テハ左記ノ點ニ付至急何分ノ御指示相仰度

- 一 開拓年期中ニ地租條例第十條ノ一ノ徵租時期ニ達スルモノニ對スル取扱方
- 二 開拓年期明ノ後ニ至リ前項ノ徵租時期ニ達スルモノニ對スル取扱方

主稅局回報 同年四月二十四日  
 本月十二日直第二一二號ヲ以テ開拓地ニ係ル地目變換取扱方ニ關シ御照會ノ趣了承右年期中ニ於テハ第十條ノ一第一項及第十條ノ二ニ限リ適用スヘキ義ト存候



一 變壓所ハ電車ノ運轉上直接必要ナルモノニ付其敷地ハ免租スヘキモノノ如キモ準用法條ノ各號中何レニモ該當セサルニ付免租スルヲ得サルヤ

二 若シ前項免租スヘキモノトスレハ發電所敷地ヲモ免租スルヲ相當トスルカ如シ

三 前項ヲ免租スヘキモノトスレハ其區域ハ水力ニ依ルモノハ貯水池ヲモ包含セシムヘキヤ

主稅局回答 同年六月八日

五月二十六日第五八七號ヲ以テ御照會ノ軌道用地ノ區域ニ關スル件了承第一項第二項第三項共私設鐵道法第四十一條第一項第二號ヲ準用シ免租シ可然

● 柵柳栽培地目取扱方(明治四十一年八月)

名古屋稅務監督局照會 四十一年八月四日

管内岐阜縣下西濃地方ニ於テハ近來田畑又ハ原野等ニ柵柳ヲ栽植スルモノ有之其栽植ノ方法ハ別紙記載ノ通ニシテ別段ノ設備ヲ要セス且收利頗ル多キカ爲メ漸次之ヲ栽植スルモノ增多ヲ加ヘ來リ取扱上右栽植地ノ地目ヲ一定スルノ必要ヲ生シ候ニ付テハ之ヲ二類地ニ栽植スルモノハ畑成開墾トシテ取扱ヒ其畑ニ栽植スルモノハ現地目ニ据置キ又田ニ栽植スルモノハ便宜作トシテ地目變換ト認メス現地目ニ据置クコトニ取扱ヒ候方可然ト見込候得共一應御意見承知致度右及照會候也

追テ神戸稅務監督局管内但馬國地方ニ於テハ從來之ヲ栽植スルモノ少ナカラサル由ニテ田又ハ畑ニ栽植

スルモノハ其儘現地目ニ据置キ山林原野等二類地ニ栽植スルモノハ畑ニ開墾ノ手續ヲ爲サシムルコトニ取扱居候趣ニ有之爲御參考申添候

(別紙) 柵柳栽植方

除草鋤入等相當地盤ノ整理ヲ爲シタル上長サ五六寸ツツニ伐リタル柵柳ヲ井然挿込ミ爾來別ニ耕耘セサルモ夏季ニ於テ除草ヲ爲シ且傍芽ヲ摘採シテ枝ヲ生セサラシメ或ハ肥料ヲ施ス等相當ノ手入れヲ爲シ以テ毎年一回之レカ樹幹ヲ伐採シテ柳行率ノ製造原料ニ供ス而シテ挿込後十三四年目毎ニ更ニ新ニ挿込ヲ爲スヲ普通トスル由ニテ其仕替ノ際ハ舊株根除去スルカ爲メ地盤ノ掘返シヲ要ス又地方回復ノ爲メ田ハ一年若クハ二年間稻作等ヲ爲スヲ可トスル趣ニ付自然此間右柵柳ノ栽植ヲ休止スル場合ヲ生スヘキモ未タ其期ニ達シタル土地尠キニヨリ事實果シテ右ノ如ク爲スヤ否ハ不明ナリ

明治四十一年八月十五日主稅局長問答ノ要領

一 柵柳ヲ田ニ植ヘタル場合ニ於テ畦畔ヲ除却スルモノト否ラサルモノトアリテ一様ナラサルモ畢竟水利ニ依リ培養スルモノニアラス

二 柵柳ヲ山林原野ニ植付ケタル場合ニハ雜木雜草ヲ除キ多少地盤ノ整理ヲ爲スモ多クハ元形ノ儘ナリ

三 柵柳ハ濕潤地ニアラサレハ生育セサル如キモ水ヲ湛フルノ要ナシ

主稅局回答 同年九月一日

本年八月四日直第二二八五號ヲ以テ柵柳栽植地ノ地目ニ關シ御照會ノ趣了承田ニ栽植シタル場合ニ於テ田ノ設備其儘ヲ存置スルモノハ田トシ其地狀ヲ變シタルモノハ畑ニ地目變換トシテ御取扱相成可然其他ハ貴見ノ通ニ候此段及回答候也

● 無届開墾地地租追徴方(同上)

松江稅務監督局照會 四十一年八月十一日

地租條例第二十七條ニ依リ追徴スヘキ無届開墾地ノ地租増額算定方法即租率ハ實施當時ノ法律ヲ適用スヘキハ勿論ナルモ其計算方法即本年法律第三十一號ノ適用方其他ニ付左ノ三說アリ

甲說 (一) 開墾地ノ修正地價ニ租率ヲ乘シタルモノト(二) 原地目ノ地價ニ租率ヲ乘シタルモノトニ各四十年法律第三十一號第三條ヲ適用シ錢位以下ノ端數ハ之ヲ五厘トシ其差引殘額ヲ以テ地租ノ増額トス

乙說 (一) 修正地價ト(二) 原地目ノ地價トニ各租率ヲ乘シ錢位未滿ノ端數ハ之ヲ存置シ其ノ差引殘額ニ錢位未滿ノ端數アルトキ之ニ四十年法律第三十一號第三條ヲ適用シテ五厘ニ止メタルモノヲ以テ地租ノ増額トス

丙說 修正地價ノ内ヨリ原地目ノ地價ヲ控除シタル殘額ヲ以テ課稅標準トシ之ニ開墾成功地目ノ租率ヲ乘シタルモノヲ以テ地租ノ増額ト看做ス但シ開墾成功地

目ト租率ヲ異ニスル即原地目山林開墾地目宅地ノ如キハ例外トシテ甲說ノ計算法ニ依ル

右各說何レモ長短有之聊カ疑義相生シ候條御意見承知致度此段及照會候也

主稅局回答 同年九月三日

八月十一日直第三八二號ヲ以テ御照會ニ係ル無届開墾地ノ地租追徴方ノ件了承乙說ノ通御取扱相成可然此段及回答候也

● 宅地組換法(明治三十二年三月十四日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル宅地組換法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

宅地組換法

第一條 郡村宅地ヲ市街宅地ニ、市街宅地ヲ郡村宅地ニ組換ヲ要スルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 前條ニ依リ地目ヲ組換ヘタル土地ハ其ノ年ヨリ組換地目ノ地租定率ニ依リ其ノ地租ヲ徵收ス

● 宅地組換ノ市町村(抜抄)(明治三十二年六月八日)

朕宅地組換ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

左ノ地方ニ於ケル郡村宅地ヲ組換ヘ市街宅地トス將來新ニ宅地トナルモノ亦市街宅地トス

兵庫縣

神戸市(大字駒ケ林、野田、西尻池、池田、長田、夢野、石井、鳥原ヲ除ク)



姫路市 西宮町(鐵道線路北ヲ除ク)  
 武庫郡 尼ヶ崎町(大字大洲ヲ除ク)  
 川邊郡 明石町(大字大藏谷ノ内山陽鐵道線路北ヲ除ク)  
 飾磨郡 國衙村(大字豐澤ノ内字忍町及字豆腐町ノ内字水田ノ内字萬燈ノ内字御殿前ノ内字清水町ノ内字ハチギノ内山陽鐵道線路以北)  
 揖保郡 龍野町  
 城崎郡 豐岡町

土地區劃改良ニ係ル地價制

(明治三十年四月一日) 改正(三十二年六月二號) 法律第三十九號  
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル土地區劃改良ニ係ル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ノ許可ヲ受ケテ土地改良ノ爲市町村内ノ土地所有者ノ全部又ハ一部共同シテ其ノ區劃形狀ヲ變更スルトキハ其ノ變更ニ係ル土地ノ地價ハ現地價ノ合計額ヲ每筆相當ニ配賦シ之ヲ定ム  
 同一土地所有者ニシテ地積數筆ノ土地ノ區劃形狀ヲ變更スルトキ亦同シ  
 改良地區内ニ於ケル土地所有者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得其ノ同意者ノ所有スル土地ノ面積及地價カ改良地區内ニ於ケル土地ノ面積及地價ノ三分ノ二以上ニ當ル

依リ修正地價、設定地價又ハ原地價ヲ以テ第一項ノ現地價トシタル土地ニシテ事業竣功ノ時變換後五年、開墾着手後九年ヲ經過セサルモノ又ハ年期ノ終了セサルモノアルトキハ事業關係者ハ其ノ協議ヲ以テ殘年間修正地租若ハ低減地租ト從前ノ地租若ハ原地租トノ差額ノ負擔若ハ利益又ハ免除スヘキ地租額ノ利益ヲ受クヘキ土地及金額ヲ定メ政府ニ申告シ其ノ金額ヲ加除シテ其ノ土地ノ地租ヲ納ムヘシ協議一致セサルトキハ政府ニ於テ之ヲ定ム

土地區劃改良申請手續(明治四十二年五月三十日) 大藏省令第二十八號

第一條 明治三十年法律第三十九號ニ依リ土地改良ノ爲區劃形狀ノ變更ヲ爲サントスル者ハ事業着手ノ時期ヲ定メ設計書、現地圖及變更豫定地圖ヲ添付シ所轄稅務署長ニ申請スヘシ但シ申請地區内ニ御料地、國有地又ハ地租條例第四條ノ免租地ヲ包含シ之カ異動ニ付官廳ノ認許ヲ要スルモノハ其ノ異動ニ付豫メ主管廳ノ認許ヲ受ケ其ノ指令書ヲ添付スヘシ  
 第二條 明治三十年法律第三十九號第三項ニ依リ申請スル場合ニ於テ土地所有者ノ意ニ反シテ編入シタル土地アルトキハ其ノ地番、所有者ノ住所氏名又ハ名稱及異議ノ理由ヲ記載シタル書面及第四條ノ計算ヲ明ニスル書類ヲ前條ノ申請書ニ添付スルコトヲ要ス  
 第三條 前條ノ申請ニ付許可アリタルトキハ申請者ヨリ直ニ其ノ旨ヲ異議アル者ニ通知スヘシ

トキハ第一項ノ許可ヲ申請スルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テ特別ノ價值用途アル土地ヲ改良地區ニ編入セラレタル爲異議アル者ハ改良施行許可ノ日ヨリ十五日以内ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願ノ裁決前ニ在リテハ事業ニ着手スルコトヲ得ス  
 第一項又ハ第二項ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタル土地中地目若ハ地類變換後五年、開墾着手後九年ヲ經過セサルモノ又ハ鐵下年期、新開免租年期、地價据置年期、荒地免租年期若ハ低價年期ヲ有スルモノアルトキハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル  
 一 地目變換地ニシテ地價ノ修正ナキモノ、地類變換若ハ開墾ヲ爲シタル土地又ハ鐵下年期、新開免租年期若ハ地價据置年期ヲ有スル土地ハ事業着手ノ際其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正シ又ハ地價ヲ設定ス  
 二 第一號ニ依リ地價ヲ修正シ又ハ地價ヲ設定シタル土地ニ付テハ變換後六年目、開墾着手後十年目若ハ年期明ニ至リ修正地價又ハ設定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ事業竣功ニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 三 事業竣功ニ至リタルトキハ第一號ニ記載シタル土地及地目變換ニシテ地價ノ修正アリタルモノニ付テハ修正地價又ハ設定地價ヲ以テ、荒地免租年期又ハ低價年期ヲ有スル土地ニ付テハ原地價ヲ以テ第一項ニ規定スル現地價トス  
 四 第一項ニ依リ地價ヲ定メタル場合ニ於テ第三號ニ

第四條 明治三十年法律第三十九號第三項ノ所有者、面積、地價ハ左ノ各號ニ依リ計算ス

一 共有者アルトキハ之ヲ一人トシテ計算ス  
 二 御料地、國有地アルトキハ其ノ面積ハ之ヲ算入セス  
 三 地價ヲ計算スルトキニ於テ明治三十年法律第三十九號第五項ニ依リ地價ヲ設定スヘキ土地アルトキハ申請地區内ノ類地比準ニ依リ相當ノ地價ヲ見積計算ス  
 第五條 事業竣成シタルトキハ直ニ地價ノ配賦ヲ受クル爲各筆ノ區域ヲ豫定シテ其ノ假定地價ヲ附シ及改良地ヲ從前ノ土地ニ割當テタル部分等ヲ明記シタル書面ニ改良確定地圖ヲ添付シ所轄稅務署長ニ申請スヘシ  
 第六條 明治三十年法律第三十九號第五項第四號ノ申告ハ所轄稅務署長ニ之ヲ爲スヘシ事業關係者ニ於テ協議一致セサルトキ亦同シ

明治三十年法律第三十九號施行上取扱方

(明治四十二年五月三十日) 大藏省訓令第二十八號

第一條 土地改良ノ爲區劃形狀ノ變更ヲ申請シタル者アルトキハ地方廳ト協議シ支障ナキヲ認タル上許可スヘシ但明治三十年法律第三十九號第三項ニ依リ申請スルモノニ付テハ許可ノ日ヨリ少クトモ二十日ヲ







中ノ土地ノ耕地整理ニ關シ御問合ノ趣了承右ハ地價ノ設定ヲ要スヘキ義ト存候

●耕地整理法(抜抄)(明治三十二年三月二十二日)

改正(三十五年第一五號、三六年第一一號、三八年第三一號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル耕地整理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

耕地整理法

第一章 總則

第十三條 整理施行中土地ノ區劃形狀ノ變更及道路、畦畔若ハ溝渠等ノ變更廢置ハ地目變換又ハ開墾ト看做サス

第十四條 整理地區ニ編入シタル土地ノ地租ハ其ノ地區ノ全部ニ付土地豪帳ノ整理ヲ完了スル迄從前ノ地價、地目、地價ニ依リテ之ヲ徵收ス

第十五條 整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

●耕地整理工事を手前稅務署ニ申告スヘキ事項(明治三十三年六月十四日)

農商務省令第十四號(改正(三六年第一號))

耕地整理法ニ依リ整理施行ノ認可アリタルトキハ整理委員ハ工事ニ着手スル前左ノ事項ヲ所轄稅務署長ニ申告スヘシ爾後其事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

一 整理地區ノ屬スル郡、市、町村及土地各筆ノ字、

番號(設有地)

- 二 整理施行又ハ設計變更認可ノ年月日
- 三 工事着手及ヒ竣成ノ豫定時期

●耕地整理ニ伴フ地目變換

(明治三十四年九月十三日) 發第四四四號農務局長通牒

群馬縣伺 三十四年七月二日

耕地整理實施ニ當リ其整理地區内ニアル山林或ハ畑等ヲ田ニ變換スルトキハ地租條例ニ依リ地目變換ノ手續ヲ爲シ而シテ右土地ノ地租ハ徵下年期ヲ附セラレ、モノニ候哉耕地整理法第十三條ニ依ルトキハ道路畦畔溝渠等ノ變更ハ地目變換又ハ開墾ト見做サスト規定有之其裏面ヲ解釋スルトキハ道路畦畔溝渠以外ノモノ、變更ハ地目變換ト見做シ地租條例ノ手續ヲ爲スヘキモノ、如シ然ルニ耕地整理ニ當リテハ地區内ノ山林芝地畑等ヲ便宜上田ニ變更スルコト多ク有之或ハ整理上土地所有者ノ意志ニ反シテモ之ヲ變セサルヘカラサル場合同モ生スヘク右等ノ場合ニ際シテ悉ク地目變換ノ手續ヲ爲シ地租條例ニ依ル徵下年期ヲ付スルニ止ルトキハ土地所有者ハ整理地區編入ノ同意ヲ拒ミ又ハ同意ヲ躊躇スル等整理普及ノ進捗ヲ妨クルモノ少カラス右ハ果シテ地租條例所定ノ地目變換ノ手續ヲ爲スヘキモノニ候哉目下伺出ノ向モ有之差掛リタル義ニ付至急何分ノ御指揮相成度此段上申候也 農商務省指令 同年八月五日

明治三十四年七月二日農第三六三號同耕地整理ニ付疑義ノ件ハ地目變換又ハ開墾ノ手續ヲ要セサル義ト心得ヘシ

●耕地整理法第十三條末文地目變換ノ解釋

(明治三十六年八月) 主稅局報告第七十一號

主稅局發議 三十六年七月二十四日(決議) 耕地整理法第十三條末文地目變換ト看做サストノ規定ハ整理施行地域全部ヲ同一狀態ニ變更ノ場合モ之ヲ適用スルモノトス

●地租徵收ニ關スル制

(明治三十七年四月一日) 法律第十二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル地租徵收ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 地租ヲ課スル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其ノ納期ヨリ地租ヲ徵收セス

地租ヲ課セサル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ其ノ納期ヨリ地租ヲ徵收ス

但シ地租ヲ課セサル土地ニシテ其ノ年經過後田地トナリタルトキハ其ノ年分地租ノ翌年ニ於ケル納期ニ於テハ地租ヲ徵收セス

第二條 地租ハ各納稅人ニ付同一市町村内ニ於ケル同一地目ノ地價合計額ニ依リ之ヲ算出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地目ヲ異ニスルモ地租ノ納期ヲ同フスル土地ハ之ヲ同一地目ト看做スコトヲ得

第三條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ開始前十五日マテニ地價及地租ノ總額並ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ所轄稅官廳ニ報告スヘシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

納期開始前十五日ヨリ納期開始マテニ地租額ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ異動額ヲ所轄稅官廳ニ報告スヘシ

第四條 市町村以外ノ公共團體又ハ戶長カ地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 大藏大臣ハ隨時稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ市町村其ノ他ノ公共團體又ハ戶長役場ニ於ケル國稅諸帳簿ノ整否ヲ監督セシムヘシ

附則

第六條 本法ハ明治三十七年分地租ヨリ之ヲ適用ス

●地租ノ課否ニ關スル處分ヲ爲シタルトキ 稅務署ニ通知方(明治三十七年五月二十日) 兵庫縣内訓第七號

郡長 市長

本年三月法律第十二號ヲ以テ地租徵收ニ關スル件發布セラレ地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキ又ハ地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地トナリタル時ハ其ノ以後ノ納期分ヨリ地租ヲ收除スルコトニ相成又該法適用方ニ關シ右地租ヲ課ス



ル土地トナリタルトキ及地租ヲ課セサル土地トナリタルトキトハ地價ノ設定又ハ地租ヲ課セサル土地トナリタルコトニ付稅務署カ所有者ノ申告又ハ官廳ノ通知ヲ受ケタルトキト解釋スルコトニ其筋ニ於テ決定シタル旨神戶稅務監督局長ヨリ通知有之候處若シ地租ノ課否ニ關スル處分事項ニシテ稅務署ニ對シ其通知延引スルトキハ自然歳入ノ缺陷ヲ生シ又ハ被課稅者ニ過當ノ地租ヲ負擔セシムルカ如キ結果ヲ生スルニ至ルヘクニ付爾後處分ノ都度直ニ通知スル様注意スヘシ

●地租徵收期限(明治三十四年三月十六日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地租徵收期限改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租徵收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施行ス

但市街宅地地租ハ該年七月三十一日翌年一月三十一日ヲ限リ兩期ニ其五分宛ヲ徵收ス

一期	該年九月一日ヨリ	畑方及宅地山	五分
二期	該年十一月一日ヨリ	林原野牧場	五分
三期	該年十二月十六日ヨリ	同	五分
四期	翌年一月十五日ヨリ	田方	五分五厘
五期	同二月二十八日ヨリ	同	五分五厘
六期	同三月三十一日ヨリ	同	五分五厘
同	同五月三十一日ヨリ	同	五分五厘

●水害地方田畑地租免除制

(明治三十四年四月十三日) 改正(四〇年第一法律第二十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル水害地方田畑地租免除ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一府縣又ハ數府縣ノ全部若ハ一部ニ亘レル水害ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ハ其ノ年分ニ限リ之ヲ免除ス

前項ニ依リ免租ノ處分ヲ受ケムトスル者ハ罹災後三十日內ニ主務官廳ニ申出ツヘシ此ノ期間內ニ申出テサル者ハ免租ノ處分ヲ受ケムコトヲ得ス

本法ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テ納稅資格中ヨリ控除セス

附則  
本法ノ規定ハ之ヲ本法施行前一年間ニ水害、蟲害、風害又ハ旱害ヲ被リタル田畑ニ準用ス但シ申出期間ハ本法施行ノ日ヨリ起算ス

●水害地方田畑地租免除出願方  
(明治三十四年四月十八日) 大藏省令第三號

明治三十四年法律第二十七號ニ依リ地租ノ免除ヲ請ハントスル者ハ被害ノ種類及時日ヲ記載シ收穫ノ皆無タリシ事實ヲ證明シ願書ヲ所轄稅務署ニ差出スヘシ

●被害地租ノ免除又ハ延納出願ニ關スル特別ノ處理方(明治四十一年六月三十日兵部庶務) 特別ノ處理方(七六號內務部長ヨリ郡市長ニ移照)

內ノ期間ヲ以テ年賦延納ヲ許可スルコトヲ得  
前項ニ依リ延納ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ證明シ主務官廳ニ出願スヘシ  
本法ニ依リ延納ヲ許可シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス  
本法ニ依リ被害調査中ハ地租ノ徵收ヲ猶豫ス  
附則  
本法ノ規定ハ之ヲ明治三十五年分田畑地租ニ準用ス  
明治三十六年勅令第八號ニ依リ延納ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ更ニ期間ノ更正ヲ求ムルコトヲ得  
前二項ニ依リ延納ノ許可ヲ得又ハ期間ノ更正ヲ求ムルトスル者ハ本法施行後三十日以内ニ出願スヘシ

明治三十四年法律第二十七號及明治三十六年法律第三號ニ依リ收穫皆無地ノ被害ノ證明ハ立毛全部ヲ存置スヘキハ勿論ニ候得共斯クテハ當該官吏ノ檢査後ル、場合ニ於テハ農業者ノ農事經濟上困難スルコト可有之ヲ以テ今回田ノ被害ニ付テハ免租又ハ延納申請後二十日ヲ過キ當該官吏ノ檢査ナキトキニ限リ同一田區毎ニ周圍三株ツ、線狀形ニ及中央ニ面積三十分ノ一(二十坪ヲ超ユルトキハ二十坪ニ止ムルモ妨ナシ)ノ立毛ヲ存置スルニ於テハ之ヲ以テ被害現狀ヲ證明スルモノトシテ取扱ヒ尙免租又ハ延納ノ申請アリタルトキハ當該官吏ニ於テ可及的速ニ檢査スヘキ事ニ示達セシ旨其筋ヨリ通牒越候ニ付及移牒候也  
追テ從來被害作物全部存置ノ場合ニ於テモ種々ノ手段ヲ用ヒ收穫皆無ヲ裝フモノ往々有之候趣今回本文ノ通り特別ノ取扱ヲ機會トシ斯ノ種ノ現象ヲ増加スルコト有之候テハ遺憾ノ至リニ付此邊ハ(町村長等ニ對シ)充分訓諭相成免租又ハ延納處分ヲ圓滿ニ完了セシムル様御取扱有之度此旨特ニ申添候也

●災害地租延納ニ關スル制

(明治三十六年六月十六日) 法律第三三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル災害地租延納ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

災害又ハ天候不順ニ因リ府縣及北海道ノ全部若ハ一部ニ亘リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ニ付テハ十年以

第一條 明治三十六年法律第三號ニ依リ地租延納ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ收穫皆無ニ歸シタル事由、土地ノ番號、地目、段別、地價、地租及延納期間ヲ記シ所轄稅務署ニ出願スヘシ但シ段別、地價及地租ニ付テハ各筆ノ記載ヲ省略シ地目別合計額ヲ記載スルモ妨ナシ  
第二條 延納ノ期間ハ收穫皆無トナリタル年ノ翌年ヨリ起算ス  
第三條 年賦延納金額ハ地租金額ヲ延納年間ニ平分シ



テ之ヲ定ム

第四條 年賦延納金ハ毎年當該地目ノ地租納期ニ平分シテ之ヲ納ムヘシ但シ出願者ニ於テ平分ヲ不便トスルトキハ地租納期中ニ於テ其便トスル納期及金額ヲ定メテ之ヲ許可スルコトヲ得

附則

第五條 本令ハ明治三十六年法律第三號附則ニ依リ地租延納ノ許可ヲ得又ハ期間ノ更正ヲ求ムトスル者ニ之ヲ準用ス但シ期間ノ更正ヲ求ムトスル場合ニ於テハ收穫皆無ニ歸シタル事由、段別、地價、地租ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

●地租ノ年賦延納金整理方

(明治三十六年六月十七日)  
(大藏省訓令第二十七號)

道廳 府縣

明治三十六年法律第三號ニ依リ地租延納ヲ許可セラレタル者アルトキハ明治三十六年五月大藏省訓令第二十二號ニ準據シ其ノ整理ヲ爲スヘシ

●地租ノ年賦延納金整理方

(明治三十六年五月十二日)  
(大藏省訓令第二十二號)

道廳 府縣

明治三十六年勅令第八號ニ依リ地租ノ年賦延納ヲ許可セラレタル者アルトキハ市町村ハ左記様式ニ準據シタル帳簿ヲ備ヘ之ニ依リ年賦金ノ測定ヲ爲スヘシ

●災害地地租延納ニ關スル取扱方

(明治三十六年七月二十五日)  
(大藏省訓令第三十二號)

稅務監督局

明治三十六年法律第三號災害地地租延納ニ關スル取扱方左ノ通心得ヘシ

第一條 收穫皆無ノ調査ヲ爲スニ當テハ公平適實ヲ主トシ之カ調査ヲ爲スヘシ

第二條 年賦延納ノ期間ハ十年以内ニ於テ納稅者ノ請求ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

第三條 延納地租ヲ納付スルハ許可ヲ受ケタル者ノ義務ニ屬スルヲ以テ許可後土地ノ所有權ヲ他人ニ移轉スルコトアルモ其ノ義務ハ移轉セサルモノトス

第四條 延納許可ノ出願ニ關スル狀況ハ時々報告シ向許可完了ノ上ハ別紙様式ニ依リ其ノ結果ヲ報告スヘシ

(様式略)

●森林法(抜抄)(明治四十年四月二十三日)  
(法律第四十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル森林法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

森林法

第一章 總則

第三條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更ス

延納ヲ許可セラレタル土地ニ付テハ地租名寄帳當該摘要欄ニ許可年月日及何年分地租全額又ハ第延納ノ旨ヲ記載スヘシ

地租年賦延納額名寄帳

公署名

田ノ部	住所	氏名	摘要 許可額 延納期間 每年納額					
			第一期	第二期	第三期	第四期	第五期	第六期
三十七年	三十七年	三十七年	100	100	100	100	100	100
三十八年	三十八年	三十八年	100	100	100	100	100	100
三十九年	三十九年	三十九年	100	100	100	100	100	100
四十年	四十年	四十年	100	100	100	100	100	100
現在	現在	現在	100	100	100	100	100	100

一 畑租ニ關スル帳簿ハ本様式ニ依リ調製スルモノトス  
二 延納期間内ニ更正地租ノ延納ヲ許可セラレタルモノアルトキハ現在額子整理シ掲記スルモノトス

ル行爲ヲ謂フ

第二章 營林ノ監督

第十二條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林シタル部分ニ限り三十年以内地租ヲ免スルコトヲ得

前項ノ規定ハ原野山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用ス

府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

第三章 保安林

第十四條 主務大臣ハ左ニ掲クル場合ニ於テ森林ヲ保安林ニ編入スルコトヲ得

一 土砂ノ壞崩、流出ノ防備ノ爲必要ナルトキ  
二 飛砂ノ防備ノ爲必要ナルトキ  
三 水害、風害、潮害ノ防備ノ爲必要ナルトキ  
四 頽雪又ハ墜石ニ因ル危險ノ防止ノ爲必要ナルトキ

五 水源涵養ノ爲必要ナルトキ  
六 魚附ノ爲必要ナルトキ  
七 航行ノ目標ノ爲必要ナルトキ  
八 公衆ノ衛生ノ爲必要ナルトキ  
九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ノ爲必要ナルトキ

第十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキ又



ハ保安林トシテ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ保安林ヲ解除スルコトヲ得

第十八條 保安林ノ編入解除ヲ爲サムトスルトキハハ地方長官其ノ申請ヲ受理シタルトキハ地方長官ニ於テ其ノ旨ヲ森林所有者、土地所有者其ノ他地上權ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ニ通知シ且慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シ森林所在ノ市町村役場ニ之ヲ揭示スヘシ(一項)

第二十條 第十八條ノ告示ニシテ保安林編入ニ關スルモノナルトキハ其ノ告示ノ日ヨリ第二十三條ノ告示ノ日迄其ノ森林ニ於テ木竹ノ伐採、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官ヲシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場ニ揭示セシムヘシ

第二十六條 保安林ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ木竹ノ伐採、傷害、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲シ又ハ家畜ヲ放牧スルコトヲ得ス

第三十二條 主務大臣國土保安上必要アリト認ムルトキハ保安林以外ノ森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第三十六條 主務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ原野、山岳其ノ他ノ土地ニシテ第十四條第一號乃至第五號ノ場合ニ該當スルモノニ付本章ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

●森林法施行規則(抜抄)(明治四十年十二月二十六日) 農商務省令第二十一號  
第九條 保安林ノ編入解除ニ關スル處分ノ告示アリタルトキハ地方長官ハ遲滞ナク森林法第二十三條ノ通知及揭示ヲ爲スヘシ

第十九條 森林法第三十二條ノ規定ニ依ル開墾ノ制限又ハ禁止ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

●森林法施行手續(抜抄)(明治四十年十二月二十六日) 農商務省令第三十號  
第十六條 地方長官ハ保安林ニ付開墾許可ノ申請アリタル場合ニ於テ其ノ開墾ノ爲森林タルヲ失ハサルモノ、外之ヲ許可スルヲ得ス

●森林法施行規程(抜抄)(明治四十一年三月十六日) 兵庫縣令第二十二號  
第五條 保安林ハ其編入ノ目的ニ依リ左ノ十二種ニ區分ス  
一 土砂并止林  
二 飛砂防止林  
三 水害防備林  
四 防風林

五 潮害防備林

六 類雪防止林

七 墜石防止林

八 水源涵養林

九 魚附林

十 目標林

十一 衛生林

十二 風致林

前項ノ場合ニ於テ其目的二種以上ニ涉ルモノアルトキハ主ナル目的ニ依リ之レカ區分ヲナス

第八條 森林法施行規則第十九條ノ告示ニ依ル制限ノ箇所ヲ開墾セムトスルモノハ其願書(第二號様式)ヲ地籍所在郡市長ニ差出シ許可ヲ受クヘシ  
(第二號様式略)

●森林法實施ニ關スル取扱手續(抜抄)

(明治四十一年三月十六日) 兵庫縣訓令甲第十號

郡役所 警察署 警察分署

市役所 町村役場

第二條 保安林編入解除ニ關シ森林法第十八條ノ告示アリタルトキハ市町村長ニ於テ直ニ之ヲ揭示シ且森林所有者土地所有者其他土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ニ通知スヘシ  
市町村長ハ森林法第二十三條ニ關シ縣ノ告示又ハ通達ニ接シタルトキハ直ニ森林所有者ニ通知シ且之ヲ

揭示スヘシ

第七條 郡市長ニ於テ森林法施行規程第八條ノ願書ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ニ依リ調査ヲナシ差支ナキモノハ速ニ之ヲ許可スヘシ但シ一筆中一部ノ開墾ニアリテハ分筆ノ手續ヲ了セシメタル後之カ許可ヲ與フヘシ

一 國土保安上ノ關係又ハ接續地ニ對スル危害ノ有無

二 開墾事業ニ對シ灌漑及排水其他ノ事項ニヨリ四隣及關係者ニ於ケル異議ノ有無

三 地勢ノ緩急及地盤ノ形狀

四 溪谷、河川、用惡水路、溜池道路ニ對スル距離並關係

五 現在ノ林況

六 所轄稅務署ノ土地臺帳ニ照合シ相違ノ有無

第八條 左ニ掲クル地方ニ於テハ殊ニ前條ノ調査ヲ周密ニナスヘシ

一 從來開墾ヲ濫行スル傾キアル地方

二 花崗岩、秩父層、第三紀層等ニシテ地質ノ構造脆弱ナル地方

三 河川ノ沿岸地

第九條 開墾ノ出願ニシテ左ニ掲クルモノハ意見ヲ具シ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

一 開墾地面積一町歩以上ノモノ

二 町村長ニ於テ不許可ノ意見アルニ拘ハラヌ之ヲ



許可セムトスルトキ

三 保安林、砂防指定地、開墾禁止地ニ接續セルニ  
拘ハラス之ヲ許可セムトスルトキ

四 古來崩壊ノ歴史アル箇所若クハ其ノ附近ナルニ  
拘ハラス之ヲ許可セムトスルトキ

第十條 國縣道ニ關係ヲ有スル場所ナルニ拘ハラス開  
墾ヲ許可セムトスルトキハ所轄土木出張所ノ意見ヲ  
聞キ處分スヘシ

第十一條 左ニ該當スル箇所ハ危害ヲ豫防スルニ足ル  
ヘキ適當ノ廣サ毎ニ水階段ヲ作ルカ又ハ水平ノ土  
堤ヲ作ル等相當ノ設備ヲナスニアラサレハ開墾ノ許  
可ヲ與フヘカラス

一 谿川ノ崖岸ニ係ルモノ

二 強度(三十度以上)ノ傾斜アルモノ

三 接續スヘキ從來ノ耕地ヲ併セテ六十間以上ノ傾  
斜面ヲ裸出スルモノ

土地ノ狀況ニ依リ前項ノ設備ヲ不便トスル場合ニア  
リテハ宿根ノ牧草ヲ幅三尺以上ノ帶狀ニ作りテ之ニ  
代ヘシムルコトヲ得

第十二條 左ニ該當スル箇所ハ開墾ノ許可ヲ與フヘカ  
ラス

一 河川又ハ崩壊地ニ直接雨水ヲ流下スル箇所

二 三十五度以上ノ傾斜アル箇所

三 山體ノ中腹以上ニ於ケル森林ノ内部ヲ開墾セム  
トスルモノ

第十三條 郡市長ニ於テ開墾ヲ許可シタルトキハ其都  
度所轄稅務署ヘ通知(第一號様式)シ毎年末ノ合計  
(第二號様式)ヲ翌年二月末日限リ知事ヘ報告スヘシ  
(第一號第二號様式略)

●土木起工ノ爲潰地トナル山林開墾取扱方  
(明治三十一年十一月七日第二七號)  
(一七號內務部長ヨリ郡市長ニ通達)

森林ヲ開墾セントスル者ハ森林法(第六條)ニ依リ縣知  
事ノ許可ヲ受クヘキモノナル處知事ヘ出願スヘキ道路  
堤防溜池溝渠新築變更等總テ土木起工ノ爲メ潰地トナ  
ル森林ニ付テハ別ニ開墾願書ヲ差出サシムルニ及ハス  
本年三月内訓第四號ニ依ル貴所ノ意見ハ右起工願書ノ  
副申書中ニ併記可相成尙又縣事業ノ爲メ潰地トナルヘ  
キ敷地寄付出願ノ際モ本文同様開墾ノ手續ヲ要セス貴  
所ノ意見ノミ副申有之度依命此段及通達候也

但郡市長分任ニ係ル民有溜池溝渠新築變更ノ爲メ潰  
地トナル森林ニ付テハ別途當廳ヘ開墾出願スヘキ筋  
ト御承知相成度爲念申添候也

●土木起工ノ爲潰地トナル山林開墾取扱方  
(明治三十三年十月十二日第四九號)  
(五號內務部長ヨリ郡市長ニ申進)

森林開墾願ノ義ニ付テハ既ニ貴官(御委任相成候處道  
路堤防溜池溝渠トナル森林ニ就テハ明治三十一年十一  
月七日乙第二七號)以テ通牒ノ通り御取扱相成  
度依命此段申進候也

●土砂并止關係地區砂防指定地區内山林  
開墾取扱方(明治三十六年六月一日內林第五五  
五號內務部長ヨリ郡市長ニ照會)

澗川流域土砂并止關係地區砂防指定地域内ニ於テ山  
林ヲ開墾セントスルモノハ(明治二十一年(八月)縣令  
第九十九號澗川流域諸山土砂并止作業出願方)又ハ(四  
月)縣令第四十號砂防指定地取縮規則ニ據ル許可願書  
ノ内ニ森林法(第六條)ニ基ク許可願ヲ包含セシメ同時  
ニ許可ヲ受ケ候様取計相成度從テ別ニ三十三年(六月)  
縣告示第七十八號二十五項並同年(六月)訓令第三十  
五號四十七項森林開墾願ノ手續ヲ要セサル義ト御了知  
相成度此段依命及照會候也

追テ明治三十二年(十一月)縣令第七十三號別記ノ土  
地ニ付テハ其開墾ヲ禁止相成居候間該地ニ對シテハ  
委任條件ニ依リ處分不相成様御注意有之度此段申添  
候也(本追書ハ武庫有馬兩郡長ニ付ス)

●砂防法第二條ニ依ル指定地内山林開墾取  
扱方(明治三十七年七月二日四號第八  
五號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

砂防法第二條ニ依リ指定セラレタル土地ノ内山林ニシ  
テ開墾セントスルモノハ砂防指定地取縮規則第一條若  
クハ三十二年縣令第七十三號並ニ森林法(第六條)ノ許  
可ヲ同時ニ受クル義ト承知相成度此段及通牒候也

●森林法河川法砂防法ノ規定ニ依ル土地所  
有者ノ申請ヲ許可シタル場合ニ於テ地租

條例ノ開墾又ハ地目地類變換ニ該當スル  
モノヲ稅務署ニ通知方(明治四十一年四月一日)  
(大藏省訓令第二十號)  
府縣沖繩縣

地方長官ニ於テ森林法又ハ河川法若ハ砂防法ノ規定ニ  
依リ土地所有者ノ申請ニ對シ一定ノ行爲ヲ許可シタル  
場合ニ於テ地租條例ノ開墾又ハ地目變換若ハ地類變換  
ニ該當スルモノアルトキハ其ノ郡、市、町、村、字、  
地番、地目、段別及許可年月日事由等ヲ所轄稅務署長  
ニ通知スヘシ

●造林地地租免除申請方(明治四十一年一月十六日)  
(大藏省訓令第一號)

明治四十年法律第四十三號森林法第十二條ニ依リ造林  
地ノ地租免除ヲ得ムトスル者ハ所轄稅務署長ニ申請ス  
ヘシ

●造林地地租免除ノ申請アリタルトキ地方  
廳ニ協議方(明治四十一年一月十六日)  
(大藏省訓令第一號)

明治四十年法律第四十三號森林法第十二條ニ依リ造林  
地ノ地租免除ヲ申請シタル者アルトキハ地方廳ト協議  
シ相當免租年期ヲ定メ之カ許可ヲ與フヘシ但シ許可シ  
タルトキハ免租年期及段別ヲ地方廳ニ通知スヘシ

●造林地免租ニ關スル取扱方  
(明治四十一年三月六日)  
(農商務省訓令第四號)

稅務監督局 稅務署



府縣沖繩縣  
森林法第十二條ノ造林地免租ニ關シテハ左記各項ニ據  
リ取扱フヘシ

- 一 府縣知事ハ明治四十一年一月大藏省訓令第一號ニ依  
リ造林地免租ノ協議ヲ受ケタルトキハ左ノ標準ニ依  
リ尙ホ造林ノ難易、植栽樹種、地味ノ良否、交通ノ  
便否等ヲ斟酌シテ免租年期ヲ協定スヘシ
- 一 喬林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十  
五箇年以上三十箇年以内
- 二 中林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十  
箇年以上二十箇年以内
- 三 矮林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十  
箇年以内
- 四 前各號ノ外利用ヲ目的トセサル植樹ニアリテハ  
三十箇年以内
- 二 府縣知事ハ造林地免租許可地ノ林種面積等左記様  
式ニ依リ毎年末ノ合計ヲ翌年三月末日限リ本省ニ報  
告スヘシ但シ報告スヘキ事項ナキトキハ單ニ其ノ旨  
ヲ報告スヘシ  
(様式略)

●河川法(抜抄)(明治二十九年四月八日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル河川法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公  
布セシム

- 第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於  
テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止  
若ハ制限スルコトヲ得
- 前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル  
爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル  
トキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得
- 第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ  
對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ  
減免スルコトヲ得

●砂防法施行規程(抜抄)(明治三十年十月二十六日)

- 第一條 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル  
土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ
- 第三條 砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行爲  
ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二項ノ  
場合ニ於テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

●砂防法ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲  
ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地等ノ指定

(明治三十二年十一月二十五日) 改正(三十七年第  
兵庫縣令第七十三號) 改正(三二號)  
明治三十一年八月內務省告示第七十五號及本年四月同省告  
示第四十二號ヲ以テ砂防法ニ據リ治水上砂防ノ爲メ一  
定ノ行爲ヲ禁止若クハ制限スヘキ土地及砂防設備ヲ要  
スル土地指定セラレタルニ依リ本縣下ニ屬スル該區域  
内別記ノ土地ニ於テ左ノ行爲ヲ禁止制限シ犯ス者ハ十

第四章

河川ニ關スル費用ノ負擔、土地  
所有者ノ權利義務並河川ノ管理  
ヨリ生スル收入等

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外河川  
附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ  
公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要  
ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

●河川法第四十七條ニ依レル命令(抜抄)

(明治三十三年七月十三日)  
勅令第三百號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法第四十七條ニ依レル命  
令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

●砂防法(抜抄)(明治三十年三月三十日)

(法律第二十九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公  
布セシム

第一章 總則

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治  
水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地  
ハ主務大臣之ヲ指定ス

第二章 土地ノ制限及砂防設備

日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス  
但明治三十一年九月本縣令第六十五號ハ本令施行ノ日  
ヨリ廢止ス

- 一 開墾
- (二號略)
- 以上禁止
- (以下及別記略)

●砂防指定地取締規則(抜抄)

(明治三十六年四月六日) 改正(三十七年第  
兵庫縣令第四十號)

第一條 砂防法第二條ニ據リ內務大臣ノ指定セラレタ  
ル土地ノ内山林原野ニ於テ左ノ行爲ヲ爲サントスル  
モノハ當廳へ願出許可ヲ受クヘシ

(二號乃至八號略)

第二條 前條ノ出願ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ  
詳具シ尙ホ其四圍ノ狀況ヲ明記シタル實況圖ヲ添付  
スヘシ

- 一 行爲ヲ爲サントスル土地ノ所屬郡市町村大字  
小字名及地番地目段別
- 二 行爲ノ種類及其眞數並目的
- 三 行爲ノ着手及終了ノ豫定期日
- 四 其他必要ナル事項

第四條 本則ハ砂防法第二條ニ據リ將來內務大臣ニ於  
テ指定セラレタルトキハ其土地ニモ適用ス

第五條 本則ハ明治三十一年八月內務省告示第七十五號



及同三十一年四月同省告示第四十二號ヲ以テ指定セラレタル土地ニハ之ヲ適用セス

砂防法第十一條ノ地租其ノ他

ノ公課減免制(明治三十二年八月十六日勅令第三百七十四號)

改正(三五年第 二五三號)

朕砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行為ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其ノ地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス

第三條 本令ニ依ル地租其ノ他ノ公課ノ免除又ハ輕減ノ期間ハ一定ノ行為ヲ禁止又ハ制限シタル月ヨリ其ノ禁止又ハ制限ヲ解キタル月迄トス

第四條 本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスル者ハ一定ノ行為ヲ禁止又ハ制限セラレタル日ヨリ三十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第五條 本令施行前一定ノ行為ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ付テハ第三條ノ期間ハ此ノ勅令施行ノ月、第四條ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

●明治三十二年勅令第三百七十四號ニ依リ地租ノ免除、輕減ヲ申請シタルトキ地方廳

ヲ取得シタルトキハ遲滞ナク其ノ土地所在地ヲ管轄スル地方廳ニ永代借地券ヲ提出シテ抹消ヲ受クヘシ

前項ニ依リ永代借地券ノ抹消ヲ受ケタルトキハ帝國ノ臣民又ハ法人ハ其ノ土地ノ所有權ヲ取得ス

●外國人ノ永代借地權ヲ帝國臣民取得シタルトキ稅務署ニ通知方

(明治三十四年九月二十五日) 內務省令第二十四號

政府ノ永代借地權ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタル帝國ノ臣民又ハ法人明治三十四年勅令第七十九號第一條ニ依リ地券ノ抹消ヲ受ケ其ノ土地ノ所有權ヲ取得シタルトキハ地方廳ハ遲滞ナク其ノ土地所在地ヲ管轄スル稅務署ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

●明治三十四年內務省令第二十四號ニ依リ通知ヲ受ケタルトキ土地臺帳登錄方

(明治三十四年九月二十五日) 大藏省訓令第三十四號

〔稅務管理局〕 函館札幌根室那 明治三十四年內務省令第二十四號ニ依リ通知ヲ受ケタルトキハ稅務署ハ其ノ土地ニ付土地臺帳登錄ノ手續ヲ爲スヘシ

ニ協議方(明治三十二年九月四日) 大藏省訓令第六十二號

〔稅務管理局〕

明治三十二年勅令第三百七十四號第四條ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ申請シタルモノアルトキハ地方廳ト協議シ禁止又ハ制限セラレタル行為ノ程度ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ決定シ輕減スヘキモノハ其ノ割合ヲ定メ之カ許可ノ手續ヲ爲スヘシ

●明治三十二年勅令第三百七十四號ニ依レル地租ノ免除、輕減ニ關シ稅務管理局ヨリ協議アリタルトキ取扱方(明治三十二年九月十三日) 訓令第四五號內務大臣訓令

明治三十二年勅令第三百七十四號ニ依レル地租ノ免除又ハ輕減ニ關シ〔稅務管理局長〕ヨリ協議アリタルトキハ其協議ニ應シ處分上ノ便宜ヲ與フヘシ 右訓令ス

外國人ノ永代借地權ヲ帝國臣民取得ノ場合ニ關スル制(援抄)

(明治三十四年九月二十九日) 勅令第三百七十九號

朕帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタル場合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 第一條 帝國ノ臣民又ハ法人カ政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權

土地臺帳規則(明治二十二年三月二十三日) 改正(三〇七號)

第一條 土地臺帳ハ土地ニ關スル事項ヲ登錄ス

第二條 市ノ土地臺帳ハ〔府縣廳ニ於テ〕町村ノ土地臺帳ハ〔島廳郡役所〕ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條 〔登記所〕ニ於テ土地所有ノ移轉及質入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地臺帳所管廳ニ通知スヘシ

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金五錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ

第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見做スコトヲ得

第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 〔市制〕ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

●土地臺帳規則施行細則(明治二十二年四月一日) 大藏省令第六號

改正(三三年第二號第二十七號、三十四年第二十四號、三七年第六號第八號、三八年第二十二號、三十九年第二〇號)

第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價及所有者質取主又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル土地ノ地上權者ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ







畑		畑	
一〇〇〇五歩何歩	何々何々	一〇〇〇五歩何歩	何々何々
明治 月 日 年	明治 月 日 年	明治 月 日 年	明治 月 日 年
明治 月 日 年	明治 月 日 年	明治 月 日 年	明治 月 日 年
明治 月 日 年	明治 月 日 年	明治 月 日 年	明治 月 日 年
明治 月 日 年	明治 月 日 年	明治 月 日 年	明治 月 日 年

●地所名稱區別(明治七年十一月七日)

明治六年三月第十四號布告地所名稱區別左ノ通改定候條此旨布告候事

官有地

第一種 (地券ヲ發セス) 地租ヲ課セス(地方稅)ヲ賦

- セサルヲ法トス
- 一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云
  - 一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云
- 第二種 (地券ヲ發シ) 地租ヲ課セス(地方稅)ヲ賦セサルヲ法トス (尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入ス)
- 但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ
- 一 皇族賜邸
  - 一 官用地 官院省使寮司府藩縣本廳裁判所警視廳陸海軍本營其他政府ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云
- 第三種 (地券ヲ發セス) 地租ヲ課セス(地方稅)ヲ賦セサルヲ法トス
- (但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシムヘシ)
- 一 山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路
  - 一 田畑屋敷等其他民有地ニアラサルモノ
  - 一 鐵道線路敷地
  - 一 電信架線柱敷地
  - 一 證明臺敷地
  - 一 各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ
  - 一 人民所有ノ權理ヲ失セシ土地

- 一 民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地
  - 一 行刑場
- 第四種 (地券ヲ發セス) 地租ヲ課セス(地方稅)ヲ賦セサルヲ法トス
- 一 寺院大中小學校說教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ

民有地

- 第一種 (地券ヲ發シ) 地租ヲ課シ(地方稅)ヲ賦スルヲ法トス
- 一 人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云
- 但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ潰シ地(開墾)等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス
- 一 人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院鄉倉牧場秣場社寺等官有地ニアラサル土地ヲ云
- 但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖モ潰シ地(或ハ開墾)等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

- 第二種 (地券ヲ發シテ) 地租(地方稅)ヲ賦セサルヲ法トス
- 一 官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云
  - 一 民有ノ用惡水路溜池堤敷及井溝敷地
  - 一 公衆ノ用ニ供スル道路
- 但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請

●地所名稱區別細目(明治九年五月十八日)

今般地籍編製ニ付テハ土地ノ種類名稱都テ明治七年第三百二十號布告ニ因ル可シト雖モ右布告ハ特ニ其大綱ヲ揭ケタル故ニ各地ニ至テハ種類名稱遺漏ナキ能ハス且百二十號布告ニ揭ケル所ト雖モ往々各地方ノ稟問ヲ來セリ由テ之ヲ詳解シ左ニ細目ヲ掲ク

- 一 郡ト稱スルモノハ國中ノ區分ニシテ村町ヲ轄スルモノナリ
- 一 村ト稱スルモノハ郡中ノ區分ニシテ字ヲ轄シ農民ノ部落ヲナスモノナリ
- 一 町ト稱スルモノハ郡中ノ區分ニシテ商民ノ市街ヲ爲ス者ナリ字ヲ轄スルコト村ニ同シ
- 一 字ト稱スルモノハ村町中ノ區分ニシテ數十百筆ノ地ヲ轄スル者ナリ
- 一 官有地ト稱スルモノハ官ニテ所有スル土地ナリ
- 一 民有地ト稱スルモノハ人民ニテ所有スル土地ナリ
- 一 皇宮地ト稱スルモノハ皇宮離宮等アル一區域ノ地ヲ云ナリ
- 一 但シ仙洞御所女院御所等總テ此内ニ加フルモノトス
- 一 神地ト稱スルモノハ伊勢ノ神宮列聖ノ山陵及ヒ其他官國幣社府縣鄉村社地ノ一區域ヲ爲シタルモノナリ



- 一 山陵ト稱スルモノハ歷代天皇及ヒ皇后ノ兆域ナリ皇太子以下皇子皇女等ノ墓モ此内ニ編入ス
- 一 官幣社地ト稱スルモノハ官幣社境内地ナリ國幣社以下之ニ倣ヘ但シ官國社ニハ大中小ノ別アリトス
- 一 小社地ト稱スルモノハ村社ニ列セサル其以下神社ノ境内地ナリ
- 一 皇族賜邸ト稱スルモノハ皇族居住ノ爲メ賜ハリタル邸地ナリ其私ニ購有シ玉フ者ハ此例ニアラス
- 一 官用地ト稱スルモノハ官院使廳府藩縣等ニテ政府ノ許可ヲ受ケ所用ニ供スル土地ナリ
- 一 附屬ノ寮局課及ヒ其他ノ用地ト稱スルモノハ内務省ノ博物館大藏省ノ稅關陸軍省ノ操練場工部省ノ電信局司法省ノ裁判所警視廳ノ分廳其他兵營分局支廳倉庫等ノ土地名稱トスルモノナリ
- 一 山岳ト稱スルモノハ山ヲ總稱スルモノナリ
- 一 金坑ト稱スルモノハ金礦ヲ發掘スル部分ヲ云フ以下金坑ノ類皆之ニ倣ヘ
- 一 官坑ト稱スルモノハ官ニテ直轄スルモノナリ
- 一 借區ト稱スルモノハ人民ニ於テ官民有地ヲ問ハス鑛物ヲ採スル爲メ區分シテ借ルモノヲ云フ
- 一 水源涵養山ト稱スルモノハ飲水田水等ノ需用アルカ爲メ漫ニ伐木セス水源涵養ニ供スル山林ナリ
- 一 土砂扞止山ト稱スルモノハ土砂ノ流出ヲ扞防スル爲メ伐木ヲ禁止スル山ナリ

- 一 用材山ト稱スルモノハ用材ヲ裁タル山林ナリ
- 一 貸山ト稱スルモノハ官有山ヲ人民ヘ貸渡シタルモノナリ
- 一 柴草場ト稱スルモノハ柴草ヲ刈ル場所ナリ
- 一 芻株場ト稱スルモノハ芻草ヲ刈ル場所ナリ但シ人民柴草芻株ニ兼用スルモノハ其用アルノ多キニ從テ名稱ヲ下スヘシ
- 一 丘陵ト稱スルモノハ山ノ小ナルモノナリ但シ埃ノ如キ人爲ヲ以テ築造セシモノハ塚ト稱スヘシ
- 一 林ト稱スルモノハ樹木叢生スル所ナリ地勢高低ヲ論セス但シ
- 一 風除沙除等ノ林ト各其目ヲ掲クルモノトス
- 一 藪ト稱スルモノハ篋竹ノ叢生スル所ナリ
- 一 原野ト稱スルモノハ耕地林藪等ニ非ラサル廣平ノ土地ナリ其廣平ノ土地ハ萱葎柴草生ノ否ニ關セス凡テ原野ト稱スヘシ
- 一 寄州ト稱スルモノハ泥沙ノ水涯ニ堆積シテ漸ク陸地ヲ爲スモノナリ
- 一 沙漠ト稱スルモノハ沙漠沙茫草木ヲ生セサル土地ナリ
- 一 島嶼ト稱スルモノハ土地ノ海中ニ孤立シ國郡ノ名ヲ得サルモノナリ即チ對馬隱岐ノ如キ皆別ニ島名ヲ掲ケス
- 一 川ト稱スルモノハ水ノ兩地間ノ低所ニ一綫水路ヲ通シ流レテ海ニ入ルモノナリ
- 一 海ト稱スルモノハ水ノ尤モ大ニシテ陸地外ニアル

- 一 魚獵場ト稱スルモノハ人民官ノ承認ヲ得テ漁獵スル所ナリ
- 一 湖ト稱スルモノハ天造ニテ水ノ陸地内ノ一處ニ溜溜シ廣クシテ深キナリ
- 一 沼ト稱スルモノハ其容形性質湖ニ近キモノナリ其名稱ヲ異ニスル所以ハ唯淺クシテ泥アルヲ以テナリ
- 一 池ト稱スルモノハ耕地ノ涵養魚鳥水草等ノ利ヲ得シカ爲メ地ヲ穿チ堤塘ヲ築キ水ヲ蓄フルモノナリ是亦沼ト形質相近キヲ以テ舊唱判然ナラス今天造ヲ沼トシ人爲ヲ池トス
- 一 澤ト稱スルモノハ水草交錯ノ地
- 一 溝渠ト稱スルモノハ地ヲ掘リテ水ヲ流決シ又ハ水道ト稱スルモノハ飲料ノ用ニ供スル水路又ハ人家稠密ノ宅地間ニ溜澱セル穢水或ハ鑛氣等ヲ含蓄シテ植物ニ害アル噴出水ヲ流決スル惡水路等ヲ總稱スルモノトス
- 一 堤塘ト稱スルモノハ土石等ヲ以テ築キ水ノ流溢ヲ壅遏スルモノナリ
- 一 道路ト稱スルモノハ人馬ノ往還スル所ナリ
- 一 畦畔ト稱スルモノハ田畑ノ界ニアルモノナリ
- 一 崖岸ト稱スルモノハ崖ハ山ノガケ岸ハ水際ノ高キ所道路川溝田畑宅地等ノ際限ニアルモノナリ
- 一 貸田畑ト稱スルモノハ官有ノ地所ヲ人民ニ貸シ渡シタルナリ

- 一 溫泉地ト稱スルモノハ溫泉湧出ノ地ナリ其冷泉ニテ人民ニ藥效アルカ如キハ冷藥泉地ト稱スルモノナリ
- 一 河岸地物揚場ト稱スルモノハ河川ノ沿岸ニシテ物貨陸揚舟積ノ用ニ供スル地ナリ
- 一 波止場ト稱スルモノハ海邊ニシテ人工之ヲ爲シ船舶ノ碇泊ニ便ナラシメ傍ヲ物貨陸揚舟積ノ用ニ供スルモノナリ
- 一 鐵道線路敷地ト稱スルモノハ氣車ノ通スル線路ナリ
- 一 電信架線柱敷地ト稱スルモノハ電信ヲ通スル架線柱ノ敷地ナリ
- 一 燈明臺敷地ト稱スルモノハ航海緊要ノ場所ヘ點燈ノ結構ヲ爲タル敷地ナリ
- 一 舊跡ト稱スルモノハ古戰場古城跡廢藩以來廢城ヲ此内ニ加フ有名古人ノ住址又ハ緣故アル等ノ土地ヲ云但シ各地方其人民ノ口碑ニ傳稱スルモノハ曖昧トシテ古史ノ徵スルニ由ナク妄誕浮說ニ係ルカ如キハ一切之レヲ省クモノトス
- 一 名所ト稱スルモノハ風光佳致天造ノ美アツテ世間ニ傳稱セル土地ナリ
- 一 公園地ト稱スルモノハ各府縣ニ於テ伺定メタル衆庶借樂園ナリ
- 一 堂宇敷地ト稱スルモノハ寺院境内ト稱スルニ足ラサル狹小ノ地ニ屋宇ヲ構ヘ佛像等ヲ設置セルモノヲ云フナリ



- 一 墳墓地ト稱スルモノハ自今埋葬ヲ要セサル古墓或ハ無縁ノ地藏塚等ヲ云ナリ
- 一 埋葬地ト稱スルモノハ屍ヲ埋葬スル土地ナリ
- 一 燒屍場ト稱スルモノハ人ノ尸屍ヲ火殯スル場所ナリ
- 一 行刑地ト稱スルモノハ犯罪人ヲ處刑スル場所ナリ
- 一 其囚獄舖ノ區域内ニ屬スルカ如キハ必シモ別ニ行刑場ノ名ヲ記サ、ルモノトス
- 一 寺院境内地ト稱スルモノハ法用必用ノ爲メ一區畫ヲナシタル地ナリ
- 一 學校敷地ト稱スルモノハ學術傳習ノ場所ナリ其開成師範外國語學大中等ノ別アルハ其種類ニ從フヘシ
- 一 說教所敷地ト稱スルハ神道及宗教ヲ説クノ場所ナリ但シ社寺境内ノ外故ラニ設立セルニ非サレハ此名稱ヲ加ヘサルモノトス
- 一 病院敷地ト稱スルモノハ人身ノ疾病ヲ醫療スル所ナリ
- 一 貧院敷地ト稱スルモノハ饑寒孤獨其他貧民等ヲシテ生育ニ就カシムル所ナリ
- 一 鄉藏敷地ト稱スルモノハ凶歲豫防等ノ爲メ人民共合シテ蓄穀スル場所ヲ稱スルナリ 學校以下ノ五條ハ皆一區畫ヲ爲スモノトス
- 一 畑ト稱スルハ水田ナリ
- 一 畑ト稱スルハ陸田ナリ
- 一 宅地ト稱スルハ人民各自居住ノ屋宇アル一區ノ地

- ナリ其屋宇アルモ政府ノ所用社寺ノ境内其他都テ公衆ノ用ニ供スルカ如キハ各其所用ニ就テ名稱ヲ附スル者トス
- 一 鹽田ト稱スルモノハ溝渠ヲ鑿開シテ潮ヲ注入シ小溝ヲ穿テテ之ヲ分派シ以テ製鹽スル場所ナリ
- 一 鹽濱ト稱スルモノハ溝渠ノ設ケナク直ニ海濱ノ砂場へ潮ヲ注キ以テ製鹽スル場所ナリ
- 一 試作地ト稱スルハ新ニ田畑ヲ墾ラキ之ニ種藝不熟ヲ試ルノ地ナリ
- 一 荒地ト稱スルハ天變ニ因テ崩壞流潰シ原地ノ形容ヲ失シ其用ヲ爲サ、ル地ノ總稱ナリ
- 一 牧場ト稱スルハ牛馬羊豚ノ類ヲ畜養スル地ナリ

⑤ 市街地ノ指稱(明治三十二年六月二十九日庶甲第一七七八號內務大臣官房庶務課長通牒)

明治十三年當省乙第八號達但書ノ市街及明治二十四年當省訓令第十四號第一條八項ノ市街トハ自今最近ノ當省告示各市町村人口表ニ掲クル市街及驛ヲ指稱スルコトニ決定相成候爲御心得此段及通牒候也

● 法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタルトキ處罰制(明治三十三年三月十三日法律第五十二號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅(及葉煙草專賣)ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス但シ其ノ罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三條 法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ完納セザルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第二章 營業稅

● 營業稅法(明治二十九年三月二十八日法律第三十三號)

改正(三十二年第三二號) 三十五年第一八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル營業稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業稅法

第一條 左ニ掲クル營業ヲ爲ス者ニハ營業稅ヲ課ス

- 第一輯 國稅 第一章 地租 第二章 營業稅

- 物品販賣業
- 銀行業
- 保險業
- 金錢貸付業
- 物品貸付業
- 製造業
- 運送業
- 倉庫業
- 運河業
- 棧橋業
- 船渠業
- 船舶碇繋場業
- 貨物陸揚場業
- 鐵道業
- 土木請負業
- 勞力請負業
- 印刷業
- 寫真業
- 席貸業
- 旅人宿業
- 料理店業
- 公ナル周旋業
- 代辦業
- 仲立業
- 仲買業



第二條 營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸賣又ハ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト見做ス

- 一 一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ仕拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者
- 二 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲ス者
- 三 牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鶏卵、牛乳等其ノ產物ヲ販賣スル者
- 四 魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者
- 五 動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者

一箇年ノ賣上金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條ノ營業者其ノ製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條 營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモ亦同シ

資本金額五百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條 營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及器物、器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物、洗濯ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス

資本金額五百圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條ノ一 運賃又ハ手數料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ雇人二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條ノ二 私設鐵道法ニ依リ運送ノ業ヲ營ム者ヲ鐵道業トシテ營業稅ヲ課ス

第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス

第七條 印刷業、寫眞業ニシテ職工雇人ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者及土木請負業、勞力請負業ニシテ請負金額一箇年千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第八條 貸料又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物賃賃價格五十圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第九條 營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ雇人三人以上ヲ使用スル者トス但シ木錢宿ニハ營業稅ヲ課セス

業稅ヲ課セス

第十條ノ一 營業稅ヲ課スヘキ料理店業ハ雇人三人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スル者トス

第十條ノ二 營業稅ヲ課スヘキ公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業ハ一箇年報償金額百圓以上ノ者トス

第十一條 左ニ掲ケル營業ニハ營業稅ヲ課セス

- 一 政府ヨリ發行スル印紙、切手類ノ賣捌
- 二 自己ノ採掘又ハ採取シタル礦物ノ販賣
- 三 度量衡ノ製作、修覆、販賣

第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

鐵道 業 收入金額 千分ノ十

土木請負業、勞力請負 請負金額 一人毎ニ金一圓

業 從業者 千分ノ二

席貸業、料理店業 建物賃賃價格 一人毎ニ金一圓

業 從業者 千分ノ六十

旅人宿業 建物賃賃價格 一人毎ニ金一圓

業 從業者 千分ノ四十

公ナル周旋業、代辦業、報償金額 一人毎ニ金一圓

仲立業、仲買業 從業者 一人毎ニ金一圓

第十三條 此ノ稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ届出ヘシ但シ新ニ開業シタル者ハ其ノ際本條ノ届出ヲ爲スヘシ

第十四條 營業者廢業シタルトキハ其ノ際政府ニ届出ヘシ

第十五條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一ニ就テ計算ス其ノ稅率異ナルトキハ重キニ從フ

第十六條 物品販賣業、土木請負業、勞力請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業ハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス

前項ニ掲ケサル營業ニシテ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ其ノ資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課ス其ノ資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス但シ内國ト外國トニ涉リ店舗其ノ他ノ營業場數

物品販賣業	課稅標準	稅率
賣上金額	小賣ハ萬分ノ十五	千分ノ四十
建物賃賃價格	從業者	一人毎ニ金一圓
從業者	千分ノ二	
銀行業、保險業、金錢貸付業、物品貸付業	資本金額	千分ノ四十
建物賃賃價格	從業者	一人毎ニ金一圓
從業者	千分ノ二	
倉庫業	建物賃賃價格	千分ノ二十
從業者	一人毎ニ金一圓	
從業者	千分ノ一	
製菓業、印刷業、寫眞業	建物賃賃價格	千分ノ四十
從業者	一人毎ニ金一圓	
從業者	千分ノ一	
運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶定額場業、貨物降揚場業	資本金額	千分ノ二
從業者	一人毎ニ金三十錢	
從業者	千分ノ二	
從業者	一人毎ニ金一圓	



箇所アルトキ資本ヲ區分セサルモノハ内國ニ於ケル各店舖其ノ他ノ營業場ニ於テ使用スル資本金額ヲ見積リ内國ノ分ニ限リ各別ニ之ヲ課ス

第十六條 第十三條ニ依リ届出ヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ新ニ開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

一 賣上金、收入金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年中ニ開業シタルモノハ豫算ニ依ル

二 資本金及建物賃賃價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル

三 從業者ハ前年ニ於ケル最多數ノトキニ依ル  
資本金額ノ算定方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 納稅義務ヲ有スル營業者第十三條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ届出タル課稅標準ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課稅標準ヲ算定スルコトヲ得

第十八條 建物賃賃價格ハ店舖其ノ他營業用ノ土地、家屋ノ借料ニ相當スルモノトス但シ住居ニ供スルモノ其ノ他直接ニ營業ニ使用セサルモノアルモ同一區域内ニアリテ自己ノ所用ニ係ルモノハ營業用トシテ計算ス

借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用ウルニ拘ラス土地、建物ノ賃借上借主ヨリ貸主ニ支拂フモノヲ以テ建物賃賃價格ヲ計算ス  
借家ニ非サル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料ニ照準シ

業稅ヲ徵收ス但シ他ニ其ノ營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條ニ依ル

第二十五條 第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第二十一條ノ期間内ニアルトキハ其ノ期間ハ後ノ營業者ニ及フモノトス

第二十六條 政府ニ於テ課稅標準ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第二十七條 前條ノ算定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第二十八條ノ一 前條ノ請求アリタルトキハ營業稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス

第二十八條ノ二 各(稅務管理局)所轄内ニ營業稅審査委員會ヲ置ク

審査委員ノ定數及審査委員會ノ會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

審査委員ハ商業會議所代表者及納稅義務ヲ有スル營業者中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス

第二十八條ノ三 收稅官吏ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十八條ノ四 營業者第二十八條ノ一ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ政府ニ其ノ由

第一輯 國稅 第二章 營業稅

テ建物賃賃價格ヲ定ム近傍ニ照準スヘキ借家ナキトキハ其ノ土地、家屋ノ時價ヲ各別ニ算定シ土地ハ其ノ百分ノ五、家屋ハ百分ノ十ヲ以テ其ノ賃賃價格ヲ定ム無償ノ借家ニ付テモ亦同シ

第十九條 名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ從事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ノ家族ヲ除ク

第二十條 營業稅ハ年額ヲ二分シ其ノ年五月、十一月ヲ以テ納期トス但シ廢業スルトキ未納ノ税金ハ即納トス

第二十一條 新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其ノ營業稅ヲ徵收ス

左ニ掲クル營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其ノ營業稅ヲ徵收セズ但シ此ノ稅法施行以前ヨリ營業スル者ニシテ其ノ開業ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準據スルコトヲ得

銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繫場業、鐵道業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十二條 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十四條 營業者廢業スルトキハ其ノ廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス

ヲ申立ツルコトヲ得

一 課稅ノ標準タル資本金額、賣上金額、收入金額、請負金額、報償金額又ハ建物賃賃價格半額以上ヲ減シタルトキ

二 課稅ノ標準タル從業者ノ人員届出人員二分ノ一以下ニ減シタルトキ

第三十條 政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業稅ヲ減額スルノ必要アリト認ムルトキハ翌年一月迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十一條 政府ハ第二十九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課稅標準ヲ查覈シ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ税金ヲ減額スルコトヲ得

一 課稅ノ標準タル賣上金額、收入金額、請負金額、報償金額ハ前年中ノ總額資本金額、建物賃賃價格ハ前年中ノ平均額ノ半額ニ達セサルトキ

二 課稅ノ標準タル從業者ノ人員其ノ最多數ノトキニ於テ届出人員ノ二分ノ一ニ達セサルトキ

仍其ノ割合ヲ以テ税金ヲ徵收ス

第三十二條 第一條ニ掲クル營業者ハ貨物ノ仕入、賣上、受入、貸付、廻送、從業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

第三十三條 收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿、物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ尋問スルコトヲ得



第三十四條 第十三條ノ届出ヲ爲サス若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ意リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ一圓以上一圓九五錢以下ノ科料ニ處ス其ノ脱税シタル者ハ脱税金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十六條 (府縣ハ此ノ税法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本稅十分ノ二以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得此ノ附加稅ノ外府縣稅又ハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス)

附則

第三十七條 此ノ税法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第三十八條 明治二十九年年度ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ハ第三十六條ノ規定ニ依ルノ限ニ在ラス

明治二十九年年度ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ノ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此ノ税法ノ營業稅ハ明治三十年ニ限り年額四分ノ三ヲ徵收ス

第三十九條 第二十二條五月ノ納期ハ明治三十年ニ限り七月トス

第四十條 第十五條第二項但書ノ規定ハ此ノ法律施行地ト此ノ法律ヲ施行セサル地トニ涉リ店舖其ノ他ノ營業場數箇所アル場合ニ之ヲ準用ス

非常特別稅法(抜抄)(明治三十七年四月一日)

改正(三八年第一號、三九年第七號、第一九號、四二年第三七號)

第二條 左ニ掲クル租稅ニ付テハ關係法規ノ定メタル稅額ノ外左ノ割合ノ稅額ヲ増徴ス

二 營業稅 營業稅法ニ依ル稅額十五割

營業稅法施行規則(明治二十九年七月三十一日)

改正(三五年第二〇號、三六年第九九號)

朕營業稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業稅法施行規則

第一條 營業稅法第一條ノ營業ヲ爲ス者ニシテ同法第二條以下ノ規程ニ依リ營業稅ヲ課セラルヘキ者ハ其ノ店舖其ノ他ノ營業場所在地ノ稅務署ニ同法第十三條ノ届出ヲ爲スヘシ但シ同法第十五條第二項末段ノ場合ニ於テハ其ノ主タル店舖其ノ他ノ營業場所在地ノ稅務署ニ届出ヘシ

左ニ掲クル者ハ同法第十三條第一項但書ニ依リ開業後十日以內ニ稅務署ニ新規開業ノ届出ヲ爲スヘシ

一 新ニ同法第一條ノ營業ヲ開始スル者

二 同法第十五條第二項末段ノ場合ニ該當セサル者ニシテ新ニ店舖其ノ他ノ營業場ヲ増設スル者

三 新ニ營業ノ種類ヲ増加スル者

第二條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舖其ノ他ノ營業場ノ同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類

並ニ各店舖其ノ他ノ營業場毎ニ區分シテ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ但シ課稅標準トナルヘキモノヲ數種ノ營業ニ共通シテ使用スル場合ニ於テハ稅率ノ最重キ營業、稅率等シキトキハ其ノ重ナル營業ノ一方ニ其ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第三條 同一人ニシテ數箇ノ店舖其ノ他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舖其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第四條 營業稅法第十五條第二項末段ニ依リ數箇ノ店舖其ノ他ノ營業場ヲ合セテ營業稅ヲ課セラルヘキ場合ニ於テハ總テノ店舖其ノ他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第五條 株式會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス但シ保險會社ニ於ケル保險責任準備金ハ之ヲ除算ス

第六條 一 合資會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第六條 二 株式合資會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル出資金額、拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以

テ之ヲ算定ス

第七條 一 合名會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル總社員ノ出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第七條 二 株式會社、合資會社、株式合資會社又ハ合名會社ニ於テ營業稅法第一條ニ掲クル營業ト同條ニ掲ケサル營業トヲ兼營スルトキハ前四條ニ依リ算定シタル資本金額中ヨリ營業稅法第一條ニ掲ケサル營業ニ對スル見積資本金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額トス

第八條 一箇人ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ他ヨリ借入レタルト否トヲ問ハス前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地、建物、築造物、船舶、諸器具、器械ノ價格ヲ計算ス其ノ價格ハ時價相當ノ見積金額ニ依ル

第九條 課稅標準額ヲ豫算スルトキハ届出當時ノ實況ニ依リ尙ホ過去將來ノ形情ヲ斟酌シテ之ヲ算出スヘシ

第十條 (削除)

第十一條 營業稅法第十八條第二項ノ場合ニ於テ借地料借家料ヲ支拂フニ金錢ニアラサル物品ヲ以テスル



トキハ其ノ物品ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ  
 營業者借地ニ於テ自己ノ建物ヲ所有スルトキハ其ノ  
 土地ハ營業稅法第十八條第二項ニ依リ建物ハ同條第  
 三項ニ依リ其ノ賃賃價格ヲ計算スヘシ  
 營業者借家中ニ於テ其ノ建物ノ一部分ヲ所有スルト  
 キハ自己所有ノ部分ハ營業稅法第十八條第三項ニ依  
 リ其ノ建物賃賃價格ヲ計算スヘシ建物中雜作全部ヲ  
 借主ニ於テ所有スルトキ亦同シ  
 第十二條 從業者ハ營業主ヲ始メ店舖其ノ他ノ營業場  
 ニ居住スルト否ト使役ノ常時タルト臨時タルトヲ問  
 ハス總テ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ計算スヘシ但シ  
 營業主ト同一戸籍内ニ在ル者ハ計算セス  
 第十三條 相續讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハス營業  
 ヲ繼續スル者ハ其ノ繼續後十日以内ニ稅務署ニ其ノ  
 旨ヲ届出ヘシ  
 第十四條 營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ店舖其ノ他ノ  
 營業場ヲ移轉シタルトキハ十日以内ニ稅務署ニ其ノ  
 旨ヲ届出ヘシ其ノ移轉他ノ管轄地方ニ涉ルトキハ移  
 轉先ノ稅務署ニ届出ヘシ  
 第十五條 營業稅法第十五條第二項末段ニ該當スル場  
 合ニシテ店舖其ノ他ノ營業場ヲ増設シタル者ハ其ノ  
 増設後十日以内ニ其ノ旨ヲ稅務署ニ届出ヘシ  
 第十六條 納稅義務アル營業者第一條ノ届出ヲ爲ササ  
 ルトキ又ハ其ノ届出タル課稅標準ヲ不相當ト認ムル  
 トキハ稅務署長ハ營業稅法第十六條ノ算定法ニ依リ

其ノ課稅標準ヲ算定スヘシ  
 第十七條 稅務署長前條ニ依リ課稅標準ヲ算定シタル  
 トキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ  
 前項ノ通知ヲ受ケタル營業者ハ稅務署ニ申出テ其ノ  
 算定ノ説明ヲ求ムルコトヲ得  
 第十八條 前條ノ算定ニ對シ異議アル者審査ヲ求メン  
 トスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ營業稅法第二十七條  
 ノ期限内ニ稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ申出  
 ヘシ  
 第十九條 稅務監督局長課稅標準審査ノ請求ヲ受ケタ  
 ルトキハ營業稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ課稅標準ヲ  
 決定シ之ヲ營業者ニ通知スヘシ  
 前項ノ場合ニ於テハ第十七條第二項ヲ準用ス  
 第二十條 審査委員ノ定數ハ五人トス  
 第二十一條 審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ  
 之ヲ開ク  
 第二十二條 審査委員會ハ毎年最初ノ開會ノ時ニ於テ  
 審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ  
 第二十三條 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席  
 シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ  
 第二十四條 審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出  
 席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス  
 議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルト  
 キハ會長ノ決スル所ニ依ル  
 第二十五條 審査委員ハ自己又ハ自己カ代表スル會社

ノ課稅標準ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス  
 第二十六條 營業者ヨリ營業稅法第二十九條ノ申出ア  
 リタルトキハ稅務署ハ課稅標準額算定ノ方法ニ依リ  
 其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一號又  
 ハ同條第二號ニ該當スルトキハ其ノ課稅標準額ノ全  
 部ヲ改算スヘシ  
 第二十七條 營業者店舖其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又  
 ハ旅行シ店舖其ノ他ノ營業場ニ不在ナルトキハ營業  
 稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定  
 メ稅務署ニ届出ヘシ  
 第二十八條 營業稅法第三十三條ニ依リ收稅官吏營業  
 ニ關スル帳簿物件ヲ檢查スルトキハ稅務署ノ檢查章  
 ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ  
 附 則  
 第二十九條 營業稅法第二十一條第二項但書ニ該當ス  
 ル營業者ハ同法第十三條ノ届書ニ要スル事項ヲ詳記  
 シタル書類ヲ添ヘ明治三十年一月三十一日迄ニ地方  
 長官ニ其ノ開業年月日ヲ届出ヘシ  
 ●營業稅法ノ疑義(明治二十九年十一月)  
 ●福岡縣照會 二十九年七月十一日  
 第一項 海面埋立及港灣修築浚深ノ目的ヲ以テ設ケタ  
 ル株式會社ニ於テ出入船舶ヨリ入港錢ヲ收受スル如  
 キハ船舶碇繫場業範圍外ト心得可然ヤ  
 第二項 魚市場又ハ諸問屋ナルモノハ他人ノ商品買

ノ媒介ヲ爲シ口錢ヲ引去リ其殘金ヲ賣主ヘ渡スモノ  
 ナレハ第一條中仲立業ニ包含スルヤ  
 第三項 第二條第二項第二ニ一定ノ製造場ヲ設ケス云  
 ヲトアリ假令一定ノ製造場ヲ設ケサルモ主トシテ卸  
 賣ヲ爲スモノハ物品販賣業ニアラスシテ第四條ノ製  
 造業ニ包含スヘキヤ  
 第四項 第二條第二項ハ營業場及店舖ヲ有セサルモ包  
 含スルヤ  
 第五項 第二條末項ニ別ニ營業場ヲ設ケ云々トアルハ  
 例之ハ酒造家ノ製造場外ノ支店ノ如キ(距離ノ遠近)店  
 舖ヲ設ケ専ラ自家製造酒類ノ卸賣ヲ爲スモノ、如キ  
 ハ包含セサルヤ又製造場ニテハ販賣ヲ爲サズ別ニ店  
 舖ヲ設ケテ之ヲ販賣スルモノハ製造稅ノミヲ課スル  
 ヤ又卸賣營業トアリ小賣ヲ兼テモモ妨ケナキヤ  
 第六項 漁船問屋(運送業)ニシテ一時乘客ヲ宿泊セシ  
 ムルハ主トシテ運送ノ都合ニ依ルモノナレハ旅人宿  
 業ニハ包含セサルヤ  
 第七項 漁船問屋陸連問屋等ニ於テ數軒共同シテ豫メ  
 約束シ荷着ノ時ニ限リ雇入使用スル仲仕ナル一團ア  
 リ是等ハ下男同様ノ觀アルモ常雇ニアラサルモノニ  
 付雇人ノ内ニ數フヘカラサルモノナルヤ  
 第八項 第六條ノ倉庫業ニハ貨物預リ證ヲ發スルモ其  
 保管ノ責ニ任セサル契約アルモノモ包含スルヤ  
 第九項 第七條中雇人トアルハ製造業者等ノ如キ職工  
 勞役者多キカ故ニ懇炊ノ爲メ雇入タル下男下女モ包



含スルヤ

第十項 第一條中土木請負ニハ鐵道線路ノ測量又ハ鐵區ノ測量ヲ請負タルモノモ包含スルヤ果シテ然ラハ一時出張所ヲ設ケ測量スル場合ハ本營業場ニテ課税スヘキヤ

第十一項 第十二條ノ資本金ノ内ニハ銀行或ハ會社ノ積立金債券發行高モ包含スルヤ又店舗及營業場ト同區域内ニアル居宅ノ建物敷地見積代金及營業用ノ諸器械船車等ノ價格トモ合算スヘキヤ

第十二項 第十二條ノ從業者ノ内ニ職工勞役者トアルハ假令ハ酒造家ノ如キ杜氏澆酌ノ類ハ從業者トシ米搗樽取等單ニ勞役ノミニ服スルモノハ勞役者ト見做スヘキヤ

第十三項 物品販賣業中勘工場内ニ於テ營業スルモノニシテ別ニ本店ヲ有スルモノハ出賣先ト見做シ其賣上及貸賃價格ハ本店ニ合算課税スヘキヤ將々第十五條第一項ニヨリ各別課税スヘキヤ

第十四項 第十八條ニ無償ノ借家ニ付テハ算定方規定シアルモ賃借者ヨリ修繕料ヲ負擔シ幾分賃借料ヲ低減シ賃借シタルカ如キハ其低減シタル價格モ賃賃價格ニ見積リ算入スヘキヤ

第十五項 第二十一條ノ營業開始トハ會社等ニアリテハ其本業ヲ始メサルモ資本金募集シタルモノハ開始ト認ムヘキヤ又新規業ノ者ハ翌年ヨリ本稅ヲ課セラハ、ニ付其開業ノ當年ハ從テ地方稅ヲ課シ得ヘカラ

第七項 從業者トシテハ計算セサルモノトス

第八項 稅法第六條ニ該當スルモノハ契約ノ如何ニ關セス倉庫業トス

第九項 營業ニ從事セサル者ハ包含セス

第十項 單ニ測量ノ請負ヲ爲スハ土木請負業ニアラス

第十一項 施行規則ニ依リ了解アリタシ

第十二項 杜氏ハ從業者トシ其他ハ勞役者トシテ計算ス

第十三項 末段見解ノ通り

第十四項 賃賃價格ニ算入スルノ限ニアラス

第十五項 前段資本金ヲ募集スルト否トヲ問ハス實際營業ヲ開始シタルトキヲ以テ開始トス後段見解ノ通り

第十六項 前段必スシモ區域ヲ改定スルノ要ヲ認メス

第十七項 前段吳服店ノ跡ニ吳服店ヲ開クモノヲ以テ同一ノ業トス後段製造業ハ稅法第二十一條第一項ニ據ルヘキモノトス

●福井縣照會 同年八月十二日

一 (略)

二 營業稅法ニ依リ課稅標準トシテ賦課セラル、從業者中ノ職工ハ常ニ或ル傭主ノ業務ニ使役セラル、傭人ノミヲ指シタルモノナル哉或ハ又縣稅ニ於ケル單獨ノ職工ニシテ別ニ鑑札ヲ受ケ廣ク其業務ニ從事スルモノ、如キハ包含セサルヤ

サルヤ本條第二項モ同様ナルヤ

第十六項 本稅ハ一月乃至十二月ヲ以テ區域ト定メタルニヨリ縣營業稅ニ於テモ之ニ伴ヒ區域ヲ定ムルヲ便宜トス然ルニ會計年度ヨリ之ヲ見レハ兩年度ニ跨リ縣會議決上穩當ナラサルカ如シ此邊如何

第十七項 第二十二條ニ同一ノ營業トアルハ假令ハ吳服販賣店ノ後ニ時計販賣店ヲ開ク如キハ共ニ物品販賣業ノ内ナルニ付本條ニ該當スルモノトナルヘシ如何

又前ニ販賣業ヲ營ミ後ニ販賣業ト製造業ヲ兼業スル時ハ如何ニ取扱フヤ

主稅局回答 同年十月一日

第一項 海面ヲ埋立又ハ港灣ヲ浚渫シ以テ船舶碇繫場ヲ設ケ出入船舶ヨリ報酬ヲ受クルモノナラハ範圍内トス

第二項 商品賣買ノ媒介ヲ爲シ自己ノ名ヲ用ヒ他人ノ計算ヲ以テスルモノナラハ仲買業トス

第三項 製造業ニハ包含セサルモ店舗其他ノ營業場ヲ備ヘテ卸賣ヲ爲スモノナラハ物品販賣業ニ該當ス

第四項 店舗其他營業場ヲ有セサルモノハ包含セス

第五項 前段物品販賣業ニアラス後段貴見ノ通り但小賣ニ屬スル分ハ物品販賣業トス

第六項 稅法第九條ニ該當スルモノナラハ旅人宿業トス

三 酒、醬油ハ各其稅則ニ依リ造石稅ヲ賦課セラル、ノ外尙營業稅法中ノ製造業稅ヲ賦課シ其小賣營業ヲ爲スモノハ物品販賣業稅ヲ併セテ賦課スヘキヤ

四 蕎麥、餛飩或ハ餅團子ノ類ヲ店頭ニ陳列販賣スルノ外客室ヲ設ケ之ヲ喫食セシムルモノ、如キハ營業稅法中ノ料理店業ニ屬スルカ或ハ又物品販賣業ニ屬スルヤ

五 休茶屋、人力車立場ノ類即チ旅客ヲ宿泊セシメス單ニ旅客又ハ通行人ノ休息ニ供スルノミヲ營業トスルモノハ營業稅法ノ範圍外ニ屬スルカ若シ然ラストセハ何レノ業目ニ屬スルヤ

六 市場ハ營業稅法中ノ仲立業ニ屬スルモノナルヤ

七 採藻ハ漁業ト同シク營業稅法ノ範圍外ナルヤ

八 仲仕 汽車船倉庫ニ對シ貨物ノ積上ケハ營業稅法中運送業ノ範圍内ニ屬スルヤ

主稅縣治兩局回答 同年十月八日

第一項 (略)

第二項 單獨ノ職工ト雖モ或ル傭主ノ業務ニ使役セラ

ル、モノハ常時ト臨時トヲ問ハス課稅標準トシテ計算シ然ルヘシ

第三項 製造稅ヲ賦課スヘキハ勿論ナルモ營業稅法第

二條第四項ニ依リ製造場區域内ニ於テ其製造品ノ小

賣ヲ爲スモノハ物品販賣業ニ無之

第四項 客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スルヲ主ト爲スモ

ノハ料理店業トシ店頭ニ陳列販賣スルヲ主ト爲スモ



ノハ物品販賣業トシ可然

第五項 營業稅法ノ範圍外ニ屬スル義ト思考ス

第六項 商取引ノ媒介ヲ爲スモノハ貴見ノ通

第七項 貴見ノ通

第八項 二十九年九月二十二日付内一丙第一三五號回  
答ノ如キモノナレハ運送業ノ範圍外トス  
(參照)内一丙第一三五號回答要領ニ依リハ一個人  
ニシテ汽車及船舶倉庫ニ對シ荷物ノ積上ケ積卸シ及  
藏入藏出ヲ爲シ以テ其賃銀ヲ得ルモノ云々

●福岡縣照會 同年九月十一日  
第一項 船車ノ賃貸ヲ營業トスル即チ物品賃付業若ク  
ハ運送業者ノ所持スル船車ニ對シ縣稅ノ船車稅ヲ賦  
課シ差支ナキヤ

第二項 公ナル周旋業代辦業仲立業仲買業ニシテ報償  
金百圓未滿ノ者ニハ縣稅ヲ賦課シ差支ナキヤ

第三項 屠畜業即チ生牛馬ヲ買入レ之ヲ屠殺シ牛馬肉  
商等へ販賣スルモノハ物品販賣業ナルヤ

主稅局回答 同年十月五日  
第一項 營業稅雜種稅規則第二條ニ該當スルモノハ貴  
見ノ通其他ハ同規則第九條ノ手續ヲ經ルニ於テハ課  
稅スルコトヲ得

第二項 (營業稅ヲ賦課セラルヘキ者ナルニ依リ縣稅  
ヲ課スルコトヲ得ス)

第三項 營業稅法第二條ノ條件ヲ具ヘタルモノハ貴見  
ノ通

●兵庫縣照會 同年九月十五日

第一 法第四條第三項ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上  
ヲ使用スルモ資本金額五百圓未滿ナルカ又ハ資本金  
額五百圓以上ナルモ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ  
使用セサル者ニハ並ニ課稅セサルヤ

資本金額五百圓未滿ナルモ職工勞役者ヲ通シテ二人  
以上ヲ使用スルカ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使  
用セサルモ資本金額五百圓以上ナルモノハ並ニ課稅  
スヘキヤ

第二 建物賃賃價格ナルモノハ法第十八條ニ依レハ土  
地家屋ノ借料ニ相當スルモノニシテ其家屋トハ疊建  
具ヲモ包含スルモノニアラサルヘシ果シテ然ラハ借  
家ニハ疊建具附ノ場合ニ於テハ他ノ比較ニ依リ疊建  
具ニ相當スル賃賃價格ヲ控除セシメ可然ヤ

大藏省指令 同年九月二十三日  
第一 資本金額五百圓以上ト職工勞役者ヲ通シテ二人  
以上ノ兩條件ヲ備ヘサルモノハ課稅セス

第二 疊建具ハ建物中ニ包含セラルヘキモノニシテ其  
賃賃ハ賃賃價格ヨリ控除スヘキ限ニアラス

●青森縣照會 同年九月十八日  
一 稅法第十八條ノ場合ニ於テ營業者ハ店舖其他住所  
ノ自己使用外ノ部分即チ二階等ヲ他人ニ賃賃スルモ  
ノアルトキハ該建物全部ノ賃賃價格中ヨリ右部分ニ  
對スル賃賃價格ヲ控除スヘキヤ若シ控除スヘキモノ  
ニアラストセハ借主ニ在テモ營業稅ヲ納ムル者ナル

ラル

●巖手縣照會 同年九月二十五日

營業稅法第十一條ニ依リ自己ノ探掘又ハ採取シタル礦  
物ノ販賣ニ營業稅ヲ課セサルハ其探掘採取シタル天然  
ノ礦物ヲ其儘販賣スル者ニ限リ且(礦業條例第七十三  
條ヲ對照スルニ製産物ニ對シ課稅スルカ故)同條例第  
一條ノ附屬事業中ニ製煉モ包含スルカ如シト雖モ第七  
十三條ハ單ニ課稅ノ標準ヲ定メラレタルニ止マリ之カ  
爲メ直ニ第一條ノ附屬事業ニ包含スルモノトハ難認ニ  
付)一定ノ製煉場ヲ設ケテ製煉スルモノハ製造業トシ  
テ課稅スヘキヤ

大藏省指令 同年十月三日

自己ノ探掘又ハ採取シタル礦物ヲ製煉スルモノハ課稅ノ限  
ニアラス

●營業稅法中疑義ニ關スル解釋(明治三十一年三月)

主稅局發議 三十一年三月十四日決判

從來府縣稅(又ハ地方稅)ヲ課セラレタル業體ニシテ其  
業務膨脹シ本年一月一日以後同三十一日前ニ於テ營業  
稅法第二條乃至第十條ノ要件ヲ具備スルニ至リタルト  
キハ其具備シタル年ヨリ營業稅ヲ課スヘキモノナルヤ  
右ニ關シ兩說アリ

第一說 納稅義務ハ第二條乃至(第十條)ノ要件ヲ具備  
スルニ依リテ成立ス而シテ其條件ハ前年中ニ具備ス  
ルヲ要スルハ第十六條ノ規定ニ依リ營業稅ハ前年ノ

ニ於テハ重複ノ計算ニ入ルノ嫌アリ如何取扱可然ヤ

二 同借家ノ場合ニ於テ借主ハ建物ノ修繕若クハ諸賦  
課ヲ引受クル契約ニテ借料ノ極メテ低廉ナルモノア  
ルモ借料トシテ實際ニ支拂フモノ、ミヲ以テ賃賃價  
格ヲ算出スヘキヤ又前以テ若干ノ金圓ヲ一時ニ仕拂  
ヒ月々ノ借料ヲ廉價ニ契約スルカ如キモノハ右前金  
ヲ借家契約ノ年數ニ割當テ、借料ヲ算出スヘキヤ

三 第二十五條ノ場合ニ於テ前ノ營業者二ケ年ニシテ  
廢業シ爾後五ケ月ヲ隔テ、後ノ營業者二ケ年ニシテ  
依リテ開業シタルモノ七ケ月ヲ經過スルトキニハ三  
ケ年ノ期間成就ニ至ルモノナルヤ

四 稅法實施ノ初年ニ於テ第三十一條ノ適用ヲ要スル  
モノアリトセハ前々年中ノ賣上金高等ハ如何調査ス  
ヘキモノナルヤ

五 酒精及賣藥營業稅ハ各別ノ稅法ニ依リ課稅セラル  
、モ尚ホ營業稅ニ依リテ課稅スヘキヤ

主稅局回答 同年九月三十日

第一項 前段貴見ノ通

第二項 前段貴見ノ通後段一時ニ支拂フヘキ金額ニシ  
テ借料ノ性質ヲ有スルモノハ貴見ノ通

第三項 貴見ノ通

第四項 稅金ノ減額ハ課稅ノ翌年ニ之ヲ爲スヘキモノ  
ニシテ稅法施行ノ初年ニ於テ第三十一條ヲ適用スル  
場合ハ無之ト存セラル

第五項 營業稅法ニ依リ課稅スヘキモノニ無之ト存セ  
ラル



狀況又ハ豫算ニ依リ課税スルノ精神ナルヲ以テ知ルヲ得ヘシ故ニ第十三條ノ届出ハ前年ノ狀況ヲ届出ルモノニシテ其年ノ狀況ヲ届出ルハ新規開業ノ場合ノ外法律ノ豫想セサル處ナリ是ヲ以テ本年ノ納税義務者ハ前年中ニ第二條乃至(第十條)ノ條件ヲ完備セル者ニ限ル從テ本問ノ如キ場合ニ於テハ翌年ニ至リ始メテ課税スヘキモノトス

第二說 納税資格ト課税標準トハ判然區別スルヲ要ス苟モ第二條乃至(第十條)ノ納税資格ヲ具備セムカ同時ニ納税義務ノ成立スルハ論ヲ俟タルカ故ニ其資格具備者ハ第十三條ノ規定ニ從ヒ第十六條ノ課税標準計算法ニ依リ課税標準額ヲ政府ニ届出ヘキモノトス而シテ第十六條ノ規定ハ單ニ課税標準ノ算出法ヲ指示シタルニ止リ納税者ノ納税資格トハ全ク其關係ヲ異ニスルカ故ニ同條ノ算出法ニ依リ届出ヘキ課税標準額ハ必スシモ納税資格ヲ定メタル第二條乃至(第十條)ノ金額若クハ人員ニ達スルヲ要スルモノニアラス故ニ政府ハ其届出タル課税標準ニ依リ資格具備ノ當年ヨリ課税スヘキハ當然ナリトス以上兩說中第一說至當ト認ムルヲ以テ本疑義ニ對シテハ翌年ヨリ課税スヘキモノト決定ス

●直輸出業課税區分(明治三十一年五月)

東京稅務管理局照會 三十一年四月十四日  
直輸出業課税區分ノ件曩ノ回答ニ依レハ内地ニ於テハ

丙丁ノ製茶ヲ配合シテ焙爐ニ容レ適度ノ火力ヲ用ヒ俗ニ黃粉ト稱スル藥品 多ク支那ヨリ輸入スル 若干ヲ加ヘ或ハ器械ヲ以テ攪拌シ或ハ數百ノ力役者ヲ雇フテ揉摩シ之ヲ冷釜ニ移シテ幾回トナク揉摩シタル後混入セル塵芥類ヲ除去シ始メテ精製品トナシ之ヲ茶箱ニ詰メ着色茶又ハ無色茶ト名付 命名ハ着色ノ多少ニヨルモノニシテ 販賣スルモノニシテ此ノ如ク製造行爲ヲ加ヘ精製以テ射利ヲ圖ルモノニ付苟モ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者二人以上ヲ使役シ資本五百圓以上ナル限リハ稅法第四條ノ製造業者ニシテ普通ニ物品ヲ轉賣シテ收利スルモノトハ同一視スヘカラス縱令火入ヲ爲スハ海外輸送中腐敗ノ豫防ナリト言フト雖モ價格ノ高直ナル茶ト低廉ナル茶トヲ配合シ藥品ヲ混入シテ着色シ之ヲ幾回トナク器械又ハ人力ヲ以テ揉摩シ日本綠茶トシテ外國人ノ嗜好ニ適シ得ヘキ物品ニ精製スルハ製造行爲ニアラスト言フヲ得ス而シテ是等營業行爲ハ内國人ニモ類例アリテ既ニ營業稅法第四條ノ製造業ニ該當スルモノトシテ課税シ來レリ云々

●株式會社專務取締役ハ從業者トシテ取扱方

(明治三十五年四月) 同第五十五號  
會計検査院照會 三十五年三月十四日  
株式會社ニシテ專務取締役ヲ定メタル場合ニ於テハ其

單ニ之カ物品ヲ買集メ輸出スル事務ヲ取扱フニ止マルモノハ内地ニ其店舗ヲ設クルモノト否トヲ問ハス販賣業ト認メ難ク稅法ノ範圍外ナリト然ルニ先キニ「營業稅法」ハ内國ニ於ケル營業即チ營業ノ店舗ヲ内國ニ有スルモノニ限リ課税シ得ルモノトス但外國ニ支店ヲ置キ物品ヲ輸出シテ販賣ヲ爲ス者ニ在テハ其手ヲ離ルハ以テ販賣トシテ計算スルモノトコトニ省議決定ノ趣然ラハ内地ニ於テ店舗ヲ設クルモノ單ニ在外支店ヘ直輸出ヲ爲ス業務ヲ營ムノミナルトキハ稅法ノ範圍外トナリ若シ内地ノ店舗ニ於テ右業務ヲ營ムノ外物品ノ販賣ヲ爲ストキハ直輸出ノ分ヲモ併セテ其手ヲ離ルハ以テ販賣トシ計算スルモノノ如ク解セラルトモ右内地ノ店舗ヨリ在外支店ヘ直輸出ヲ爲スハ性質上物品ノ販賣ニアラスシテ物品ノ轉送ニ外ナラサルヲ以テ内地ノ店舗ニ於テ物品ノ販賣ヲ爲スト否トヲ問ハス直輸出ノ分ハ總テ計算外トシ課税ノ範圍外トシテ取扱可然ヤ主稅局回報 同年五月九日 貴見ノ通課税ノ範圍外トシテ取扱ハレ可然

●營業稅法第四條適用方(明治三十二年十一月)

橫濱稅務管理局照會 三十二年十月三十日  
橫濱居住ノ外國人中製茶輸出店ト稱スルモノハ皆同市内茶問屋ヨリ日本内地ノ製茶ヲ買入レ外國向ノ茶ヲ再製スルノ目的ヲ以テ製造場ト認メ得ヘキ建物ヲ設ケ焙爐及冷釜百數十箇ヲ備ヘ價格ノ上中下ニ相當スル甲乙

專務取締役ノミヲ從業者トナスヘキヤ又ハ取締役全員ヲ從業者トナスヘキヤ  
大藏省回答 同年四月十四日  
株式會社ノ取締役ハ專務ト否トヲ問ハス從業者ト認メ可然ト存セラレ

●營業稅課税標準計算方(明治三十五年八月)

會計検査院照會 三十五年六月十二日  
營業稅法第十四條但書ニ依ル課税標準共通使用ノモノハ當該年ノ狀態ニ依リ算定スヘク將タ該營業者ニシテ數種ノ營業ヲ兼スルモノ其内ノ幾部ヲ廢業若クハ讓渡ノ結果共通使用ヲ停止シタルトキハ更ニ其課税額ヲ更改スルヲ相當ト認ム  
大藏省回報 同年七月四日  
別紙甲號ノ如ク省議決定其旨主稅局長ヨリ各稅務管理局長ヘ通牒セシモ這般其一部ヲ別紙乙號ノ通變更決定ノ旨通牒セリ

- 一 營業稅ヲ計算スルトキ其課税標準ハ前年ニ於ケル金額人員ニ依ルヘキハ勿論尙ホ稅法第十四條但書ノ課税標準共通ノ有無モ亦前年ニ於ケル狀態ニ依リテ定ムヘキモノトス故ニ當該年ニ於テ縱ヒ課税標準ヲ共通シテ使用スト雖モ前年ニ於テ共通セサルモノハ各別ニ其課税標準ヲ計算スルモノトス
- 二 稅法第十四條但書ニ依リ課税標準ヲ或ル營業ノ



一方ニ計算シタルモノ後日其數種營業ノ内幾分ヲ他人ニ讓渡シ税法第二十三條ニ依リ取扱フヘキ必要ヲ生シタルトキ其繼續者及被繼續者ノ營業稅ハ當初定メタルトコロニ依リテ分別スルニ止メ既定ノ稅額ハ之ヲ變更セズ數種營業ノ内幾分ヲ廢業シタルモノ、存續セル營業ニ對シテモ亦既定ノ稅額ヲ變更セサルモノトス

乙號

一 營業稅法第十四條ハ總テ現在ノ狀態ニ付テ規定シタルモノナルヲ以テ課稅標準共通ノ有無モ亦其ノ年ニ於ケル狀態ニ依リテ定ムヘキモノトス而シテ營業稅法第十三條ハ納稅義務ヲ有スル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ届出ヲ爲スヘキコトヲ定ムルヲ以テ課稅標準ヲ共通スルヤ否ヤモ亦其ノ年ニ於テ届出ヲ爲スヘキ時即チ一月中ニ於ケル狀態ニ依ルモノトス

二 前項ノ場合ニ於テ其ノ年一月中使用スル課稅標準ノ數額前年ノ數額ト異ナルトキハ其ノ年一月ノ狀態ニ應シ前年ノ數額ヲ按分シ共通使用ノ部分ヲ定ムルモノトス按分上人員ノ端數ヲ生シタルトキハ端數ノ多キ方ニ於テ一人トシテ計算スルモノトス

●營業稅課稅區分(明治三十六年五月)

札幌稅務監督局照會 三十六年三月五日

定ヲ加ヘサルヲ見ルモ鐵道營業ニ對スル課稅方法ハ從來ノ通り各營業場ノ課稅標準ヲ合算課稅スルモノト解釋スルヲ相當トス

●船渠業ノ實體(明治三十七年五月)

主稅局發議 三十七年三月二十九日(決議)  
船渠ナル設備ハ左ノ目的ノ爲メニ使用セラル

- 一 專ラ船舶ノ修繕ノ爲メニスルモノ
  - 二 專ラ水陸運輸ノ接續ヲ全フスル爲メニスルモノ
- 一ノモノハ船底ヲ修繕スル裝置ニシテ通例乾船渠、水船渠ニ區別セラル此設備ヲ使用スル船舶ノ修繕ハ稅法ノ製造業ナリト謂フヲ得何トナレハ稅法ハ器物器械ノ修理ヲ爲スコトヲ製造業ト見做ストノ規定アリト雖モ船舶ノ修繕ハ此規定ニ包含スルモノナリト解釋スルヲ得サレハナリ故ニ此業務ハ船渠業ナリト謂ハサルヲ得

二ノモノハ陸地ヲ掘鑿シ若ハコレト同様ニ人工ヲ以テ外海ヨリ被覆シタル水面ノ設備ニシテ物貨ノ積卸ヲ便ニスルモノナリ而シテ其設備ノ使用者ヨリ報酬ヲ受クルヲ目的トスルモノナルトキハ其業務ノ船渠業ナルコト疑ヲ容レズ  
或ハ船渠業ナルモノハ此第二ノモノニ限ルトノ說ヲ爲スモノアレトモ我邦ノ港灣ニ於テハ未タ水陸運輸ノ接續ヲ目的トシタル船渠ノ設備アルコトナシ故ニ稅法ハ其點ノミニ着眼シテ課稅スヘキコトヲ規定セラレタリ

一 製造業者ニシテ甲稅務署所轄内ニ製造場ヲ設ケ穀物精白搗碎ノ業ヲ營ムモノ乙稅務署所轄内ニ支店ヲ置キ資本共通シテ製品ノ卸小賣ヲ爲スモノアリ右支店ニ於ケル小賣ニ對シテハ物品販賣業兼業トシテ乙稅務署ニ於テハ單ニ小賣金額ニノミ課稅スヘキヤ又ハ支店ニ於ケル營業ハ單獨ノ物品販賣業ト見做シ賣上金額貸賃價格從業者トモ課稅スヘキヤ  
二 鐵道業ニ課稅スヘキ收入金額ハ鐵道業ニ依リ直接收入ニ係ルモノ、ミニ限ルヤ又ハ該業ヲ營ム爲メ間接ニ收入セルモノヲモ包含スルヤ  
主稅局回報 同年四月四日  
第一、二項共前段貴見ノ通御取扱相成可然存ス

●鐵道營業ニ對スル營業稅課稅方法

(明治三十六年八月) (同第七十一號)

主稅局發議 三十六年七月十五日(決議)  
從來鐵道營業ニ對スル營業稅ハ資本金額及從業者ヲ以テ其課稅標準ト定メラレタルヲ以テ稅法第十五條第二項ノ規定ニ依リ各營業場ヲ通シテ其課稅標準ヲ合算課稅シ來レルモ明治三十五年法律第十八號ヲ以テ其課稅標準ハ資本金額ヨリ收入金ト改正セラレタルノ結果之ヲ各營業場毎ニ計算シ得ルヲ以テ之ニ對スル營業稅モ各營業場毎ニ課スルヲ得ヘキカ如シト雖モ其從業者ノ如キハ之ヲ各營業場毎ニ分割計算スルコト實際甚タ困難ナルノミナラス稅法ハ此ノ點ニ付テハ別ニ何等ノ規

ト謂フヲ得ス  
要スルニ船渠ナル設備ヲ爲シテ船舶ノ修繕又ハ水陸運輸ノ接續ヲ全フスルコトヲ目的トシタル業務ハ稅法ノ船渠業ナリトス

●合併銀行ニ關シ營業稅法適用方

(明治三十八年一月) (同第八十八號)

主稅局發議 三十七年一月二十二日(省議決定)  
甲乙兩銀行中乙銀行カ甲銀行ニ合併シタル場合ニ於テハ甲銀行ハ營業稅法第二十三條ニ依リ乙銀行ノ營業ヲ繼續シタルモノト見ルヘキヤ否  
此點ニ付テ別紙(別紙)ノ通先例ハ乙銀行ハ消滅シ甲銀行ハ業務擴張ト見ルコトニ決定致居候得共右ハ左記ノ理由ニヨリ先決定ヲ變更シ乙銀行ノ業務ヲ繼續シタルモノトシ取扱フ様決定相成可然哉

理由

- 一 商法第八十二條ハ合併後存續スル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼スヘキコトヲ定ム權利義務ヲ承繼スルハ即チ其營業ヲ繼續シタルナリ
- 二 個人營業者カ同一營業ヲ爲ス他人ノ營業ヲ引受ケタルトキハ其營業ヲ繼續シタルナリ會社カ他ノ會社ト合併シテ其營業ヲ引受ケタルトキモ亦然リト謂ハサルヘカラス
- 三 或ハ此場合ニ於テ營業繼續ト見ルトキハ合併ニヨ



リ消滅スル會社カ營業稅法第二十一條第二項ノ特典ヲ有スルトキハ合併後存續スル會社ノ營業稅ヲ計算スルコト能ハスト論スル者アルヘシ然レトモ此場合ニ於テハ會社中其他會社ヲ合併シタル部分ニ付營業稅法第二十一條第二項ノ特典ヲ與ヘテ營業稅ヲ計算スルコトヲ得ヘシ

四 若シ反對ノ解釋ヲ取ルトキハ會社ノ組織變更ノ場合ニ於テハ新組織ノ會社ハ常ニ營業稅法第二十一條第二項ノ特典ヲ受クルニ至リ謂レナク課稅ヲ免ル、ニ至ルヘシ

●製造業ニ關スル疑義(明治三十九年五月)

橫濱稅務監督局照會 三十九年三月二十六日

- 穀物ノ精白搗碎ヲ營業トスル者ハ營業稅法第四條第二項ニ依リ製造業ト看做シ課稅スヘキノ處其營業ノ方法タル
- 一 他ヨリ玄米ヲ買入レ自己ノ製造場蒸氣機又ハ石油水車等一定ノ設備アリ以下同シニ於テ精白シ一般需用者ニ販賣スルモノヲ通シテ二人以上ヲ使用ス以下同シ
  - 二 他ヨリ玄米ヲ買入レ自己ノ製造場ニ於テ精白シタル上主トシテ卸賣ヲ爲シ傍ラ小賣ヲ爲ス兼テ賃搗ヲ爲スモノ
  - 三 他ヨリ玄米又ハ麥ヲ買入レ自己ノ製造場ニ於テ白米又ハ製粉トシテ販賣シ兼テ賃搗ヲ爲スモノ
  - ノ三種ニ分ル而シテ右ニ對スル營業名適用上左ノ三說アリ

物品販賣業ニシテ製造業ヲ兼タルモノトスルヲ得サルモ若シ他人ノ爲メニ精白搗碎シ其勞銀ヲ得ルトキハ製造業ヲ兼タルモノト爲サ、ルヲ得ス而シテ買入米麥ヲ製粉トシテ販賣スルハ物品ノ製造ニ外ナラサレハ製造場ノ區域内ニ行ハル、販賣ハ第二條末項ニ依リ物品販賣業トセスシテ製造業ノ範圍内トスヘキナリ依テ本件ハ營業ノ性質目的ヨリ觀察シ第一ハ物品販賣業第二ハ前段行爲ハ物品販賣業後段ハ製造業兼業トシ第三ハ製粉賃搗ニ付テハ製造業トシ他ハ物品販賣業トス

主稅局回報 同年四月五日

右ハ甲說ノ通但稅法第二條末項ノ區別ニ依ルハ勿論ノ義ニ候

●營業稅法第十五條第二項適用方(明治四十年三月)

主稅局發議 四十年二月十五日(決議)

同一業體ノ營業ニ就テハ資本ノ區分ハ稅法上之ヲ認ムル所ニアラサルヤ否ヤ

本間ニ就テハ別紙(別紙略ス)ノ通り先例ハ同一業體ノ營業ニ就テハ資本ノ區分ハ稅法上認ムル所ニアラサル事ニ決定相成候得共右ハ左記ノ理由ニ依リ先決定ヲ變更シ同一業體ノ營業ニ就テモ資本ノ區分ハ稅法上之ヲ認ムサルモノニアラサル事ニ決定相成可然哉

理由

一 營業稅法第十五條第二項ニ曰ク「店舗其他ノ營業

甲 穀物ノ精白搗碎ハ營業稅法第四條第二項ニ依リ製造業ト看做サルヘキ行爲ニシテ其目的ノ賃銀ヲ得ルニ在ルト賃銀ニ甘ンセス販賣シテ收利ヲ計ルコトハ間フヘキニアラサルナリ而シテ同第二條末項ニ第四條ノ營業者其製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ云々物品販賣業トセストアリ第四條ノ營業者トアルカ故ニ精白搗碎シ販賣ヲ爲スモ製造場ノ區域内ニ於ケル行爲ハ製造業ノ範圍内ト認メサルヲ得ス隨テ本件ハ總テ製造業トス

乙 營業稅法第四條第二項ハ其條文ヨリ業體ヲ觀察スルニ瓦斯電氣ノ供給器物器械ノ修理穀物ノ精白搗碎又ハ染物洗濯等ハ製造業ト看做スト云ヒ其行爲ハ普通製造業ト稱セサルモ課稅上準製造業ト爲シタル一ノ特別規定ニシテ孰レモ賃銀ヲ目的トシテノ業務ナリ而シテ同第二條末項ニ第四條ノ營業者云々トアルハ第四條一項ノ營業者ニ就キ規定セラレタルモノト解スルヲ至當トス故ニ本件ハ其營業ノ性質目的ヨリ觀察シ第一ハ物品販賣業トシ第二第三賃搗ニ對シテハ製造業トシ他ハ物品販賣業トス

丙 營業稅法第四條第二項ハ主トシテ勞銀ヲ目的トナスノ營業ナルコト乙說ノ如クト雖モ稅法ハ精白搗碎ヲ製造業ト看做ス以上ハ第二條末項ニ所謂第四條ノ營業者トアルハ同條第一項該當ノモノ、ミト解スルハ正鵠ヲ得タリト云フヘカラス故ニ例ヘハ穀物商カ玄米ヲ買入レ自己ノ製造場ニ於テ精白シテ販賣スルハ

場數箇所アルトキハ其資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課スルトアリテ同一業體ノ場合ヲ除外セシ又同法施行規則第一條ハ資本ヲ區分シタルモノニ付稅法第十三條ニ依リ各別ニ業名及課稅標準ノ届出又ハ新規開業ノ届出ヲ爲サシムルヨリ之ヲ見ルモ假令同一業體ノ營業ナリト雖モ其間ニ資本ノ區分アルトキハ各別ニ課稅スルノ法意ナルコトヲ知ルニ足ルヘシ而シテ營業稅法第二十一條ニ所謂「新ニ營業ヲ開始ス」トハ同法施行規則第一條ノ新規開業ノ場合ヲ指スモノナルヲ以テ資本ヲ區分シテ新ニ店舗其他ノ營業場ヲ増設シタルモノニシテ稅法第二十一條第二項ニ掲クル營業ヲ營ムモノハ同條ノ特典ヲ受クヘキモノトス

二 從前ニ於テハ營業稅ヲ以テ申告稅ナリト稱シ營業者ノ申告ニ重キヲ置キ專ラ其申告ニ依リテ課稅セシヲ以テ若シ同一體ノ營業ニ付資本ノ區分ヲ認ムルトキハ實際資本ヲ區分セサルモノト雖モ尙稅法第二十一條ノ特典ヲ受クル弊害ヲ生スルノ虞アリシナリ故ニ先決定ハ其弊害ヲ防クノ趣旨ヨリ出タルモノナリト雖モ今日ニ於テハ營業者ノ申告ハ單ニ參考ニ過キサルヲ以テ申告ノ有無ニ拘ラス政府ハ相當ト認ムル所ニ依リ課稅標準ヲ決定スルコトヲ得ルノ取扱トナリシヲ以テ強テ先決定ヲ維持スルノ必要ヲ認メス

要之營業稅法上資本ノ區分ハ同一業體ノ營業ニ付テモ亦之ヲ認メサルヘカラス而シテ其ノ區分ノ有無ハ事實



ニ依リ判定スヘキモノニシテ營業者ハ單ニ資本ヲ區分  
スト稱スルモ直ニ之ヲ認ムルコトヲ得サルハ勿論ナリ  
トス

●買入鑛物ノ製鍊行為ニ對スル營業稅ノ  
課否(明治四十年七月  
同 第四百十八號)

主稅局發議 四十年四月十一日(省議決定)

一 鑛業法第八十二條ハ「鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付  
營業稅ヲ課セス」ト規定セリ而シテ鑛物ノ製鍊ハ亦  
製造行為ナルヲ以テ鑛業權者ニアラサル者ハ他ヨリ  
鑛物ヲ買入レ之ヲ製鍊スルヲ業トスルトキハ製造業  
トシテ營業稅ヲ課セラルヘキ明ナリトス

二 然ラハ鑛業權者カ他ヨリ買入レタル鑛物ヲ製鍊ス  
ルトキハ如何此ノ問題ニ付テハ左ノ諸說アリ

甲說 鑛業法第一條ニ所謂「附屬スル事業」トハ鑛業  
權者カ自己ノ採鑛ヲ選鑛又ハ製鍊スル等ノコトヲ  
指シタルモノニシテ他人ノ採鑛ヲ製鍊スルカ如キ  
ハ之ヲ包含スルモノニアラス隨テ鑛業權者カ他人  
ノ採鑛ヲ買入レ之ヲ製鍊スルハ鑛業權者ノ鑛業ト  
稱スルコトヲ得且ツ鑛產稅ハ自己ノ採掘ニ係ル  
鑛產物ニ對シテ課稅セラルヘキモノナルヲ以テ本  
問ノ製鍊行為ニ對シテハ營業稅ヲ課スルヲ至當ト  
スト

乙說 鑛業法第一條ニ所謂「附屬スル事業」トハ廣義  
ニ解スヘキモノニシテ鑛業者カ自己ノ採鑛ヲ製鍊

以上三說ノ内丙說ニ決定セリ

●營業稅法第十五條第二項但書適用方

(明治四十二年二月  
同 第四百二十四號)

東京稅務監督局照會 四十一年二月六日

營業稅法第十五條第二項但書ニ内國ト外國トニ涉リ店舗  
其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ資本ヲ區分セサルモノ  
ハ内國ニ於ケル各店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ使用スル  
資本金額ヲ見積リ内國ノ分ニ限リ各別ニ之ヲ課スト規  
定有之一見大會社等ニシテ資本ヲ區分セス内國ニ數百  
箇所ノ支店ヲ有シ一括シテ本店ニ於テ從來納稅シ來リ  
シモノ偶々一箇所ノ支店ヲ韓國ニ設ケタル爲メ内國ニ  
於テ共通セル資本ハ數百箇所ニ於テ見積リ各營業場毎  
ニ課稅スヘキカ如ク解セラレ候然レトモ稅法ノ主旨ヲ  
案スルニ營業稅ハ國稅ナレハ内國何レノ地ニ於テ徵收  
スルモノ歳入ニ損害ヲ及ホスコトナキヲ以テ可成徵  
稅上ノ繁ヲ避ケ徵收ヲ確實ニスル爲メ店舗其ノ他ノ營  
業場數箇所アリテ資本共通ノ場合ニ於テハ合算シテ課  
稅スルコトヲ法第十五條第二項本文ニ於テ明ラカニシタ  
リ然ルニ其ノ營業者ニシテ外國ニ於テ營業場ヲ設ケ營  
業スル場合ハ其ノ外國營業場ノ分モ内國ニ於テ課稅ヲ  
受クルコト、ナリ穩當ナラサルヲ以テ斯ク外國營業場  
ノ分ハ資本共通ノ場合ト雖モ之ヲ見積リ控除シテ課稅  
セサルヲ要スルモノアリ夫レカ爲メ三十二年法第三十  
二號ヲ以テ但書ヲ追加セラタル義ト了解致サレ如何ニ

スルハ勿論他人ノ採鑛ヲ買入レ之ヲ製鍊スル行為  
モ亦之ヲ包含ス故ニ本問ノ製鍊行為ハ鑛業權者ノ  
鑛業ト謂ハサルヘカラス隨テ鑛產稅ヲ課セラルヘ  
キモ鑛業法第八十二條ニ依リ營業稅ヲ課セラルヘ  
キモノニアラス是レ鑛業法改定當時ニ於ケル立法  
ノ精神ナリト

丙說 鑛業法第一條ニ所謂「附屬スル事業」トハ重ニ  
鑛業權者カ自己ノ採鑛ヲ選鑛又ハ製鍊スルカ如キ  
コトヲ指シタルモノナルヘシト雖モ鑛業權者カ自  
己ノ採鑛ニ關スル鑛業ノ爲メ他人ノ採鑛ヲ製鍊  
スル場合モ又之レアルヘク換言スレハ他人ノ採鑛  
ヲ製鍊スルハ自己ノ採鑛ニ關スル鑛業ノ爲メニシテ  
附隨ノ行為ナル場合ニ於テハ其製鍊ハ亦本條ノ附  
屬事業ト謂ハサルヘカラス果シテ然リトセハ其ノ  
製鍊ハ鑛業權者ノ鑛業ナルヲ以テ鑛產稅ヲ課セラ  
ルヘキモ營業稅ヲ課スヘキモノニアラス 甲說ハ鑛業  
權者カ自己ノ採鑛ヲ選鑛又ハ製鍊スル等ノコトヲ  
指シタルモノニシテ他人ノ採鑛ヲ製鍊スルカ如キ  
ハ之ヲ包含スルモノニアラス隨テ鑛業權者カ他人  
ノ採鑛ヲ買入レ之ヲ製鍊スルハ鑛業權者ノ鑛業ト  
稱スルコトヲ得且ツ鑛產稅ハ自己ノ採掘ニ係ル  
鑛產物ニ對シテ課稅セラルヘキモノナルヲ以テ本  
問ノ製鍊行為ニ對シテハ營業稅ヲ課スルヲ至當ト  
スト

思考スルモ外國ニ於テ營業場ヲ設ケタル爲メ内國ニ於  
テ資本共通ノモノヲ理由ナク各營業場ニ分割課稅セシ  
ムルノ主旨ナリトハ了解致シ難ク候然ルニ如何セン  
「各別ニ」ノ文字アル爲メ立法ノ主旨ハ充分ニ發揮セラ  
レス各別ニトハ各内國ニ於ケル營業場毎ニトハ解釋ス  
ルモノ往々相生シ從來其解釋ニ依リタルモノモ多少ア  
リタリ若シ此ノ如ク當然解釋スルモノトスルトキハ其  
見積方法ニ於テモ全國數百箇所ノ營業場所在ノ稅務署  
毎ニ於テ見積リ方ヲ異ニシ同一ノ標準ト雖モ各別ニ見  
積ルト云フ理由ヨリ重複ニ計算スル場合モ生シ又見積  
リ中ニ加フヘキモノモ或者ニ於テハ之ヲ見積リニ加ヘ  
サルモノモアルヘク又營業者ハ營業稅ヲ數百箇所ニ於  
テ納付ノ手數ヲナサ、ルヘカラサル等官廳ニ於テ取扱  
ノ不便ナルノミナラス營業者ニ於テモ迷惑ヲ感スル場  
合少ナシトセス以上ノ理由ニ依リ「各別ニ」ノ文字ハ深  
キ意義ヲ有スル文字ト解セス外國ノ分ト内國ノ分ト各  
別ニ見積リ内國ノ分丈ケ二項本文末段ニヨリテ課稅ス  
ル主旨ト解釋スルハ尤モ稅法ノ主旨ニ副ヘル適當ノ解  
釋ト存候得共事頗ル關係廣キヲ以テ省議承知致度云々  
主稅局回答 同年二月十七日

●營業稅課稅標準減額方(明治四十一年三月)  
名古屋稅務監督局照會 四十一年三月二日



營業稅法第二十九條ノ申出ニ對シ同第三十一條ノ調査ヲ經テ當該營業ニ相當スル課稅標準ノ内其一又ハ二(製造業ニシテ從業者ノ内職工勞役者ノ皆無ナルモノトモ)ノ皆無ナリシ事實ヲ確認セラレタルモノニ付テハ課稅ノ要件ヲ具備セサルモノトシテ不課稅ノ取扱ヲ爲シ可然哉

主稅局回報 同年三月九日

本月三日付直第六〇五號御照會ニ係ル營業稅ニ關スル件ハ稅法第三十一條第二項ニ依リ課稅スヘキ義ト存候

●合名合資會社ノ營業稅資本金額

(明治四十二年六月 同 第百二十八號)

東京稅務監督局照會 四十一年五月三十日

合名合資會社ノ營業稅課稅標準タル資本金額ニ計算スル出資金額ハ施行規則第六條ノ一第七條ノ一ニハ同第五條ノ株式金額ノ如ク拂込ノ文字ナキヲ以テ見レハ拂込濟出資金額ナリト認ムルヲ得サルノミナラス寧ロ商法第五十條第五號ノ出資ノ價格ニ相當スルモノト解スルヲ穩當ト存候而シテ同條ノ出資價格ハ拂込ノ有無多少ヲ問サルモノト解セラレ候ヘハ合名合資會社ノ資本金額計算ニハ出資拂込ノ濟否多少ヲ問ハス其金額ニ依リテ極メテ適當ノ解釋ト思考スルヲ以テ此方法ニ依リ資本ノ計算ヲ爲スヘキ旨各稅務署ニ訓示シ置キ候然ルニ五月二十六日往第六八五五號ニテ出資未濟ノ金額ハ資本ニ計算セサルヲ相當ト認ム云々御照會有之候處若シ

第二章 所得稅

●所得稅法(明治三十二年二月十三日 法律第十七號)

(改正(三十四年第一七號) 三八年第三四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル所得稅法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法

第一條 帝國内地ノ法律施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一箇年以上居所ヲ有スル者ハ此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ニ該當セサル者此ノ法律施行地ニ資産又ハ營業ヲ有シ若ハ公債社債ノ利子支拂ヲ受クルトキハ其ノ所得ニ付テノ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第三條 所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス  
第一種 法人ノ所得 千分ノ二十五  
第二種 此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子 千分ノ二十  
第三種 前各種ニ屬セサル所得

- 十萬圓以上 千分ノ五十五
- 五萬圓以上 千分ノ五十
- 三萬圓以上 千分ノ四十五
- 二萬圓以上 千分ノ四十
- 一萬五千圓以上 千分ノ三十五
- 一萬圓以上 千分ノ三十

貴見ノ如ク解釋スルトキハ當局管内日本橋區ニ於ケル合資會社有馬組汽船部ノ如キ出資金額拾萬圓ニシテ少シノ拂込ヲモ爲サス最初ヨリ全部借入金ヲ以テ營業ヲ爲スモノハ課稅標準タル資本金額ハ積立金繰越金ナキ場合ハ零トナレハ只從業者ノミニ對シ課稅スル義ニ候哉而シテ此解釋ヲ以テ相當ナリト相決シ候ヘハ商法ニ於テ合名合資會社ハ株式會社ノ如キ四分ノ一以上拂込ヲ爲サレハ設立スルヲ得サル規定ノナキヲ奇貨トシ合資會社有馬組汽船部ノ如ク拂込金ヲ爲サスシテ借入金ニテ營業スルモノ續出シ終ニ合名合資會社ノ資本金額ニ課稅スルコト能ハサルニ至リ營業稅ニ於テモ多大ノ影響ヲ蒙ルヘク相考候果シテ右ノ如キ結果如何ニ關セス出資未濟ノ金額ハ資本ニ計算セサルコトニ省議御決定ニ相成居候哉

主稅局回報 同年六月二十五日

合名合資會社ノ營業稅課稅標準タル出資金額ハ商法第五十一條第一項第五號ノ「財產ヲ目的トスル出資ノ價格」ヲ指シタルモノト存候省議ヲ經テ此段及回答候也

●鑛業法(拔抄)(明治三十八年三月八日 法律第四十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鑛業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第六章 鑛業稅

第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅ヲ課セス

- 五千圓以上 千分ノ二十五
- 三千圓以上 千分ノ二十
- 二千圓以上 千分ノ十七
- 千圓以上 千分ノ十五
- 五百圓以上 千分ノ十二
- 三百圓以上 千分ノ十

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ第三種ニ限リ之ヲ合算シ其ノ總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム戶主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ

第四條 所得ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ算定ス

- 一 第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金、前年度繰越金及保險責任準備金ヲ控除シタルモノニ依リ但シ第二條ニ該當スル法人ノ所得ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ヨリ生スル各事業年度ノ益金ヨリ同年度損金ヲ控除シタルモノニ依リ
- 二 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依リ
- 三 第三種ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル豫算年額ニ依リ但シ此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケサル公債社債ノ利子、營業ニ非サル貸金預金ノ利子、此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ヨリ受ケタル配當金、俸給、給料、手当金、歳費、年金、恩給金ハ其ノ收入額ノ豫算年額ニ依リ山林ノ所得ハ前年ノ所得ニ依リ田畑ノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ



前項第一號ノ場合ニ於テ益金中此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子アルトキハ之ヲ控除ス

第五條 左ニ掲クル所得ニハ所得稅ヲ課セス

一 軍人從軍中ニ係ル俸給

二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給

三 旅費學資金及法定扶養料

四 營利ヲ目的トセサル法人ノ所得

五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六 外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル資産

營業又ハ職業ニ依ル所得但シ此ノ法律施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ヲ除ク

七 此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金及酬賦賞與金

第六條 第三種ノ所得ハ三百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス但シ第三條第二項ノ場合ニ於テ其ノ合算額三百圓ニ滿ツルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 納稅義務アル法人ハ各事業年度毎ニ損益計算書ヲ政府ニ提出スヘシ但シ第二條ニ該當スル法人ハ各事業年度毎ニ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シ其ノ計算書ヲ政府ニ提出スヘシ

第八條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第九條 第一種ノ所得金額ハ損益計算書ヲ調査シ政府

キヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテノ者  
三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一箇年ヲ經サル者  
四 剝奪公權者及停止公權者  
五 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキ依リ其ノ裁判確定スルニ至ルマテノ者  
六 第四十六條ニ依リ處罰セラレタル後五箇年ヲ經サル者  
第十五條 調査委員選舉人ノ定數ハ其ノ選舉區域内ニ於ケル前年所得稅ヲ納メタル者ニシテ第八條ノ申告ヲ爲シタル者十人ニ付一人トス但シ申告者二百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十人未滿ナルトキハ一人トス  
第十六條 調査委員選舉人ノ選舉事務ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ執行シ調査委員ノ選舉事務ハ稅務署長之ヲ執行ス  
第十七條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ  
市區町村長又ハ戶長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ  
第十八條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ  
選舉人ハ自ラ投票所ニ至リ投票スヘシ但シ郵便ヲ以テ投票ヲ送付スルコトヲ得  
郵便ヲ以テ投票ヲ送付スル場合ニ於テ投票時間ノ終了スルマテニ到達セザリシ投票ハ無効トス  
第十九條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選ト

之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス

調査委員會閉會後第三種ノ所得アル者新ニ納稅義務アルコトヲ申出タルトキハ政府其ノ所得金額ヲ決定ス

第十條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ製シテ之ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

第十一條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道ノ區ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ調査委員會ヲ置クコトヲ得

第十二條 調査委員ハ調査委員選舉人ノ選舉スル減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得

第十三條 調査委員ノ選舉區域ハ調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ調査委員選舉人ノ選舉區域ハ市町村及北海道ノ區ノ區域ニ依ル但シ東京市、京都市及大阪市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

第十四條 選舉區域内ニ住居シ前年所得稅ヲ納メタル者ニシテ第八條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ調査委員選舉人ニ選舉セラルルコトヲ得但シ左ニ記載スルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 無能力者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルト

ス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム  
第二十條 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ  
第二十一條 稅務署長ハ選舉期日ヲ定メ少クトモ七日前ニ公示シ調査委員及之ト同數ノ補闕員ノ選舉ヲ行ハシムヘシ  
前項ノ選舉ニ關シテハ第十八條及第十九條ノ規定ヲ準用ス  
第二十二條 調査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ  
第二十三條 調査委員及補闕員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス  
第二十四條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ其ノ半數ヲ改選ス但シ第一回ノ改選期ニ於テハ抽籤ヲ以テ其ノ退任者ヲ定ム  
補闕員ハ二年毎ニ之ヲ改選ス  
調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ數最モ多キ補闕員ヨリ順次之ヲ補充ス但シ投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム  
補闕員ヨリ調査委員トナリタル者ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス  
調査委員ノ定數ヲ増加シタル場合ニ於テ新ニ選舉セラルヘキ調査委員ノ任期ヲ定ムル必要アルトキハ稅務署長之ヲ定メ選舉期日ト共ニ之ヲ公示ス

キヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテノ者  
三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一箇年ヲ經サル者  
四 剝奪公權者及停止公權者  
五 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキ依リ其ノ裁判確定スルニ至ルマテノ者  
六 第四十六條ニ依リ處罰セラレタル後五箇年ヲ經サル者  
第十五條 調査委員選舉人ノ定數ハ其ノ選舉區域内ニ於ケル前年所得稅ヲ納メタル者ニシテ第八條ノ申告ヲ爲シタル者十人ニ付一人トス但シ申告者二百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十人未滿ナルトキハ一人トス  
第十六條 調査委員選舉人ノ選舉事務ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ執行シ調査委員ノ選舉事務ハ稅務署長之ヲ執行ス  
第十七條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ  
市區町村長又ハ戶長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ  
第十八條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ  
選舉人ハ自ラ投票所ニ至リ投票スヘシ但シ郵便ヲ以テ投票ヲ送付スルコトヲ得  
郵便ヲ以テ投票ヲ送付スル場合ニ於テ投票時間ノ終了スルマテニ到達セザリシ投票ハ無効トス  
第十九條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選ト



調査委員ノ定數ヲ減少シタル場合ニ於テ退任者ヲ定ムル必要アルトキ又ハ前項ニ依リ調査委員ヲ増加シタル場合ニ於テ各調査委員ノ任期ヲ定ムル必要アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十七條 調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第二十八條 調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十九條 調査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第三十條 八月三十日マテニ調査委員會成立セサルトキハ政府其ノ所得金額ヲ決定ス

調査委員會開會ノ日ヨリ第二十五條ノ期間以内ニ又ハ八月三十日マテニ調査終了セサルトキハ所得金額調査未済ノモノニ限リ政府其ノ所得金額ヲ決定ス

第三十一條 政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査ニ付シタル日ヨリ七日以内ニ調査終了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第三十二條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十三條 調査委員ニハ日常及旅費ヲ支給ス

第三十四條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第三十四條ノ二 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格又ハ支拂期日ニ質問スルコトヲ得

第三十五條 政府ハ第一種及第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十六條 納稅義務者政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ調査ヲ求ムルコトヲ得

第三十七條 前條ノ請求アリタルトキハ審査委員會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ政府之ヲ決定ス

審査委員會ハ收稅官吏三人調査委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス

審査委員會ノ所屬區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

審査委員會ハ前條ノ申立ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第三十一條ノ規定ハ之ヲ審査委員會ノ決議ニ準用ス

第三十八條 納稅義務者ハ第三十六條ノ審査ヲ求メタル場合ト雖通知ヲ受ケタル所得金額ニ依リ税金ヲ納ムヘシ

第三十九條 所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第四十條 山林ノ所得ヲ除クノ外第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者所得金額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ申出テ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過クルトキハ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス

所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ヲ適用セス

第四十一條 前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ所得金額ヲ査覈シ決定額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アリタルトキハ所得金額ヲ更訂ス

第四十二條 第一種ノ所得ニ付テハ各事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ其ノ都度之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅者納稅管理人ヲ定メスシテ帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其ノ際直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第四十三條ノ一 第四十條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ確定ニ至ルマテ税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十三條ノ二 第三種ノ所得ニ付二箇以上ノ稅務署管内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納稅者ノ住所若ハ住所ナキトキハ居所地以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ

第四十四條 第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ本人住所ノ地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納稅地トス但シ住所以外ニ在ル納稅者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得

此ノ法律施行地ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第四十五條 納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ其ノ所得稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第四十六條 所得金額ヲ隱蔽シテ逋稅シタル者ハ其ノ逋稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其ノ税金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第四十七條 所得ノ調査又ハ審査ニ關與スル者其ノ調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス



前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フモノトス

第四十八條 此ノ法律ハ明治三十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第四十九條 明治二十年勅令第五號所得稅法ハ明治三十一年分所得稅限リ廢止ス

第五十條 此ノ法律ハ沖繩縣小笠原島及伊豆七島ニ當分之ヲ施行セス

●非常特別稅法(抜抄)(明治三十七年四月一日)

改正(三八年第一號、三九年第七號) 法律 第三號

第二條 左ニ掲クル租稅ニ付テハ關係法規ノ定メタル稅額ノ外左ノ割合ノ稅額ヲ増徴ス

三、所得稅

第一種 所得

甲 株主二十一人以上又ハ株主及社員ノ數二十一人以上ヲ以テ組織シタル株式會社又ハ株式合資會社

所得稅法ニ依ル稅額十五割

乙 其ノ他ノ法人

所得金額五千圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額八割

所得金額一萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額九割

所得金額一萬五千圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十割

所得金額二萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十二割

所得金額三萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十七割

所得金額五萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額二十三割

所得金額十萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額三十割

所得金額十萬圓以上

所得稅法ニ依ル稅額四十割

第二種 所得

所得金額五百圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十割

所得金額千圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十一割

所得金額五千圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十三割

所得金額一萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十四割

所得金額一萬五千圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十五割

所得金額二萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十七割

所得金額三萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十九割

所得金額五萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額二十一割

所得金額十萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額二十四割

所得金額十萬圓以上

所得稅法ニ依ル稅額二十七割

●所得稅法施行規則(明治三十二年三月三十日)

改正(三五年第二五四號) 勅令 第七十八號

第三八年第五五號)

朕所得稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法施行規則

第一條 所得稅法第四條第一項第三號ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキモノハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、塲所物件ノ修繕費、其ノ借入料、塲所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他ノ收入ヲ得ルニ必要ナル經費ニ限ル但シ家事上ノ費用及之ト關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第二條 第三種ノ所得金額ハ申告、調査又ハ決定當時ノ現況ニ依リ所得稅法第五條ノ所得ヲ除キ之ヲ算出スヘシ

第三條 納稅義務アル法人ハ每事業年度通常總會後七日以內ニ損益計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種

類及金額ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

所得稅法第三條第二項ニ依リ同居者ノ所得ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ其ノ所得ヲ區分シ同時ニ之ヲ申告スヘシ

第四條ノ二 所得稅法第十一條但書ニ依リ特ニ所得調査委員會ヲ置クヘキ市又ハ北海道ノ區ハ大藏大臣之ヲ指定ス

第五條 所得調査委員ノ定數ハ五人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ増減スルコトヲ得

第六條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉前選舉資格ヲ有スル者ノ住所氏名ヲ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

第七條 調査委員選舉人ノ選舉ヲ執行スルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ其ノ選舉資格ヲ有スル者二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第七條ノ二 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ當選人ノ氏名ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第七條ノ三 稅務署長所得稅法第二十一條ニ依リ調査委員選舉ノ期日ヲ公示シタルトキハ同時ニ之ヲ調査委員選舉人ニ通知スヘシ

第八條 調査委員ノ選舉ヲ執行スルトキハ稅務署長ハ調査委員選舉人二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第九條 調査委員選舉人及調査委員ノ選舉ニ於テ投票



ニ記載シタル人員其ノ選舉スヘキ定數ニ超エタルト  
キハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次棄却スヘシ  
第十條 調査委員又ハ補員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ  
稅務署長ニ於テ已ムヲ得スト認ムヘキ事故アル者ニ  
限ル

第十一條 調査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シ  
タル調査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ  
第十二條 調査委員會ノ開會日數ハ各調査委員會  
ノ區域内ニ於ケル前年所得稅納稅者ノ數ニ從ヒ左ノ  
如ク之ヲ定ム

五千人以上ナルトキ 三十日以内  
三千人以上ナルトキ 二十五日以内  
千人以上ナルトキ 二十日以内  
五百人以上ナルトキ 十五日以内  
五百人未満ナルトキ 十日以内

第十三條 稅務署長ハ所得稅法第九條第三十條第三十  
一條ニ依リ所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知  
スヘシ  
第十四條 所得稅法第三十六條ニ依リ審査ヲ求メムト  
スル者ハ事由ヲ具シ證書類ヲ添ヘ稅務署長ヲ經由  
シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第十五條 各稅務監督局所轄内ニ審査委員會ヲ置ク  
第十六條 收稅官吏ヲ以テスヘキ審査委員ハ大藏大臣  
キハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十六條 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席  
シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ  
第二十七條 審査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ  
與ルコトヲ得ス

第二十八條 稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ審査委員  
會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得  
第二十九條 審査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務監  
督局長ニ通知スヘシ

第三十條 稅務監督局長ハ所得稅法第三十七條ニ依リ  
所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ  
第三十一條 納稅義務アル法人損益計算書ヲ提出セサ  
ルトキハ政府其ノ損益ヲ調査シ其ノ所得金額ヲ定ム

第三十二條 所得稅ハ所得稅法第九條第三十條第三十  
一條ニ依ル決定金額ニ依リ之ヲ收徵ス  
前項ノ決定金額ハ所得稅法第三十七條第三十九條第  
四十一條ノ結果ニ依ルノ外之ヲ變更セス

第三十三條 所得稅法第三條第二項ノ場合ニ於テ同居  
者所得金額決定後別居スルモ所得金額決定當時ノ稅  
率ニ依リ其ノ年ノ所得稅ヲ納ムヘシ  
第三十四條 公ニ募集シタル公債社債ノ利子ヲ支拂フ  
者ハ支拂ノ際所得稅金額ヲ控除スヘシ

第三十五條 營利ヲ目的トセサル法人ニシテ無記名ノ  
公債證券又ハ社債券ヲ取得シタルトキハ其ノ發行者  
又ハ讓渡人ノ證明ヲ得テ之ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通

之ヲ命シ調査委員ヲ以テスヘキ審査委員ハ稅務監督  
局所轄内ノ調査委員之ヲ選舉ス  
第十七條 審査委員ノ選舉事務ハ稅務監督局長之ヲ執  
行ス

第十八條 審査委員ノ選舉ヲ執行セムトスルトキハ稅  
務監督局長選舉期日ヲ定メ所轄内調査委員ノ氏名ト  
共ニ之ヲ各調査委員ニ通知スヘシ  
第十九條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ  
投票ハ稅務監督局長ニ差出スヘシ

第二十條 稅務監督局長ハ所轄内調査委員二人ヲ選任  
シ開票ニ立會ハシムヘシ  
第二十一條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選  
トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナル  
トキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 一 審査委員ノ選舉終了シタルトキハ稅  
務監督局長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ  
第二十三條 一 審査委員ハ稅務監督局所轄内ニ於テ  
調査委員ノ改選アル毎ニ之ヲ改選ス

第二十四條 審査委員會ハ改選後第一回開會ノ初ニ於  
テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ  
第二十五條 審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出  
席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス  
議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルト  
之ヲ開ク

第二十六條 府縣郡市區町村其ノ他公共ノ團體若ハ組  
合又ハ會社ニ於テ公債社債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收  
シタルトキハ直チニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ其ノ  
所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

第二十七條 府縣郡市區町村其ノ他公共ノ團體若ハ組  
合又ハ會社ニ於テ公債社債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收  
シタルトキハ直チニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ其ノ  
所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

第二十八條 稅金ノ一部ヲ納付シタル後所得金額ノ變  
更ニ因リ所得稅金額ヲ減シタル場合ニ於テ既納ノ稅  
金カ變更シタル所得稅金額ニ超過スルトキハ其ノ超  
過額ヲ還付シ、不足スルトキハ其ノ不足額ヲ後納期  
ニ平分シテ徵收ス

第二十九條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者納稅地  
ノ稅務署管轄以外ニ於テ所得ヲ取得スルトキハ納稅  
地ヲ其ノ地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第四十條 納稅義務者住所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納  
メムトスルトキ又ハ所得稅法施行地ニ住所又ハ居所



ヲ有セサルトキハ納稅地ヲ定メ其ノ地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第四十一條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ  
 第四十二條 納稅義務者帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其ノ旨稅務署ニ申告スヘシ  
 第四十三條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

●特ニ所得稅調查委員會ヲ置クヘキ市及北海道ノ區指定(抜抄)(明治三十八年四月二十八日) 大藏省令第二十八號

所得稅法第十一條但書ニ依リ特ニ所得稅調查委員會ヲ置クヘキ市及北海道ノ區左ノ通指定ス

神戸稅務監督局  
 姫路稅務署所轄內  
 姫路市

●所得稅調查委員ノ定數(抜抄)  
 (明治三十二年四月二十日) 改正(三十五年第三一號) 大藏省令第十三號  
 (第三一號) 三十八年第二九號  
 (第三一號) 四〇年第八號  
 所得稅法施行規則第五條但書ニ依リ調查委員ノ定數ヲ定ムルコト左ノ如シ

〔神戸稅務管理局〕  
 神戸稅務署所轄內 九人  
 三木稅務署所轄內 四人  
 加古川稅務署所轄內 六人

第二號書式 用紙適宜輪廓縱四寸二枚接續

備考 一本替ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スヘシ

領收證書		通知書	
第「何」號	「何」年度	第「何」號	「何」年度
「何」府縣郡市區町村長 (公共團體其他之ニ準ス)		「何」府縣郡市區町村長 (公共團體其他之ニ準ス)	
「何」某納		「何」某納	
Y 10,000,000		Y 10,000,000	
明治「何」年「何」月「何」日		明治「何」年「何」月「何」日	
「何」金庫宛		「何」金庫宛	
「何」稅務署長「官」氏名殿		「何」稅務署長「官」氏名殿	

姫路稅務署所轄內 市部 四人  
 佐用稅務署所轄內 郡部 四人  
 出石稅務署所轄內 郡部 四人

●所得稅法施行規則第三十六條ニ依ル書式  
 (明治三十二年四月二十五日) 改正(三十五年第一一八號) 大藏省令第十七號  
 (四一年第一八號)

所得稅法施行規則第三十六條第一項ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ計算書ハ第三號書式ニ準シテ調製スヘシ  
 金庫ニ於テ所得稅法施行規則第三十六條ニ依リ所得稅金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ第三號書式ノ通知書ヲ歳入徵收官ニ送付スヘシ其計算書アルモノハ通知書ニ添付シテ之ヲ送付スヘシ

第一號書式 用紙適宜輪廓縱四寸

所得稅拂込書	
第「何」號	「何」年度
「何」府縣郡市區町村長 (公共團體其他之ニ準ス)	
「何」氏名	
「何」金庫宛	
明治「何」年「何」月「何」日	

備考 一金庫ハ本書式ノ左側ニ適宜原符ヲ附屬スルコトヲ得

第三號書式						
明治年中月計高收徵稅所得表						
公債種類	利子	支拂濟利子額		所得稅額	仕拂濟利子額	摘要
		所得稅子徵收シタル利子額	所得稅子徵收セザル利子額			
	円	円	円	円	円	
	年	月	日			
	府	郡	市	區	町	村
	若	組	合	長	又	
				其	他	公
				共	團	體
				會	社	



◎第二種所得稅過誤納下戻請求方

(明治三十三年十一月十七日) 改正(三十五年)  
(大藏省令第三十六號) (第三三號)

第二種所得ニ付所得稅ノ過誤納アリタルトキ下戻請求者ハ公債社債ノ利子支拂者ヲ經由シテ其利子支拂地ノ所轄稅務署長ニ下戻ヲ請求スルコトヲ要ス

◎皇室及皇族御所有並營利ヲ目的トセサル法人等ノ有スル公債證書ノ利子ニ對スル所得稅ノ課否(明治三十三年三月廿九號) (稅局報告第二十九號)

日本銀行同 三十二年三月一日

帝室御所有公債證書ノ利子、皇族御所有公債證書ノ利子並ニ府縣郡區市町村、官廳、學校、病院、社寺其ノ他營利ヲ目的トセサル會社又ハ組合ノ所有ニ係ル公債證書ノ利子ニ付テハ其ノ記名者若クハ利子受取人ヨリ所得稅ヲ徵收スルニ及ハサルヤ  
主稅局回報 同年三月七日  
御意見ノ通り所得稅ヲ課セサル義ニ有之此段依命回報ス

◎三等郵便局及郵便受取所ニ於テ收入印紙ヲ買受ルトキ其ノ割引高ニ對シ所得稅課稅方(明治三十二年五月) (同第三十一號)

通信局照會 三十二年四月十九日

三十年六月二日附通庶乙第七二九八號ヲ以テ當省部内

事業年度ニ於ケル損金トナルヘキモノナルヲ以テ控除セシテ課稅可然哉

主稅局回報 同年八月十六日

所得稅金ノ義ハ貴見ノ通ナルモ賞與金ノ義ハ計算書中總損金ニ包含シ居ラサルモノハ殊更損金トシテ取扱フヘキ限リニ無之ト存セラル

◎積立準備金ニ所得稅課稅方(同上)

金澤稅務管理局照會 同年八月八日

商法第九十四條ノ會社積立準備金ニ對シテハ所得稅ヲ課スヘキ義ナル哉

主稅局回報 同年八月十六日

課稅スヘキ義ト存セラル

◎所得稅取扱方疑義(明治三十二年九月) (同第三十五號)

東京稅務管理局照會 三十二年九月五日

一 戶主其同居タル養子ノ所得額ヲ合算シ申告ヲ爲シ決定後其養子ヲ離縁シタルモノアリ右ハ稅法施行規則第三十三條ニ依リ取扱フヘキヤ或ハ合算當時ノ事實消滅シ全ク家族タル關係ヲ斷チタルモノナレハ別居シタル家族ト同一ニ認メ難キヲ以テ法第四十一條ニヨリ各自所得額ノ稅率ニ從ヒ減免スヘキヤ  
二 戶主(九百圓)家族(參百圓)ノ所得ヲ合算シテ千貳百圓トナリタルモノ所得額決定後ニ至リ家族ハ其所得額百圓ヲ減損(俸給貳拾五圓ノ處入シタルモノアリ右ハ月ニ至リ解職シタリ)

三等郵便及電信局長ニ給スル遞送集配受負料及切手賣下手数料ニ對シテハ所得稅ヲ課セラルヘキモノニアラスト思考シ御省議問合及ヒシニ貴省ニ於テモ右ハ該局經費ニ屬スルモノナレハ所得稅法ノ範圍外ナル旨同年八月三日坤第八二〇四號ヲ以テ回答アリシ處本年三月勅令第五十號及遞信省告示第九十八號ニ依リ郵便電信局及郵便局郵便受取所ニ於テ收入印紙ノ賣下ヲ爲サシムルカ爲メ三等局及郵便受取所ニ對シテハ相當割引ヲ以テ之カ賣下ヲ爲スニ付テハ其割引高ハ郵便切手賣下ノ爲メニ支給スル手数料ト同様ニ當該局所ノ經費ニ充ツヘキモノナルヲ以テ勿論所得稅法ノ範圍外ト思考スレトモ御省議承知致度云々照會アリ  
主稅局回報 同年五月五日  
印紙賣下割引料中印紙賣捌ニ要スル經費ヲ差引タル殘額ハ所得稅法第三條第三種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スヘキ義ト存セラル

◎法人ノ純益中ヨリ賞與及所得稅金控除方

(明治三十二年八月) (同第三十四號)

仙臺稅務管理局問合 三十二年八月七日

所得稅法第七條ニ依リ提出セル法人損益計算書一月ヨリ六月ヨリノ事業年度總損金ヲ控除シタル純益金中ヨリ役員賞與及所得稅金ヲ支拂フモノトシ計算セシモノ有之右賞與金性質上法人ノ損金トナルヘキモノナルヲ以テ之ヲ控除シ又所得稅金ハ未確定ノモノニシテ當然次ノ

戶主ト家族ノ所得額ヲ合算シタル高ヨリ見レハ四分ノ一ニ達セサルニ付法第四十一條ヲ適用スヘカラサルモノナルヲ將タ家族ノ所得額ニ對シ四分ノ一以上タルヲ以テ同條ヲ適用シ所得額ヲ更訂スヘキモノナルヤ  
主稅局回報 同年九月十五日

第一項ハ養子離縁ノ爲メ所得稅額ヲ更訂スヘキモノニ無之第二項ハ後段ノ通

◎所得稅者死亡ノ場合ニ於ケル納稅義務者(明治三十二年十月) (同第三十六號)

務者(同第三十六號)

松山稅務管理局照會 三十二年九月二十日電報

所得稅納稅者死亡ノ場合ハ納稅義務ノ消滅ト認メ差支ナキヤ

主稅局回報 同年九月二十五日電報

所得稅納稅者死亡スルモ納稅義務ハ其相續人ニ移轉ス

◎法人カ事業年度半途ニ解散シタルトキ

所得稅課稅方(明治三十二年十一月) (同第三十七號)

仙臺稅務管理局照會 三十二年十月三十日電報

法人カ事業年度ノ半途ニシテ解散セシモノハ所得課稅ノ範圍外ニ取扱可然哉

主稅局回報 同年十一月二日電報

解散シタル法人モ課稅スヘシ



◎所得稅取扱方疑義(明治三十三年十月)

東京稅務管理局照會 三十三年九月二十六日

一 (略)

二 官吏(俸給ノミ所得スル)ニ對シ所得額ノ決定通知ヲ爲シタル後辭職ヲ爲シ其俸給額四分ノ一以上減損セルヲ以テ所得稅法第四十一條ノ處分ヲ申請セリ然レトモ在官中ニ出張旅費ヲ所得シ又ハ退官後直チニ退官賜金ヲ所得シタルヲ以テ是等ノ所得ヲ算入スルトキハ四分ノ一以上ノ減損ト成ラス此ノ如キ場合ハ法第四十一條ノ處分ヲ爲スヘキヤ

三 軍人(年俸千二百圓)ニ對シ八月中ニ所得金千二百圓ノ決定通知ヲ爲セリ然ルニ六月一日ヨリ清國へ從軍中ナリ故ニ本人ハ六月一日以後ノ所得金七百圓ノ減損處分ヲ申請セリ然レトモ五月三十一日以前ノ俸給ト六月一日以後ノ從軍中ニ係ル俸給トヲ通算スルトキハ四分ノ一以上ノ減損ト成ラス右ハ法第四十一條ノ處分ヲ爲スヘキヤ

四 軍人(年俸千二百圓)ニ對シ八月中ニ所得金千二百圓ノ決定通知ヲ爲セリ然ルニ本人ハ九月一日ヨリ清國へ從軍シ九月一日以後ノ所得四百圓ノ減損處分ヲ申請セリ然ルニ八月三十一日以前ノ俸給ト九月一日以後ノ從軍中ノ俸給トヲ通算スルトキハ四分ノ一以上ノ減損ト成ラス右ハ法第四十一條ノ處分ヲ爲スヘキヤ

五 內國官吏ニ對シ所得金決定通知ノ後外國駐在官ト成リ出發シ内地在留中ノ所得ノミヲ計算スルトキハ四分ノ一以上ノ減損ト成ル右ハ法第四十一條ノ處分ヲ爲スヘキヤ

六 一官吏(年俸千二百圓)ニ對シ甲局ニ於テ千二百圓ノ決定通知ヲ爲シ乙局ニ於テ千二百圓ノ決定通知ヲ爲セリ然ルニ右官吏年末ニ至リ事實千二百圓ノ所得ナルヲ理由トシテ甲局ニ向テ甲局通知ノ千二百圓ノ減損處分ヲ申請セリ右ハ法第四十一條ノ處分ヲ爲スヘキヤ

會計検査院照會 三十五年三月十四日  
法人ノ所得ヲ算定スルニ前期繰越損失金又ハ創業費ノ繰越償却金ハ控除スヘキヤ否  
大藏省回答 同年四月十四日  
法人ノ所得ヲ算定スル場合ニハ前期繰越損失金又ハ創業費繰越償却金ハ控除スヘキ義ト存セラル

◎所得減損取扱方(同上)  
ル場合ニ限リ支給スルヲ以テ利益ノ分配タルニ外ナラス故ニ之ヲ損金トシテ控除セス  
大藏省回答 同年七月四日  
大體ニ於テハ貴見ノ如シト雖會社定款ノ規定及總會ノ決議如何ニヨリテハ直ニ貴見ノ通認定難致場合モ可有之要スルニ本項ハ事實ニヨリ斷定スルノ外ナシ

◎法人所得計算方(明治三十五年七月)

鹿兒島稅務管理局問合 三十五年六月三日

所得稅法第七條ニ依リ法人ヨリ提出スル損益計算書中土地、建物、備品等固定資本ニ屬スルモノ、買入代ヲ損金ノミニ計算シテ益金ニハ計算シテアラサルモノアリ右ハ資産ヲ成スモノナルヲ以テ損金トシテ計算スルトキハ之ヲ益金ニ加算シテ所得ノ決定ヲ爲シ可然果シテ然ラハ其益金ニハ購入原價(損金ニ計算シタル額ト同期)ヲ加算スルヲ至當トスルヤ又ハ當該事業年度決算主稅局回報 同年六月十七日  
後段御見込ノ通

◎法人所得計算方(明治三十五年八月)

會計検査院照會 三十五年六月十二日

法人所得ノ計算ニ際シ定款ニ前期純益金ヲ標準トシテ範圍ヲ限定シ隨時ニ給與スルヲ得ヘキコトヲ規定シタル賞與金ハ其性質俸給々料等ト異リ專ラ會社カ利益ア

◎第三種所得決定ノ誤謬訂正方(明治三十六年三月)

九龜稅務監督局請訓 三十六年一月二十九日

所得稅法第三條第二項ニ依リ戸主家族ノ所得合算額ニ依リ稅率ヲ定メ又ハ同法第六條但書ニ依リ納稅資格ヲ定メ決定通知ヲ爲シタルモノ事實同居ノ家族ニアラス若ハ同居者ナルモノ戸主家族ノ關係ナキコトヲ發見シ納稅者ヨリ分別更正ヲ申立タル場合ニ於テ稅法第三十七條ニ依リ審査委員會ノ決議ヲ經テ處分シ來リタルモ稅法第三十六條同第三十七條及施行規則第三十二條ハ決定所得金額ノ變更ヲ目的トセル場合ノ規定ニシテ右等決定ノ金額ニ對シテハ異議ナク單ニ合算決定ノ適用ヲ誤リタルモノヲ更正スルハ該條項ニ適合セス從テ審査委員會ノ決議ヲ要セサルモノト被解候ニ付自今右ニ該當ノモノハ審査委員會ノ議ニ付セス本人ノ申立ニ對シ其事實ヲ查覈シ申立ノ正當ト認ムルモノハ直ニ決定ヲ訂正シ訂正分別ノ結果三百圓ニ滿タサル分ハ其決定ヲ取消シ可然哉

主稅局通牒 同年二月十八日



第三種所得決定ノ誤謬訂正ニ關シ請訓ノ件ハ貴見ノ通取扱ハレ可然ト存候依命此段及通牒候

◎第三種所得重複決定ノ場合取扱方

(明治三十六年十二月 第七十五號)

京都稅務監督局照會 三十六年十一月二十日  
第三種所得重複決定ノ分取消方ニ關シ左記ノ廉御意見承知致度

- 一 甲稅務署管内ニ住所又ハ居所ヲ有スルモノ乙稅務署ニ第三種所得納稅地ノ申告ヲ爲シ甲乙兩稅務署ニ於テ所得ヲ決定シタルトキハ甲稅務署ノ決定ヲ取消スヘキ義ナルヤ
  - 二 納稅地ノ申告ヲ爲サ、ルモ所得ノ申告ヲ乙稅務署ニ爲シタルトキハ之ヲ納稅地ノ申告ト見做シ前項ト同シク甲稅務署ノ決定ヲ取消スヘキ義ナルヤ
- 主稅局回報 同年十二月五日  
第一項貴見ノ通第二項ハ乙稅務署ノ決定ヲ取消スヘキモノト存ス

◎所得稅法中傷痍疾病者恩給ノ疑義

(明治三十八年五月 同第九十二號)

京都稅務監督局照會 三十八年四月十四日  
所得稅法第五條第二號ノ所謂傷痍疾病者ノ恩給トハ官吏恩給法第三條第一號第二號軍人恩給法第四條第二號第三號等ノ如ク公務ニ因リテ傷痍ヲ受ケ若クハ勤務ニ

東京稅務監督局照會 三十九年三月三十一日  
大藏省證券條例第三條ニ依リ割引ヲ以テ發行スル證券ノ割引額ニ對シテハ第二種所得稅ヲ課スヘキヤ否ヤ主稅局回報 同年四月二十七日  
第二種所得稅ヲ課スヘキモノニアラス

◎大藏省證券ノ割引額ニ對シ第一種第三種所得稅ノ課否

(明治三十九年六月 同第一百五號)

大藏省議決定 三十九年五月三十一日  
大藏省證券ノ割引額ハ縱令其性質利子ニ相當スルモノナリト雖モ所得稅法上所謂利子ニアラサルヲ以テ第二種所得稅ヲ課スヘキモノニアラサル旨擬ニ省議決定相成候處第一種若クハ第三種所得トシテ課稅スヘキモノナルヤ否ヤニ關シテハ左ノ諸說アリ

甲說 明治三十八年二月法律第十九號ニ所謂利子トハ其ノ名稱ノ如何ニ係ラス實質上ノ利子ヲ指スモノト解スヘキハ立法ノ精神上穩當ナリト信ス而シテ大藏省證券ノ割引額ハ縱令所得稅法上ノ利子ニアラストスルモ其ノ實質上利子ニ相當スルモノナルヲ以テ法律第十九號ノ利子ナリト云フコトヲ得故ニ軍備補充ノ爲及臨時事件費支辨ノ爲發行セラレタル大藏省證券ノ割引額ニ對シテハ法律第十九號ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキナリト

乙說 甲說ハ法律第十九號ノ所謂利子ヲ廣義ニ解スト雖モ同法ハ所得稅法ノ特別法ナルヲ以テ之ヲ嚴格ニ

從事シ爲ニ疾病ニ罹リタルモノ、受クル恩給ノミヲ指ス義ニ候哉將タ官吏恩給法第二條第二號軍人恩給法第四條第一號末段ノ如キ者ノ受クル恩給モ包含スル義ニ有之候哉右疑義ニ涉リ候間至急何分ノ御回示煩度云々  
主稅局回報 同年五月二日  
客月十四日直第一五九號所得稅第五條ニ關スル御照會ノ件ハ前段御見込ノ通り

◎所得金額決定方

(明治三十八年十一月 同第九十八號)

京都稅務監督局問合 三十八年十月七日  
住所ト居所トヲ兼テ有スル者ノ第三種所得金額ノ決定ハ住所地所轄ノ稅務署ニ於テ之ヲ爲シ居リ候ヘトモ法第四十四條第一項但書ニ依レハ住所以外ニ在ル納稅者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得トアリテ法第八條ノ申告ヲ爲スニ當リ豫メ居所ニ於テ決定ヲ受ケタキ意志ヲ表示シタルモノハ居所地所轄ノ稅務署ニ於テ決定ヲ與ヘ妨ケナキヤニ被認候ヘトモ右ハ一旦所得金額ノ決定ヲ受ケタルモノカ納稅地ヲ居所地ニ移シ得ラル、ノミニシテ決定ハ必ス住所地ニ於テ之ヲ爲サ、ルヘカラサル義ニ候哉  
主稅局回報 同年十月十四日  
前段御見込ノ通り

◎大藏省證券ノ割引額ニ對シ第二種所得稅ノ課否

(明治三十九年五月 同第一百四號)

解スヘク割引額ヲ以テ既ニ稅法ノ利子ナラストセハ又同法ノ利子ニアラスト解スルヲ正當ナリト信ス  
割引ハ利付ノ外ニ設ケラレタル大藏省證券發行ノ一方法ナルヲ以テ其ノ差額ハ一般公債ニ於ケル發行價格ノ差額ト殆ント異ナル所ナシ而シテ大藏省證券ノ引受(應募)ハ營利事業ニ屬スト云フコトヲ得サルノミナラス其ノ割引額ハ一時ノ所得ナルヲ以テ稅法第五條第一項第五號ニ依リ所得稅ヲ課スヘキモノニアラスト

丙說 割引額ハ法令上利子ト云フコトヲ得サルコト及一時ノ所得ナルコトハ乙說所論ノ如シ然レトモ之ヲ以テ營利ノ事業ニ屬セサルモノナリトハ一概ニ論定シ得ヘキモノニアラス之カ引受者(應募者)カ商人ニシテ其ノ營業行爲ノ一部ト見做シ得ヘキ場合ハ營利ノ事業ニ屬スルモノト云ハサルヘカラス之ニ反シテ普通人カ引受者(應募者)ナル場合ハ營利ノ事業ニ屬スルモノト云フコトヲ得ス要スルニ營利ノ事業ニ屬スルヤ否ヤハ各場合ニ依リ同一ナルコトヲ得ス即チ(一)營利ヲ目的トスル法人ニ就テハ割引額ハ營利事業ニ屬スル所得ナルヲ以テ第一種ノ所得トシテ課稅スヘク(二)營業者ナル個人ニ就テハ其ノ所得(割引額)ハ營業行爲ノ結果ト見做シ得ヘキヤ否ヤニ依リ課否ヲ決スヘク(三)營業者ニアラサル個人ニ就テハ割引額ハ稅法第五條第一項第五號ニ依リ課稅セララルヘキモノニアラサルナリト



以上三說ノ内丙說ニ決定セリ

●個人銀行ノ所得計算方(明治三十九年七月)

主税局通牒 三十九年六月十八日  
個人銀行所有ノ有價證券ヲ時價ニ見積リタルヨリ生スル差増減ハ所得額計算中ニ算入スヘキモノニ無之又有價證券ヲ賣却シタル場合ニ於テ其ノ賣却益金(賣却代金)其他必要額(除シタル)額ハ所得額計算中ニ算入スヘキ義ト存候此段及通牒候也

●煙草製造ノ現業者ニ給與セラルル勤勉手當ニ對シ所得稅ノ課否(同上)

主税局通牒 三十九年七月二日  
一 明治三十七年六月勅令第七十號ニ基キ煙草製造ノ現業者カ受ケル勤勉手當ハ毎年六月、十二月ノ二期ニ於テ執務時間外ノ勤務時間數ニ比例シ俸給額ヲ標準トシ特ニ勤勉ナル者ニ對シ給與セラル、モノニシテ定期且繼續的ノ性質ヲ有シ稅法第五條第五號ニ所謂營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得ト稱スルコトヲ得ス  
二 本問勤勉手當ト其性質ヲ同フスル通信現業員ノ勤勉手當ニ對シテハ課稅スヘキ旨三十七年九月既ニ省議決定セラレタル所ナリ  
以上ノ理由ナルヲ以テ本問煙草製造ノ現業者ニ給與セラル、勤勉手當ニ對シ所得稅ヲ課スヘキ義ト省議決定

セラレタリ

●外國公債ノ利子ニ對スル所得稅ノ課否(明治三十九年九月)

東京稅務監督局照會 三十九年八月二十五日  
内地ニ於テ支拂ハル、外國公債ノ利子ニ對スル所得稅ハ如何ニシテ賦課セラルヘキモノナリヤ先般韓國政府ノ委託ヲ受ケテ第一銀行ニ於テ發行シタル韓國國庫證券ノ利子ニ對シテハ所得稅法第三條ニ基キ第一種若ハ第三種ノ所得稅ヲ課スヘキヤ又ハ第二種ノ所得稅ヲ賦課スヘキモノナリヤ之ニ關シテ左ノ二說アリ  
甲說 所得稅法第三條ニ所謂公債社債ノ利子トハ内國債ノ謂ニシテ内國ニ於テ支拂ハル、公債社債ノ利子ニ對シテ所得稅ヲ賦課スヘキモノナリ所得稅法發布ノ當時外國債ニ關スル事迄規定シタルモノニアラス思フニ立法ノ精神トスル所ハ單ニ内國公債社債ニ限定シタルモノトス所得稅法ヲ以テ外國債ノ利子ニ關スル事迄規定シタルモノナリト爲スハ其當ヲ得タルモノニアラス從テ所得稅法第三條ノ所謂「此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子」ト云フハ外國債ノ利子迄包含セルモノニアラス本問韓國國庫證券ノ利子ハ法人又ハ個人ノ所得トナレルヲ以テ第一種又ハ第三種ノ所得トシテ課稅スルヲ穩當トス  
乙說 所得稅法ハ廣ク公債社債ノ利子ト規定シタルヲ以テ其間ニ内外債ノ區別ヲ爲スヘキモノニアラス第

二種所得ノ課稅標準ハ本法施行地ニ於テ支拂ハル、公債社債ノ利子ニシテ其利子タルヤ苟モ公債社債ナル以上ハ内外國ヲ以テ區別スヘキモノニアラス殊ニ現時ノ狀況ニ於テ韓國以外ノ外國公債ノ利子ヲ本邦ニ於テ支拂フノ實例ナク韓國國庫證券ハ名ハ外國ノ國債證券ナリト雖モ總テ内國債ト同様ニ取扱ヒ其利子ニ對シテ我所得稅法ヲ適用スルモ何等韓國トノ實際問題ヲ惹起スルカ如キコトナキヲ以テ内國債ト同様ニ取扱ヒ其利子内地ニ於テ支拂ハル、トキハ第二種所得トシテ課稅スヘキモノナリ要スルニ外國公債ノ利子ト雖モ内國ニ於テ支拂ハル、トキハ第二種ノ所得稅ヲ賦課スルヲ相當トス  
右二說ノ内乙說ヲ以テ妥當ナルモノト存云々  
主税局回報 同年九月三日  
乙說ノ通ニテ可然ト存候

●第三種所得金額誤謬訂正方(明治四十年三月)

丸龜稅務監督局申出 四十年二月十三日  
客年十二月二十八日付直第一六七九號ヲ以テ御照會致シタル第三種所得金額誤謬訂正方ニ關シ本月二十四日往第九四號ヲ以テ事實ニ就キ申出方御回答ノ趣了承致候右事實ハ則チ左記ノ如キ場合ニ候間何分ノ御意見承知致度云々  
第一 稅務署長ノ豫算シタル所得ヲ生スヘキ原因決定當時既ニ存在セスシテ而モ尙ホ其原因以外ニ他ノ所

得原因決定當時ニ存在セサルコト明瞭トナリタル事例左記ノ如シ

- 一 官公吏ノ俸給所得決定以後ニ於テ決定當時既ニ退官退職セルモノナルコトヲ發見シ其ノ他ニ何等ノ所得ナキトキ
  - 二 營業所得決定以後ニ於テ決定當時既ニ其業ヲ廢止セルモノナルコトヲ發見シ他ニ何等ノ所得ナキトキ
  - 三 土地所得決定以後ニ於テ決定當時既ニ其土地ハ他ニ賣却セルモノナルコトヲ發見シ他ニ何等ノ所得ナキトキ
- 第二 稅務署長ノ豫算シタル所得ヲ生スヘキ原因決定當時ニ存在セル分ニ對シテハ其所得ノ豫算適當ニシテ其他ノ所得原因決定當時ニ存在セザリシコト明瞭トナリタル事例左記ノ如シ
- 一 俸給及土地ノ二種類ニ涉リ所得ヲ決定シタル場合ニ於テ土地所得ニアリテハ決定當時其所得原因存在シ且其所得決定適當ナルモ俸給所得ニアリテハ決定當時既ニ退官セルモノナルコトヲ決定以テニ於テ發見シタルトキ
- 第三 稅務署長ノ豫算シタル所得ヲ生スヘキ原因ハ存在スルモ其所得算定ニ用ヒタル數量ト決定當時實在シタル數量ト異ナリタルコト明瞭トナリタル事例左記ノ如シ
- 一 官公吏ノ俸給所得年額八百圓ト決定シタル以後



ニ於テ決定當時其者ノ俸給豫算年額六百圓トスヘキ誤調ナリシコトヲ發見セシトキ

二 官公吏ノ俸給月額四拾圓ノモノニ對シ其年額五百圓ト決定シタル以後ニ於テ其年額四百八拾圓トスヘキ違算ナルコトヲ發見セシトキ

三 二町歩ニ對スル土地所得決定以後ニ於テ決定當時其ノ者ノ所有地ハ壹町歩ナリシコトヲ發見セシトキ

主稅局通牒 同年三月七日

客月十三日付直第一七〇號御申出ノ事實ニ對シテハ所得金額誤謬訂正方支無之ト存候云々

◎所得稅ニ關スル取扱方(明治四十年八月)

東京稅務監督局照會 四十年八月十日

本年一月一日ヨリ四月マテ所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ俸給、恩給、勳章年金所得四月マテノ分ヲ計算スルモ三百圓以上アル者四月中稅法施行地外ニ住所ヲ移シタル者(甲)及二月一日ヨリ現今マテ所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ所得三百圓以上ノ者(乙)アリ其所得ヲ本月ニ至リ決定セントスルニ當リ左ノ疑問ヲ生セリ

第一 本人ハ所得稅法施行地ニ住所ヲ有スルモノナリヤ否ヤ之ニ付左ノ三說アリ

甲說 所得稅法第一條ノ此法律施行地ニ住所ヲ有シタルトハ其年一月一日ニ於テ既ニ住所ヲ有シ爾來引續キ決定ノ時マテ之ヲ有スル者ナリト解スヘキ

モノナリ何トナレハ所得稅ナルモノハ年稅ニシテ一箇年ノ所得ヲ標準トシテ之ヲ課スルモノナリ隨テ之カ納稅者タルモノハ一年ヲ通シテ納稅義務ヲ有スルモノナラサルヘカラス然レトモ所得金額ハ普通年ノ中央ニ於テ決定ヲ爲スモノナレハ其以後年未マテ住所ヲ有スルヤ否ヤハ決定當時ニ於テ之ヲ知ルヲ得サルモノナル故其當時迄引續キ住所ヲ有スルモノハ其以後年未迄モ引續キ住所ヲ有スルモノト推定スルノ外ナキモノナレハナリ故ニ一月一日ヨリ所得決定當時マテ引續キ住所アルモノハ住所ヲ有スルモノトシ一月一日ヨリ住所アルモノハ住所ヲ有スルモノトシ一月一日ヨリ住所アルモノハ住所ヲ有スルモノトス

乙說 其年一月一日以後引續キ施行地ニ住所ヲ有スルモノハ勿論極端ニ云ヘハ一月一日ニ於テ住所ヲ有セシモノハ其後ニ於テ住所ヲ施行地外ニ移スモ其年ニ於テ住所ヲ有シタルモノナリト云フヲ得ヘシ何ソ必スシモ決定當時ニ於テ住所ノ有無ヲ問フヲ要セン而シテ甲ハ之ニ該當セルヲ以テ稅法施行地ニ住所ヲ有セルモノナリトシ乙ハ之ニ該當セザルヲ以テ稅法施行地ニ住所ヲ有セザルモノトス

丙說 所得稅法第一條ニ此法律施行地ニ住所ヲ有シタルハ現ニ有スルノ意義ニシテ所得決定ノ當時ニ於テ現ニ有スルハ其住所ハ一月一日ヨリ有セシ

モノナルト其以後ヨリ有セシモノナルトノ區別ヲ爲ス必要ナシ本說ニ依レハ甲ハ施行地ニ住所ナキモノトシ乙ハ施行地ニ住所アルモノトス

以上三說中乙說ヲ以テ當ヲ得タルモノナリト思考ス

第二 恩給、勳章年金ハ稅法第二條第五條六號ノ所謂資產ヨリ生スル所得ナリヤ否ヤ又資產ヨリ生スル所得トスレハ其資產ノ所在地ハ何レナリヤ之ニ付左ノ二說アリ

甲說 恩給、勳章年金ノ如キハ行政處分ニヨリテ個人ニ一種ノ權利ヲ創設シタルモノニシテ其權利ハ金錢上ノ價格ヲ有スル權利ナレハ資產ト云フコトヲ得ヘク其權利ニ基キテ受ケル恩給年金ハ資產ヨリ生スル所得ナリトス又恩給年金ノ請求權ハ政府ニ對スルモノニシテ現行ノ法規ニヨレハ各地方廳ニ於テ支拂ヲ爲スモノナレハ之ヲ資產トスレハ債務者(政府)ノ所在地(東京)ヨリ云フモ又ハ支拂地(各府縣)ヨリ云フモ稅法施行地ニ在ルモノト云ハサルヘカラス

乙說 資產トハ蓄積セラレタル財產ノ謂ヒニシテ資產ヨリ生スル所得トハ其財產ノ利用ヨリ生スル所得(土地、家屋ノ所得、貸預金ノ利子ノ如キ)ヲ云フモノナルモ恩給勳章年金ハ何レモ之ニ該當セザルヲ以テ資產ヨリ生スル所得ト云フヲ得ス

以上二說中甲說ヲ以テ當ヲ得タルモノナリト思考ス

主稅局回答 同年八月二十四日

本月十日附第四九三號御照會ニ係ル所得稅ニ關スル件ハ左記ノ通ニ有之候此段及回答候也

第一 甲及乙ハ何レモ稅法施行地ニ住所ヲ有スル者トス

第二 恩給、勳章年金ノ所得ハ資產ヨリ生スルモノニアラス

◎所得稅法取扱方疑義(明治四十二年四月)

東京稅務監督局照會 四十一年二月七日

所得稅法取扱方疑義ノ件左ニ

第一 第三種所得納稅者某甲一ヶ月千圓年額一萬二千圓ノ所得アルモノ七月三十一日死亡セルモ稅務署ニ於テハ八月一日ニ於テ誤テ某甲ノ所得一萬二千圓ト決定シタリ之カ誤謬訂正方ニ付左ノ二說アリ

甲說 所得ノ決定ハ所得取得者ニ對スル一ノ處分ナレハ其所得取得者ニシテ既ニ死亡シ存在セザルモノナレハ之ニ對スル處分ハ其効力ヲ發生スヘキモノニアラス本問某甲ハ稅務署ニ於テ八月一日所得ノ決定ヲ爲ス前日ニ死亡セシモノナレハ其所得ノ決定處分ハ何等ノ効力ヲ發生セス故ニ其決定處分ハ之ヲ取消スヘキヲ相當トス

乙說 所得稅法第一條該當者ニシテ所得三百圓以上ノモノハ所得納稅義務アルモノニシテ其義務者ノ死亡カ決定前後ヨリ差別アルヘキ筈ナシ只其決定前死亡ノ場合ハ其納稅義務ノ範圍確定セザル狀態



ニ於テ其義務ヲ相續人ニ移轉セシモノナルヲ以テ死亡後ト雖モ死亡者ノ所得幾何ナリシヤヲ決定シテ其納稅義務者タル相續人ニ通知セハ茲ニ其義務ノ範圍ハ確定セラル或ハ曰ク所得ノ決定ハ所得納稅者ニ對スル處分ナレハ死亡者ニ對シテ所得ヲ決定スルコトヲ得スト之レ所得納稅者ト所得取得者トヲ區別セサル誤解ニ出テタルモノナリ多クノ場合ハ所得取得者ハ所得納稅者タリト雖モ何レノ場合モ亦必スシモ然リト云フヲ得ス本問所得取得者ハ死亡セルモ所得納稅者ハ其相續人ナリト云フヲ得ヘシ故ニ某甲ノ所得ヲ決定シテ之ヲ納稅者タル相續人ニ通知シテ所得稅ヲ徵收スルハ誠ニ至當ノコトナリトス此理由ニヨリ本問ノ某甲ノ死亡マテノ所得ハ一萬二千圓ニアラスシテ七千圓ナレハ此額ニ訂正シ其決定金額ヲ相續人ニ通知スルヲ至當ノ取扱ナリトス

第二 三種所得納稅者俸給所得千二百圓(一ヶ月百圓ツツ)貸家所得六百圓(一ヶ月五拾圓ツツ)田地所得百貳拾圓合計千九百貳拾圓ト所得決定ヲナシタルモノ決定通知以後七月三十一日死亡ノ爲メ相續人(俸給所得年額六百圓ノ所得納稅者)ヨリ所得減損更訂ノ申出ヲ爲シタリ此場合ニ於テ所得更訂方ニ付左ノ三説アリ

甲説 本人ノ死亡ニヨリ減損スル所得ハ管ニ本人ノ一身ニ專屬スル所得ノミナラス其他貸家及田地ノ

Table with columns for '本人(死亡者)ノ所得セシ分' and '相續人ノ所得'. It lists income from '俸給' (Salary), '貸家' (Rental), and '田地' (Land) for both the deceased and the heir, with a total calculation of 11,010.

減損ハ被相續人ノ所得金額ノ四分ノ一以上タルヲ以テ足レリトセス相續人ノ所得金額ヲモ合算シテ其總額ノ四分ノ一以上ニ當ル場合ニアラサレハ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス本問ノ場合ヲ見ルニ相續人ノ所得トシテ計算スヘキモノハ

ニ對シ四分ノ一以上ノ減損トナラサルヲ以テ所得ノ更訂ヲ爲スヘキモノニアラス  
右第一、第二問共甲説ヲ以テ當ヲ得タルモノト思考候ヘ共一應省議承知致度候  
主稅局回答 同年四月十日  
第一問 所得金額ノ決定ハ何等ノ效力ヲ發生セサルヲ以テ取消ヲ要セス  
第二問 乙説ノ通取扱可然

如キ財産ヨリ生スル所得モ皆減損スルモノナリ何トナレハ本人ノ所得トシテ計算スヘキモノハ死亡マテノ凡テノ所得ニシテ死亡後ニ於ケル本人生存中ノ財産ヨリ生スル所得ハ乃チ相續人カ其ノ財産ヲ相續シタル結果得ル相續人自身ノ所得ニシテ死亡者タル本人ノ所得ニアラス又所得トシテ相續セシモノニアラス故ニ死亡者ヨリ見レハ一身ニ專屬スルト財産ヨリ生スルモノタルトヲ問ス八月以後ノ所得ハ減損セルモノナリト云ハサルヘカラス故ニ本問ノ場合ハ本人ノ所得ハ俸給七百圓貸家所得三百五拾圓合計千五拾圓(田地所得ハ收獲前死亡ニ付所得ナシ)トナルヲ以テ此金額ニ更訂スヘキモノトス

乙説 本人ノ死亡ニヨリテ減損スル所得ハ本人ノ一身ニ專屬スル所得ノミニシテ其他財産ヨリ生スル所得ノ如キハ相續人ニ於テ承繼所得スルモノナレハ減損トナルヘキモノニアラス而シテ本問ハ本人ノ一身ニ專屬スル所得ハ俸給ノミニシテ七月三十一日ニ死亡セル故八月ヨリ十二月マテ五ヶ月間俸給所得五百圓ノ減損アルノミナルヲ以テ本人ノ所得決定額千九百貳拾圓ヨリ減損額五百圓ヲ減シ千四百貳拾圓ト所得ノ更訂ヲナスヘキモノトス  
丙説 相續人カ被相續人ノ所得金額ニツキ其死亡ヲ原因トシテ更訂ヲ求ムルハ被相續人ノ爲メニスルニアラス相續人カ其納稅義務者ナルカ故ナレハ其

●第一種所得計算上資産減價償却金ニ關スル取扱方(同上)

會計検査院照會 四十一年三月九日  
第一種所得高決定ニ關シ資産減價償却金ハ會社ノ計算方ニ途ニ出テ一損益計算上償却金ヲ損失ニ算入シ同時ニ資産減價ノ整理ヲ爲スモノト(二)損益計算上償却金ハ利益金ノ處分トシテ補充シ次期ノ初ニ至リ資産減價ノ整理ヲ爲スモノト有之右前段ノ整理方ニ依ル償却金ハ當該期ニ於テ損金ニ算入セルモ後段ノ整理方ニ依ルモノニ就キテハ當該期ニ於テ損金ニ算入シ或ハ次期ノ損金ニ相成居候處會社ノ計算上利益ノ處分トシテ補充スル償却金ト雖モ資産價格ハ現實低落シ之カ整理ヲ次期ニ於テ爲スニ過キサルモノナルヲ以テ當該期ノ損金ニ算入スル方相當ト被認候且之ヲ當該期ノ損金ニ計算スルトキハ全部損益計算ヲ爲シタル年度ノ損金ニ算入スルコトニ相成取扱上便利ト被存候條取扱方一定候様云々  
主稅局回報 同年四月十八日  
本月九日付送第五一五號御照會ニ係ル資産減價償却金ニ關スル件ハ貴見ノ通取扱可然ト存候云々

●法人所得決定方(同上)

東京稅務監督局照會 四十一年二月三日  
法人カ前事業年度ニ於ケル損金(其ノ期ノ損金ト前期ノ繰越損金トヲ問ハス)ヲ一、積立金ニ、前期繰越金



三、所得稅法第四條第二項ノ配當金及公債社債ノ利子  
 四、無償ニテ株式金額ヲ切下ケ若クハ出資金額ヲ減シ  
 テ資本ヲ減少シタル額五、寄附金等ヲ以テ補填シ當事  
 業年度ニ損失ノ繰越ヲ爲ササルモノハ當事業年度ニ於  
 テハ繰越損金ハ之レナキモノトシテ總益金中ヨリ之ヲ  
 控除スヘキモノニアラサルコトハ法人ノ損益ハ事業年  
 度毎ニ損益計算書ヲ提出セシメ之レニヨリ所得ヲ決定  
 スル當然ノ結果ト存候ニ付今後ハ右ノ取扱ニ一定致度  
 就テハ一應省議承知致度候條至急御回答相成度此段及  
 照會候也

(例示)

第一 積立金ヲ以テ損金補填ノ例

會社ノ計算

積立金ヨリ繰入	100,000,000
益	50,000,000
損	20,000,000
計	130,000,000

差引繰越スヘキ損益金ナシ

右ノ如ク益金五萬圓ニ對シ損金二十五萬圓アルヲ以  
 テ差引二十萬圓ノ不足ヲ生ス依テ積立金二十萬圓ヲ  
 益金ニ繰リ入レ之ヲ以テ補填シ少シノ損金ノ繰越ヲ  
 無カラシメタル場合ノ如キ一例ナリ

第二 前期繰越金ヲ以テ損金補填ノ例

會社ノ計算

前期繰越金	50,000,000
益	100,000,000
損	150,000,000
計	100,000,000

差引繰越スヘキ損益金ナシ

右ノ如ク益金十萬圓ニ對シ損金十五萬圓アルヲ以テ  
 差引五萬圓ノ不足ヲ生スルモ前期繰越金五萬圓ヲ以  
 テ之ヲ補填シ繰越損金無カラシメタル場合ノ如キ一  
 例ナリ或ハ前期繰越金ハ益ナレハ本場合ノ如キハ總  
 益金ヨリ總損金ヲ控除シ零トナルモ損金トハナラサ  
 ルヲ以テ從テ補填ノ問題起ラスト云フモノアラソモ  
 前期繰越金ハ所得金計算ノ上ニ於テハ總益金ヨリ控  
 除スヘキコトトナリ居ルノミナラス前期繰越金ト雖  
 モ積立金ト同シク會社ノ資産タレハ之ヲ以テ損金ヲ  
 補填セハ積立金ニテ補填シタルト同一ノ結果ヲ生  
 ス

第三 所得稅法第四條第二項ノ配當金及公債社債ノ利子ヲ以テ損金補填ノ例

會社ノ計算

法第四條第二項ノ配當金及公債社債ノ利子	50,000,000
其他ノ益金	20,000,000
損	100,000,000
計	100,000,000

差引繰越スヘキ損益金ナシ

右ノ如ク益金十萬圓ニ損金十萬圓ナレハ差引損金ハ  
 ナキ如キモ益金十萬圓中ノ法第四條第二項ノ配當金及

公債社債ノ利子七萬圓益金ヨリ控除所得ヲ計算スヘ  
 キモノナルヲ以テ殘三萬圓ト損金十萬圓ト對比スル  
 トキハ損金七萬圓ノ多キヲ以テ之ヲ法第四條第二項  
 ノ配當金又ハ利子ニテ補填シタル場合ノ如キ一例ナ  
 リ

第四 無償ニテ株式金額ヲ切下ケ損金補填ノ例

會社ノ計算

株式切下金	100,000,000
其他ノ他益金	10,000,000
損	110,000,000
計	110,000,000

差引繰越スヘキ損益金ナシ

右ノ如ク益金二萬圓ニ對シ損金三十二萬圓アルヲ以  
 テ差引三十萬圓ノ損失アルヲ以テ株式金額ヲ無償ニ  
 テ切下ケ三十萬圓ヲ得之ヲ以テ補填シタルモ株式  
 式切下益金ハ法第五條第五號該當ノモノ(之ニハ議  
 論アルヘキモ夫ハ別問題トナシ暫ク同號該當ノモノ  
 ト假定ス)ナレハ之ニテ補填ノ場合ノ如キハ其一例  
 ナリ

第五 寄附金ヲ以テ補填ノ例

會社ノ計算

寄附金	50,000,000
其他ノ益金	20,000,000
損	20,000,000
計	50,000,000

右ハ第四ニ略同シ  
 主稅局回答 同年四月三十日  
 二月三日付第一一三號ヲ以テ御照會ニ係ル法人所得決  
 定方ノ件貴見ノ通取扱可然ト存候此段省議ヲ經テ及回  
 答候也

前三年間所得皆無ノ場合田畑所得稅ノ課否(同上)

宇都宮稅務監督局照會 四十一年四月八日  
 田畑ノ所得ハ前三年間所得平均高ヲ以テ田畑ノ増減  
 ニ應シ算出スヘキモノニ候處當管内一部地方水害其他  
 ノ災厄ニ罹リ前三年間無所得ノ場合アリ斯ル地方ニ  
 於ケル本年田畑ノ所得ハ皆無トスルヲ可トスルヤ將タ  
 豫算當時ノ現況即チ本年ノ實況ニ依リ所得ヲ見積ルヲ  
 相當トスヘキヤ明治三十二年四月主稅第三二六號大臣  
 御內訓ノ次第モ有之候ヘトモ尙ホ多少ノ疑義有之貴見  
 承知致度云々  
 主稅局回答 同年五月一日  
 客月八日直第二一七號御照會ニ係ル田畑所得ニ關スル  
 件ハ後段御見解ノ通ト存候此段及回答候也

所得審査請求ニ關スル取扱方(明治四十一年五月)

宇都宮稅務監督局照會 四十一年四月二十八日  
 所得稅法第四十一條ニ依ル所得ノ更訂ニ對シ同法第三  
 十六條ノ審査請求ヲ爲シ得ルヤ否ヤニ關シ左記ノ通聊



カ疑議相生シ候ニ付御意見至急承知致度

第一說 審查請求ヲ爲スヲ得ス
理由 法第三十六條ハ其前條ヲ承繼セルモノニシテ
而シテ同第三十五條ノ決定トハ當初ノ決定ヲ指シタ
ルモノナレハ審查請求ニ關スル規定ハ畢竟當初ノ決
定ニ對スル救濟方法ヲ定メタルモノト解セサルヘカ
ラス若シ法第四十一條ノ所得金額更訂モ亦一種ノ決
定ナルカ故ニ該更訂ニ對シテモ審查ヲ求ムルヲ得ヘ
シトセンカ政府ニ於テ四分ノ一以上減損アリト認メ
更訂ヲ爲シタルモノニ對シテハ更ニ進ンテ審查請求
ヲモ爲シ得ルニ四分ノ一以上ノ減損ナシト更訂ヲ爲
ササリシ分ニ在テハ却テ審查ヲ求メ得サルノ結果ト
ナリ頗ル權衡ヲ得サルコトナルヘシ如斯ハ決シテ法
ノ精神ニアラサルヘキノミナラス法文上一ハ決定ト
稱シ一ハ更訂ト呼ヒテ明カニ之ヲ區分シ居レルモノ
ナレハ之ヲ同一視スルハ不可ナリト認ム

第二說 審查請求ヲ爲スヲ得

理由 所得金額ノ決定ト云ヒ更訂ト云ヒ字義ニ於テ
ハ相違アルモ實質ニ於テ更訂モ亦決定ト云ハサル可
カラサルノミナラス所得稅法施行規則第十三條及第
三十條ニ依ル所得金額決定通知ト同第三十七條ニ依
ル所得金額更訂ノ通知ト何等異ナルナク稅法第二十
六條ヨリ見レハ等シク政府ノ通知シタル所得金額ナ
レハ此通知ニ對シテ異議アルニ於テハ其理由ノ決定
更訂ニ依ル如何ヲ問ハス審查ヲ求ムルコトヲ得ルハ

トヲ得ルモノナルカ故ニ其ノ利益ヲ標準トシテ所得稅
ヲ課スヘキコトハ當然ナリトスレト有之該趣旨ニ依ル
トキハ左記例示ノ如キ場合ニ於テモ尙所得稅ヲ賦課ス
ルコトトナルヲ以テ其結果ハ一旦課稅標準トシテ計算
セラレタル金額ヲ重複ニ計算課稅スルコトト相成其當
ヲ得サルノ感有之此ノ點ニ關シ一應貴見承知致度云々
(例)

Table with columns for '積立金ヨリ繰入' (250,000), '益' (50,000), '計' (300,000), '損' (300,000), '計' (0), '金' (300,000), '計' (300,000). Includes '差引所得金額七〇〇〇〇圓'.

主稅局回答 同年六月三十日
第一種所得金額決定方ノ件ハ前期繰越金ト同様取扱フ
ヘキ義ト御承知相成度此段及回答候也

組合員カ產業組合ヨリ受クル配當金ニ對スル所得稅ノ課否

組合員カ產業組合ヨリ受クル配當金中割戻ノ性質ヲ有
スルモノハ所得稅ヲ賦課セラル、事ナキモ所得ノ性質
ヲ有スルモノニ付テハ所得稅法第四條第三號中ノ所謂
「此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ヨリ受ケ
タル配當金」ニ該當シ第三種所得稅ヲ賦課セラルヘキ
モノニ有之候但シ配當金中所得ノ性質ヲ有スルヤ否ヤ
ハ各種組合ノ組合員カ受クルモノニ付キテ審查ヲ要ス

明ナリ又第一說ニ依レハ政府ニ於テ四分ノ一以上ノ
減損ナシトシテ更訂ヲ爲ササリシモノト不權衡ヲ生
スヘシト云フモ更訂處分ヲ爲スヘキモノニアラスト
爲スモ亦一ノ決定ニ外ナラサルハ此場合ニ於テモ相
當通知ヲ爲スヘキハ當然ニシテ(法令上ニ該當ノ明
文ナシトスルモ更訂ノ申請ニ對シテハ採否何レニ關
セズ決定ノ上通知スヘキハ當然ト認ム)是レニ對シ
テモ勿論審查ノ請求ヲ爲シ得ヘク決シテ不權衡ヲ生
スルモノニ非スト認ム
主稅局回答 同年五月二十日
四月二十八日付直第四三一號ヲ以テ御照會ニ係ル所得
稅事務取扱上ニ關スル件ハ第一說ヲ相當ト存候此段及
回答候也

法人所得決定方(明治四十一年六月)

大阪稅務監督局照會 四十一年六月十七日
第一種所得金額決定上會社カ積立金、前期繰越金等ヲ
以テ損失ヲ補填シ翌期ニ損失ヲ繰越ササリシ場合ニ於
ケル取扱方ニ付テハ東京稅務監督局長ノ照會ニ對スル
貴局御回答往第五四八號(明治四十一年四月三十日)
ニ依リ從來取扱居候ニ付別ニ何等ノ疑點無之候ヘトモ
該決議要領第一項中ヲ見ルニ「積立金ノ減少ハ會社ノ
損金ト謂フコトヲ得サルモノトス而シテ會社ハ積立金
ヨリ支出シタル費用アルニ拘ハラズ損益計算ノ結果タ
ル利益ヲ以テ其年度ノ利益ナリトシテ之ヲ配當スルコ

ヘキモノニ有之候條參考迄及通牒候也

國債證券及貯蓄債券利子所得稅免除制(明治三十八年二月十六日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國債證券及貯蓄債券ノ利子
所得稅免除ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
軍備補充ノ爲及臨時事件費支辨ノ爲明治三十七年以降
政府ノ發行スル國債證券ノ利子及貯蓄債券法ニ依リ發
行スル貯蓄債券ノ利子ハ所得稅ヲ免除ス但シ既納ノ稅
金ハ之ヲ還付セス

第四章 自家用醬油稅

自家用醬油稅法(明治三十三年三月十日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル自家用醬油稅法ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム
自家用醬油稅法
第一條 自家用醬油(醬油ヲ併)一箇年五石以下ヲ製造セム
トスル者ハ本法ニ依リ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製
造ヲ廢止セントスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ
前項ニ依リ免許ヲ受ケタル製造高ヲ變更セムトスル
トキハ更ニ政府ノ許可ヲ受クヘシ但シ同年內ニ於テ
ハ製造高ノ變更ヲ許可セス



第二條 自家用醬油製造免許ハ一家一人ニ限ル  
第三條 自家用醬油製造人ハ其ノ製造見積高ニ依リ毎  
年左ノ製造稅ヲ納ムヘシ

第一種 一石未滿 金五十錢  
第二種 二石未滿 金一圓  
第三種 三石未滿 金二圓  
第四種 四石未滿 金三圓  
第五種 五石以下 金四圓

第四條 製造稅ハ之ヲ二分シ其ノ年十月及翌年三月ヲ  
以テ納期トス但シ納期後免許ヲ受クルトキハ即納ト  
ス  
第五條 自家用醬油製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ各自ノ  
居宅域内ニ限リ之ヲ製造スルモノトス  
第六條 當該官吏ハ自家用醬油製造者ニ就キ檢査ヲ爲  
スコトヲ得

第七條 自家用醬油製造者其ノ製造シタル醬油ヲ販賣  
シ又ハ其ノ居宅域外ニ於テ自家用醬油ヲ製造シタル  
トキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第八條 自家用醬油製造者免許制限ヲ超過シテ醬油ヲ  
製造シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ  
仍其ノ超過石數ニ對シ醬油稅則第二條ノ造石稅ヲ課  
ス  
前項ノ造石稅ハ即時之ヲ徵收ス

第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ(刑法ノ不論罪及減輕、  
再犯加重、數罪俱發)ノ例ヲ用キス

本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

●自家用醬油稅法施行規則

(明治三十三年三月二十六日) 政正(三五年第二五  
勅令 第六十七號) 政正(三號) 三七年  
九號)

朕自家用醬油稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ  
ム

第一條 自家用醬油稅法施行規則  
油ノ製造免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ居所、氏名、  
自家用醬油稅法第三條ノ種別及醬油製造方法ヲ記シ  
稅務署長ニ申請スヘシ

第二條 自家用醬油稅法第三條ノ種別ヲ變更セムトス  
ルトキハ前年中ニ變更ノ申請書ヲ稅務署長ニ差出ス  
ヘシ  
第三條 自家用醬油製造者其ノ居所、氏名又ハ製造方  
法ヲ變更シタルトキハ直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

第四條 自家用醬油稅法ニ依リ免許ヲ受ケタル者同法  
第十一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタル時ハ  
其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ  
第五條 自家用醬油ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其  
ノ旨稅務署長ニ申請スヘシ

自家用醬油製造者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタル  
トキハ相續人又ハ財產管理人ヨリ其ノ旨稅務署長ニ

第十條 自家用醬油製造者ノ家族、雇人等ニシテ其ノ  
製造ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指  
揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得  
ス

第十一條 左ニ記載スル者ニハ本法ヲ適用セス  
一 醬油製造營業人、醬油請賣人  
二 料理店、飲食店、旅人宿營業人  
三 前二號ノ者ト同居スル者

第十二條 本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者前項各號ニ該當スルニ  
至リタルトキハ本法ニ依リ免許ヲ以テ醬油稅則ニ依  
ル免許ト看做シ以後製造ニ係ル醬油ニハ同稅則ヲ適  
用ス但シ其ノ年ノ製造稅ハ之ヲ免除セス  
第十三條 本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニ對シテハ醬  
油稅則ヲ適用セス

第十四條 本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ノ明治三十三年  
一月一日ヨリ同年三月三十一日マテノ間ニ製造シ  
タル醬油ニシテ醬油稅則ニ依リ查定ヲ受ケタルモノ  
ニ關シテハ其ノ造石稅ヲ免除ス  
第十五條 沖繩縣、東京府管下小笠原島、伊豆七島ニ  
ハ當分本法ヲ施行セス

附 則(三十七年法律第八號附則)

本法ハ發行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
醬油稅則ニ依リ自家用醬油製造ノ申告ヲ爲シタル者ハ

申告スヘシ

●醬油自家用料ノ解釋(明治三十二年九月)

主稅局發議 三十二年九月十六日決判  
監獄(又ハ集治監)ニ於テ囚徒ヲシテ醬油ヲ製造セシメ  
囚徒用ニ供スルモノアリ此等ハ(醬油稅則)ニ於ケル自  
家用料ト解釋スヘキモノナルヤ否ヤニ付疑義相生セリ  
之ヲ嚴正ニ解釋スルトキハ一家ヲ成サ、ルモノ、製造  
ナルカ故ニ自家用料ト云フヲ得サルカ如キモ稅則ノ所  
謂自家用料ナルモノハ自家ニ使用スルニ止マリ他ニ販  
賣セサルモノトノ意義ニシテ即自家用料ト否トハ販賣  
ト否トニ依リ之ヲ區別シタルニ外ナラサルカ故ニ此等  
ハ自家用料トシテ(稅則)第二條ノ但書ヲ適用シ一石ニ  
付一圓ヲ課稅スヘキモノト解釋シ可然哉

●自家用醬油稅法取扱方(明治三十九年六月)

鹿兒島稅務監督局照會 三十九年四月十日  
現行自家用醬油稅法施行規則第五條二項ニ依レハ自家  
用醬油製造者死亡又ハ失踪ノ際ハ相續人又ハ財產管理  
人ヨリ其旨申告スヘキ規定ニ候ヘハ右申告ニ依リ製造  
免許ノ効力ハ斷絶シ相續人ト雖モ更ニ新規製造免許ノ  
申請ヲ爲スニアラサレハ引續キ製造シ得サルカ如ク被  
存候得共右ノ如キ取扱ニ出ルトキハ從來ノ免許者死亡  
ノ年ニ於テ其ノ相續人モ亦免許ヲ受クルコト、相成リ  
即チ一家ヨリ一年度内ニ二重ノ課稅ヲ受クル次第ニテ



他ノ諸稅法ニ於ケル相續讓受等ノ場合ト權衡ヲ失スル  
嫌モ有之候ニ付失察ノ場合ニ於テハ無論免許効力ノ繼  
續スヘキ理由ナキモ死亡ノ場合ニ於テハ相續人ヨリ爾  
後製造ヲ繼續セサル表意ナキ限リハ其ノ免許ヲ繼續シ  
タルモノトシ取扱可然哉  
主稅局回報 同年四月二十八日  
自家用醬油製造免許者死亡又ハ失踪等ニ由リ相續人カ  
製造ヲ繼續スルノ表意アリタルトキハ相續トシテ取扱  
ヒ新規免許ヲ要セサル儀ト被存候

### 第五章 賣藥營業稅

●賣藥規則(明治十年一月二十日) 改正(一〇年第八  
年第四號第二七號、一四年第二六號、一五年第五  
二號、一九年勅令第七二號、三三年法律第一四號)

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事  
(別冊)

#### 賣藥規則

##### 第一章

第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥ヲ調製  
シ又ハ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者ヲ云フ  
第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服用量功効ヲ詳記  
シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札  
ヲ受クヘシ  
但免許ヲ受ケタル者二箇所以上ニ於テ之ヲ調製シ

又ハ二箇所以上ニ於テ外國賣藥ヲ輸入スル時ハ其  
箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥  
品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及  
ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ  
第四條 (第八條ニ記シタル期限中)藥味分量用法服用  
能書ヲ改正セント欲スルモノ其由ヲ届出舊鑑札ヲ返  
納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ  
輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル外國賣藥ノ藥味分量用法  
服用能書ヲ外國ニ於テ改正シタルトキ其賣藥ヲ輸入  
販賣セント欲スルモノ亦前項ニ同シ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タ  
ルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免  
許鑑札寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ添ヘ其管  
轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲  
クヘシ  
第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ  
賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルトキハ其  
由ヲ管轄廳ニ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必  
ス之ヲ所持スヘシ

第八條 (廢止)  
第九條 (廢止)  
第十條 免許(期限)内ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル所  
ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗

惡ニシ又ハ粗惡ニシタル外國賣藥ヲ輸入販賣スル等  
ノコトアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコ  
トアルヘシ

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、時ハ其  
請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シ  
タル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ニ届出再ヒ之ヲ願  
受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙  
方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許(期限)中其相續  
人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ニ鑑札  
名前書換ヲ請フヘシ

第十五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタル時  
ハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納  
スヘシ

##### 第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通稅金并鑑札料ヲ上納ス  
ヘシ

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一箇年 金二圓  
右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚 金二十錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇  
所毎ニ本文ノ稅金并鑑札料ヲ納ムヘシ  
第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ  
願受クル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 稅金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三  
十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ鑑札料ハ其  
都度並管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條 稅金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後  
ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半  
年分ヲ納ムヘシ  
但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月  
割ヲ以テ稅金ヲ納メシムヘシ

##### 第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自カラ行商シ又ハ  
行商セシムル者及ヒ之レヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ  
藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ請賣スル者及無  
鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑  
札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ  
科スヘシ

第二十二條 第四條ノ免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量  
用法服用能書等ヲ改正シ又ハ外國賣藥ヲ輸入販賣シ  
又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ街惑  
スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付  
十圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ  
私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ  
之ヲ調製スル者ハ其製藥及賣得金ヲ没入シ藥劑一方  
ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ











アリタルトキハ被相続人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得  
 國籍喪失ニ因ル相続人又ハ限定承認ヲ爲シタル相続人ハ相続ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ國稅、督促手數料及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス  
 第四條ノ四 共有物、共同事業又ハ公同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手數料及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス  
 第四條ノ五 同年ノ地租、營業稅、所得稅、醬油稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ稅金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得  
 第四條ノ六 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル  
 第四條ノ七 納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相続財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス  
 納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス  
 第四條ノ八 書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國內ニ住所ニ在ラス  
 前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル處ニ依リ督促手數料ヲ徵收ス  
 第三章 滯納處分  
 第十條 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財産ヲ差押フヘシ  
 一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手數料及稅金ヲ完納セサルトキ  
 二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ稅金ヲ完納セサルトキ  
 第十一條 收稅官吏滯納處分ノ爲メ財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證據ヲ示スヘシ  
 第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ督促手數料、滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ム  
 第十三條 收稅官吏滯納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ  
 第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前マテニ所有者タルノ證據ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ  
 第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財産ノ差

所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス  
 第二章 徵收  
 第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ稅金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス  
 前項地租徵收ノ費用ハ其ノ市町村ノ負擔トシ其ノ他ノ國稅ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ  
 第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ  
 第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲メ時日ヲ要スルトキハ其ノ間稅金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ  
 第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得  
 前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審查シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得  
 第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ但シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ此ノ

押ヲ免ルル爲メ故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知リ讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ヲ取消ヲ求ムルコトヲ得  
 第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス  
 一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具  
 二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭  
 三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印  
 四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地  
 五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類  
 六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣  
 七 勳章其ノ他名譽ノ章票  
 八 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具  
 九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ  
 第十七條 左ニ掲クル物件ハ他ニ督促手數料、滯納處分費及稅金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス  
 一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料  
 二 職業ニ必要ナル器具及材料  
 第十八條 差押ノ効力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第一輯 國稅 第六章 國稅徵收



第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲

ニ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ

第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ  
家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐  
匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財  
産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ  
亦同シ

第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財産ヲ藏匿ス  
ルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコ  
トヲ得

前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出  
ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者  
若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ  
立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ  
立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏  
員(市制町村制施行セサル地ニ在  
リテハ區長及其ノ附屬吏員)若ハ警察官吏ヲ證人ト  
シテ立會ハシムヘシ

第二十二條 動産及有價證券ノ差押ハ收稅官吏占有シ  
テ之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキ  
ハ市町村長、滯納者又ハ第三者ヲシテ保管ヲ爲サシ  
ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ  
以テ差押ヲ明白ニスヘシ  
差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ  
要セス

準用ス

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フ  
ニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコト  
ヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル  
官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ賣却  
物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滯納處分費ハ財産ノ差押、保管、運搬、  
公賣ニ關スル費用及通信費トス

第二十八條 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第二  
十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル通  
貨ハ督促手數料、滯納處分費及稅金ニ充テ尙殘餘ア  
ルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス

賣却シタル物件質權、抵當權ノ目的物タルトキハ其  
ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、滯納處分費ヲ徵シ次ニ  
除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテヲ債權者ニ交付シ  
尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス但シ第三條ニ  
掲ケタル質權、抵當權ノ目的タル物件ニ關シテハ其  
ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、納納處分費ヲ徵シ次ニ  
其ノ債務額ニ充ツルマテヲ債權者ニ交付シ次ニ稅金  
ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於  
テ會社財産ヲ以テ督促手數料、滯納處分費及稅金ニ  
充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分  
スルコトヲ得

第二十三條ノ一 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ  
之ヲ債務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促手數料、滯  
納處分費及稅金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス

第二十三條ノ二 債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ  
爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ其ノ權利者ニ通知スヘシ  
前項ノ財產權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登録ヲ要  
スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登録ヲ關係官廳  
ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ三 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ  
收稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其  
ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

差押ノ爲不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官  
吏ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ  
其ノ合併又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ四 差押ノ解除ニ關シテハ登録稅ヲ納ム  
ルコトヲ要セス

第二十四條 差押ヘタル動産、有價證券、不動産及第  
二十三條ノ一ニ依リ收稅官吏カ第三債務者ヨリ給付  
ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付ス公賣ノ  
手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格  
ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上ク  
ルコトヲ得

債權及所有權以外ノ財產權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ

第三十條 此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滯納者ニ交付  
スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得

第三十一條 滯納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シタルト  
キハ納稅義務及督促手數料、滯納處分費納付ノ義務  
ハ消滅ス

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有スル者其  
ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シタルトキ  
ハ一月以上二年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費  
消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承  
諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適  
用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行  
ス

〔沖繩縣及〕東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分  
之ヲ施行セス  
市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ  
關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ  
指定ス  
〔北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準  
ス〕



第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●國稅徵收法施行規則

(明治三十五年四月十一日) 改正(三八年第) 勅令第三百三十五號

朕國稅徵收法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法施行規則

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ金庫ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得  
第二條 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ  
市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ  
第三條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル稅金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ  
納稅告知書ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日前之ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ  
前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナルトキハ

納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町村ニ通知スヘシ

第四條 市町村ニ於テ稅金ヲ徵收シタルトキハ領收證ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條 市町村ニ於テ徵收シタル稅金ハ送付書ヲ添ヘ漸次之ヲ金庫ニ送付スヘシ但シ納期後三日ヲ過クルコトヲ得ス

第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ  
地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 市町村ハ納期內ニ稅金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滯納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ掲グルモノニシテ納期ニ到リ稅金ノ徵收ヲ完ウスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル  
一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅  
二 造石數查定濟ノ酒類、酒精、酒精含有飲料並醬油ノ造石稅及造石數查定濟ノ麥酒稅  
三 當該年分ノ自家用醬油製造稅

第九條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十五條 差押フヘキ財產數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均キモノトシテ處分スヘシ

第十六條 收稅官吏財產ヲ差押ヘタルトキハ差押調書ニ通テ作リ立會人ト共ニ之ニ署名捺印シ其ノ一通ハ立會人ニ交付スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

差押調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所  
二 差押財產ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明ニスル事項  
三 差押ノ事由  
四 調書ヲ作リタル場所年月日

第十七條 收稅官吏財產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手數料、滯納處分費及稅金ヲ完納シタルトキハ其ノ財產ノ差押ヲ解クヘシ

第十八條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十九條 國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ  
一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所  
二 公賣財產ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明ニスル事項

納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ  
市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由スヘシ  
第十條 國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ  
第十一條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ  
督促狀ヲ發シタルトキハ手數料トシテ金十錢ヲ徵收ス  
第十二條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財產ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ督促手數料、滯納處分費及稅金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ  
國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前項ノ通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事實ヲ證明スヘシ  
第十三條 民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財產ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財產ヲ差押フルトキ亦之ニ準ス  
第十四條 差押フヘキ財產管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財產所在地ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ







係ルトキハ納稅告知書ヲ添付スルコトヲ要セス  
 第六條ノ二 前條督促狀ニ記載スヘキ納付場所ヲ稅務署ト指定シタル場合ニ於テ市町村ノ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ收稅官吏ハ市町村ノ發シタル納稅告知書ヲ以テ税金ヲ領收スルコトヲ得  
 第七條 税金及督促手数料、滯納處分費ハ郵便爲替、日本銀行若ハ其ノ代理店ニ宛テ送金手形又ハ日本銀行若ハ其ノ代理店ニ於テ證明シタル小切手ヲ以テ納付スルコトヲ得  
 第八條 納稅人ハ指定ノ納付場所以外ノ地ニ於テ納稅スルヲ便トスルトキハ稅務署ニ申告シテ納付場所ノ變更ヲ求ムルコトヲ得  
 第九條 稅務署長ハ國稅滯納者ノ財産差押ヲ命シタル收稅官吏ニ左ノ證券ヲ交付スヘシ  
 用紙厚紙 縱二寸五分 横一寸五分

第「何」號	「何」稅務署
國稅滯納者	「何」稅務署
財産差押	「官」氏「名」
署印	
票	

第十條 收稅官吏債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ第九號書式ノ債權差押通知書ヲ發スヘシ  
 第十一條 國稅徵收法施行規則第十六條ノ差押調書ハ第十號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

經常 稅	「何」年「何」期「分」
大藏省主管	「何」稅務署
一金「何」程	「何」稅
右明治「何」年「何」月「何」日限「何」金庫又ハ「何」稅務署ヘ納付	
明治「何」年「何」月「何」日	「何」稅務署長
	「官」氏「名」印

第「何」號	「何」年度	「何」市町村	「何」某「納」
經常 租稅	「何」稅(項)	「何」年「何」期「分」	
一金「何」程	取扱主任ノ印	「何」稅	
明治「何」年「何」月「何」日領收		「何」金庫	「何」
		「又ハ收入官吏	「官」氏「名」印
		「何」稅務署長「氏」名「殿」	

第「何」號	「何」年度	「何」市町村	「何」某「納」
一金「何」程	取扱主任ノ印	「何」稅	
		「何」年「何」期分	

第十二條 收稅官吏財産ヲ賣却セムトスル場合ニ其ノ價格ヲ見積リ難キモノアルトキハ適當ナル鑑定人ヲ選ミ其ノ評價ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第十三條 入札ノ方法ヲ以テ財産ヲ公賣スル場合ニハ買受望人ハ其ノ住所氏名買受財産ノ種類員額及入札價額ヲ記シタル入札書ヲ封緘シテ差出スヘシ  
 第十四條 入札書ハ公告ニ示シタル開札ノ場所、日時ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ開クモノトス但シ入札人又ハ其ノ代理人開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其ノ立會ヲ要セスシテ開札スルコトヲ得  
 第十五條 競賣ノ方法ヲ以テ財産ヲ公賣スルトキハ競賣人ヲ選ミ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得  
 第十六條 加入保證金又ハ契約保證金ノ割合ハ買受望人各自ノ公賣財産見積價格百分ノ五以上トシ公賣ノ時々之ヲ定ムルモノトス  
 第十七條 公賣財産ノ買受人又ハ競賣人ハ納付書ヲ添ヘ其ノ代金ヲ稅務署長ニ納付スヘシ  
 第十八條 督促又ハ滯納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ第十一號書式ノ送達書ニ受取人ノ署名捺印ヲ求ムヘシ  
 第十九條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏第十號書式ノ計算書ヲ調製シ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ  
 第一號書式  
 用紙厚紙 縱四寸五分、横四寸五分、内並ニ印章ハ執レモ米、横三寸三分、二枚、横二寸五分、モノ一枚接續

明治「何」年「何」月「何」日領收	「何」金庫
	「又ハ收入官吏
	「官」氏「名」印

備考  
 一 領收證書及通知書用紙ノ納入金額納入年度科目等ハ總テ納稅告知書發行者ニ於テ記入スルモノトス  
 二 金額ヲ數行並記シタルトキハ其ノ左傍ニ合計額ヲ掲記スルモノトス  
 三 酒造稅、「自家用酒稅」ノ場合ニハ「何」年「何」期分「何」年「何」期分トスルモノトス  
 四 收稅官吏本署ニ依リ税金ヲ領收スルトキハ明治二十六年大藏省令第三十二號ノ現金領收證書發行スルコトヲ要セス  
 五 收稅官吏ニ於テ税金ノ領收ヲ爲ストキ督促手数料ノ收入ヲ要スルモノアルトキハ本署中ニ科目金額ヲ併記シ第八號書式納付書ヲ省略スルコトヲ得但シ所屬年度ヲ異ニスルトキハ此限ニ在ラズ  
 六 收入官吏ニ於テ領收ヲ爲ストキハ本署式納稅告知書中餘白ニ領收年月日ヲ記入シ收入官吏檢印ヲ爲シ領收通知書ヲ省略スルコトヲ得  
 第二號書式  
 用紙厚紙 縱四寸五分、横三寸三分

第「何」號	「何」年度	「何」年「何」月「何」日限	「何」市町村「納」
經常 租稅	「何」稅(項)	「何」年「何」期「分」	
大藏省主管	「何」稅務署	「何」金庫	「何」
一金「何」程		「何」稅(目)	
一金「何」程		「何」稅(目)	



第一輯 國稅 第六章 國稅徵收

右通知候也

明治何年何月何日  
〔何〕稅務署長  
〔官氏名〕

備考

- 一人別納額ノ通知ヲ要スル場合ニハ一人別納額調書ヲ添付スルモノトス但シ人員少キトキハ金額ノ左傍ニ記入スルモ妨ケナシ
- 市制町村制ヲ施行セサル地方ノ戸長ニ通知スル場合ニハ何年何月何日何町村納トアルヲ何町村分トス
- 市町村ノ便宜ニ依リ出納區域ニアラサル金額ヲ指定シタルトキハ豫メ之ヲ其ノ金庫ニ通知スルモノトス

第三號書式

用紙適宜 縦四寸 横三寸二枚接綴

第一何號 何年度 何市町村大字何番地 某納  
租稅〔何稅(項)〕 何年 何期分

一金何程 〔何稅〕  
計金何程 〔何稅〕

右何年何月何日限何役場へ納付  
明治何年何月何日 〔何市町村長何某〕  
〔又ハ何町村戸長何某〕

割印

第何號 何年度 何市町村 某納  
領租稅〔何稅(項)〕 何年 何期分

收證書  
一金何程 〔何稅〕  
計金何程 〔何稅〕

明治何年何月何日領收

取扱主任之印

〔領收者氏名〕

備考

- 市町村ニ於テ税金ノ取扱上必要ナルニ於テハ領收證書ノ外ニ宜ノ別符ヲ付スルモ妨ケナシ
- 收稅官吏本符ヲ以テ税金ノ領收ヲ爲ストキ督促手數料ノ收入ヲ要スルモノアルトキハ本符中ニ科目金額ヲ併記シ第八號書式納付書ヲ省略スルコトヲ得但シ所屬年度ヲ異ニスルトキハ此限ニアラズ

第四號書式

用紙適宜 縦四寸五分ノモノ一枚 横四寸五分ノモノ二枚接綴

〔何〕年度 經常租稅 〔何稅(項)〕 〔何〕年何期分  
大藏省主筆 〔何〕稅務署

一金何程 〔何稅〕  
計金何程 〔何稅〕

右送付候也  
明治何年何月何日 〔何市町村長氏名〕

金庫割印

〔何〕年度 〔何〕年何期分 〔何〕市町村 納

納入濟書  
〔何〕稅 (項)  
一金何程 〔何稅〕  
取扱主任ノ印  
明治何年何月何日領收  
〔何〕金庫

金庫割印

領收證書  
〔何〕年何期分 〔何〕市町村 納  
一金何程 〔何稅〕  
取扱主任ノ印  
明治何年何月何日領收  
〔何〕金庫

備考

- 納付濟書及領收證書用紙ノ納入金額納入年度科目等ハ總テ市町村ニ於テ記入スルモノトス

第五號書式

滯納者報告書

年度	納期區分	科目	稅額	事由	住所氏名
〔何〕年度	〔第何期〕	〔田租〕	〔何〕	〔何々〕	〔何〕市何町何番地 〔何〕

第一輯 國稅 第六章 國稅徵收

計					
---	--	--	--	--	--

右報告候也  
明治何年何月何日  
〔何〕稅務署長  
〔官氏名〕

〔何〕市何町何番地 〔何〕  
〔又ハ何町村戸長何某〕

第六號書式

第一何號 〔何〕市何町何番地 某  
〔何〕年度 租稅 〔何稅(項)〕 〔何〕年何期分  
一金何程 滯納稅金 〔何稅〕  
內金何程 〔何稅〕  
税金何程 〔何稅〕

督促手數料 〔何稅〕  
右何月何日限何金庫(又ハ何稅務署)へ納付スヘシ  
若シ其ノ期限ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ財産差押ノ處分ヲ爲スヘシ

〔何〕稅務署長  
〔官氏名〕

第七號書式

用紙適宜 縦四寸五分ノモノ一枚 横四寸五分ノモノ二枚接綴

〔何〕年度 〔何〕市何町何番地 〔何〕 某納



納	經常租稅	〔何〕年〔何〕期分
付	大藏省主管	〔何〕
書	〔金〕何程	〔何〕稅
	〔金〕何程	〔何〕稅
	明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日	

通	〔何〕年度	〔何〕都市何町村	〔何〕某納
	經常租稅	〔何〕稅〔項〕	〔何〕年〔何〕期分
書	〔金〕何程	取扱主任	〔何〕稅
	〔金〕何程	ノ印	〔何〕稅
	明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日領收		
	〔何〕稅務署長氏名殿		〔何〕金庫

領	〔何〕年度	〔何〕都市何町村	〔何〕某納
證	租稅	〔何〕稅〔項〕	〔何〕年〔何〕期分
書	〔金〕何程	取扱主任	〔何〕稅
	〔金〕何程	ノ印	〔何〕稅
	明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日領收		
	〔何〕稅務署長氏名殿		〔何〕金庫

知	〔何〕	稅務署
書	〔金〕何程	取扱主任
	〔金〕何程	ノ印
	明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日領收	
	〔何〕稅務署長氏名殿	
	〔何〕	金庫

領	〔何〕年度	〔何〕都市何町村	〔何〕某納
證	雜收	入免許及手數料	
書	〔金〕何程	取扱主任	手數料
	〔金〕何程	ノ印	
	明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日		〔何〕金庫

備考

- 一 出納區域ニアラサル金庫へ納付セシムルトキハ納付書中へ「何金庫へ納付スルコトヲ承認ス」ト記入シ稅務署印ヲ捺捺スルモノトス
- 二 收稅官吏ニ於テ督促手數料ヲ領收セントスルトキハ本書ニ依リ領收證ヲ交付シ明治二十六年大藏省令第三十二號ノ現金領收證ニ代フルモノトス
- 三 收入官吏ニ於テ領收ヲ爲ストキハ本書式納付書中餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ收入官吏檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

納	〔何〕年〔何〕月〔何〕日	〔何〕金庫
付	大藏省主管	〔何〕
書	〔金〕何程	
	明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日	

備考

- 一 出納區域ニアラサル金庫へ納付セシムルトキハ納付書中「何金庫へ納付スルコトヲ承認ス」ト記入シ稅務署印ヲ捺捺スルモノトス
- 二 收稅官吏ニ於テ稅金ヲ領收セントスルトキハ本書ニ依リ領收證ヲ交付シ明治二十六年大藏省令第三十二號ノ現金領收證ニ代フルモノトス
- 三 收入官吏ニ於テ領收ヲ爲ストキハ本書式納付書中餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ收入官吏檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

通	〔何〕年度	〔何〕都市何町村	〔何〕某納
	經常租稅	〔何〕稅〔項〕	〔何〕年〔何〕期分
書	〔金〕何程	取扱主任	〔何〕稅
	〔金〕何程	ノ印	〔何〕稅
	明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日領收		
	〔何〕稅務署長氏名殿		〔何〕金庫

知	〔何〕	稅務署
書	〔金〕何程	取扱主任
	〔金〕何程	ノ印
	明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日領收	
	〔何〕稅務署長氏名殿	
	〔何〕	金庫

領	〔何〕年度	〔何〕都市何町村	〔何〕某納
證	雜收	入免許及手數料	
書	〔金〕何程	取扱主任	手數料
	〔金〕何程	ノ印	
	明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日		〔何〕金庫

備考

- 一 債務者官廳ナルトキハ其ノ任命令官ノ官氏名法人ナルトキハ其ノ法人ノ名ヲ記入スルモノトス
- 二 債權ノ目的カ金錢以外ノモノナルトキハ其ノ名稱、數量其ノ他重要ナル事項ヲ明記スルモノトス

第九號書式

債權差押通知書

〔何〕府縣何都市何町村大字何番地

債權者 〔何〕 某

債務者 〔何〕 某

徵收金額

〔金〕何程

〔金〕何程

〔金〕何程

督促手數料及滯納處分費

前記金額徵收ノ爲メ明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日場合ニハ年月日ヲ省略シ債務者ヨリ支拂フヘキ〔何〕金〔何〕程〔又〕ハ〔金〕何程ノ内金〔何〕程ノ差押フルニ付明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日迄ニ本官ニ支拂フヘキモノトス此ノ通知ヲ受ケタル後債權者ニ對シ支拂ヲ爲スモ其ノ支拂ハ無効タルヘシ

右通知候也

明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日

〔何〕稅務署長

〔何〕府縣何都市何町村大字何番地

〔何〕 某 宛

〔官氏名〕圖



第十號書式

差押調書

- 一通 貨 [金何程]
- 二何 [何何枚]
- 三何國何都市何町村大字何番
- 四何國何都市何町村大字何番
- 五此地租金何程

「本地何國何都市何町村何某へ一箇年地代金何程ニテ何年何月何日ヨリ向フ何箇年間貸與シアリ」  
 (以下之ニ依ヒ列記ス)  
 右ハ何府縣何都市何町村何某ニ何「稅」何年何期分金何程「滯納」ニ付「何」月「何」日「本人」又ハ「本人」不在ニ付同居家族何某「立會」ノ國稅徵收法第二十一條ノ前記ノ財產ヲ差押フル者也  
 上條ノ立會人ヲ記載ス

明治「何」年「何」月「何」日「何」所ニ於テ此ノ調書ヲ作ル  
 「何」府縣何都市何町村大字何番地  
 立會人「何」某

第十一號書式

送達シタル書名通數	送達シタル書名住所又ハ居所及氏名	受取人ノ署名捺印	送達シタル日

明治「何」年「何」月「何」日

「官」氏名「回」

國稅徵收事務取扱方(抜抄)

改正(三三年第一七號)

〔稅務管理局〕

國稅徵收事務取扱方左ノ通心得ヘシ

第五條 滯納處分ヲ執行スルトキハ當該稅務署所轄内ニ在ル財產ヨリ差押フルヲ常例トス但シ其ノ所轄外ニ換價ニ便利ナル財產アリト認ムルトキハ其ノ財產所在地ノ稅務署ニ處分ノ引繼ヲ爲スコトヲ得  
 滯納處分ヲ執行スルニ當リ當該稅務署ノ所轄外ニ在ル財產ヲ同時ニ差押フルヲ必要ト認ムルトキハ滯納金額ノ一部ヲ分割シ其ノ財產所在地ノ稅務署ニ處分ノ引繼ヲ爲スコトヲ得

第六條 滯納處分ノ引繼ヲ爲ストキハ滯納者ノ住所氏名、滯納ノ稅目金額、差押フヘキ財產ノ名稱數量並所在ハ勿論其ノ他處分上ノ參考ニ資スヘキ事項ハ成ルヘク詳記シテ其ノ引繼ヲ受クヘキ稅務署ニ送付スヘシ

第九條 國稅徵收法第二十八條第二項ニ依リ滯納者ノ財產賣却代金ヨリ其ノ負債金額ニ充ツルマテヲ質權者又ハ抵當權者ニ交付セムトスル場合ニ異議ヲ申出ルモノアルトキハ其ノ事由ヲ質權者又ハ抵當權者ニ通知シ其ノ和解又ハ裁判確定ノ上之ヲ交付スヘシ

第十二號書式

計算書

受取人ナキトキ又ハ受取人受取若ハ署名捺印ヲ其ノ事由	使丁「何」某
右ノ通取扱候也	

「何」市何町大字何番地  
 滯納者「何」某  
 收 入 高  
 差 押 通 貨  
 「何」々「公」賣代金  
 「何」々「公」賣代金  
 支 拂 高  
 督促手数料及滯納處分費  
 督 促 手 数 料  
 「何」々  
 債權者「何」某へ交付額  
 元  
 自「何」年「何」月利子  
 至「何」年「何」月利子  
 滯 納 稅 金  
 「何」稅  
 「何」年何期分  
 「何」稅  
 「何」年何期分  
 滯納者へ還付スヘキ分  
 「何」稅務署長

租稅調定及月割賦課免除額算定方

明治三十二年四月十八日

大藏省訓令第三十一號

〔稅務管理局〕

租稅調定及月額賦課免除額算定方自今左ノ通心得ヘシ  
 一 租稅月割免除額ヲ算出スルニハ全年ノ稅額ニ免除スヘキ月數ヲ乘シ之ヲ十二分スルモノトス  
 二 租稅月割賦課額ヲ算出スルニハ全年ノ稅額ニ賦課スヘキ月數ヲ乘シ之ヲ十二分スルモノトス  
 三 月割ヲ以テ徵收スヘキ稅額ハ各法定納期ニ平分シ調定スルモノトス  
 四 〔租稅各納期分配上厘位未滿ノ端數ニシテ五毛以上ナルトキハ之ヲ壹厘ニ切上ケ五毛未滿ナルトキハ之ヲ切捨終期ニ至リ總額ヨリ既納額ヲ控除シ其殘數ヲ調定スルモノトス〕

郵便法(抜抄)

明治三十三年三月十三日

法律第五十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郵便法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 郵便法

第七條 郵便専用ノ物件及現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス(一項)  
 郵便専用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ(二項)

電信法(抜抄)

明治三十三年三月十四日

法律第五十九號



朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル電信法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

電信法

第十一條 電信若ハ電話專用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス  
前項專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

●税金分納及市町村ヘ納付スヘキ國稅ニシテ督促狀發付以前ノモノ納付方

(明治四十年三月二十八日)  
(大藏省訓令第十三號)

稅務監督局 稅務署

明治三十年大藏省訓令第六十五號左之通改正ス  
納稅人稅金ノ分納ヲ爲サントスル者アルトキハ國稅徵收法施行細則第六條ノ一第二項ニ準シ納付書ヲ交付シ  
金庫又ハ收稅官吏ニ納付セシムヘシ  
市町村ノ徵收スヘキ國稅ニシテ納期限ヲ過キ市町村ヨリ滯納報告後督促狀發付前ニ該稅金ヲ納付セントスル者アルトキハ國稅徵收法施行細則第六條ノ一及同第六條ノ二ニ準據シ金庫又ハ收稅官吏ニ納付セシムヘシ

●市町村徵收ノ國稅ニシテ市町村ノ滯納報告後又ハ督促狀發付後納付方

(明治四十年三月二十八日)  
(大藏省訓令第十四號)

稅務監督局 稅務署 金庫出納役

市町村ノ徵收スヘキ國稅ニシテ市町村ノ滯納報告後又

リ通知有之候ニ付御了知有之度爲念此段及通牒候也

●歲入納付ニ關スル書式寸法ノ文字更正

(明治四十一年五月三十日兵部庶務第六三號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

客月二十八日大藏省令及同省訓令ヲ以テ歲入ノ納付ニ關スル書式等改正相成候處該書式寸法ノ文字ハ領收證及通知書ノ位置變更ニ伴ヒ當然更正相成タルモノト御了知有之度其筋通牒ノ次第ニ依リ及移牒候也

●納稅管理人ノ解釋 (明治三十七年三月)

(主稅局報告第七十九號)

主稅局ヨリ松江稅務監督局ニ通牒 三十七年二月十六日  
貴局下島根縣飯石郡東須佐村長ヨリ別紙ノ通り地租條例施行規則第十六條及國稅徵收法第四條ノ六ニヨリ設定セル納稅管理人ハ共ニ本人ニ代リ土地ノ異動ヲ届出スヘキ義務アルヤ否ヤ伺出候處右ハ單ニ納稅ニ關スル事項ヲ處理スルノ外何等義務ヲ有セサルモノト被存候得共直接伺人ニ對シ指示スルモノニ無之依テ別紙稟同書壹通及御回付候條可然御處理相成候様致度此段及御通牒候也

(別紙)

明治三十二年勅令第一百一號地租條例施行規則第十六條ハ地租ヲ納ムヘキ者其所有地所在地ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ管理セシムル爲メ其市區町村內ニ住居スル者ヲ

ハ督促狀發付後收稅官吏ニ納付ヲ申出タル場合ニ於テ當該箇所ニ金庫ノ派出アリタルトキハ直ニ之ヲ金庫ニ納付セシムヘシ此場合ニ於テハ收稅官吏ハ其ノ納稅告知書ニ督促手續料ノ有無並ニ稅務署經由ノ旨ヲ記載シ且金庫ヨリ歲入徵收官ニ送付スル領收濟通知書ト共ニ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ  
金庫ニ於テ前項ノ納付ヲ受ケタルトキハ納稅告知書ト通知書ト對照シ納金ノ領收ヲ爲スヘシ

●市町村ニ於テ徵收スル租稅ノ納期取扱方

(明治三十五年六月三日兵庫縣廳內一丙)  
(第六四號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

主稅地方兩局長通牒 三十五年四月三十日藏甲第一號國稅徵收法ニ依リ市町村ニ於テ租稅ヲ徵收スル場合ニ於テ往々納稅告知書ニ法定納期限ヨリ多クノ日子ヲ早メテ納期日ヲ記載シ且ツ其期日ニ稅金ヲ納付セサル者ニ對シ書面ヲ以テ又ハ役場ニ召喚シテ督促ヲ爲ス向有之哉ニ候處右ハ可成法定納期限ノ日又ハ其ノ日ニ接近シタル日ヲ以テスヘキ方穩當ト被存候條此旨御示達相成度依命此段及通牒候也

●納稅告知書等書式ノ寸法

(明治四十一年五月二日兵部庶務第四七號內務部長ヨリ郡市長ニ通牒)

納稅告知書、納稅告知書、送付書等歲入納付ニ關スル書類ノ寸法ハ實際區々ニ涉レル趣ノ處右ハ總テ書式ノ輪廓內ノ寸法ニシテ全紙ノ寸法ニアラサル旨主務省ヨ

納稅管理人ト爲シ其市區町村長又ハ戶長ニ申告スヘシトアリ及明治三十年法律第二十一號第四條ノ六ハ納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシトアリ右ニヨリ設定シタル納稅管理人ハ何レモ地租條例施行規則第十五條ニ於ケル土地異動届出ノ義務アルヤ若シ其義務ナシトセハ土地所有者ヨリ之ヲ爲スヘキカ至當ナルヤ果シテ然リトセハ納稅管理人ハ只納稅義務者ニ代テ納稅ノ義務ノミアルモノナルヤ

●市ノ徵收スル國稅ノ納付ニ小切手使用方

(明治三十五年八月)  
(同 第五十九號)

神戸稅務管理局照會 三十五年七月二日  
神戸市長ヨリ小切手納稅ノ件ニ關シ別紙參考書ノ如ク實行致度旨目下縣知事ニ對シ認可申請中ニ有之趣ヲ以テ右實行上ニ關シ内議アリ元來小切手納稅ヲ認ムルハ法規解釋上稍穩當ナラサル哉ノ感ナキ能ハスト雖トモ本市ノ如キ商業地ニ在リテハ納稅者ノ利便不尠ノミナラス別紙方法ニ依レハ敢テ國庫ニ累ヲ及ホスノ虞モアラサレハ別段差支ノ筋無之哉

(別紙ハ第四輯市町村稅ノ部神戸市長ヨリ兵庫縣知事ニ稟申中ノ國稅ニ關スルモノト概テ同様ニ付略)  
主稅局回報 同年七月二十三日  
御見込ノ通何等差支無之市ノ自由ニ任セシメラレ可然



●市稅及市ノ徵收スル國稅ノ納付ニ小切手使用方(明治三十六年七月)

東京市ニ於テ小切手ヲ以テ國稅其他ノ公課ヲ徵收セントスルノ案件ニ關シテハ曩ニ東京稅務監督局ヲ經テ照覆ノ結果這般左ノ通實行ノ運ニ至レル旨六月一日付ヲ以テ同局ヨリ通報アリタリ  
東京市ニ於テ市稅及市ノ徵收スル國稅ノ納付ニ小切手ヲ使用スル件ニ關シ小切手使用規程ヲ定メ五月十四日ヨリ施行相成タル趣同市長ヨリ通知有之候ニ付爲御參考別紙同規程及東京市稅金取扱所ヘノ命令書寫ニ通及御送付候也

東京市告示第五六號

本市會ノ議決ヲ經東京市納付金小切手使用規程左ノ通り之ヲ定ム

明治三十六年五月十三日

東京市參事會

東京市長 松田 秀雄

東京市納付金小切手使用規程

- 第一條 市稅及市ノ徵收スル國稅ノ納付ニ小切手ヲ使用セントスル者ハ此規程ニ依ルヘシ  
但都合ニ依リ其使用ヲ拒ムコトアルヘシ
- 第二條 納稅ニ使用スル小切手ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス  
一 納稅者自己ノ振出ナルコト

第七條 此規程ニ依ル納付ハ郵便遞送ニ付スルコトヲ得ス

○命令書

東京市稅金取扱所

- 國稅市稅及ヒ其他ノ納付金ニ小切手ヲ使用セントスル者アルトキハ左ノ各項ニ依リ收受スヘシ
- 一 法令又ハ本市ノ規程ニ違反スル小切手ヲ收受スルコトヲ得ス
- 二 此命令ヲ遵守セス又ハ小切手ヲ亡失シ若クハ其效力ヲ喪失セシメタル場合ニ於テハ過失ノ有無ニ不拘其責ニ任シ且本市ニ對シ直ニ損害ヲ賠償スヘシ
- 三 小切手ハ之ヲ其日ノ收入金ニ編入スヘシ
- 四 小切手ハ收受ノ日又ハ其翌日(休日ヲ除ク)之ヲ呈示スヘシ
- 五 小切手ニ不渡ノモノアリタルトキハ即日商法第五百三十四條ノ記載ヲ爲サシメ其日又ハ其翌日ノ收入金ヨリ不渡金額ヲ控除シ市役所ニ於テ收受シタルモノハ當該區長ニ之ヲ報告スヘシ此報告ニハ不渡小切手ヲ添付スヘシ
- 六 小切手ヲ收受シタルトキハ納稅告知書賦課令狀預リ證書及ヒ領收證書等ニハ「何銀行支拂何日振出小切手納付」旨ヲ記載スヘシ

二 支拂人ハ銀行營業者ニシテ東京交換所手形交換ニ加盟又ハ加盟者ニ交換ヲ委託シタルモノナルコト

三 東京市ヲ支拂地ト定メタルコト

第三條 前條ノ條件ヲ具備スル小切手ト雖モ左ニ掲クルモノハ之ヲ使用スルコトヲ得ス  
一 稅金額ニ對シ手形金額ノ過剩又ハ不足スルモノ

二 振出日付ヨリ起算シ二日ヲ經過スルモノ

三 納付スヘキ稅ノ期限内ニ呈示シ得ヘキ日數三日ヲ存セサルモノ但市ノ定メタル休日ハ之ヲ算入セス

第四條 此規定ニヨリ小切手ヲ使用シタル者ノ納稅義務ハ手形金額ノ支拂アリタル時ニ完了ス若シ呈示期間内ニ其仕拂ヲ求メサリシトキハ呈示期間満了ノ時ニ於テ納稅義務ハ完了シタルモノト見做ス

第五條 納稅ニ使用シタル小切手ノ支拂人ニシテ其手形金額ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ拒ミタルトキハ其小切手ハ納稅人ニ還付シ之ニ代ルヘキ現金ヲ納付セシム此場合ニ於テハ納稅人ニ交付シタル領收證書ハ支拂ヲ受ケサル全部又ハ一部ニ付キ其效力ヲ生セス

前項ノ場合ニ於テ納付セシムル現金ハ租稅徵收ニ關スル規定ニ依リテ之ヲ徵收ス

第六條 此規程ハ使用料其他市ノ收入ニ之ヲ準用ス

明治三十六年五月十三日  
東京市參事會  
東京市長 松田 秀雄

明治三十六年五月十三日

東京市參事會

東京市長 松田 秀雄

●國稅其ノ他ノ公課ニ關スル納稅告知書

公示送達ノ場所(明治三十九年四月二日兵庫縣廳郡廳第五五號第一部長ヨリ郡市長ニ通牒)

町村ニ於テ國稅ニ關スル納稅告知書ノ公示送達ヲ爲ス場所ニ付テハ其取扱一定セサル向モ有之候處右ノ國稅徵收法施行規則第三十一條ヲ準用シ其公告ハ町村ノ揭示場其他便宜ノ場所ニ爲スヲ相當トスヘキニ付其町村取扱相成度其筋申越ノ次第モ有之候ニ付依命此段及通牒候也

追テ町村其他公共團體ノ諸稅公課ニ關スル公示送達ニ就テモ本文ニ準スヘキ様處理相成度此段申添候也

●國稅滯納處分上差押タル約束手形取扱方

(明治二十八年九月)  
(主稅局報告第四號)

東京府照會 二十八年七月十八日  
國稅滯納處分ニ際シ金若干ノ約束手形ヲ差押ヘ後日之ヲ賣却セントスルニ當リ該手形發行人(即チ支拂人)ハ失踪者ニシテ遺留財產ノ一點モナキモノタルヲ發見シタルトキハ當初處分費及稅金ノ幾分ヲ辨償スルニ足ルノ價格アルモノトシテ差押タルモノト雖モ現ニ其支拂人ノ所在不明ニシテ之カ擔保トナルヘキ財產ナキトキハ全



ク手形ノ効力ヲ失シ一片ノ反古ト等シキモノナレハ之  
カ價格アルヘキ筈ナキニ依リ收入官吏ハ全ク無價ノモ  
ノト認定セリ故ニ此場合ニ於テハ縱ヒ適法ノ差押ヲナ  
シタルモノト雖モ之ヲ解除シ更ニ財產ヲ差押フルカ又  
ハ他ニ財產ナキトキハ(處分法第五條)ニ該當セルモノ  
トシ取扱フヘキハ勿論ナレトモ未タ類例ナキヲ以テ貴  
見承知致度シ

主稅局回答 同年八月一日

他ニ差押フヘキ財產アルトキハ之ヲ差押ユルハ勿論ナ  
レトモ既ニ差押タル約束手形ハ幾分ノ價格ヲ附シ公賣  
處分ヲ爲シ結局買受望人ナキ場合ニハ之ヲ政府へ買上  
ケ且處分ヲ結了シ該手形ニ對シテハ更ニ時効期間ニ振  
出人へ仕拂ノ要求ヲ爲スヘキ筋ナリトス

◎國稅滯納者米國ニ渡航シ遺留財產ナキ

トキ取扱方(明治三十年十二月)  
トキ取扱方(同 第十八號)

東京稅務管理局伺 三十年十二月七日  
東京市寄留某ナル者明治三十年度前期營業稅滯納ニ付  
處分ニ着手セシ處本年五月中渡航米國紐育日本園ニ現  
住ノ趣ニシテ原籍及寄留地ニ於ケル遺留財產毫無之  
右ハ住居判明シアルモ外國居住者ニ對シテハ法規中處  
分方準據スヘキモノ之ナキヲ以テ直ニ國稅徵收法第十  
二條ニ依リ處分ヲ結了シ可然哉  
指令 同年十二月十三日  
營業稅滯納者米國へ渡航ノモノ取扱方ノ件ハ督促狀ヲ

ヲ規定シタルモノナリト解スルモノト裁判所ニヨリ其  
見解ヲ異ニシ徵稅上不便ヲ感シ居候間御省議承知致度  
云々

主稅局回報 同年十二月二日  
右ニ關スル省議ハ御照會前段解釋ノ通り

◎國稅滯納處分ニ依ル差押登記ノ抹消ニ  
關スル取扱方(明治三十七年六月)  
關スル取扱方(同 第八十一號)

主稅局ヨリ民刑局へ照會 三十七年一月二十二日  
國稅滯納處分ニ依ル不動産差押登記ノ抹消ニ付テハ從  
前不動産登記法第三十一條第三項ニヨレハ登記權利者  
ノ申請ヲ要セシヨリ不便不尠候爲メ同法中改正ノ義當  
省大臣ヨリ御協議及候次第モ有之候處其後明治三十五  
年三月法律第三十六號ヲ以テ國稅徵收法ノ一部改正ト  
同時ニ其第二十三條ノ二ノ規定ヲ設ケラレ爾來差押登  
記ノ抹消ニ付テハ權利者ノ請求ヲ要セサル筈ニ有之然  
ルニ仙臺地方裁判所管内ノ或ル登記所ニテハ猶從前ノ  
通り權利者ノ申請ヲ要スルモノト解釋ヲ爲ス向モ有之  
趣仙臺稅務監督局ヨリ由來リ候處右差押登記ノ抹消ニ  
付テハ國稅徵收法ノ規定ニ依據スヘキハ勿論ノ義ト存  
候果シテ御異存モ無之候ハ、右地方ノ登記所ニ對シ可  
然御訓示相成候様致度

右ニ對シ司法省民刑局長ヨリ右差押登記ノ抹消ハ國稅  
徵收法第二十三條ノ二ノ規定ニ依リ登記權利者ノ請求  
ヲ要セス收稅官吏職權ヲ以テ之ヲ囑託スヘキ筈ニ付キ

本人へ送達シ尙ホ納稅セサル場合ニ於テ本國內ニ遺留  
財產等無之トキハ伺ノ通

◎國稅滯納處分方(明治三十一年十二月)  
同 第二十七號

東京稅務管理局請訓 三十一年九月二十六日  
國稅滯納處分ニ方リ俸給ヲ差押フルノ事實ヲ發生セリ  
右ハ徵收法第二十三條及同施行規則第十六條ニ依リ收  
稅官吏ヨリ仕拂命令官ニ對シ債權差押ノ通知ヲ爲スハ  
勿論ナルモ該通知タルヤ即チ差押ヲ爲シタルト同一ノ  
效果ヲ生スルモノトシ徵收法施行規則第二十四條ニ依  
リ別ニ差押調書ノ作製ヲ要セサルヤ  
主稅局通牒 同年十月二十日  
客月二十六日付徵發第二一〇號ヲ以テ國稅滯納處分方  
ノ義ニ付大臣へ請訓ノ件ハ見込ノ通ト存ス  
右依命通牒ス

◎國稅徵收法第二十三條ノ二ノ規定ニ關  
スル疑義(明治三十七年二月)  
同 第七十七號

宇都宮稅務監督局照會 三十六年十一月二十五日  
國稅徵收法第二十三條ノ二ノ「其ノ抹消又ハ變更ニ付  
テモ亦同シ」トアルハ差押登記以後ニ於テ差押登記ノ  
抹消又ハ變更ノ登記ヲ爲スヘキ場合ヲ規定シタルモノ  
ナリト解スルモノト右規定ハ差押登記以前ニ於テモ被  
差押物ノ登記ニ對シ其抹消又ハ變更ノ登記ヲ要スル場  
合ニ徵稅權執行ノ方法トシテ職權上之ヲ爲シ得ルコト

其旨爲念仙臺地方裁判所長へ通牒スヘキ旨回答アリタ  
リ

◎國稅徵收法ニ依ル入札保證金取扱方  
(明治三十七年九月)  
(同 第八十四號)

札幌稅務監督局照會 三十七年七月八日  
一 國稅徵收法施行規則中入札保證金ニ加入、契約ノ  
二種區分セラレタリ其加入保證金ハ代金即納ノ場合  
ヲ除キ落札決定ノ際還付シ更ニ必要ニ應シ代金納付  
ノ擔保トシテ契約保證金ヲ徵スル義ナルヤ將タ加  
入、契約ノ兩保證金ハ領收ノ時期入札前ナルト落札  
後ナルトニ依リ其名稱ヲ異ニスルニ止マリ一旦加入  
保證金ヲ徵セシ上ハ代金納付迄ヲモ擔保セシムル義  
ナルヤ

二 加入保證金ニシテ落札決定ト同時ニ還付スルモノ  
、如キハ現金出納簿ノ記載ヲ省略シ可然ヤ

主稅局回報 同年八月四日

第一 加入保證金ハ落札ニ依リ契約締結ノ際之ヲ還付  
シ契約保證金ハ契約ノ擔保トシテ其締結ノ際之ヲ徵  
ス可シ尤モ合意ニ依リ入札保證金ヲ以テ後者ニ充當  
スルハ妨ケナキ義ト存ス  
第二 省略スルコトヲ得ス

◎國稅滯納處分引續方(明治三十九年五月)  
同 第四百四號

長野稅務監督局照會 三十九年二月六日  
國稅滯納處分ニ依リ差押ヘキ著作權、特許權、意匠權、



〔鑛業權〕等アルトキハ當該稅務署（當初國稅ノ調定ヲ爲シタル稅務署）ニ於テ之ヲ差押ヘ其處分ヲ爲スヘキハ勿論ノ義ト存候得共必要ト認ムル場合ハ國稅徵收法施行規則第十四條ニ準シ滯納者ノ居住所若クハ前記財產權ノ公賣ニ便ナリト認ムル地ノ管轄稅務署ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲シ得ルヤ

追テ差押ヘキ債權アルトキ必要ト認ムル場合ハ債務者居住地ノ管轄稅務署ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲シ得ルヤ  
主稅局回報 同年四月四日

一 著作權、特許權、意匠權、〔鑛業權〕ノ發生移轉消滅ニ付テハ登錄ヲ以テ其必要條件トシ又ハ第三者ニ對スル對抗條件トナスヲ以テ是等財產權ノ所在地ハ登錄地ナリト解スルヲ適當ナリトス從テ登錄地ノ稅務署ニハ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヲ得ルモ其他ノ地方ニハ引繼ヲ爲スヲ得サルモノトス（鑛業權ノ滯納處分ニ限リヘキコトニ省議決定ノ旨四十一）  
一年六月十三日主稅局長通牒

二 前項ノ財產權ニシテ他ノ地方ニ於テ公賣ヲ爲スヲ便ナリト認ムルトキハ普通事務ノ委託ト同ク之ヲ囑託スルハ妨ケナキモノトス  
三 債權ノ處分ニ付引繼ノ件ハ御見込ノ通ニテ可然ト存ス  
右經省議回報候也

◎國稅徵收法ニ依ル差押物件亡失ノ場合ニ於ケル取扱方（明治四十年二月）  
（同 第四百三十三號）

主稅局回報 同年四月十八日  
本月八日付甲第二九七號ヲ以テ財產權ノ差押調書等ノ義ニ付御照會ノ趣了承即左ニ  
第一項 御見込ノ通ニテ可然尙右差押調書ヲ以テ權利者ヘ差押ノ通知ヲ爲ス義ト御了知相成度  
第二項（略）

◎國稅徵收法ニ依ル差押登記囑託ニ關スル取扱方（明治四十年十二月）  
（同 第四百二十二號）

宇都宮稅務監督局照會 四十年一月十二日  
國稅ノ滯納處分ニヨリ差押ヘタル不動産ニシテ相續ニ依リ滯納者ノ所有トナリタルニ拘ハラズ其登記ヲナサ、ル爲メ依然トシテ被相續人ノ名義トナリヨリ登記名義人ノ表示符合セサル故ヲ以テ不動産登記法第四十九條第六號ニヨリ差押登記ヲ拒マル、コト屢々有之租稅徵收上少ナカラサル不便ヲ感シ候ノミナラス他ニ差押フヘキ財產ナキトキハ結局缺損ニ歸スルノ已ヲ得サル場合モ相生シ候間登記原因ヲ證スル書面（差押調書）中ニ相續人滯納ノタメ被相續人名義ノ財產ヲ差押ユル旨ヲ明カナラシメ戶籍簿謄本ヲ添ヘ其事實ヲ證明セハ前述登記名義人表示ノ不一致ハ除却シ得ラル、様被存宇都宮、前橋、水戸ノ各地方裁判所ニ交渉致候處何レモ受理スルヲ得サル旨ノ回答ニ接シ候然シテ前段裁判所ノ回答ヲ解釋上妥當ナリトスルモ民法第四百二十三條ニヨリ

臺灣總督府民政部照會 四十年一月十一日  
國稅徵收法ニ依リ差押タル動產ヲ滯納者又ハ第三者ニ保管セシメタルニ其保管中該動產ヲ保管者ノ懈怠又ハ不可効力ニヨリ亡失シタルトキノ責任ノ歸屬者及滯納金ノ處理方法承知致度云々

大藏次官回報 同年一月三十一日

右ハ政府ト滯納者トノ關係ニ於テハ保管者懈怠ノ結果ハ政府ニ歸屬スヘキヲ以テ滯納處分ノ續行ハ之ヲ中止スルヲ相當トナスヘク又不可効力ノ結果ハ滯納者ノ負擔タルヘキヲ以テ滯納處分ハ之ヲ續行スルモ妨ケナカルヘシ又政府ト保管者トノ關係ニ於テハ保管者ニ懈怠アル場合ハ督促手數料滯納處分費及税金等ヲ限度トシテ損害賠償ヲナサシメ若不可効力ナルトキハ保管者ニ責任ナキモノトスルヲ相當ト被存候云々

◎國稅徵收法ニ依ル差押調書作成方（明治四十年四月）  
（同 第四百十五號）

大阪稅務監督局照會 四十年四月八日  
所有權以外ノ財產權ノ差押ニハ差押調書ヲ要スル旨三十八年六月廣島局ヘ御回答ノ次第モ有之候處右ノ差押調書ハ滯納者其他ノ立會ヲ要セス國稅徵收法施行規則第十號書式ニ準シ稅務署長名義ニテ調製可然哉  
第二項（略）

三十九年法律第五十五號ノ適用ヲ受クルモノトセハ救濟方法ナシト云フヲ得サレトモ政府ハ特別ノ明文ナキニ私法的權利行爲ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤ是又疑問ニ屬シ候免ニ角本作ニ關スル法令ニ於テハ登記ヲ求ムルノ根據充分ナラサルヲ以テ徵收上不都合ヲ生スル次第ニ有之候間貴局ノ御意見ニヨリ司法省民刑局トモ御協議ヲ煩シ相當ノ方法ヲ講セラレ候様致度候  
右及照會候也

追テ前橋地方裁判所長ノ回答書謄本御參照ノタメ添付致候  
（別紙）

本年十月三十一日經第二三〇二號ヲ以テ國稅滯納處分ニヨル不動産差押登記ニ關シ御照會ノ處相續人ニ於テ相續登記ヲ爲サ、ルカ爲メ登記不相成場合ニ於テハ差押登記ノ囑託ニ先タテ又ハ是ト同時ニ本年六月法律第五十五號第一條ニ依リ相續登記囑託相成候ハ、差支無之義ト思考致候此段及回答候也  
明治三十九年十一月二日

前橋地方裁判所長 乾 孚 志  
宇都宮稅務監督局長 楠正篤殿

主稅局回報 同年十一月十五日  
相續登記未濟ノ土地差押登記ノ義ニ付本年一月十二日付經第二九號ヲ以テ御照會ノ趣モ有之其後司法省ヘ交渉中ノ處今般別紙寫ノ通回答有之候ニ付テハ本件ハ將



來ニ於テ法令ニ補足ヲ要スヘキ義ニ候ヘ共差向實際ニ於テハ相續人ノ財産ナルヲ以テ登記面ノ名義ニ依リ差押ノ登記ヲ爲スコトニ取扱フ外無之ト存候此段及回答候也

(別紙)

大藏次官照會 同年三月二十八日

國稅滯納處分ノ爲メ差押登記囑託ニ際シ先ツ滯納者ノ相續登記ヲ要スル場合ニ於テ稅務署ハ國稅徵收法第二十三條ノ三ノ精神ニ基キ昨年法律第五十五號ニ準シ登記所ニ代位相續登記ノ囑託ヲ爲スニ方リ地方ニヨリ或ハ受理シ或ハ受理セラレサル等其取扱區々ニ出テ實際滯納處分ノ執行ニ差支ヲ生スル場合モ有之候處右ハ貴省ノ御意見如何ニ候哉若シ受理スヘカラサルモノトノ御意見ニモ有之候ハ、既ニ完了セシ該代位登記ノ效力及之ニ基キ爲シタル差押登記并落登記等ノ效力ニ付テモ併セテ御意見承知致度此段及御照會候也

司法次官回答 同年十月十九日

本年三月二十八日往第四六二〇號ヲ以テ客年法律第五十五號準用ノ件ニ關シ御照會ノ趣了承客年法律第五十五號ハ民法上ノ代位ニ關スル私法上ノ特別規定ナルカ故ニ公法的干係タル國稅徵收ノ場合ニ之ヲ準用スルコトヲ得サルハ勿論國稅徵收法第二十三條ノ

主稅局回報 四十一年一月十四日

客年十二月二十七日付經第二四七一號ヲ以テ國稅滯納處分ノ囑託ニ關スル件ニ付照會ノ趣了承右ハ貴見ノ通囑託ノ場合ハ包含セサル義ニ有之候

◎被害歳入金ノ時効(明治三十二年九月)

主稅局發議 三十二年九月三日決判

盜難等ニ依リ歳入金ニ損害ヲ被リタル場合ニ於テ國稅徵收法第八條第二項ニ依リ市町村ニ對シ國庫へ送付ノ責任ヲ免除セラレタルモノニ付テハ從來之ヲ不納缺損額ニ編入シ收入官吏ノ取扱ニ屬スルモノ、損害ニ付テハ歳出ヨリ之ヲ補填シ而シテ之カ損害金ハ(明治二十四年訓令第七十九號缺損額臺帳)ニ登記シ置キ要求權ニ關スル事務ノ整理ヲ爲スヘキ取扱ノ處犯人不明等ノ爲メ不起訴ノ場合等ニ於テ會計法ノ時効適用方ノ義ハ先例モ有之ニ付左ノ通り解釋シ可然ヤ  
一 會計法第十九條ノ時効ハ被害當時ノ翌年度ヨリ進行ス但不法行為カ(輕罪犯)ナルトキハ(輕罪)公訴ノ時効ニ從フ

◎租稅徵收取扱方注意(明治三十六年二月二十日)

兵庫縣訓令第十三號

市町村ニ於テ國稅其他一般租稅ノ徵收ヲ爲スニ當リ受

第一輯 國稅 第六章 國稅徵收

三ハ差押登記ノ場合ニ於テ不動産ノ分割又ハ區分ノ登記ヲ囑託スルコトヲ收稅官吏ニ許シタルニ止マル規定ナルカ故ニ其規定ノ明文以外ニ擴張シ差押登記ノ場合ニ代位相續登記ヲモ囑託スルコトヲ得ルモノト解釋スルコトヲ得サルヘシ將又既ニ完了シタル代位登記及之ニ基キ爲シタル差押登記並落登記ノ效力ハ登記官吏カ不動産登記法第四十九條第二號ニ依リ却下スヘキ事件ヲ誤テ登記シタル場合ニ於ケルモノト同様ナルヘキ儀ト思考致候此段及回答候也

◎國稅滯納處分囑託方(明治四十一年一月)

宇都宮稅務監督局照會 四十年十二月二十七日

明治三十九年二月六日長野稅務監督局照會債權差押ノ管轄廳ニ關シ同年四月四日貴局往第三五八九號ノ御回報ニヨレハ債權ノ處分ニ付引繼ノ件見込ノ通リト有之候處省議ノ御趣意ハ滯納者ヲ管轄スル甲稅務署ニ於テ乙稅務署管内ニアル債權者ニ對シ徵收法第二十三條ノ一ニヨリ差押通知ヲ發シタル後ニ至リ債權ノ實行ノミヲ乙稅務署ニ囑託スル場合ヲモ包含スル義ナルヤ將又右ノ例ヲ除外シ法第二十三條ノ一ノ通知及之レニ付爾後ノ處分ヲ一括シテ引繼ヲ爲ス場合ニ制限スヘキモノナルヤ聊カ疑問ニ屬シ候間何分ノ御回報相煩ハシ度

理スヘキ場所ノ狹隘又ハ取扱方ノ不紀律等ニ依リ時間ヲ徒費シ納稅者ヲシテ煩勞ノ感ヲ惹起サシムル向有之候ノミナラス多數ノ納稅人聚集スルニ拘ハララス往々之ニ應スルノ設備ヲ缺キ甚シキニ至テハ終ニ納稅者ヲシテ出頭ノ當日税金納付ノ手續ヲ完了スルコト能ハサラシメ其ノ結果滯納者ヲ出スニ至ル向有之哉ニ相聞候就テハ爾後斯ノ如ク多數ノ納稅者來集スル向ニアリテハ收納スヘキ窓口ヲ増加スルカ如キ相當ノ設備ヲ施シ尙納期日ニ際シテハ便宜從事者ヲモ増加スル等納稅者ヲシテ勞費ヲ節約シ時間ヲ空過セシメサル様一層簡捷ヲ主トシテ取扱候様注意スヘシ

◎市町村ニ於ケル國稅徵收事務改善ニ關シ

稅務署ト協議方(明治三十六年十二月二十五日兵庫縣訓令第四二五四號一市ハ四二五四)

町村ニ於ケル國稅徵收上ノ成績ハ近來一般ニ不良ノ傾アリ之カ改善ニ關シテハ相當留意施設相成候儀トハ存候得共近頃神戸稅務監督局ニ於テモ此ノ點ニ關シ管内稅務署長ニ示達シ町村長ニ協議ヲ遂ケシメ徵稅ニ關スル諸帳簿ノ整理ヲ促シ又納稅組合ノ組織ヲ勸誘スル等令向獎勵中ノ趣ニ有之就テハ(右邊ニ關シ自然稅務署長ヨリ)協議有之候ハ、相當便宜ヲ與ヘ一層改善ノ實ヲ舉クル様御計畫相成度依命此段及通牒候也



### ●租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル制

(明治四十年四月十日法律第三十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法令ノ規定ニ依リ國稅ヲ徵收セラルヘキ者又ハ其ノ者ノ財產ニシテ其ノ法令施行地外ニ在ルトキハ當該官吏ハ本人又ハ財產所在地ノ當該官吏又ハ吏員ニ其ノ徵收ヲ囑託スルコトヲ得

### ●租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託方

(明治四十年十月主稅局報告第二百一十一號)

廣島稅務監督局照會 四十年九月十八日  
本年法律第三十四號適用上ニ關シ左記事項御意見承知致度此段及御照會候也

一 國稅ヲ徵收セラルヘキ者又ハ其ノ者ノ財產ニシテ其ノ法令施行地外ニ在ルトキハ國稅ノ外督促手數料、滯納處分費ニ就テモ又徵收處分ヲ囑託シ得ヘシトノ說ヲ爲スモノアルモ法第一條ハ明ニ國稅ト限定シアル

ニ於テハ直ニ滯納處分ヲ執行スヘキモノトス  
右回報候也

### ●租稅其ノ他ノ歲入金代用證券

取扱方ニ關スル制 (明治三十八年二月十七日勅令第三十四號)

朕租稅其ノ他ノ歲入金ノ代用證券取扱ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
租稅其ノ他ノ歲入金ノ代用トシテ證券ノ納付ヲ受ケタル場合ニ於テハ收入官吏及金庫ヲシテ現金ニ準シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

### ●國債證券及其ノ利札ヲ以テ租稅其ノ他ノ歲入金ニ代用納付

方 (明治三十八年二月十八日勅令第三十七號)

第一條 無記名國債證券ハ其ノ元金償還期ノ開始前日以後無記名國債證券ノ利札ハ其ノ利子仕拂期ノ開始前日以後ニ於テ租稅其ノ他ノ歲入金ノ全部又ハ一部ニ代用納付スルコトヲ得

前項ノ租稅其ノ他ノ歲入金ハ其ノ種目ヲ定メ別ニ之ヲ告示ス  
第二條 前條若ハ他ノ特別ノ規定ニ依リ代用納付ヲ許サレタル證券ヲ以テ租稅其ノ他ノ歲入金ヲ納付セントスル者ハ國債證券及利札ニ在リテハ其ノ證券又ハ利札其ノ他ノ證券ニ在リテハ證券ノ種類番號金額仕

ヲ以テ國稅ノ外ハ囑託スヘカラサルモノナルヤ

二 前項見解ノ通りトセハ法令施行地ニ於テ督促ヲ發シ又ハ滯納處分執行中囑託ヲ爲ス場合ニ於ケル督促手數料、滯納處分費ハ法令施行地ニ於テハ減額スヘキモノナリトノ說アルモ囑託以前正當ニ爲シタル手續カ囑託ノ爲メ消滅スヘキ理ナキハ勿論ナルヲ以テ法令施行地ニ在ル財產ヲ限度トシテ徵收シ不足分ハ繰越又ハ滯納處分ノ執行ヲ中止スヘキモノナルヤ

三 法第一條第二項ハ囑託ヲ受ケタル地ノ當該法令ニ依ルトアルカ故ニ囑託ヲ爲シタル地ノ法令ニ依リ已ニ納稅ノ告知若クハ督促ヲ爲シタル後ト雖モ更ニ囑託ヲ受ケタル地ノ法令ニ依リ相當ノ手續ヲ爲スニアラサレハ滯納處分ヲ執行スヘカラスト說ク者アリ然レトモ法律第三十四號ハ相互法令ノ連絡ヲ謀リタルモノト認メラル、ノミナラス囑託ヲ受ケタル地ノ法令ニ依リ更ニ相當ノ手續ヲ爲スノ必要アリトセハ其者ノ財產ノミ法令施行地外ニ在ルトキハ途ニ徵收スルコト能ハサルニ至ルヲ以テ此場合ニ於テハ直ニ滯納處分ヲ執行シ得ヘキモノト解シ差支ナキヤ

主稅局回報 同年十月五日  
一 督促手數料、滯納處分費ハ滯納稅金ト共ニ囑託シ得ルモノトス  
二 受託地ニ於テハ納稅ノ告知又ハ督促ヲ爲スヲ得ヘシト雖モ已ニ告知又ハ督促ヲ爲シタルモノハ受託地

### ●拂期日及仕拂場所ヲ記載シタル納付書

指定ノ場所ニ納付スヘシ

第三條 國債證券及利札ノ代用價格ハ其ノ證券及利札ニ依リ仕拂ヲ受ケタルコトヲ得ヘキ金額ニ依ル  
所得稅法施行規則第三十五條ノ規定ハ國債證券ノ利札ヲ租稅其ノ他ノ歲入金ニ代用納付スル場合ニ之ヲ準用ス

第四條 金庫、收入官吏又ハ市町村(市町村制ヲ施行セザル地方ニ於テ國債證券及利札ノ代用納付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ證券及利札ニ代用納付ノ印ヲ捺捺スヘシ  
第五條 收入官吏又ハ市町村ニ於テ代用證券ノ納付ヲ受ケタルトキハ毎日之ヲ取纏メ納付仕譯書ヲ作り拂込書ヲ添ヘテ翌日マテニ金庫ニ拂込ムヘシ此場合ニ於テハ現金出納簿ニ其ノ受拂額ヲ登記スルモノトス

第六條 金庫ニ於テ收入官吏市町村又ハ納人ヨリ代用證券ヲ領收シタルトキハ現金ト同一ニ整理シ直ニ仕拂場所ニ就キ仕拂ヲ受ケルノ手續ヲ爲スヘシ  
第七條 代用納付ノ押印アル國債證券及利札ニ對スル元利金ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ金庫ヨリ請求アリタル場合ニ限リ仕拂ヲ爲スモノトス



第八條 特別ノ規定ニ依リ代用納付シタル證券ノ仕拂ヲ拒絶セラレタル場合ニ於テハ金庫ハ其ノ證券ヲ直ニ收入官吏市町村又ハ納人ニ還付スヘシ

收入官吏又ハ市町村ニ於テ前項ノ還付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ納人ニ通告スルト同時ニ更ニ相當ノ期日ヲ定メテ現金納付ヲ命ジ之ト引換ニ該證券ヲ還付スヘシ第五條第二項ノ場合ニ於テ收入官吏又ハ市町村カ代用證券ノ仕拂ヲ拒絶セラレタル場合及金庫ヨリ直接ニ納人ニ還付スル場合ニ在リテモ亦同シ

第九條 前條ノ場合ニ於テ納人カ指定ノ期日内ニ現金ヲ納付セサルトキハ金庫又ハ收入官吏ハ其ノ收入額ヲ取消シ直ニ之ヲ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第十條 (削除)

第十一條 國債證券及利札ノ代用納付ニ付テハ其ノ納付ノ時ヲ以テ元利金仕拂ノ請求ヲ爲シタルモノト看做ス

◎代用國債證券及利札ニ押捺ス  
ヘキ代用納付印及押捺方

(明治三十八年二月二十三日)  
(大藏省訓令第十五號)

北海道廳 府縣 收入官吏  
金庫出納役 日本銀行

明治三十八年二月二十三日  
大藏省令第七號第四條ニ依リ金庫、收入官吏及市町村、地方官ニ於テ代用國債證券及利札ニ押捺スヘキ代用納付ノ印ハ左ノ雛形ニ依リ調

製シ證券及利札ノ表面ニ朱肉ヲ以テ押捺スヘシ但シ其表面ニ於ケル印章及赤色ノ文字ニ掛ラサル様押捺スルコトヲ要ス

代用納付	字體 楷書
	寸法 縱九分 橫四分五厘

◎法令ノ規定ニ依リ國庫ニ於テ收入スヘキ代用證券取扱方

(明治三十八年三月二十四日)  
(大藏省訓令第二十三號)

北海道廳 府縣 收入官吏  
金庫出納役

法令ノ規定ニ依リ國庫ニ於テ收入スヘキ代用證券取扱方左ノ通相定ム

一 金庫ニ於テ支拂ヲ拒絶セラレタル代用證券ヲ收入官吏又ハ市町村、市町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戶長又ハ所ノ公共團ニ還付スルトキハ之ト引換ニ其證券ノ名稱、額面、種類、枚數、記號、番號等ヲ詳記シタル領收證書ヲ徵スヘシ

二 前項ノ場合ニ於テ收入官吏又ハ市町村カ隔地ナルトキハ金庫ハ適宜ノ送付書ヲ作り之ニ代用證券ヲ添ヘ書留郵便又ハ其他ノ確實ノ方法ニ依リ送付シ送付書ノ原符及其送付ヲ證スヘキ書類ハ之ヲ金庫ニ保存スヘシ

三 前項ニ依リ收入官吏又ハ市町村ニ於テ代用證券ヲ受領シタルトキハ第二項ニ準シ領收證書ヲ金庫ニ送付スヘシ

四 收入官吏又ハ市町村ニ於テ金庫ヨリ仕拂ヲ拒絶セラレタル代用證券ノ還付ヲ受ケ納人カ指定ノ期日内ニ現金ヲ納付シタルトキハ適宜ノ拂込書 何年何月何日分代用證券還付ニ付納人何某ヨリ作り速ニ之ヲ金庫ヘ拂込リ現金納付ノ旨ヲ記入スルコトヲ要ス

五 前項ノ期日内ニ納人カ現金ヲ納付セサルトキハ收入官吏又ハ市町村ハ直ニ其旨ヲ金庫ニ通知スヘシ

六 金庫ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ彙ノ記帳ヲ取消シ其旨歳入徵收官ヘ報告スヘシ

◎國債證券及其ノ利札ヲ以テ代用納付シ得ヘキ租稅其ノ他ノ歳入金種目

(明治三十八年二月二十三日)  
(大藏省告示第四十四號)

明治三十八年二月二十三日  
大藏省令第七號第一條ニ依リ國債證券及利札ヲ以テ代用納付シ得ヘキ租稅其ノ他ノ歳入金ノ種目左ノ通之ヲ定ム

- 地租
  - 所得稅
  - 營業稅
  - 酒稅
  - 醬油稅
- 沖繩縣酒造免許稅ヲ除ク

賣藥營業稅  
鑛業稅  
取引所稅  
相續稅

◎證券ヲ租稅其ノ他ノ歳入金ニ代用納付方

(明治三十八年四月)  
(主稅局報告第九十一號)

東京稅務監督局照會 三十八年三月十五日  
證券ヲ租稅其他ノ歳入金ニ代用納付スルコトニ關シ東京市役所ヨリ別紙寫ノ通照會有之候ニ付一應御意見承知致度云々

別紙東京市役所  
別紙會發第五八二號

本年勅令第三十四號及大藏省令第七號ヲ以テ歳入金ノ代用トシテ證券納付ニ關スル規定發布セラレ該省令第四條以下ヲ通覽スルニ市町村ニ於テモ亦省令第一條ノ證券ヲ收受スヘキモノ、如シ然ルニ勅令ニ於テハ收入官吏及金庫ヲシテ云々ト規定セラレ特ニ市町村ノ文字ナキト省令第五條第一項末段現金出納簿ニ云々市町村出納簿ヲ設クヘノ文字ヨリ之ヲ推スルニ市町村ニ關シテハ追テ勅令又ハ法律ニ依リ規定セララル、迄ハ證券代用納付ヲ受ケシメサル御主旨ニ可有之ト被存候ヘ共聊カ疑義ニ涉リ候條至急何分ノ御指示



相成度云々

主稅局回報 同年三月二十四日  
本月十五日付第一九四號ヲ以テ證券ヲ歳入金ニ代用納付ノ義ニ付御照會ノ趣了承右ハ市町村ハ證券ノ代用納付ヲ受ケタルトキハ市町村ニ備フル處ノ現金ノ受拂ヲ登記スル帳簿ニ受拂ヲ記入スヘシトノ義ニシテ即市町村ハ該省令ノ規定ニ依リ全然代用證券ノ取扱ヲ爲サ、ルヘカラサル義ニ有之勅令第三十四號ハ收入官吏又ハ金庫ノ事務ニ關シ會計規則ニ對スル例外ノ規定ニ候間右ニ御了知相成度云々

●國債證券及其ノ利札ヲ以テ租稅其ノ他ノ歳入金ニ代用納付方ニ關スル注意

(明治四十年五月十四日郡市長會同ニ於テ兵庫縣知事訓示)

元金及利子仕拂期ノ開始セル無記名國債證券ノ利札ヲ以テ租稅其ノ他歳入金ノ全部又ハ一部ニ代用納付スルノ途ニ明治三十八年二月以來開カレアルモ納稅義務者中往々之ヲ知了セサル者アルカ如シ依テ適宜ノ方法ニ依リ一般ニ普及知了セシメラル事  
右ニ關スル法令ハ左ノ如シ  
一 租稅其他ノ歳入金ノ代用證券取扱ニ關スル件  
明治三十八年二月勅令第三十四號  
一 元金及利子仕拂期ノ開始セル無記名國債證券同利札ハ租稅其他ノ歳入金ニ代用納付スルコトヲ得ル件  
明治三十八年二月大藏省令第七號

一 國債證券及利札ヲ以テ代用納付シ得ヘキ租稅其他歳入金ノ種目  
明治三十八年二月大藏省告示第四十四號

●國庫出納上一錢未滿ノ端數計算

算ニ關スル制(明治四十年三月三十日) 改正(四一號)  
(局報告第百十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
第一條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツ國稅ノ課稅標準額ニ付テモ亦同シ  
第二條 法令ノ規定又ハ行政上ノ處分ニ依リ分納ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ分納額ニ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ其ノ端數ハ最初ノ納期ノ分納額ニ合算ス  
第三條 地租ノ稅額ニ付テハ前二條ノ規定ヲ適用セス其ノ稅額及毎納期ノ分納額ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ五厘トシテ計算ス  
第四條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ其ノ全額一錢未滿ノモノハ之ヲ五厘トシテ計算ス  
國庫ノ收入金ニシテ收入印紙又ハ郵便切手ヲ以テ納メシムルモノニ付テハ第一條及前項ノ規定ヲ適用セス  
一筆ノ土地ノ地價ニシテ其ノ全額一錢未滿ノモノハ切上ケテ一錢トス

前三項ノ外國庫ノ收入及仕拂上本法ノ規定ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第五條 本法ハ明治四十年度分ヨリ之ヲ適用ス  
第六條 明治三十五年法律第二十二號ハ明治四十年度分ヨリ之ヲ適用セス但シ土地臺帳ニ登錄シタル地價ニシテ同法第七條ノ規定ニ依リ更正ヲ了セサルモノニ付テハ仍同法ノ規定ヲ適用ス  
第七條 本法ノ規定ハ府縣市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ租稅及公課ニ之ヲ準用ス

●課稅標準額及稅額計算制(抜抄)

(明治三十五年三月十二日法律第二十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル課稅標準額及稅額計算ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

附則

第七條 土地臺帳ニ登錄シタル地價、地租ハ漸次本法ニ依リ更正ス

●國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル法律ノ規定ヲ適用セサル種目

(明治四十年三月三十一日勅令第九十八號)

朕明治四十年法律第三十一號第四條(第二項)ニ依ル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
國庫ノ收入及仕拂中左ニ掲クル種目ニハ明治四十年法

律第三十一號ノ規定ヲ適用セス  
(左掲種目ハ市町村徵收ノ國稅ニハ關係ナキヲ以テ略)

●明治四十年法律第三十一號第七條ニ依ル公共團體ノ指定

(明治四十年六月二十六日勅令第二百四十五號)

朕明治四十年法律第三十一號第七條ニ依リ公共團體ヲ指定スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
明治四十年法律第三十一號第七條ニ依リ公共團體ヲ指定スル左ノ如シ  
水利組合  
沖繩縣ノ區及(間切島)  
北海道ノ區及土功組合  
附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國庫出納上一錢未滿ノ端數計算取扱方

(明治四十年四月主稅局報告第百十五號)

●丸龜稅務監督局照會 四十年四月六日  
本年法律第三十一號ヲ以テ國庫出納上一錢未滿ノ端數計算方公布相成候ニ付テハ左記ノ事項ニ對スル御意見承知致度此段及照會候也  
一 (略)  
●二 附則第六條但書ニヨレハ土地臺帳ノ地價ニシテ厘位ヲ存スルモノハ將來更正ノ時ニ於テ仍三十五年法



律第二十二號第一條ノ規定ヲ適用スヘキ主旨ナルヤ  
三 (略)

主稅局回答 同年四月十九日

本月六日直第三四〇號ヲ以テ本年法律第三十一號ニ關  
スル取扱方ニ付御照會ノ趣了承

第一項第三項(略)

第二項第一條及第五條七條ヲ適用スヘキモノトス  
右及回答候也

●神戸稅務監督局照會 四十年四月五日

本年三月法律第三十一號ヲ以テ國庫出納上一錢未滿ノ  
端數計算ニ關スル件公布相成候處右取扱方左ニ

一、二 (略)

三 營業稅額ヲ定ムル場合ニ於テ或ル課稅標準ニ稅率  
ヲ乘シテ算出シタル金額ニ一錢未滿ノ端數アルトキ

ハ本法第一條ヲ準用シ各課稅標準毎ニ其端數ヲ切捨  
ツルコト

四 地租及營業稅ノ過誤納拂戻金額ヲ算出シテ定ムル  
場合ニ在リテモ亦第一項及第三項ノ例ニ依ルコト

五 本法第五條ノ規定ハ明治四十年度所屬以後ノ收入  
又ハ支拂額ヲ定ムルモノニハ總テ之ヲ適用スヘキ義

ト解シ例ハ明治四十年四月一日以後ニ於テ既往年  
度ニ屬スル地租其他租稅ノ賦課漏ヲ發見シテ之ヲ追

徵シ又ハ既往年度ニ屬スル地租其他租稅ノ過誤納額  
ヲ算出シテ定ムル場合ニモ之ヲ適用スルコト但シ明

治三十九年分第六期田租ノ既定納額ハ之ヲ變更セザ

ルモ第五期納期經過後第六期納期開始前ニ於テ地價  
ノ異動ニ因リ第六期ノ納租額ヲ算定スル場合ニハ本  
法第三條ノ規定ニ依ルコト

右ノ通取扱可然ト存候得共各地一定ヲ要スル義ニ付貴  
見承知致度

主稅局回答 同年四月二十四日

本月五日直第一六四二號ヲ以テ本年法律第三十一號ニ  
關スル取扱方ニ付御照會ノ趣了承左ニ

第一項第二項(略)

第三項第五項見込ノ通但シ地租第六期分ニ付テハ別ニ  
何分ノ示達アルヘキ筈

第四項更ニ詳細御申出有之度  
右及回答候也

●國庫出納上一錢未滿ノ端數計算取扱方

(明治四十年五月同  
報告第百十六號)

●大分縣照會 四十年四月二十二日

同一人ニ錢位未滿ト以上ト二口ノ徵收金アルトキ端數  
アル納入告知書ヲ發シ差支ナキヤ

主稅局回答 同年四月二十九日

數口ノ徵收金ハ合計金額ニ付厘位ヲ切捨納入告知書ヲ  
發セラレ可然

●新潟縣照會 四十年五月八日

本年法律第三十一號ヲ以テ國庫ノ收入金及仕拂金ニシ

テ一錢未滿ノ端數ハ切捨テノ事ニ定メラレ候處御省主  
管ノ收入金取扱上左記事項ニ付疑義有之候條御回示相  
煩度

一 四十年度所屬ノ收入金ニシテ厘位迄ヲ計算シ誤テ  
徵收セシ場合ハ其儘差置誤納トシテ還付ノ請求アル  
モ還付スヘキモノニ無之候哉

二 (略)

主稅局回答 同年五月十六日

本月八日付一會收第二五九一號ヲ以テ收入ノ錢位未滿  
切捨ノ義ニ付御照會ノ趣了承即左ニ

第一 還付スヘキモノト存候

第二 (略)

●大阪府照會 四十年四月二十二日

本年法律第三十一號錢位未滿ノ端數切捨ノ件ニ關シ左  
記ノ廉御意見來知致度候條何分ノ御回報相煩度

一 本法第四條ニ金額一錢未滿ノモノニハ第一條ノ規  
定ヲ適用セスト有之假令ハ年額料金拾錢五厘ノ地所

貸下料ヲ中途返地ノ事由ニ依リ一ヶ月分徵收スルト  
キハ金八厘七毛餘ト相成此場合ニ年額料金拾錢五厘

ヲ全額ト見做ストキハ徵收シ能ハサルコト、ナリ一  
ヶ月分料金八厘七毛餘 厘位未滿ノ端數ハ四拾五ヲ全額ト

見做ストキハ徵收シ得ルコト、ナル右ハ後段ニ依リ  
取扱可然哉

主稅局回答 同年五月三日

本月二十二日付國乙第七五二三號ヲ以テ錢位未滿切捨

ノ義ニ付御照會ノ趣了承右ハ月割ト年額トヲ問ハス現  
ニ徵收スヘキ金額ヲ全額ト見做スヘキモノニ候間御申  
越ノ月割額ハ徵收セラルヘキモノト存候尙厘位ノ算定  
ニ付テハ四捨五入ヲ爲サス毛位ハ切捨ツヘキモノト存  
候

●過納税金ニ關シ法律第三十一號適用方(同上)

(照會官廳ヲ缺ク) 四十年五月一日

本年法律第三十一號施行前ニ於テ過納トナリタル稅額  
ヲ計算スルニ方リ其過納ノ事實ヲ發見シタルトキカ同

法施行後ナルトキハ法律第三十一號ヲ適用スヘキヤ又  
縱令過納ノ事實ヲ發見シタルトキカ同法施行後ナリト

雖モ同法施行前ノ過納ナルトキハ其當時ノ計算法ニ依  
リ算出シ置キ債主ノ請求ニヨリ仕拂ノ際法律第三十一

號ヲ適用スヘキヤ至急何分ノ御回示相成度

追テ本文前段見解ノ通りナレハ過納額計算ニ當リ先  
ツ正當賦課額ヲ計算シテ過納額ヲ定ムル場合ニ於テ

其正當賦課額ノ計算ハ法律第三十一號ヲ適用スヘキ  
ヤ又ハ課稅當時ノ計算法ヲ適用スヘキヤ聊カ疑義ニ

涉リ候條併テ及御問合候也

主稅局回答 同年五月十六日

本月一日甲第四一三號ヲ以テ過納額算出上法律第三十  
一號適用方ノ義ニ付御照會ノ趣了承右ハ後段御見込ノ  
通ニテ可然存候



◎國債證券及利札ノ代用價格算定並右利子金額ヨリ控除スヘキ所得稅額計算方

明治三十八年大藏省令第七號第三條國債證券及利札ノ代用價格算定上利子金額ニ付テハ本年法律第三十一號ヲ適用スルノ限リニ無之又利子金額ヨリ控除スヘキ所得稅額ニ付テハ該法律ヲ適用シ利札壹枚毎ニ計算スルコトニ省議決定相成候旨大藏次官ヨリ通牒有之候條御了知ノ上貴廳收入官吏及御部内各町村ヘモ御通達相成度此段及通牒候也

◎國庫出納上一錢位未滿ノ端數計算取扱方

本年法律第三十八號ヲ以テ一錢未滿端數計算ニ關スル件發布相成候處毛位以下ノ場合 假令拾壹錢九ニ於テモ錢位未滿ハ五厘トシテ計算スヘキコトニ決定相成候旨其筋ヨリ通牒有之候條御了知相成度此段及移牒候也 追テ本文ニ抵觸スル從前ノ通牒及回答等ハ總テ消滅ノ義ト御承知相成度爲念申添候也

◎地租拂戻額算定方(明治四十一年六月主稅)

長野稅務監督局照會 四十一年五月九日 地租ノ拂戻額ヲ定ムルニハ四十年法律第三十一號第一條ヲ適用セサル旨客年四月鹿兒島局照會ニ對スル大臣官房會計課長ノ回答並ニ同年五月大阪局照會ニ對スル

市町村交付金ハ所屬年度間左記ノ區分ニ依リ稅務署長ヲシテ徵稅簿ニ基キ每稅目市町村ノ實收合計金額ヲ報告セシメ之レニ依リ交付ノ手續ヲ爲スヘシ 四月ヨリ九月迄(所屬年度ハ金庫) 十月ヨリ三月迄(納付済ノ月ニ因ル) 各翌月十五日以内

◎市町村ニ備フヘキ國稅金ノ收納ニ關スル帳簿(明治三十七年七月十五日)

明治二十七年十一月兵庫縣訓令第七十六號及同三十二年四月同訓令第四十七號中市町村ニ備フヘキ國稅金ノ收納ニ關スル帳簿様式別冊ノ通り改正ス但當分ノ内從來使用セル帳簿ヲ費用シ改正ノ趣旨ニ準シ整理スルモ妨ケナシ(別冊) (用紙美濃紙)

地租名寄帳	何市役所
	何郡何町(村)役場

凡例

一 田租、郡村宅地租、市街宅地租及雜地租(田、郡村宅地ノ土地ニ係ル地租ノ四科目ニ區分シ甲號様式ニ倣ヒ納期毎ニ現在額ヲ整理スヘシ但前納期後異動ナキモノハ重テ現

貴局ノ回答有之右ハ同法第三條ヲ準用スルノ御趣旨ト被存候ニ付本年法律第三十八號ヲ以テ同法第三條ヲ改正セラレタル結果爾後地租ノ拂戻額 法律第三十一號第三條トナリハスニ壹錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ五厘トシテ計算シ可然ヤ 主稅局回答 同年六月三日 五月五日經乙第五二二三號ヲ以テ地租ノ拂戻額算定方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ御見込ノ通有之候

◎國稅中市町村ニ於テ徵收スヘキ稅目(明治三十年六月二十二日)

- 一 諸稅ハ市町村ニ於テ徵收スヘシ
- 二 營業稅
- 三 家用醬油稅
- 四 賣藥營業稅
- 五 (北海道地方稅)

本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

◎市町村徵收ノ國稅金ニ對スル交付金

交付手續(明治三十一年四月十九日) 大藏省訓令第二十八號 (稅務管理局)

在額ヲ揭記スルヲ要セス

- 一 地租納稅者ニシテ其ノ土地所在ト同縣内ノ者ハ其ノ縣名、同郡市内ノ者ハ其ノ郡市名、同町村内ノ者ハ其ノ町村名ヲ記載ラ省略スヘシ
- 二 地租納稅者ニシテ其ノ土地所在ノ市町村外ニ住所ヲ有ル場合ニ於テ明治三十二年三月勅令第百一十一號第十六條ニ依リ納稅管理人ノ届出アリタルトキハ其ノ住所氏名ヲ納稅者ノ左傍ニ朱書併記スヘシ
- 三 相續ノ場合ニ於テ被相續人ノ所有地全部ヲ相續シタルトキ又ハ住所、氏名、納稅管理人等異動ノトキハ改製スルヲ要セス適宜其ノ異動ノ廉ヲ更正シ且其ノ事由及年月日ヲ附記スヘシ
- 四 雜地租中ノ地目變換又ハ地類變換等ニシテ地目ノ組換ニ止マルモノハ直ニ其ノ地目ヲ更正スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ其ノ事由ヲ摘要欄ニ記載スヘシ
- 五 地目ノ欄ハ雜地租中ノ每地目ヲ記載シ其ノ他ハ記載ラ省略スヘシ
- 六 地租ノ欄ハ現在額ヲ整理スル場合ニ於テノミ記載スルモノトス
- 七 所有權ノ移轉、質權設定及荒地成又ハ地租ヲ課セサル土地トナリタルモノニシテ其ノ地價ノ消滅スルモノ若ハ分割、合併其ノ他異動ニ對スル原地ハ朱抹スルモノトス
- 八 地價ノ減消スルニアラスシテ地租ヲ免除セラレタルモノハ現在額ノ前欄ニ其ノ段別地價ヲ朱書シ現在



















會計法(抜抄)(明治二十二年二月十一日) 改正(三五) 年第四七號 第四八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル(一項)

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年內ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年內ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第二輯 縣稅及賦金

第一章 縣稅

府縣制(明治三十三年三月十六日) 改正(四一年) 法律第六十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル府縣制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣制

第一章 總則

第一條 府縣ハ從來ノ區域ニ依リ郡市及島嶼ヲ包括ス 第二條 府縣ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍內ニ於テ其ノ公共事務並從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 府縣ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣ノ境界ニ涉リテ郡市町村境界ノ變更アリタルトキハ府縣ノ境界モ亦自ラ變更ス所屬未定地ヲ市町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ內務大臣ハ關係アル府縣郡市參事會及町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

第四條 府縣會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス 選舉區ハ郡市ノ區域ニ依ル但シ東京市京都市大阪市

第二輯 縣稅及賦金 第一章 縣稅

其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區ノ區域ニ依ル

第五條 府縣會議員ハ府縣ノ人口七十萬未滿ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬未滿ハ五萬ヲ加フル毎二一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎二一人ヲ増ス

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ數ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム 前項議員ノ配當方法ニ關スル必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

第六條 府縣內ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣內ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有ス

府縣內ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣內ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス 家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

府縣會議員ハ住所ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同府縣內ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ



府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

- 一 其ノ府縣ノ官吏及有給吏員
- 二 檢事警察官吏及收稅官吏
- 三 神官僧侶其ノ他諸宗教師
- 四 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

選舉事務ニ關係アル官吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

府縣ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ府縣ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ府縣ノ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス

府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼スルコトヲ得ス

第七條 府縣會議員ハ名譽職トス

府縣會議員ノ任期ハ四年トス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 府縣會議員中關員アルトキ及府縣會議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲議員ノ選舉ヲ要スルトキハ三箇月以内ニ之ヲ行フヘシ

トヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確定名簿ハ次年ノ十二月十四日マテ之ヲ据置クヘシ

府縣參事會ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ修正スヘシ

本條ニ依リ郡市長ニ於テ名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ要領ヲ告示シ郡長ハ本人住所地ノ町村長ニ通知シ町村長ハ之ヲ告示スヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ヲ除ク外本條第一項ニ依リ選舉セラレタル議員ハ次ノ改選期マテ在任ス

第九條 町村長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ其ノ町村内ノ選舉人名簿二本ヲ調製シ其ノ一本ヲ十月一日マテニ郡長ニ送付スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ合シ毎年十月十五日マテニ其ノ選舉區ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第十條 市長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ十月十五日マテニ其ノ選舉區ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第十一條 選舉人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ九月十五日マテニ當該行政廳ノ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ市町村長ニ届出ツヘシ其ノ期限内ニ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

第十二條 郡市長ハ十月二十日ヨリ十五日間其ノ郡市役所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登錄セラレサルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ郡市長ニ申立ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡市長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項郡市長ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十三條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉ヲ行フヘキ選舉區投票ヲ行フヘキ日時及選舉スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ選舉ノ日ヨリ少クとも二十日前ニ之ヲ發スヘシ

第十四條 府縣會議員ノ選舉ハ郡市長之ヲ管理ス

第十五條 投票所ハ市役所町村役場又ハ市町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ市町村長其ノ事務ヲ管理ス

前項投票所ハ市町村長ニ於テ選舉ノ日ヨリ少クとも五日前ニ之ヲ告示スヘシ

特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ二箇以上ノ投票所ヲ設ケ其ノ投票ニ關シ特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第十六條 市町村長ハ臨時ニ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ投票立會人二名乃至四名ヲ選任スヘシ

投票立會人ハ名譽職トス

第十七條 選舉人ノ外投票所ニ入ルコトヲ得ス但シ投票所ノ事務ニ從事スル者投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス



對照ヲ經投票簿ニ捺印シ投票スヘシ  
選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ  
投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス  
自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス  
投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

第十九條 投票ノ拒否ハ投票立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ市町村長之ヲ決スヘシ

第二十條 市町村長ハ投票簿ヲ製シ投票ニ關スル顛末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第二十一條 投票ヲ終リタルトキハ町村長ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ直ニ投票函及投票簿ヲ選舉會場ニ送致スヘシ

第二十二條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ對シテハ府縣知事ハ適宜ニ其ノ投票期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第二十三條 選舉會ハ郡役所市役所又ハ郡市長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ

前項選舉會ノ場所ハ郡市長豫メ之ヲ告示スヘシ  
第二十四條 郡長ハ各投票所ヨリ參會シタル投票立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉立會人二名乃至六名ヲ定ムヘシ

市長ハ選舉人中ヨリ選舉立會人二名乃至六名ヲ選任

者ヲ取リ同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

同時ニ補關員數名ヲ選舉スルトキハ投票ノ數多キ者、投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補關ト爲シ同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第三十條 選舉長ハ選舉簿ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二名以上ト共ニ之ニ署名シ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉ノ效力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十一條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選舉簿ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ申立ツヘシ  
一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

定期改選増員選舉補關選舉等ヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ數選舉ニ當リタルトキハ前項ノ例ニ依ル

前三項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス  
第六條第七項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ

スヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス  
第二十五條 郡市長ハ選舉長ト爲リ郡ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日市ニ於テハ投票ノ翌日選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉簿ニ記載スヘシ但シ場合ニ依リ選舉會ハ郡ニ於テハ投票函到達ノ日市ニ於テハ投票ノ日之ヲ開クコトヲ得

前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第二十六條 選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十七條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス  
一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ  
二 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ  
三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ  
四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ  
五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ

但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 投票ノ效力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第二十九條 府縣會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長

本條ニ定ムル期間ヲ二十日以内トス  
第三十二條 府縣會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ年少ニ由テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

第三十三條 當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第三十四條 選舉人選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ  
府縣知事ニ於テ選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ラス第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得



前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十五條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トス但シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第三十六條 選舉若ハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ選舉ノ際被選舉權ヲ有セサル爲當選無効ト確定シタルトキハ第二十九條及第三十一條ノ例ニ依ル

第三十七條 府縣會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ府縣參事會之ヲ決定ス

府縣會ニ於テ其ノ議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣知事ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ府縣知事ニ於テ被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキ亦同シ

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ列席シ及發言スルノ權ヲ失ハス

第三十八條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ其ノ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十九條 第四條第二項但書ノ市ニ於テハ市長トアルハ區長又市トアルハ區、市役所トアルハ區役所ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス

第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務權限及處務規程

第四十一條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 二 決算報告ニ關スル事
- 三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料府縣稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
- 四 不動産ノ處分並買受讓受ニ關スル事
- 五 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事
- 六 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
- 七 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

八 其ノ他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項

第四十二條 府縣會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十三條 府縣會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第四十四條 府縣會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ内務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第四十五條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

府縣會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣會召集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラス

第四十七條 府縣會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長副議長ハ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第四十八條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第四十九條 府縣知事及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ

之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十條 府縣會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ三十日以内トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限リ之ヲ開ク其ノ會期ハ七日以内トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第五十一條 府縣會ハ府縣知事之ヲ召集ス

召集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ十四日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第五十二條 府縣會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十三條 府縣會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己若ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ府縣會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

第五十五條 法律命令ノ規定ニ依リ府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アル



トキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第十八條第二十七條及第二十八條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ選舉ニ付テハ府縣會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選若ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第五十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ  
二 議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十八條 府縣會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條 會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 府縣參事會

第一款 組織及選舉

第六十五條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事府縣高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

府ノ名譽職參事會員ハ八名トシ縣ノ名譽職參事會員ハ六名トス

府縣高等官ニシテ府縣參事會員タルヘキ者ハ內務大臣之ヲ命ス

第六十六條 名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

府縣會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ

名譽職參事會員中副員アルトキハ府縣知事ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ選舉同時ナルトキハ投票數ニ依リ投票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ニ依リ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依リ仍副員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ

補充員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

名譽職參事會員及其ノ補充員ハ府縣會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ但シ名譽職參事會員ハ後任者就任ノ日マテ在任ス

第六十七條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス府縣知事故障アルトキハ高等官參事會議長ノ職務ヲ

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第六十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第四十九條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第六十二條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十三條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ府縣會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六十四條 府縣會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

會議規則ニハ此ノ法律並會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ府縣會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル

代理ス

第二款 職務權限及處務規程

第六十八條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
  - 二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決スル事
  - 三 府縣知事ヨリ府縣會ニ提出スル議案ニ付府縣知事ニ對シ意見ヲ述フル事
  - 四 府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財產及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事
  - 五 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
  - 六 府縣ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事
  - 七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項
- 第六十九條 府縣參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ府縣ニ係ル出納ヲ檢査セシムルコトヲ得
- 前項ノ檢査ニハ府縣知事又ハ其ノ指命シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス
- 第七十條 第四十四條第四十五條第四十九條及第六十



二條ノ規定ハ府縣參事會ニ之ヲ準用ス

第七十一條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ

府縣參事會ノ會期ハ府縣知事之ヲ定ム

第七十二條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十三條 府縣參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第六十八條第二ノ議決ヲ爲ストキハ府縣知事高等官參事會員ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

會議ノ額未ハ之ヲ會議録ニ記載シ議長及參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第七十四條 第五十四條ノ規定ハ府縣參事會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第六十六條第三項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ闕員ヲ補充スヘシ

議長及其ノ代理者共ニ除席セラレタルトキハ年長ノ會員ヲ以テ假議長ト爲スヘシ

七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事項

第七十九條 府縣知事ハ議案ヲ府縣會ニ提出スル前之ヲ府縣參事會ノ審査ニ付シ若府縣參事會ト其ノ意見ヲ異ニスルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ

第八十條 府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡島ノ官吏又ハ市町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府縣吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第八十一條 府縣知事ハ府縣吏員ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ罰金二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ハ府縣吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命シ支給料ヲ支給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ府縣ノ公職ニ選舉セラレ若ハ任命セラレルコトヲ得ス

第八十二條 府縣會若ハ府縣參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ

前項取消處分ニ不服アル府縣會若ハ府縣參事會ハ行

第四章 府縣行政

第一款 府縣吏員ノ組織及任免

第七十五條 府縣ニ有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得

前項ノ府縣吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

第七十六條 府縣ニ府縣出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第七十七條 府縣ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第二款 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程

第七十八條 府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表ス

府縣知事ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事

二 府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事

三 財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

四 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

五 證書及公文書類ヲ保管スル事

六 法律命令又ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ使用料手数料府縣稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

府縣會若ハ府縣參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ內務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第八十三條 府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ府縣ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ內務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第八十四條 府縣知事ハ期日ヲ定メテ府縣會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第八十五條 府縣會若ハ府縣參事會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第五十四條第七十四條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ其ノ招集前告示セラレタル事件ニ關シ議案ヲ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

府縣參事會ノ決定若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本



條第一項第二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル府縣知事ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ府縣會若ハ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十六條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十七條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ府縣知事ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第八十八條 官吏ノ府縣行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第八十九條 府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第九十條 府縣吏員ハ府縣知事ノ命ヲ受ケ事務ニ從事ス

第九十一條 委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ受ケ財產若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他府縣行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第九十二條 府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第三款 給料及給與

第九十三條 有給府縣吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事之ヲ定ム

第九十四條 府縣會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第九十五條 有給府縣吏員ノ退職料退職給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ前條第二項ノ例ニ依リテ之ヲ定ム

第九十六條 退職料退職給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十七條 給料旅費退職料退職給與金遺族扶助料費用辨償其ノ他諸給與ハ府縣ノ負擔トス

第五章 府縣ノ財務

第九十八條 府縣ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

第九十九條 府縣ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財產ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第一百條 此ノ法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手数料ニ關スル細則ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ

許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料ニ關シテ以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ府縣知事之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一百一條 府縣ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第一百二條 府縣ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令又ハ從來ノ慣例ニ依リ府縣ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第一百三條 府縣稅及其ノ賦課徵收方法ニ關シテハ法律ニ規定アルモノヲ除ク外勅令ノ定ムル所ニ依ル

府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ市町村ニ分賦スルコトヲ得

第一百四條 府縣內ニ住所ヲ有スル者ハ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百五條 三箇月以上府縣內ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百六條 府縣內ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖府縣內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ若ハ使用シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ府縣內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ

但シ國ノ事業若ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 府縣外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得

土地家屋物件又ハ府縣外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得

住所滞在ニ一府縣以上ニ涉ル者ノ收入ニ對シ府縣稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ各府縣ニ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ但シ土地家屋物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此ノ限ニ在ラス

第一百八條 一府縣以上ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係府縣ニ於テ營業稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其ノ歩合ヲ定メ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ若協議調ハサルトキハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第九十九條 府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限內ニ其ノ議決ヲ爲ササルトキ若ハ不當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第一百十條 府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除ク外市町村稅ノ例ニ依ル

第一百十一條 府縣內ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第一百十二條 府縣ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ府縣